

さいたま市一般廃棄物処理基本計画

改定に伴う市民意識調査

(令和3年度)

報告書

令和4年2月

さいたま市 環境局 資源循環推進部 資源循環政策課



目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査の設計	3
4. この報告書の見方	3
5. 回答者の標本構成	5
II. 調査結果の分析	7
1. ごみの分別	9
(1) ごみ袋として使うもの	9
(2) びん、かんの処分方法	11
(3) ペットボトルの処分方法	13
(4) 食品包装プラスチックの処分方法	15
(5) 新聞、雑誌類、段ボール、牛乳パックの処分方法	17
(6) ティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋の処分方法	19
(7) 不用になった衣類の処分方法	21
(8) 資源物として処分している割合（市指定の6項目）	23
(9) 資源物として処分している人の各属性別割合（市指定の6項目すべて）	24
(10) 生ごみ処分前の水切りについて	25
(11) 水切りの方法について	27
(12) ごみの分別方法の理解状況	29
(13) ごみの分別を行っている人	31
(14) ごみの分別を行っている人×ごみの分別方法の理解状況	34
2. 市政との関わり	35
(1) 「小型家電リサイクル事業」の利用状況	35
(2) 「小型家電リサイクル事業」を利用しなかった理由	37
(3) 「さいたま市ごみ分別アプリ」の利用状況	39
(4) 「さいたま市ごみ分別アプリ」の使い心地	41
(5) 「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用しなかった理由	43
(6) 「さいたま市ごみ分別アプリ」に必要な追加機能	45
(7) 「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」の利用状況	47
(8) 市が発信する情報の入手方法	50
(9) 市が発信する情報の入手方法×ごみの分別を行っている人	53

I . 調査の概要

1. 調査の目的

家庭ごみに対する市民の意識を把握し、「さいたま市一般廃棄物処理基本計画」における施策立案等の基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) ごみの分別
- (2) 市政との関わり
- (3) 3Rの意識・プラスチックごみについて
- (4) 食品ロス
- (5) 家庭ごみの新しい収集方法と有料化について

3. 調査の設計

- (1) 調査対象：さいたま市在住の満18歳以上の男女5,000人
- (2) 抽出方法：住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出
- (3) 調査方法：郵送配布・郵送回収法
- (4) 調査期間：令和3年9月3日～令和3年9月17日
- (5) 有効回収数：2,954（回収率：59.1%）

4. この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（number of caseの略）は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。したがって、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100.0%を超える。
- (2) 調査結果の比率は、小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての比率を合計しても100.0%にならないことがある。
- (3) 図表中の『○○（計）』（「○○」「○○」の合計と表示してあるもの）は、ベースデータから算出しており、表記上の数値を合算したものでないため、小数点以下の数値が一致しないことがある。
- (4) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (5) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、標本数（n）が50未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中ではふれていないことがある。

(6) 標本調査を行ったため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。等間隔抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度を 95%とした場合）は以下の式により求められる。

$$(\text{標本誤差}) b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$$\left[\begin{array}{l} N = \text{母集団 (さいたま市全体)} \\ n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \\ p = \text{回答比率} \end{array} \right]$$

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

表 1 標本誤差早見表（信頼度：95%）

回答者の比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,954	±1.10%	±1.47%	±1.68%	±1.80%	±1.84%
2,000	±1.34%	±1.79%	±2.05%	±2.19%	±2.23%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.16%	±9.80%	±10.00%

(注記) この表の見方

例えば、回答者数が 2,954 である質問における、ある 1 つの選択肢の回答の比率が 30%であった場合、その回答の比率の誤差の範囲は±1.68%（28.32%～31.68%）の範囲にあることが 95%の信頼度でいえることになる。

5. 回答者の標本構成 (上段：実数 下段：(%))

(1) 性別

全 体	男 性	女 性	そ の 他	無 回 答
2,954	1,247	1,679	1	27
100.0	42.2	56.8	0.0	0.9

(2) 年齢

全 体	18 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳 以上	無 回 答
2,954	28	219	418	565	585	511	602	26
100.0	0.9	7.4	14.2	19.1	19.8	17.3	20.4	0.9

(3) 居住区

全 体	西 区	北 区	大 宮 区	見 沼 区	中 央 区	桜 区	浦 和 区	南 区	緑 区	岩 槻 区	無 回 答
2,954	200	360	277	351	235	190	382	444	271	234	10
100.0	6.8	12.2	9.4	11.9	8.0	6.4	12.9	15.0	9.2	7.9	0.3

(4) 同居している家族構成

全 体	一 人 暮 ら し	夫 婦 だ け	親 子 (2 世 代)	親 と 子 と 孫 (3 世 代)	そ の 他	無 回 答
2,954	335	776	1,589	153	91	10
100.0	11.3	26.3	53.8	5.2	3.1	0.3

(5) 居住形態

全 体	一 戸 建 て 住 宅	集 合 住 宅	そ の 他	無 回 答
2,954	1,680	1,228	17	29
100.0	56.9	41.6	0.6	1.0

(6) 職業

全 体	自 営 業	勤 め 人 (正 規 職 員 ・ 正 社 員)	勤 め 人 (パ ー ト ・ ア ル バ イ ト な ど)	学 生	専 業 主 婦 ・ 専 業 主 夫	家 事 手 伝 い ・ 無 職	そ の 他	無 回 答
2,954	184	1,173	544	69	533	396	41	14
100.0	6.2	39.7	18.4	2.3	18.0	13.4	1.4	0.5

(7) 自治会加入の有無

全 体	加 入 し て い る	加 入 し て い な い	わ か ら な い	無 回 答
2,954	2,108	691	145	10
100.0	71.4	23.4	4.9	0.3

(8) インターネットの利用状況

全 体	よ く 利 用 す る	た ま に 利 用 す る	あ ま り 利 用 し な い	ま つ た く 利 用 し な い	無 回 答
2,954	1,961	418	178	385	12
100.0	66.4	14.2	6.0	13.0	0.4

Ⅱ． 調査結果の分析

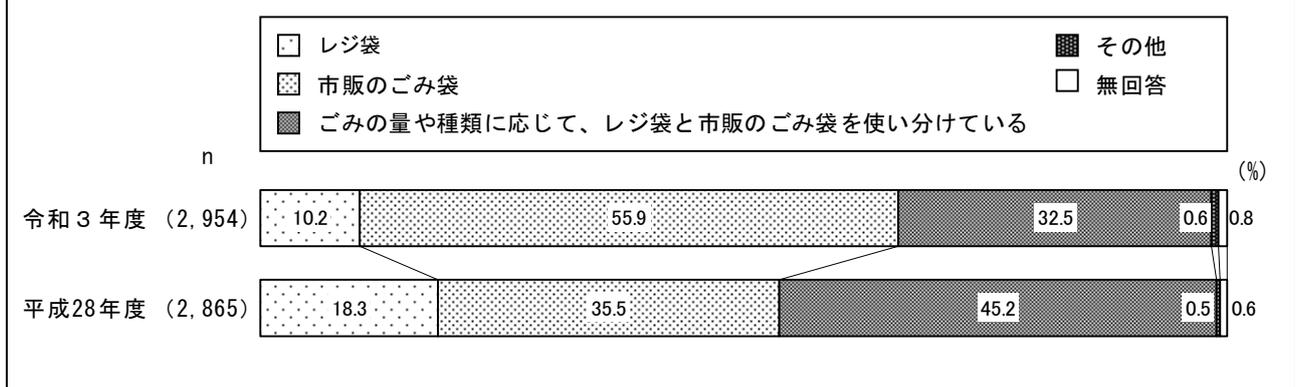
1. ごみの分別

(1) ごみ袋として使うもの

問1. あなたは、ふだん、収集所に出すごみ袋として何を使っていますか。

(○は最も頻度の高いもの1つ)

図1-1-1 ごみ袋として使うもの



全体結果

ふだん、収集所に出すごみ袋として使用しているのは、「市販のごみ袋」(55.9%)が最も多く、次いで「ごみの量や種類に応じて、レジ袋と市販のごみ袋を使い分けている」(32.5%)、「レジ袋」(10.2%)の順となっている。

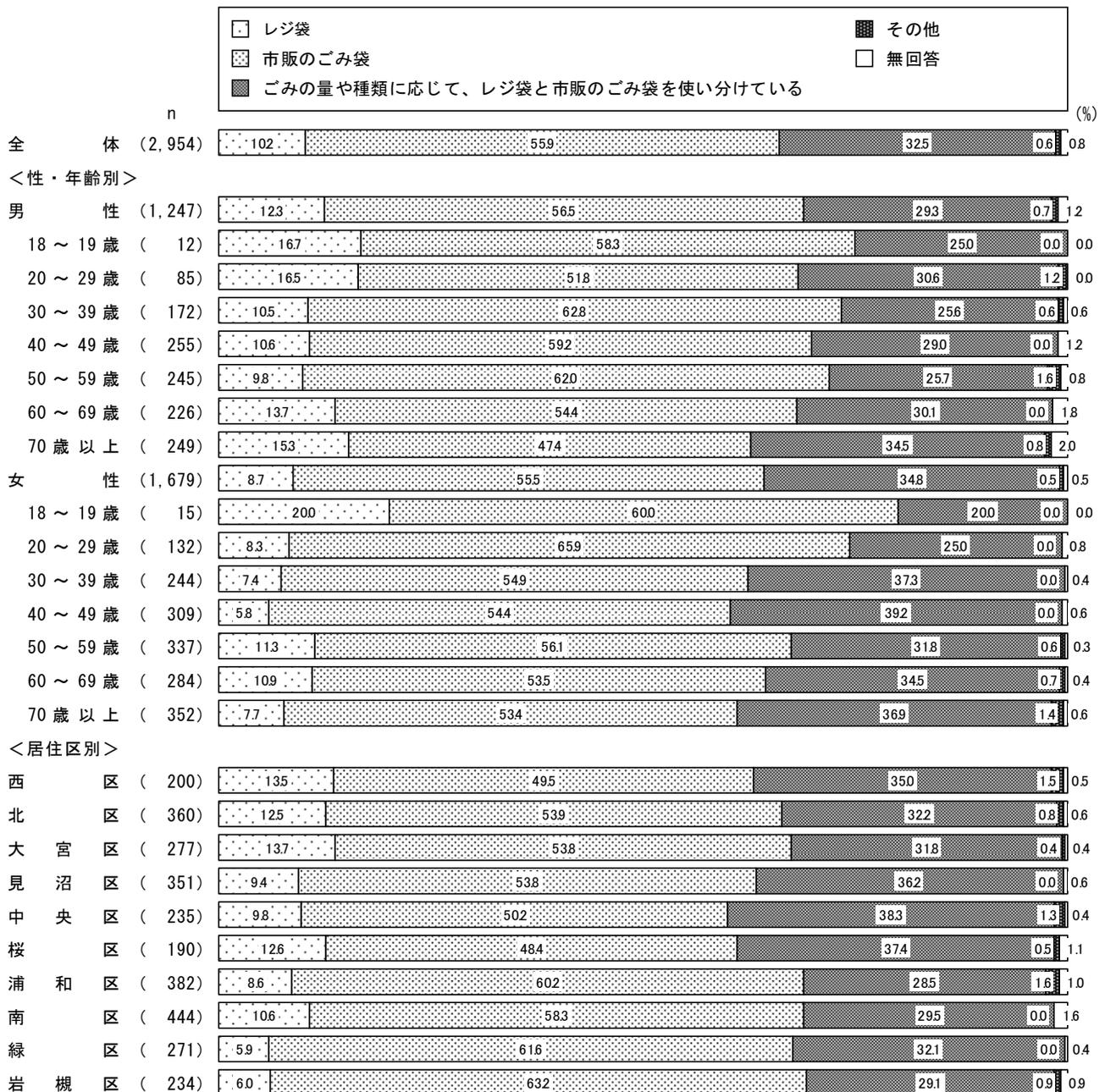
前回の調査と比較すると、「市販のごみ袋」は平成28年度(35.5%)と比べ20.4ポイント増加した一方、「ごみの量や種類に応じて、レジ袋と市販のごみ袋を使い分けている」は平成28年度(45.2%)より12.7ポイント、「レジ袋」は平成28年度(18.3%)より8.1ポイント減少した。(図1-1-1)

属 性 別

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で「市販のごみ袋」が最も多く、男性 70 歳以上 (47.4%) を除き過半数を占めている。また、「ごみの量や種類に応じて、レジ袋と市販のごみ袋を使い分けている」は女性 (34.8%) が男性 (29.3%) を 5.5 ポイント上回っているが、18～29 歳は男性が女性より多くなっている。

居住区別で見ると、すべての区で「市販のごみ袋」が最も多く、西区 (49.5%) と桜区 (48.4%) 以外の 8 区で過半数を占めている。「ごみの量や種類に応じて、レジ袋と市販のごみ袋を使い分けている」は浦和区 (28.5%)、南区 (29.5%)、岩槻区 (29.1%) を除き 3 割台となっており、「レジ袋」は大宮区 (13.7%) など 5 区が 1 割台、緑区 (5.9%) など 5 区が 1 割未満となっている。(図 1-1-2)

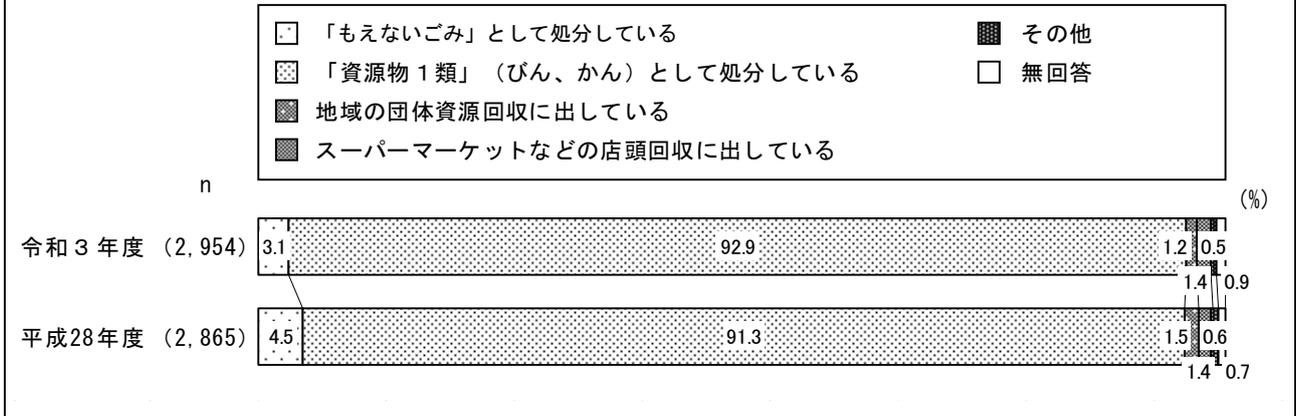
図 1-1-2 ごみ袋として使うもの—性・年齢別、居住区別—



(2) びん、かんの処分方法

問2. あなたは、びん、かみをどのように処分していますか。(○は最も頻度の高いもの1つ)

図1-2-1 びん、かんの処分方法



全体結果

びん、かんの処分方法は、「資源物1類」(びん、かん)として処分しているが92.9%と突出している。

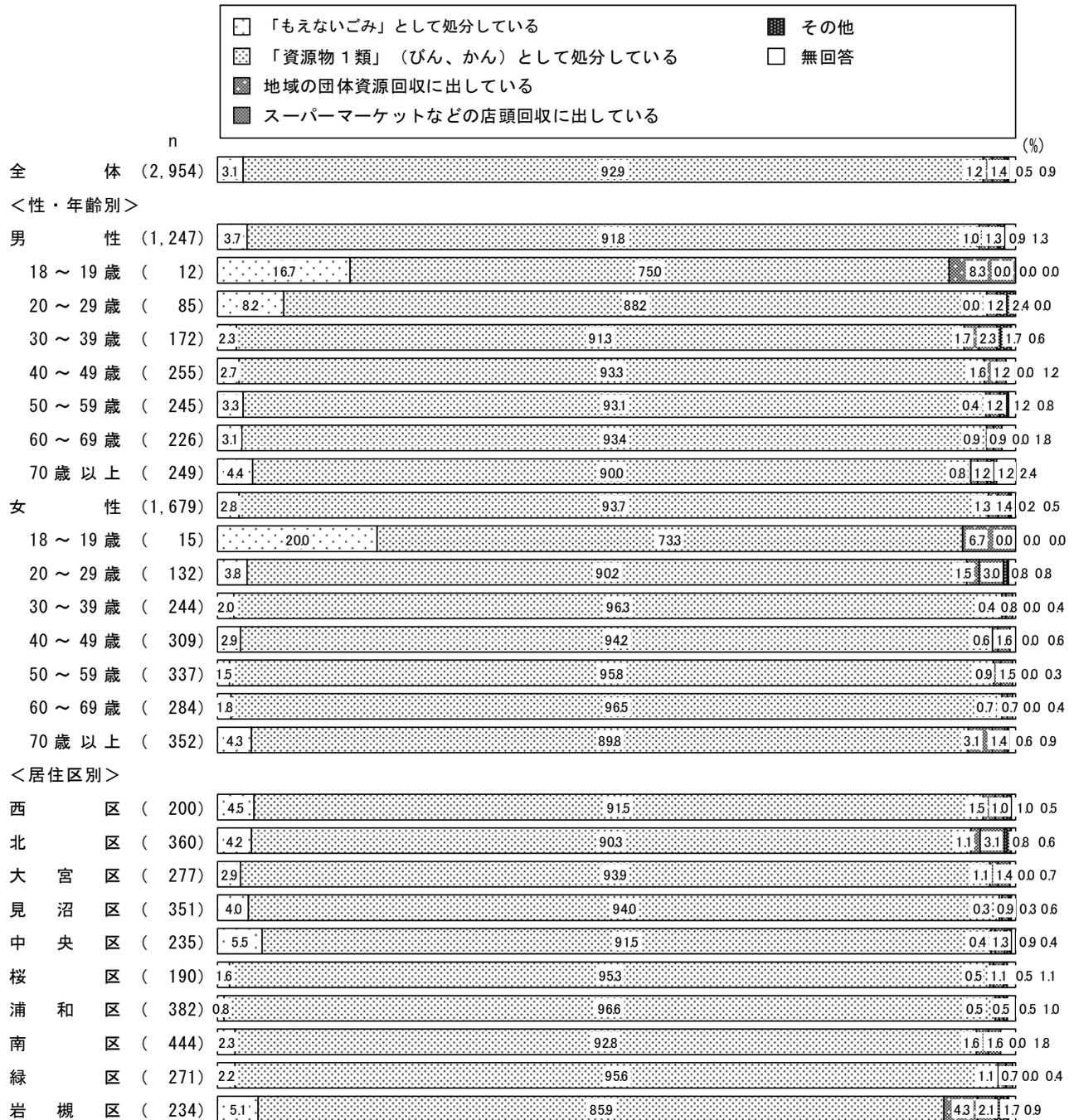
前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図1-2-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女ともほとんどの年齢で「資源物1類（びん、かん）として処分している」が9割を超えている。

居住区別でみると、岩槻区（85.9%）を除く9区で「資源物1類（びん、かん）として処分している」が9割を超えている。（図1-2-2）

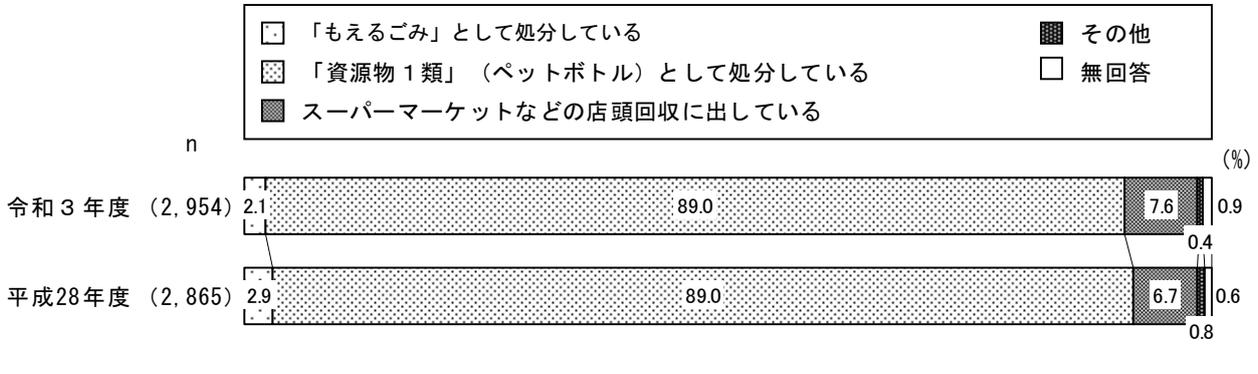
図1-2-2 びん、かんの処分方法—性・年齢別、居住区別—



(3) ペットボトルの処分方法

問3. あなたは、ペットボトルをどのように処分していますか。(○は最も頻度の高いもの1つ)

図1-3-1 ペットボトルの処分方法



全体結果

ペットボトルの処分方法は、「資源物1類」(ペットボトル)として処分している」が89.0%と突出している。

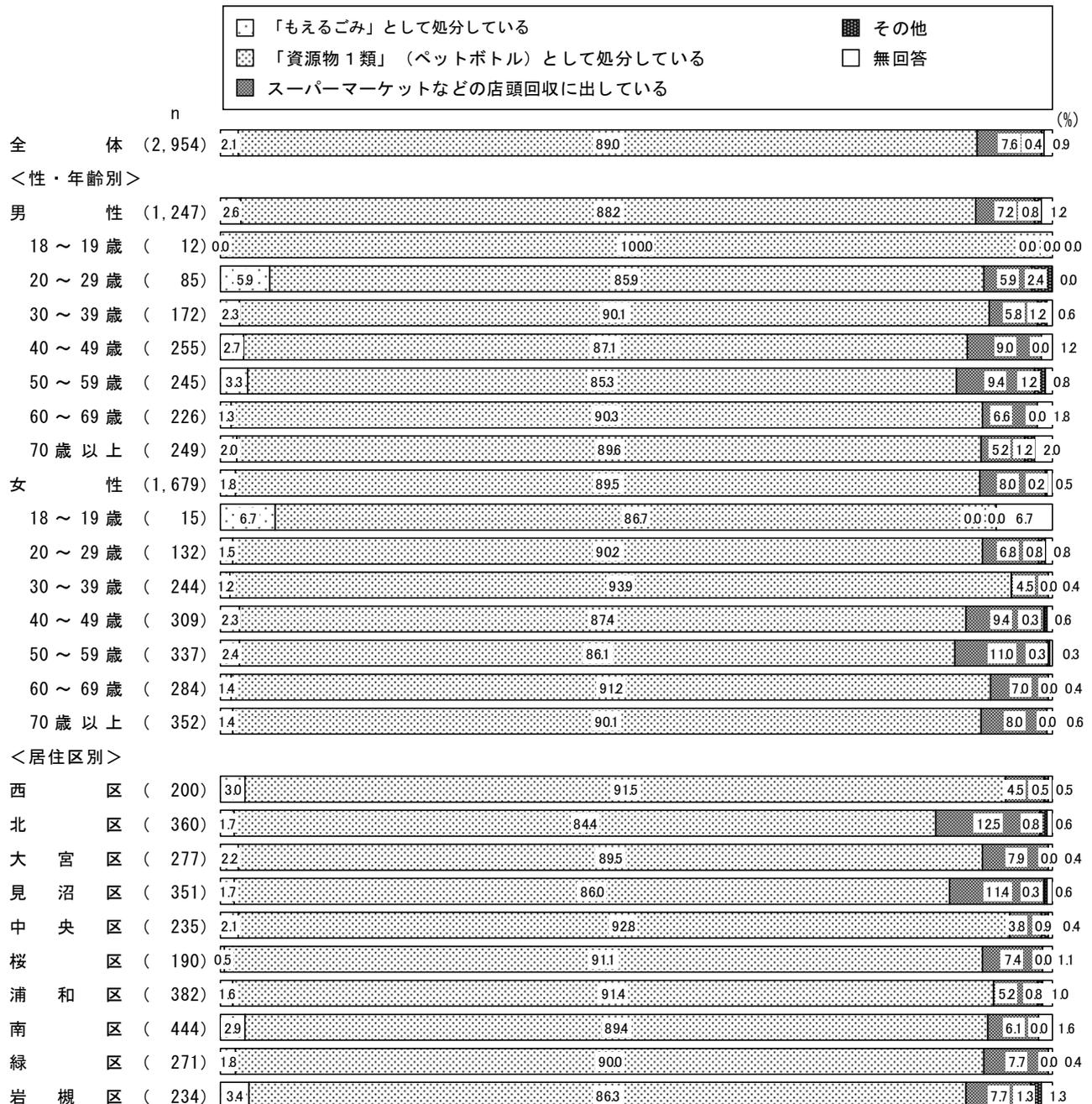
前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図1-3-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「資源物1類（ペットボトル）として処分している」が8割以上を占めている。

居住区別でみると、すべての区で「資源物1類（ペットボトル）として処分している」が8割以上を占めている。また、「スーパーマーケットなどの店頭回収に出している」は北区(12.5%)と見沼区(11.4%)で1割を超えている。(図1-3-2)

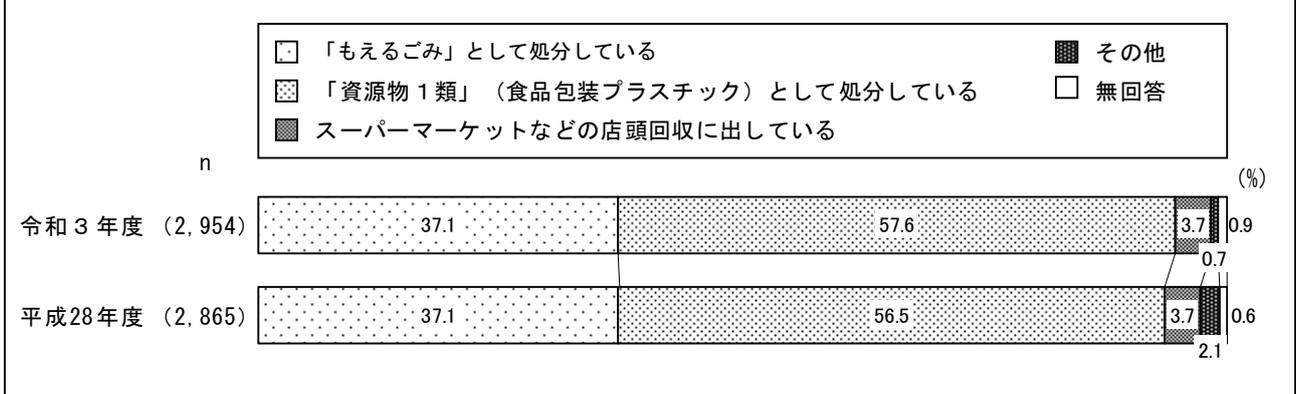
図1-3-2 ペットボトルの処分方法－性・年齢別、居住区別－



(4) 食品包装プラスチックの処分方法

問4. あなたは、「食品包装プラスチック」(カップめんの容器、食品トレイ、豆腐の容器など)をどのように処分していますか。(○は最も頻度の高いもの1つ)

図1-4-1 食品包装プラスチックの処分方法



全体結果

食品包装プラスチックの処分方法は、「資源物1類」(食品包装プラスチック)として処分している(57.6%)が最も多く、次いで「もえるごみ」として処分している(37.1%)、「スーパーマーケットなどの店頭回収に出している」(3.7%)の順となっている。

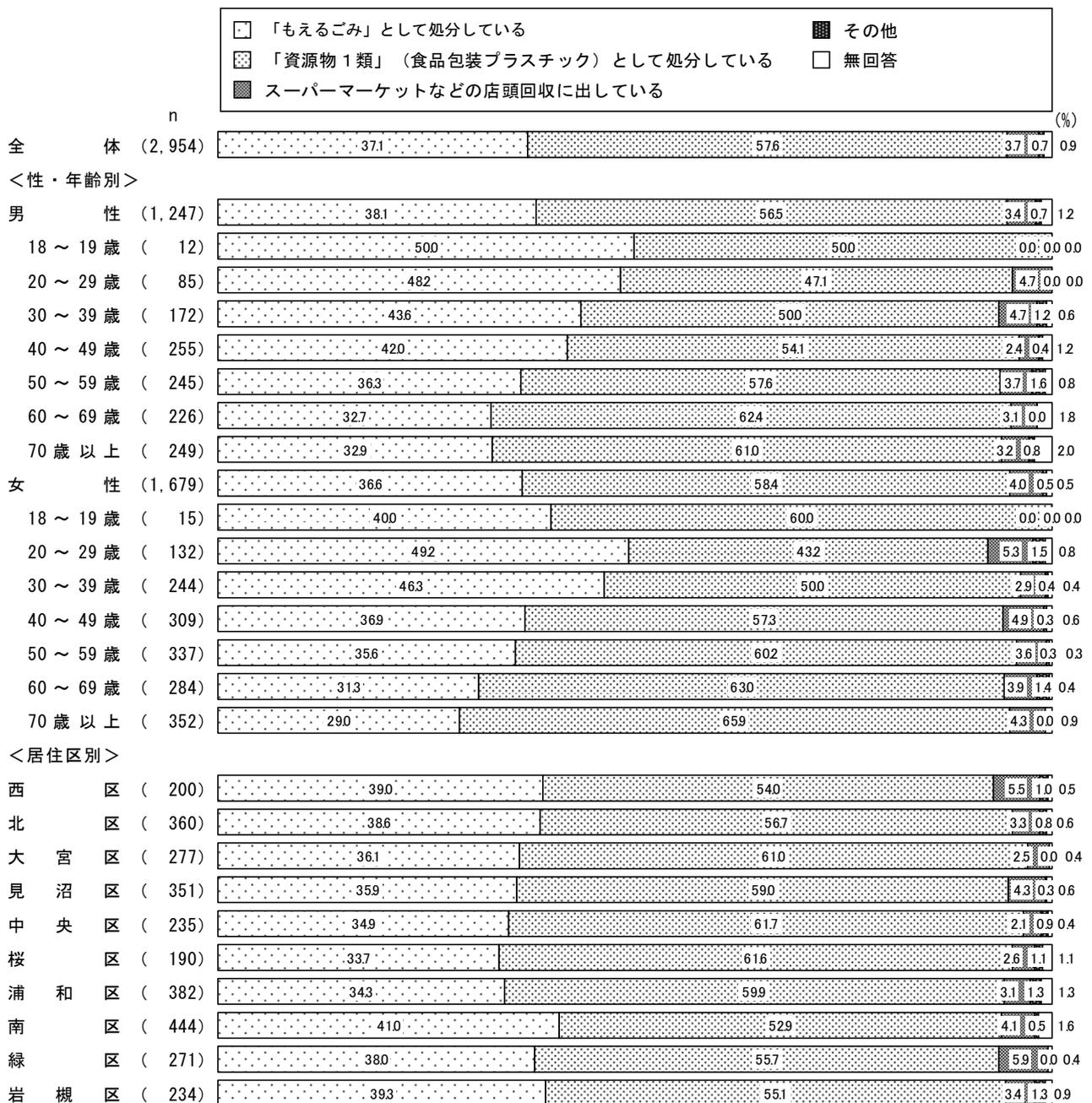
前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図1-4-1)

属性別

性・年齢別でみると、20～29歳は男女とも「もえるごみ」として処分している」が「資源物1類」（食品包装プラスチック）として処分している」を上回っている。30歳以上は男女とも「資源物1類」（食品包装プラスチック）として処分している」が5割以上を占め、男性70歳以上を除き、年齢が上がるにつれ「資源物1類」（食品包装プラスチック）として処分している」が増加し、「もえるごみ」として処分している」が減少する傾向にある。

居住区別でみると、すべての区で「資源物1類」（食品包装プラスチック）として処分している」が過半数を占め、中央区（61.7%）、桜区（61.6%）、大宮区（61.0%）は6割を超えている。一方、「もえるごみ」として処分している」は南区（41.0%）で4割を超えている。（図1-4-2）

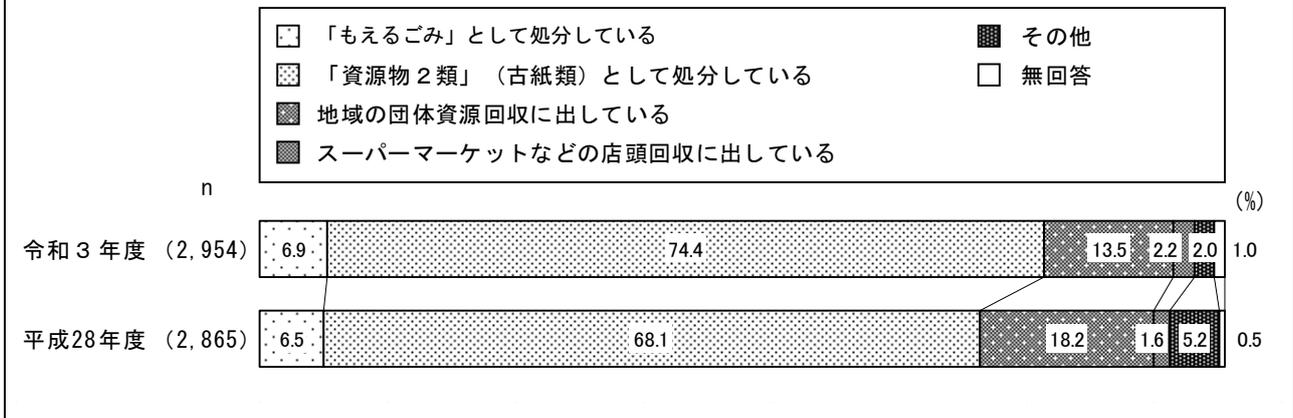
図1-4-2 食品包装プラスチックの処分方法—性・年齢別、居住区別—



(5) 新聞、雑誌類、段ボール、牛乳パックの処分方法

問5. あなたは、新聞、雑誌類、段ボール、牛乳パックをどのように処分していますか。
 (○は最も頻度の高いもの1つ)

図1-5-1 新聞、雑誌類、段ボール、牛乳パックの処分方法



全体結果

新聞、雑誌類、段ボール、牛乳パックの処分方法は、「資源物2類」(古紙類)として処分している(74.4%)が最も多く、次いで「地域の団体資源回収に出している」(13.5%)、「もえるごみ」として処分している」(6.9%)などの順となっている。

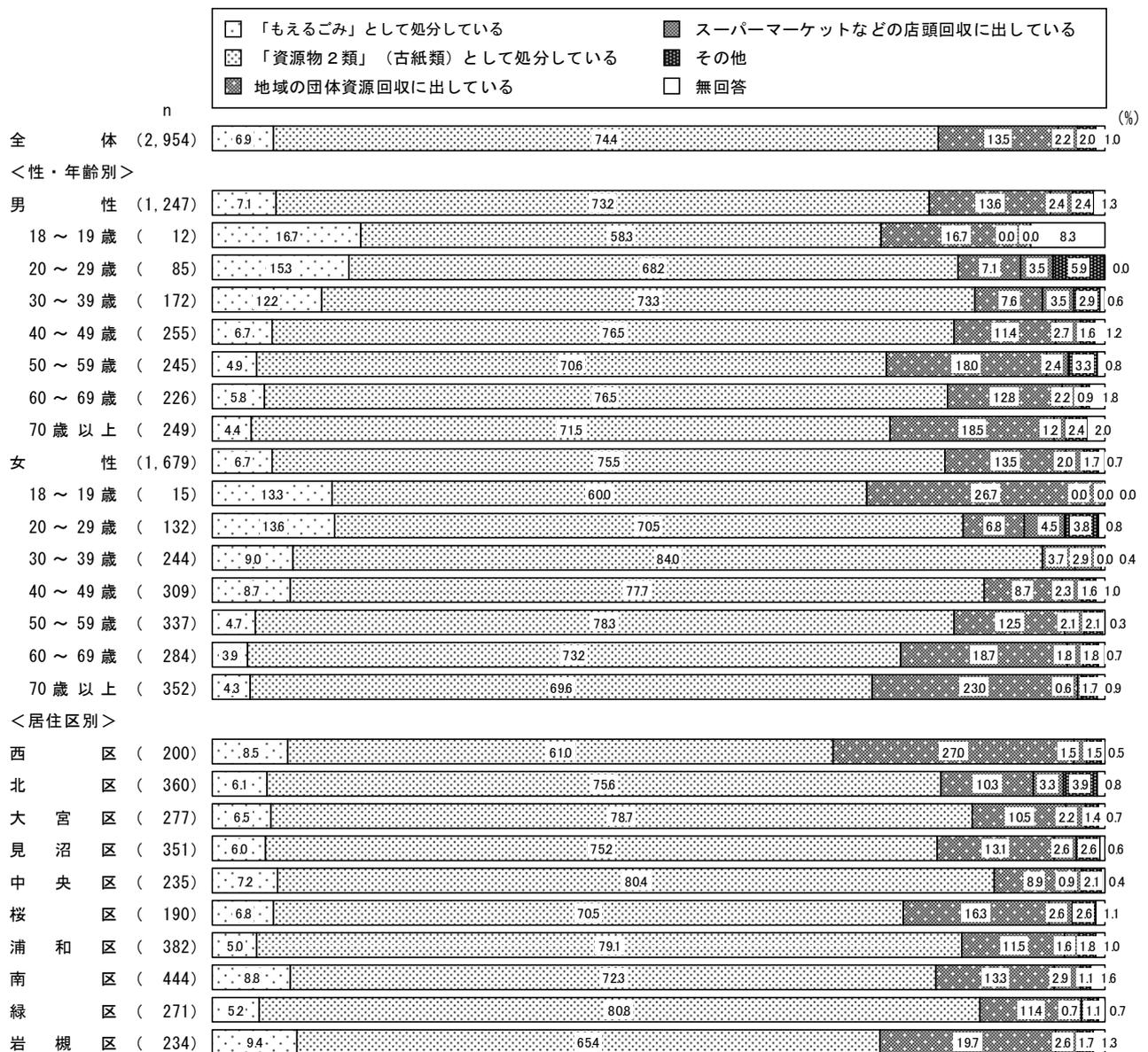
前回の調査と比較すると、「資源物2類」(古紙類)として処分している」は平成28年度(68.1%)と比べ6.3ポイント増加している。(図1-5-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「資源物2類」（古紙類）として処分している」が過半数を占め、男性30歳以上、女性20～69歳で7割以上を占めている。一方、男性39歳以下、女性29歳以下は「もえるごみ」として処分している」が1割を超えている。

居住区別でみると、すべての区で「資源物2類」（古紙類）として処分している」が過半数を占め、緑区（80.8%）と中央区（80.4%）は約8割となっている。一方、西区（61.0%）と岩槻区（65.4%）は「資源物2類」（古紙類）として処分している」が6割台であり、「地域の団体資源回収に出している」が西区（27.0%）、岩槻区（19.7%）とも多くなっている。（図1-5-2）

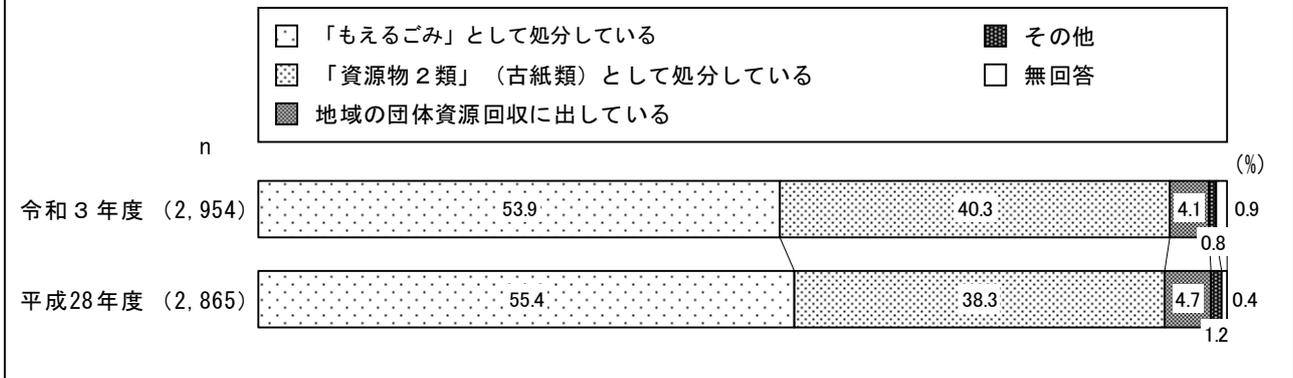
図1-5-2 新聞、雑誌類、段ボール、牛乳パックの処分方法—性・年齢別、居住区別—



(6) ティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋の処分方法

問6. あなたは、ティッシュ箱や菓子箱、包装紙、紙袋をどのように処分していますか。
 (○は最も頻度の高いもの1つ)

図1-6-1 ティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋の処分方法



全体結果

ティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋の処分方法は、「もえるごみ」として処分している(53.9%)が最も多く、次いで「資源物2類」(古紙類)として処分している(40.3%)、「地域の団体資源回収に出している」(4.1%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図1-6-1)

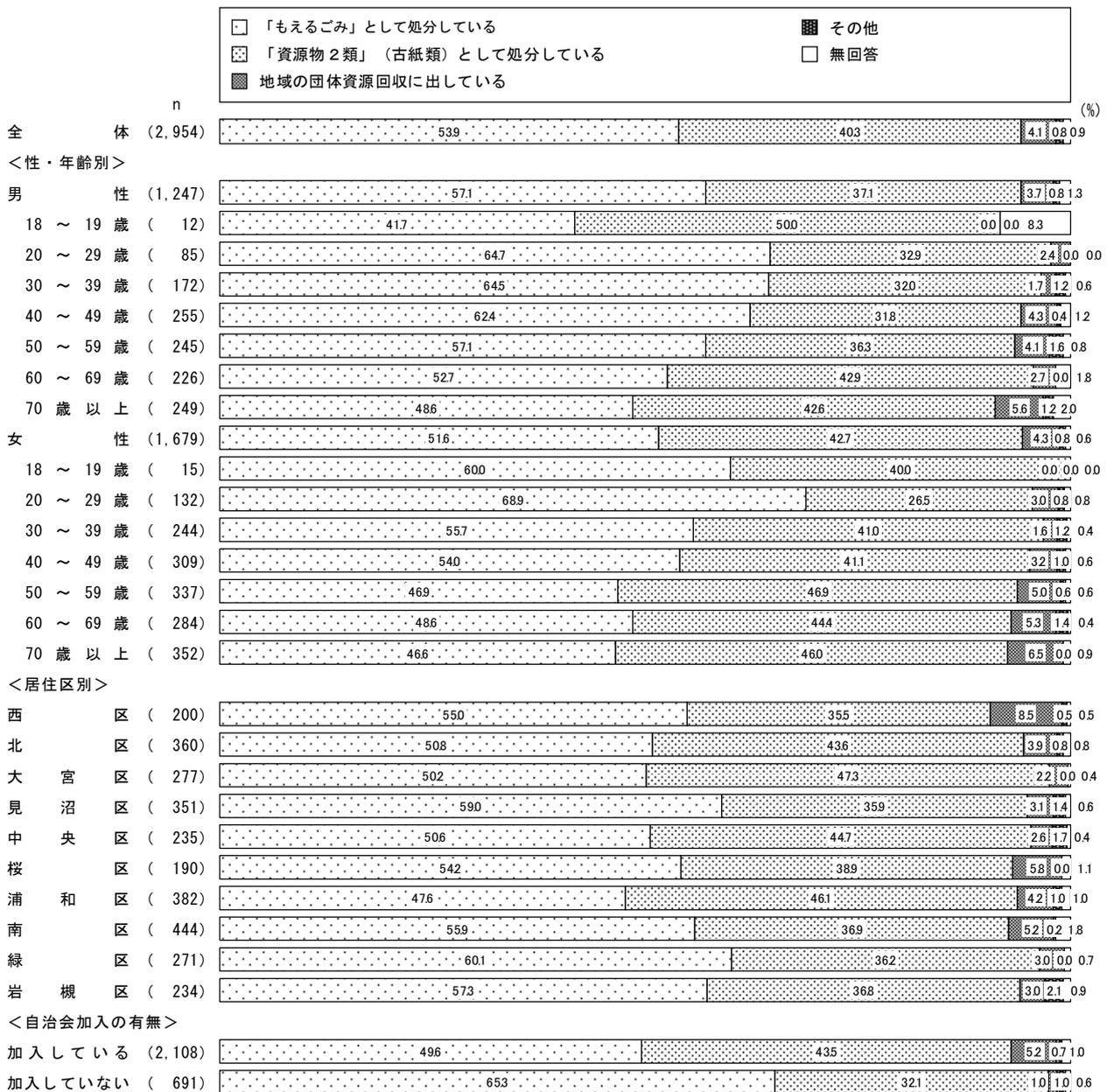
属性別

性・年齢別でみると、「もえるごみ」として処分している」は男性（57.1%）が女性（51.6%）を5.5ポイント上回り、男性20～69歳、女性49歳以下で5割を超えている。一方、男性70歳以上、女性50歳以上は「もえるごみ」として処分している」と「資源物2類」（古紙類）として処分している」がともに4割台を占めている。

居住区別でみると、緑区（60.1%）を筆頭にすべての区で「もえるごみ」として処分している」が最も多く、浦和区（47.6%）を除く9区で5割以上を占めている。一方、「資源物2類」（古紙類）として処分している」は大宮区（47.3%）を筆頭に4区で4割台となっている。

自治会加入の有無でみると、「加入している」人は「もえるごみ」として処分している」（49.6%）と「資源物2類」（古紙類）として処分している」（43.5%）がともに4割台となっている。一方、「加入していない」人は「もえるごみ」として処分している」（65.3%）が6割半ばを占め、「資源物2類」（古紙類）として処分している」（32.1%）のおよそ2倍となっている。（図1-6-2）

図1-6-2 ティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋の処分方法
—性・年齢別、居住区別、自治会加入の有無—

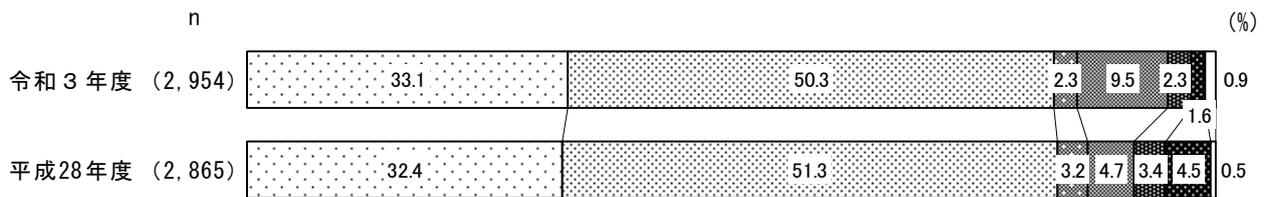
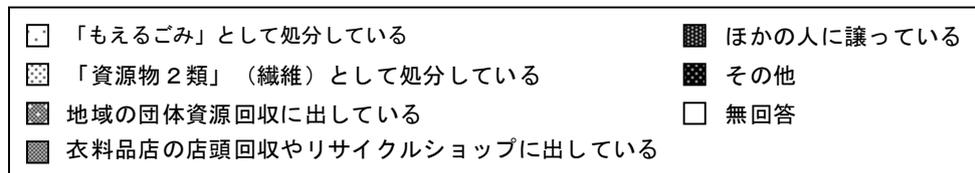


(7) 不用になった衣類の処分方法

問7. あなたは、不用になった衣類をどのように処分していますか。

(○は最も頻度の高いもの1つ)

図1-7-1 不用になった衣類の処分方法



全体結果

不用になった衣類の処分方法は、「資源物2類」(繊維)として処分している(50.3%)が最も多く、次いで「もえるごみ」として処分している(33.1%)、「衣料品店の店頭回収やリサイクルショップに出している」(9.5%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図1-7-1)

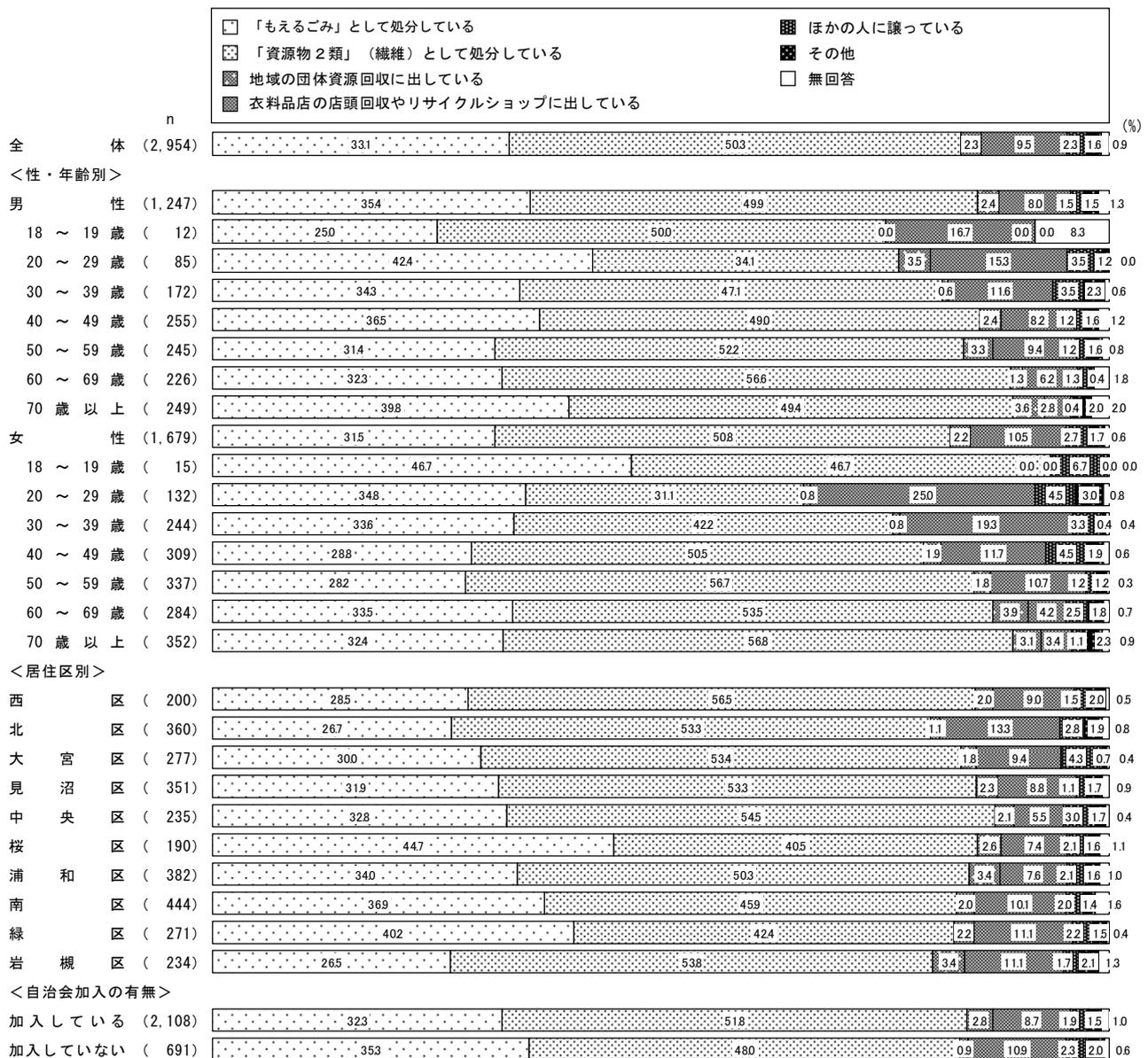
属 性 別

性・年齢別でみると、男女とも「資源物2類」（繊維）として処分している」が約5割を占め、20～29歳を除く年齢で最も多くなっている。男性50～69歳、女性40歳以上で「資源物2類」（繊維）として処分している」が5割を超える一方、20～29歳は男性（34.1%）、女性（31.1%）とも3割台となっている。「もえるごみ」として処分している」は男性20～29歳（42.4%）で4割強を占める一方、女性40～59歳は3割弱となっている。また、「衣料品店の店頭回収やリサイクルショップに出している」は男性39歳以下、女性20～59歳で1割を超え、女性20～29歳（25.0%）は2割半ばを占めている。

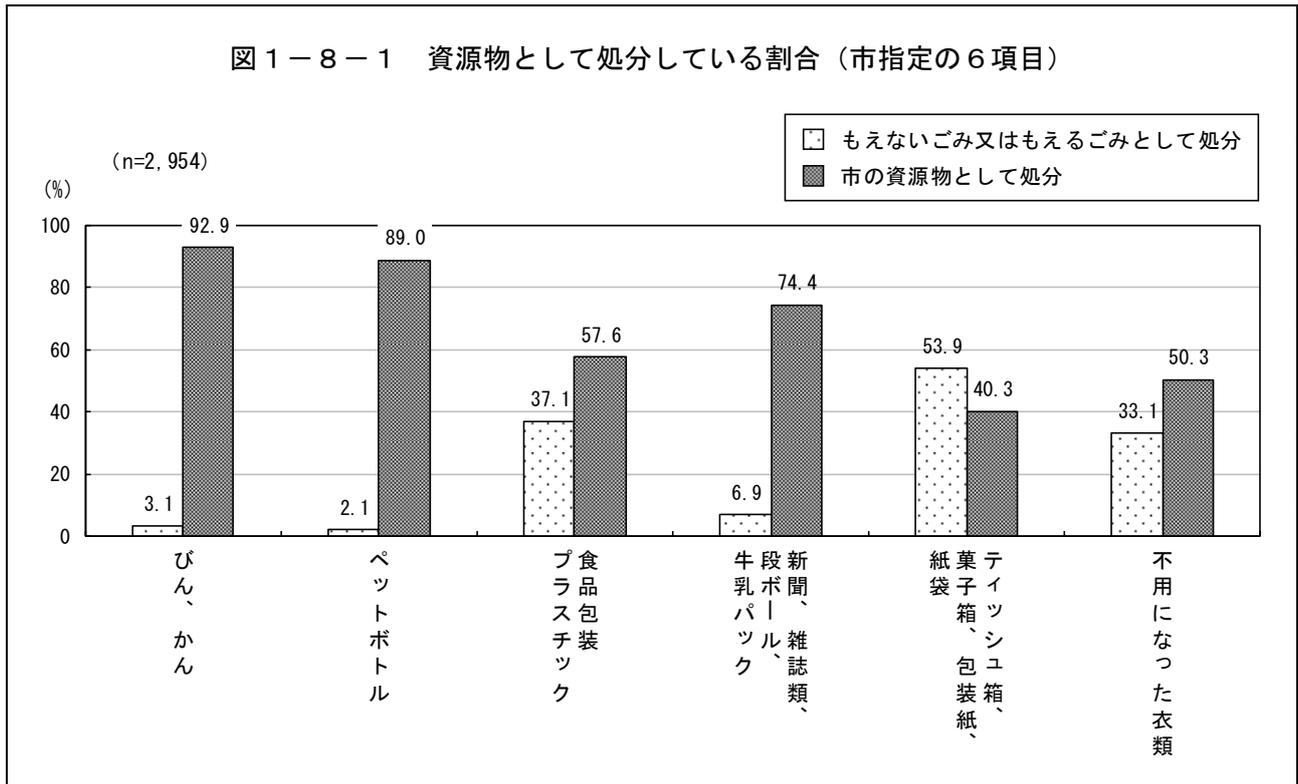
居住区別でみると、桜区（40.5%）を除く9区で「資源物2類」（繊維）として処分している」が最も多く、西区（56.5%）を筆頭に7区で5割台となっている。「もえるごみ」として処分している」は桜区（44.7%）が最も多く、緑区（40.2%）も約4割を占める一方、岩槻区（26.5%）、北区（26.7%）、西区（28.5%）は2割台となっている。

自治会加入の有無でみると、自治会に「加入している」人、「加入していない」人とも「資源物2類」（繊維）として処分している」が5割前後、「もえるごみ」として処分している」が3割台となっており、大きな差は見られない。（図1-7-2）

図1-7-2 不用になった衣類の処分方法－性・年齢別、居住区別、自治会加入の有無－



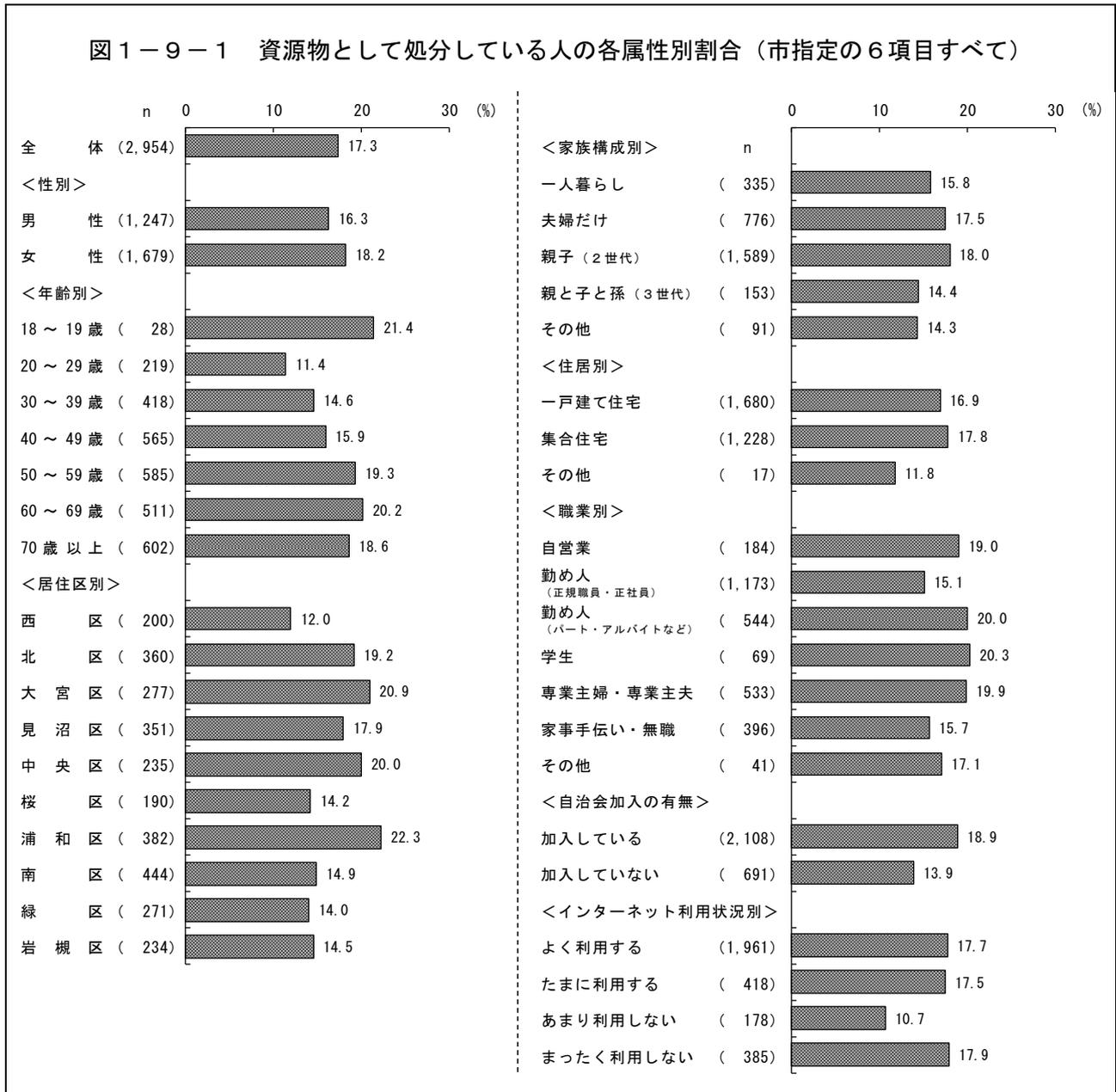
(8) 資源物として処分している割合（市指定の6項目）



全体結果

各資源物（市指定の6項目）の処分方法をみると、「びん、かん」（92.9%）と「ペットボトル」（89.0%）は資源物として処分している割合が9割前後と高くなっている。一方、「ティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋」は資源物として処分している割合（40.3%）がもえるごみとして処分される割合（53.9%）を下回り、「食品包装プラスチック」（57.6%）、「不用になった衣類」（50.3%）も資源物として処分されているのは5割台にとどまっている。（図1-8-1）

(9) 資源物として処分している人の各属性別割合（市指定の6項目すべて）



(注記) 市指定の6項目すべてを、「もえないごみ又はもえるごみとして処分」している人は7名である。

全体結果

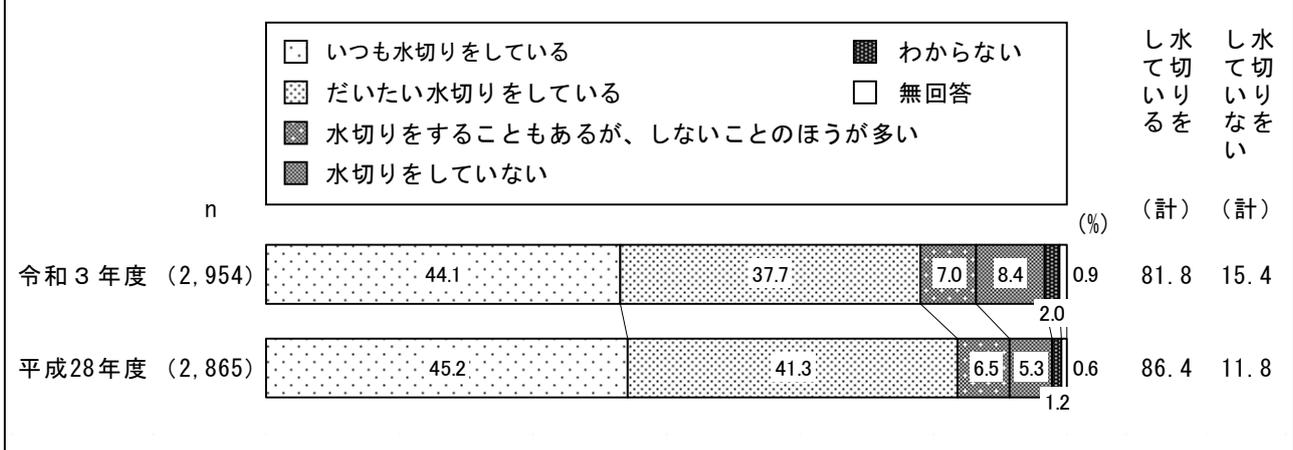
市指定の6項目すべてを資源物として処分している人は、全体の17.3%となっている。各属性において、6項目すべてを資源物として処分している割合が2割以上を占めるのは、60～69歳（年齢別）、浦和区・大宮区・中央区（居住区別）、学生・勤め人（パート・アルバイトなど）となっている。一方、実行率が低いのは、20～29歳（年齢別）、西区（居住区別）、あまり利用しない（インターネット利用状況別）などとなっている。（図1-9-1）

(10) 生ごみ処分前の水切りについて

問8. 生ごみの約7、8割は「水分」といわれています。

あなたは、生ごみを処分する前に水切りをしていますか。(○は1つ)

図1-10-1 生ごみ処分前の水切りについて



全体結果

生ごみ処分前の水切りを、「いつも水切りをしている」人は44.1%、「だいたい水切りをしている」人は37.7%、両者を合わせた『水切りをしている(計)』は81.8%となっている。一方、「水切りをすることもあるが、しないことのほうが多い」人は7.0%、「水切りをしていない」人は8.4%で、両者を合わせた『水切りをしていない(計)』は15.4%となっている。

前回の調査と比較すると、『水切りをしている(計)』は平成28年度(86.4%)に比べやや減少しているものの、おおむね同様の傾向となっている。(図1-10-1)

属性別

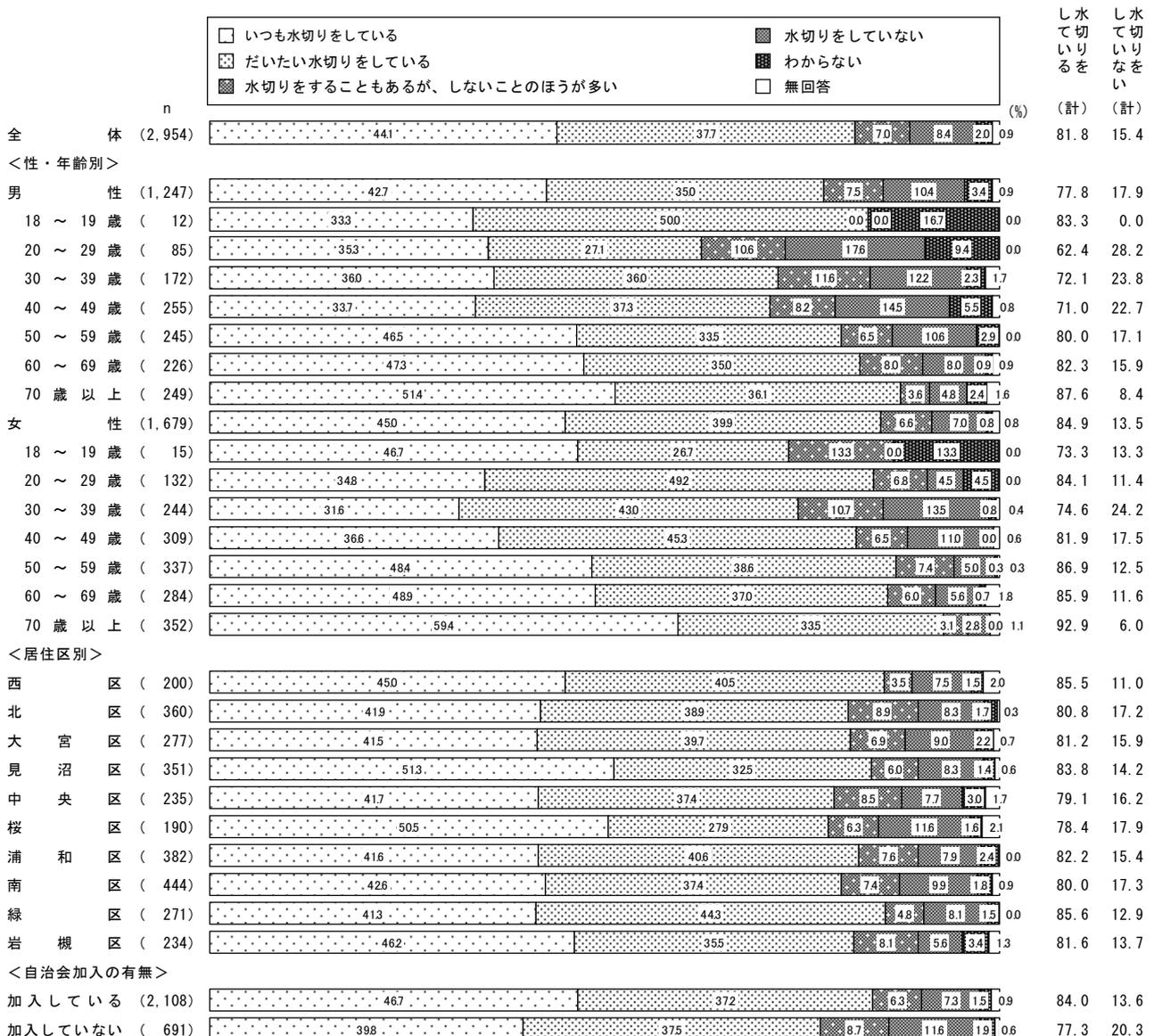
性・年齢別でみると、『水切りをしている（計）』は女性（84.9%）が男性（77.8%）を7.1ポイント上回っている。

男女ともすべての年齢で『水切りをしている（計）』が過半数を占めているが、男性20～29歳（62.4%）が6割強、男性30～49歳と女性30～39歳（74.6%）が7割台なのに対し、70歳以上は男女とも「いつも水切りをしている」が5割を超え、女性70歳以上は『水切りをしている（計）』（92.9%）が9割強となっている。一方、『水切りをしていない（計）』は男性20～49歳と女性30～39歳（24.2%）で2割台となっている。

居住区別でみると、すべての区で『水切りをしている（計）』が7割以上を占めており、見沼区（51.3%）と桜区（50.5%）は「いつも水切りをしている」が約5割となっている。一方、緑区は「だいたい水切りをしている」（44.3%）が「いつも水切りをしている」（41.3%）を上回っている。

自治会加入の有無でみると、『水切りをしている（計）』は「加入している」人（84.0%）が「加入していない」人（77.3%）を6.7ポイント上回っており、「いつも水切りをしている」も前者（46.7%）が後者（39.8%）を6.9ポイント上回っている。（図1-10-2）

図1-10-2 生ごみ処分前の水切りについて—性・年齢別、居住区別、自治会加入の有無—

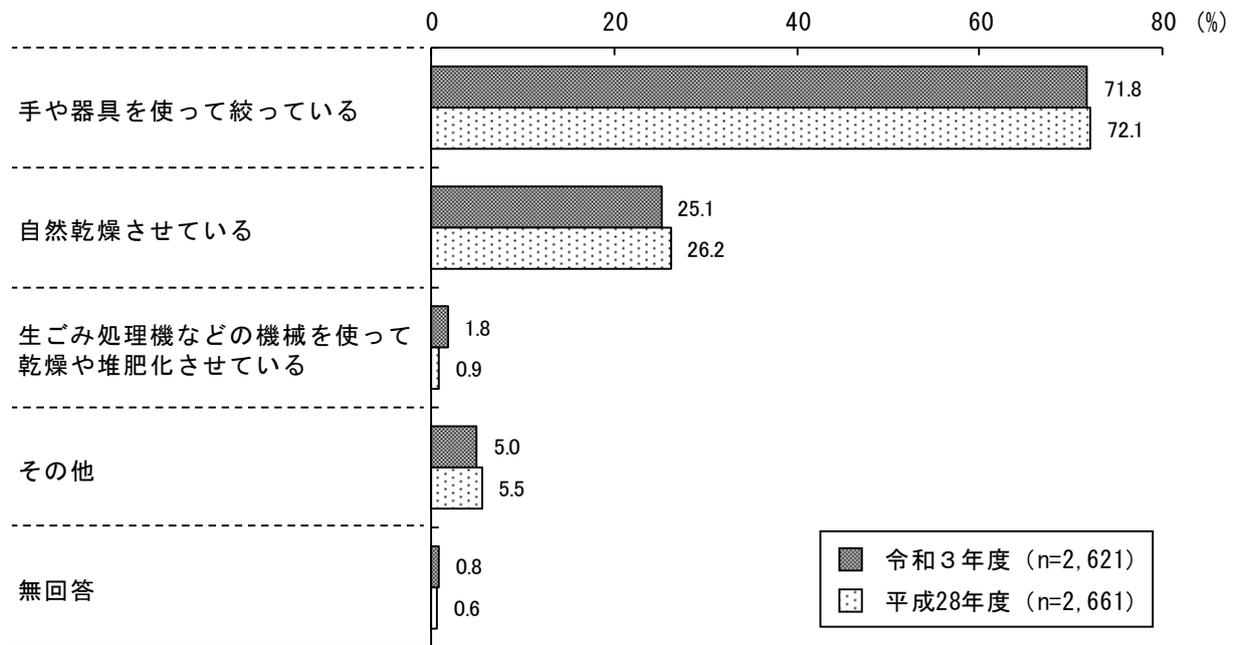


(11) 水切りの方法について

問8. で「1」、「2」、「3」と回答した方に質問します。

問8-1. あなたは、ふだん、どのように水切りをしていますか。(〇はいくつでも)

図1-11-1 水切りの方法について



全体結果

生ごみの水切り方法は、「手や器具を使って絞っている」(71.8%)が突出して多く、次いで「自然乾燥させている」(25.1%)、「生ごみ処理機などの機械を使って乾燥や堆肥化させている」(1.8%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図1-11-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「手や器具を使って絞っている」が5割以上を占め、男性18～19歳を除き最も多くなっている。男性50～59歳（75.0%）と70歳以上（76.7%）、女性30歳以上は「手や器具を使って絞っている」が7割を超え、女性70歳以上（81.7%）は約8割を占めている。一方、「自然乾燥させている」は男性30～39歳（36.1%）と60～69歳（34.8%）、女性29歳以下で3割台となっている。

居住区別でみると、すべての区で「手や器具を使って絞っている」が6割以上を占め、緑区（75.5%）を筆頭に7区で7割を超えている。一方、岩槻区は「手や器具を使って絞っている」（66.2%）が全体を5.6ポイント下回り、「自然乾燥させている」（30.0%）が3割を占めている。（図1-11-2）

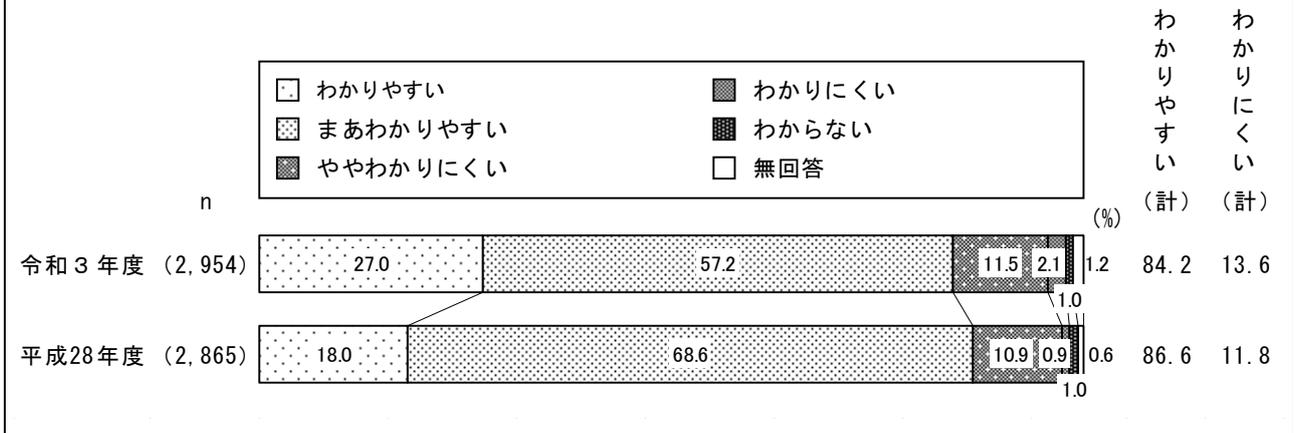
図1-11-2 水切りの方法について－性・年齢別、居住区別－

		(%)					
	n	絞手 つて 器具 を使 って	自 然 乾 燥 さ せ て い る	堆 肥 機 を 使 っ て 絞 ら な い	生 ご み 処 理 機 な ど の 乾 燥	そ の 他	無 回 答
全	体	2621	71.8	25.1	1.8	5.0	0.8
<性・年齢別>							
男	性	1063	69.3	27.5	1.5	4.7	0.6
18	～	10	50.0	60.0	0.0	0.0	0.0
20	～	62	69.4	24.2	0.0	6.5	0.0
30	～	144	60.4	36.1	1.4	3.5	0.0
40	～	202	67.3	28.2	3.5	3.5	0.5
50	～	212	75.0	24.5	0.9	2.8	0.0
60	～	204	64.2	34.8	2.5	5.9	0.5
70	歳	227	76.7	17.2	0.0	7.0	1.8
女	性	1536	73.4	23.6	1.9	5.2	1.0
18	～	13	69.2	38.5	0.0	0.0	0.0
20	～	120	66.7	35.0	1.7	3.3	0.0
30	～	208	70.2	26.9	1.4	3.4	0.5
40	～	273	71.8	23.1	3.7	6.2	0.4
50	～	318	72.6	26.1	1.9	4.1	0.3
60	～	261	71.6	23.4	1.1	7.7	2.3
70	歳	338	81.7	15.1	1.5	5.3	1.8
<居住区別>							
西	区	178	72.5	24.2	2.2	6.7	1.1
北	区	323	68.4	27.2	1.9	6.8	0.9
大	宮	244	71.7	25.8	2.9	4.5	0.8
見	沼	315	73.7	26.7	1.6	3.5	0.3
中	央	206	71.8	23.8	2.4	3.9	1.5
桜	区	161	68.9	28.0	0.6	4.3	1.9
浦	和	343	72.0	25.1	2.3	5.0	0.6
南	区	388	74.2	21.9	1.3	4.6	0.8
緑	区	245	75.5	20.8	1.2	5.3	0.0
岩	槻	210	66.2	30.0	1.0	5.2	1.4

(12) ごみの分別方法の理解状況

問9. あなたは、市のごみの分別方法は、わかりやすいと思いますか。(○は1つ)

図1-12-1 ごみの分別方法の理解状況



全体結果

ごみの分別方法の理解状況は、「わかりやすい」が27.0%、「まあわかりやすい」が57.2%、両者を合わせた『わかりやすい (計)』は84.2%となっている。一方、「ややわかりにくい」は11.5%、「わかりにくい」は2.1%、両者を合わせた『わかりにくい (計)』は13.6%となっている。

前回の調査と比較すると、「わかりやすい」が平成28年度(18.0%)と比べ9.0ポイント増加する一方、「まあわかりやすい」は平成28年度(68.6%)と比べ11.4ポイント減少し、『わかりやすい (計)』は平成28年度(86.6%)をやや下回っている。(図1-12-1)

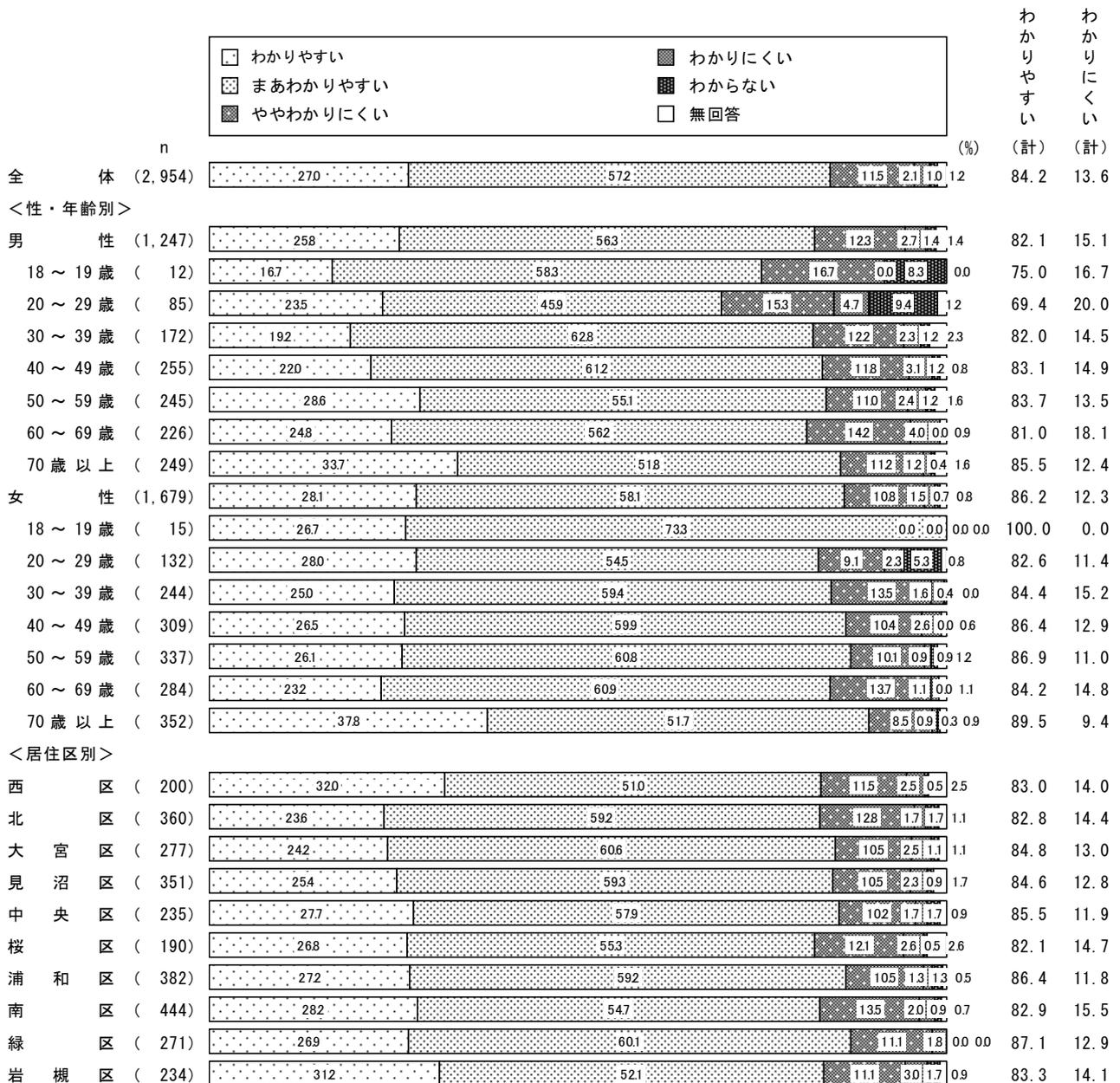
属性別

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「まあわかりやすい」が最も多く、男性20～29歳(45.9%)を除き過半数を占めている。70歳以上では男女とも「わかりやすい」が3割を超え、他の年齢に比べ多くなっている。『わかりやすい(計)』は男性29歳以下を除き8割以上となっているが、男性20～29歳(69.4%)は7割を下回り、『わかりにくい(計)』(20.0%)が2割を占めている。

居住区別でみると、すべての区で「まあわかりやすい」が5割を超え、『わかりやすい(計)』は8割台となっている。また、西区(32.0%)と岩槻区(31.2%)は「わかりやすい」が3割台となっている。

(図1-12-2)

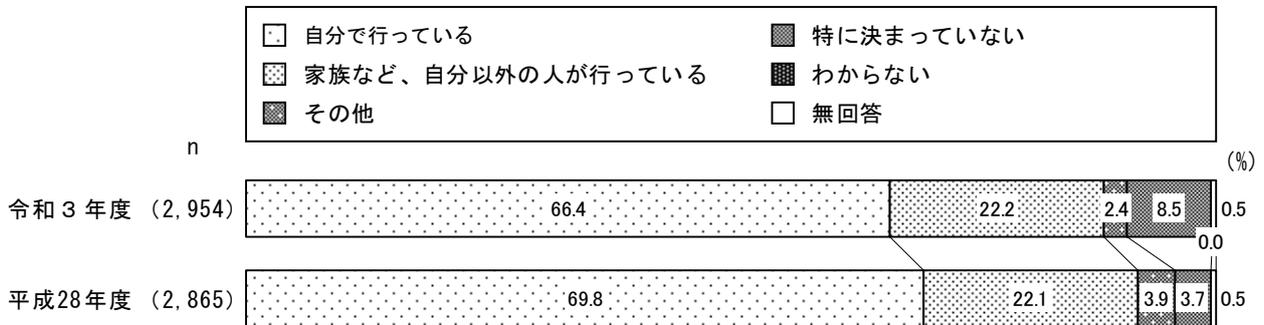
図1-12-2 ごみの分別方法の理解状況—性・年齢別、居住区別—



(13) ごみの分別を行っている人

問 10. ごみの分別は、ふだん、あなた自身が行っていますか。(○は1つ)

図 1-13-1 ごみの分別を行っている人



(注記) 平成 28 年度では、「特に決まっていない」「わからない」は「特に決まっていない／わからない」という一つの選択肢としていたため、図中では「特に決まっていない」として数値を記載している。

全体結果

ごみの分別は、「自分で行っている」(66.4%)が最も多く、次いで「家族など、自分以外の人が行っている」(22.2%)、「特に決まっていない」(8.5%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「特に決まっていない」は平成 28 年度 (3.7%) に比べやや増加しているものの、おおむね同様の傾向となっている。(図 1-13-1)

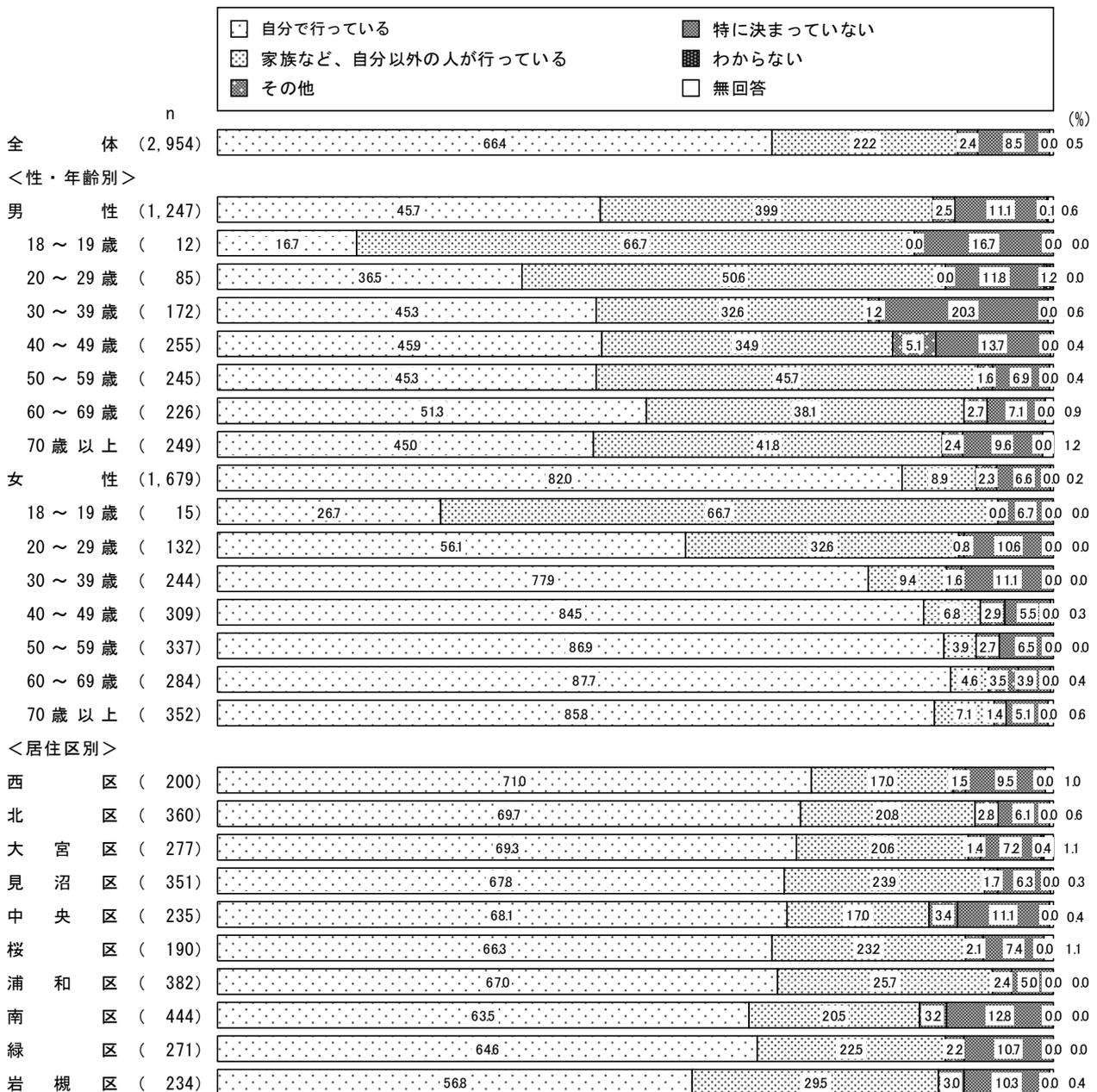
属性別

性・年齢別で見ると、「自分で行っている」は女性（82.0%）が男性（45.7%）を36.3ポイント上回っている。一方、「家族など、自分以外の人が行っている」は男性（39.9%）が女性（8.9%）より31.0ポイント多くなっている。

「自分で行っている」は女性が30～39歳（77.9%）で8割弱、40歳以上で8割台を占める一方、男性は60～69歳（51.3%）が約5割、それ以外の年齢は5割未満となっている。また、「家族など、自分以外の人が行っている」は男性が20～29歳（50.6%）で約5割、50～59歳（45.7%）と70歳以上（41.8%）で4割台を占めるのに対し、女性は30歳以上で1割未満となっている。

居住区別で見ると、すべての区で「自分で行っている」が過半数を占めているが、岩槻区（56.8%）は最も多い西区（71.0%）に比べ、14.2ポイント下回っている。また、「家族など、自分以外の人が行っている」は岩槻区（29.5%）が最も多く、西区（17.0%）と中央区（17.0%）を除く8区が2割台となっている。（図1-13-2）

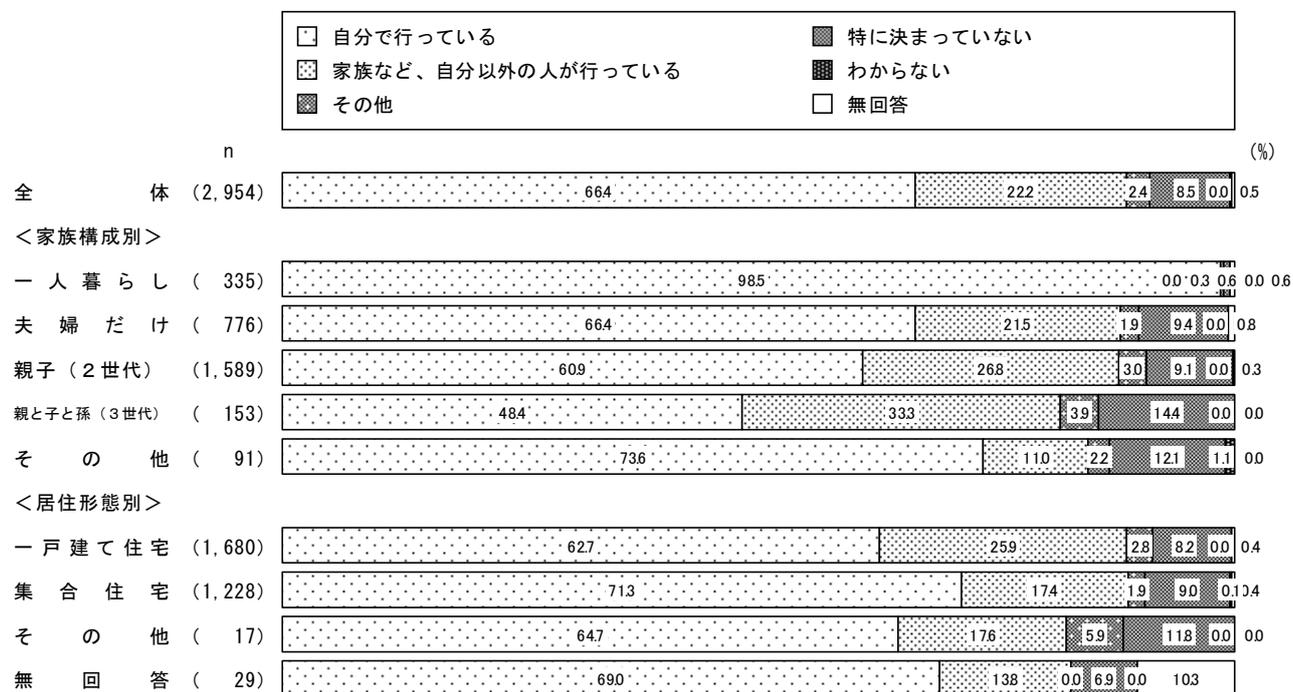
図1-13-2 ごみの分別を行っている人—性・年齢別、居住区別—



家族構成別でみると、いずれも「自分でやっている」が最も多くなっている。しかし、同居家族が増加するにつれ「自分でやっている」は減少する傾向にあり、親と子と孫（3世代）（48.4%）は半数を下回っている。一方、「家族など、自分以外の人が行っている」は夫婦だけ（21.5%）と親子（2世代）（26.8%）が2割台、親と子と孫（3世代）（33.3%）は3割強と同居家族が増えるにつれ増加している。

居住形態別でみると、「自分でやっている」は集合住宅（71.3%）が一戸建て住宅（62.7%）を8.6ポイント上回っている。一方、「家族など、自分以外の人が行っている」は一戸建て住宅（25.9%）が集合住宅（17.4%）より8.5ポイント多くなっている。（図1-13-3）

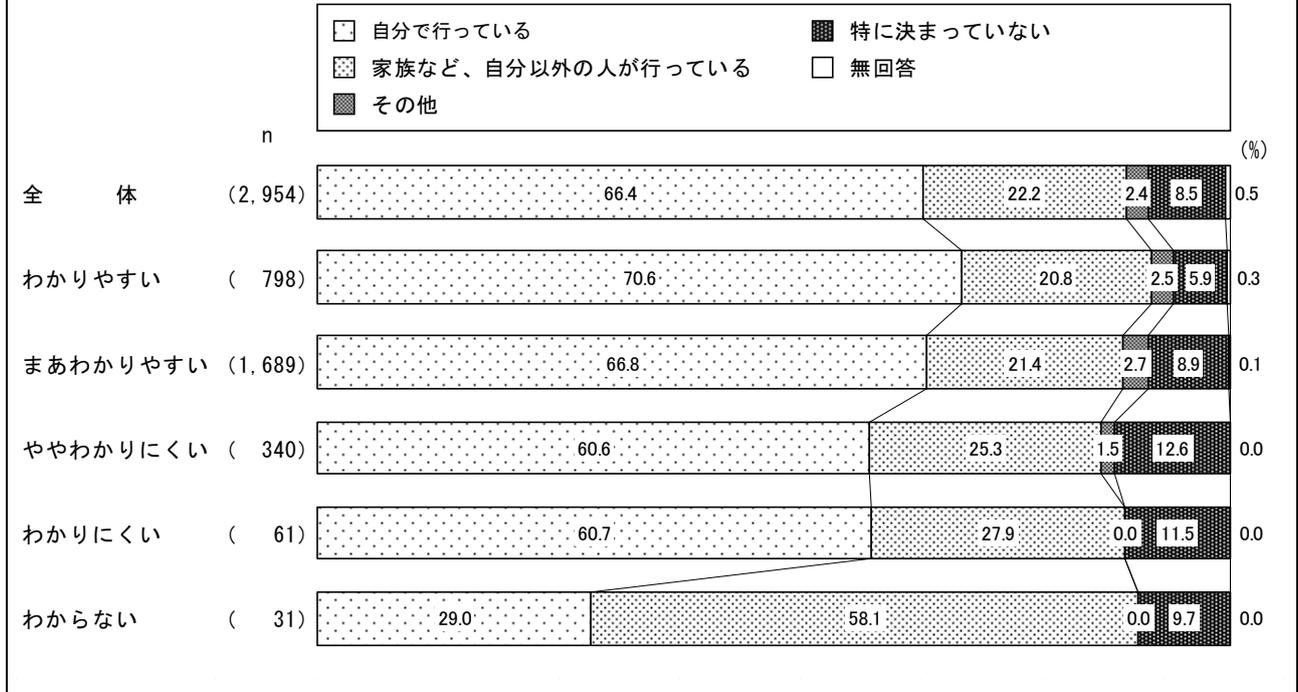
図1-13-3 ごみの分別を行っている人—家族構成別、居住形態別—



(14) ごみの分別を行っている人×ごみの分別方法の理解状況

問 10. ごみの分別は、ふだん、あなた自身が行っていますか。(○は1つ)

図 1-14-1 ごみの分別を行っている人×ごみの分別方法の理解状況



全体結果

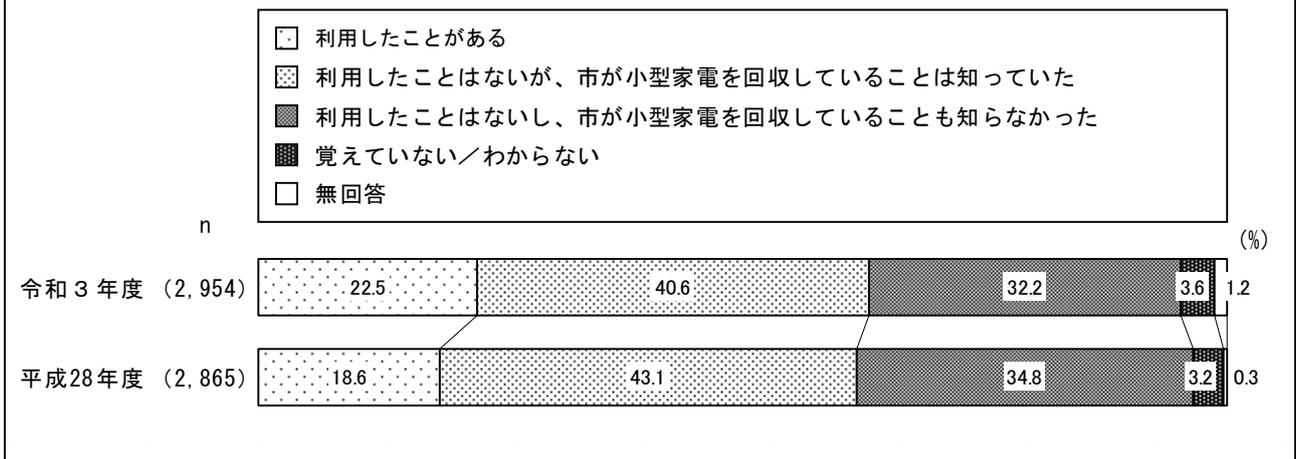
ごみの分別方法の理解状況とごみの分別を行っている人についてみると、市のごみの分別方法が「わかりやすい」と感じる人の70.6%が、ごみの分別を「自分でやっている」。一方、「ややわかりにくい」人のうち、ごみの分別を「自分でやっている」割合は60.6%にとどまっており、ごみの分別を自分でやっている人ほど、ごみの分別方法の理解状況は高くなっている。(図1-14-1)

2. 市政との関わり

(1) 「小型家電リサイクル事業」の利用状況

問 11. あなたは、市が実施している小型家電の回収事業（小型家電リサイクル事業）を利用したことがありますか。（○は1つ）

図 2-1-1 「小型家電リサイクル事業」の利用状況



全体結果

市が実施している小型家電リサイクル事業を「利用したことがある」人は 22.5%、「利用したことはないが、市が小型家電を回収していることは知っていた」人は 40.6%となっている。一方、「利用したことはないし、市が小型家電を回収していることも知らなかった」人は 32.2%となっている。

前回の調査と比較すると、利用者の割合は微増したものの、おおむね同様の傾向となっている。

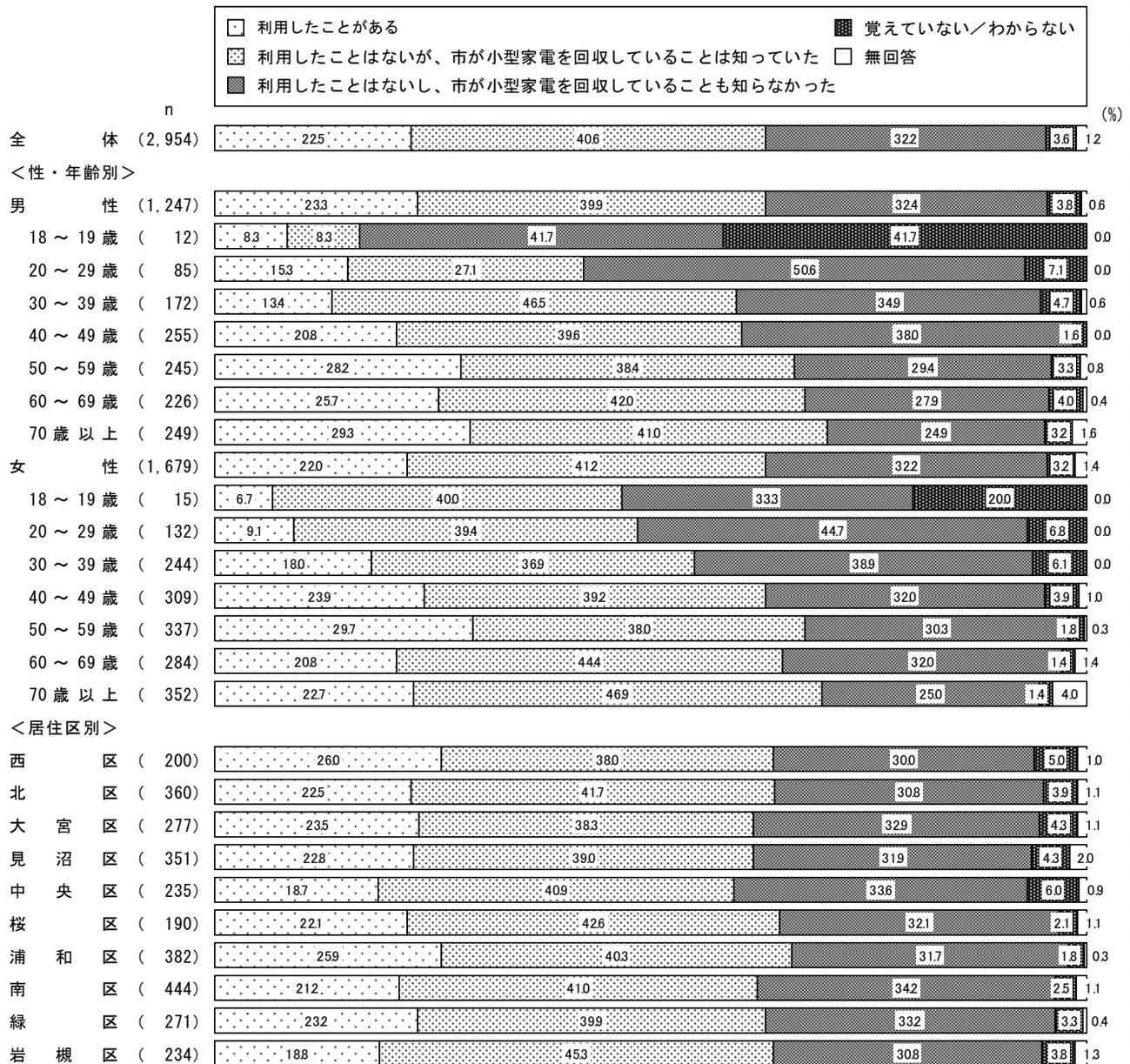
(図 2-1-1)

属性別

性・年齢別でみると、「利用したことがある」と「利用したことはないが、市が小型家電を回収していることは知っていた」の合計はおおむね年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、男女とも30歳以上で過半数を占めている。また、「利用したことがある」は男性70歳以上(29.3%)、女性50～59歳(29.7%)が最も多くなっているが、39歳以下は男女とも2割未満となっている。一方、「利用したことはないし、市が小型家電を回収していることも知らなかった」は男性20～29歳(50.6%)で約5割を占め、女性20～29歳(44.7%)も全体を1割以上上回っている。

居住区別でみると、「利用したことがある」と「利用したことはないが、市が小型家電を回収していることは知っていた」の合計は中央区(59.6%)を除く9区で6割台となっている。また、「利用したことがある」は西区(26.0%)と浦和区(25.9%)でやや高く、中央区(18.7%)と岩槻区(18.8%)を除く8区で2割台となっている。一方、「利用したことはないし、市が小型家電を回収していることも知らなかった」は南区(34.2%)が最も多くなっている。(図2-1-2)

図2-1-2 「小型家電リサイクル事業」の利用状況－性・年齢別、居住区別－



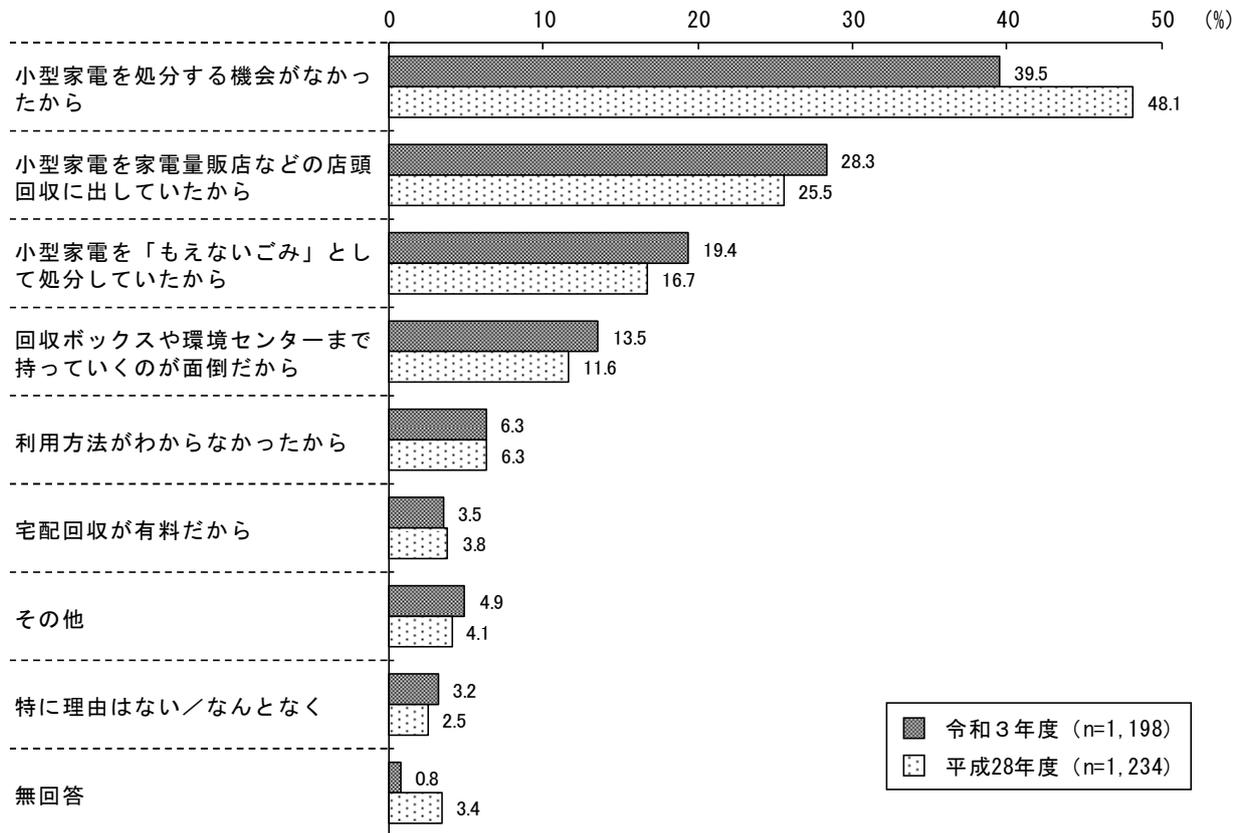
(2) 「小型家電リサイクル事業」を利用しなかった理由

問 11. で「2」と回答した方に質問します。

問 11-1. あなたが、「小型家電リサイクル事業」を利用しなかった理由は何ですか。

(○はいくつでも)

図 2-2-1 「小型家電リサイクル事業」を利用しなかった理由



全体結果

市の小型家電リサイクル事業を知っていた人が、利用しなかった理由は、「小型家電を処分する機会がなかったから」(39.5%) が最も多く、次いで「小型家電を家電量販店などの店頭回収に出していたから」(28.3%)、「小型家電を「もえないごみ」として処分していたから」(19.4%) などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「小型家電を処分する機会がなかったから」は平成 28 年度 (48.1%) と比べ 8.6 ポイント減少している。(図 2-2-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、「小型家電を処分する機会がなかったから」は男性 20～69 歳と女性 59 歳以下で最も多く、女性 39 歳以下で 5 割を超えるが、年齢が上がるにつれおおむね減少する傾向にある。一方、「小型家電を「もえないごみ」として処分していたから」は年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、70 歳以上は男女とも 3 割台となっている。また、「小型家電を家電量販店などの店頭回収に出していたから」は男性 50～59 歳（33.0%）と 70 歳以上（30.4%）、女性 50 歳以上で 3 割台を占めている。

居住区別でみると、大宮区（50.9%）を筆頭にすべての区で「小型家電を処分する機会がなかったから」が最も多くなっているが、西区（31.6%）など 5 区は 3 割台で、大宮区より 1 割以上少なくなっている。一方、「小型家電を家電量販店などの店頭回収に出していたから」は見沼区（32.1%）、西区（31.6%）、桜区（30.9%）で 3 割台となっており、西区は「小型家電を処分する機会がなかったから」と「小型家電を家電量販店などの店頭回収に出していたから」が同率となっている。また、「小型家電を「もえないごみ」として処分していたから」は岩槻区（25.5%）が最も多く、大宮区（12.3%）の約 2 倍となっている。（表 2-2-1）

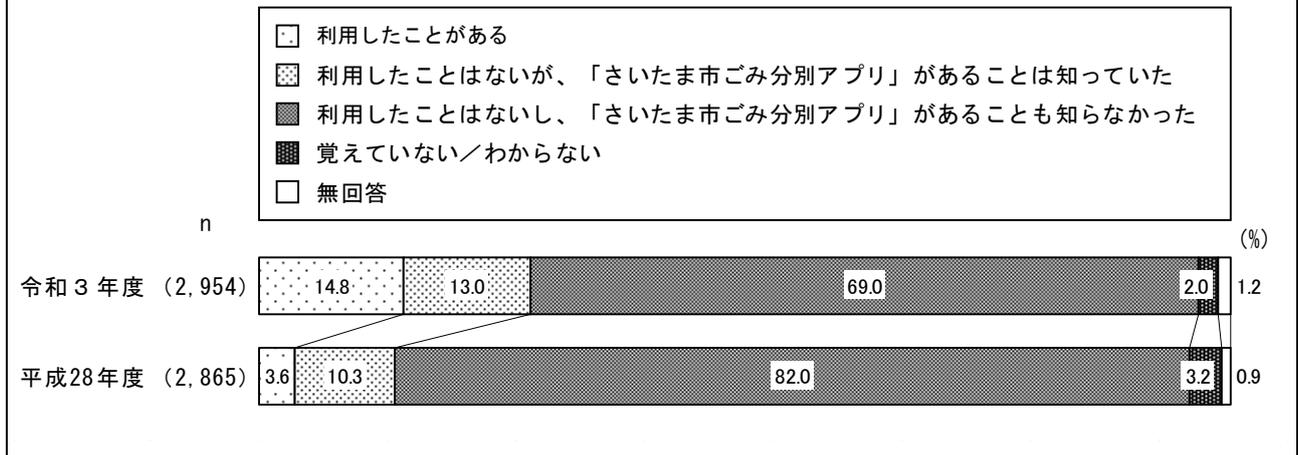
表 2-2-1 「小型家電リサイクル事業」を利用しなかった理由－性・年齢別、居住区別－

	n	が小型家電を処分する機会がなかったから	たの小型家電を家に電量販店などの店頭回収に出していたから	かみ小型家電を処分しえていないから	面倒だから	回収ボックスを持っていないから	利用方法がわからなかったから	宅配回収が有料だから	その他	なく理由はな／なんと	無回答
全 体	1,198	39.5	28.3	19.4	13.5	6.3	3.5	4.9	3.2	0.8	
<性・年齢別>											
男 性	497	40.0	26.8	19.7	12.1	6.8	3.4	5.4	3.0	0.2	
18～19歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
20～29歳	23	69.6	21.7	4.3	13.0	8.7	4.3	0.0	4.3	0.0	
30～39歳	80	48.8	21.3	12.5	18.8	6.3	1.3	1.3	5.0	0.0	
40～49歳	101	49.5	21.8	13.9	9.9	6.9	5.9	2.0	2.0	0.0	
50～59歳	94	39.4	33.0	16.0	10.6	6.4	4.3	6.4	2.1	0.0	
60～69歳	95	33.7	28.4	21.1	12.6	6.3	3.2	8.4	3.2	0.0	
70歳以上	102	24.5	30.4	36.3	9.8	6.9	2.0	9.8	2.9	1.0	
女 性	691	38.9	29.7	19.2	14.3	5.9	3.5	4.5	3.2	1.2	
18～19歳	6	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	
20～29歳	52	61.5	7.7	3.8	9.6	5.8	5.8	3.8	9.6	0.0	
30～39歳	90	54.4	15.6	11.1	16.7	11.1	2.2	0.0	4.4	0.0	
40～49歳	121	41.3	28.1	13.2	21.5	8.3	3.3	3.3	0.0	0.0	
50～59歳	128	41.4	36.7	13.3	14.8	3.9	4.7	3.9	3.9	0.8	
60～69歳	126	28.6	36.5	28.6	15.1	6.3	2.4	4.0	2.4	1.6	
70歳以上	165	27.9	34.5	30.9	7.9	2.4	3.6	8.5	3.0	3.0	
<居住区別>											
西 区	76	31.6	31.6	22.4	15.8	3.9	0.0	5.3	5.3	1.3	
北 区	150	40.0	29.3	20.0	11.3	6.7	4.0	4.0	4.7	0.7	
大 宮 区	106	50.9	27.4	12.3	14.2	3.8	5.7	0.9	0.9	0.0	
見 沼 区	137	34.3	32.1	22.6	16.8	5.8	3.6	4.4	2.2	2.2	
中 央 区	96	34.4	27.1	24.0	16.7	4.2	1.0	4.2	4.2	1.0	
桜 区	81	42.0	30.9	16.0	8.6	6.2	6.2	2.5	1.2	0.0	
浦 和 区	154	44.8	21.4	15.6	16.2	7.8	4.5	5.2	4.5	0.0	
南 区	182	36.8	29.7	19.2	11.5	6.6	1.6	6.6	2.2	0.5	
緑 区	108	45.4	25.9	16.7	8.3	8.3	1.9	7.4	0.9	0.9	
岩 槻 区	106	34.0	29.2	25.5	15.1	7.5	5.7	7.5	4.7	0.9	

(3) 「さいたま市ごみ分別アプリ」の利用状況

問 12. あなたは、市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信している「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用したことがありますか。(〇は1つ)

図 2-3-1 「さいたま市ごみ分別アプリ」の利用状況



全体結果

さいたま市ごみ分別アプリを「利用したことがある」は14.8%、「利用したことはないが、「さいたま市ごみ分別アプリ」があることは知っていた」が13.0%となっている。一方、「利用したことはないし、「さいたま市ごみ分別アプリ」があることも知らなかった」は69.0%となっている。

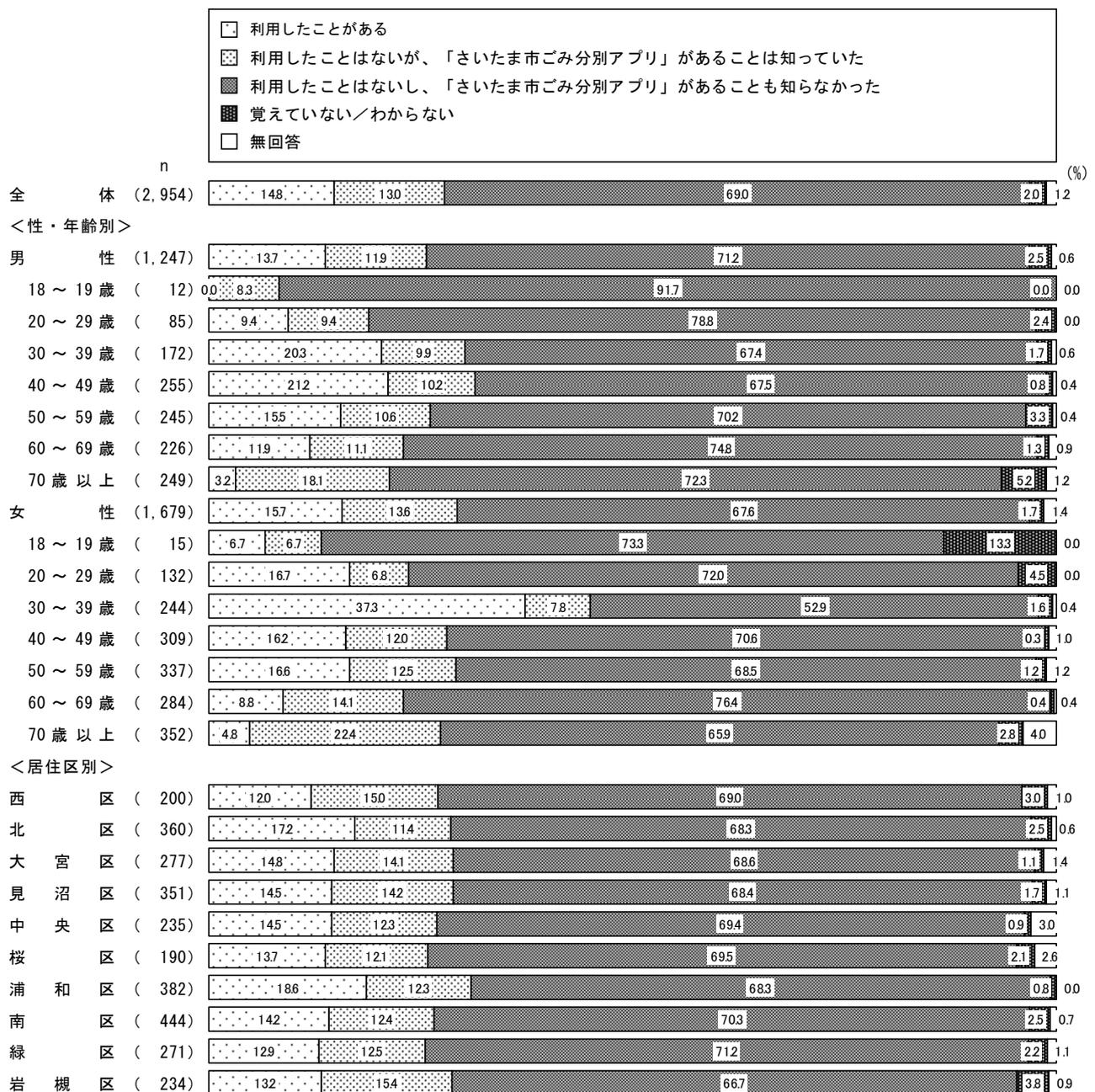
前回の調査と比較すると、「利用したことがある」が平成28年度(3.6%)と比べ11.2ポイント増加する一方、「利用したことはないし、「さいたま市ごみ分別アプリ」があることも知らなかった」は平成28年度(82.0%)と比べ13.0ポイント減少している。(図2-3-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「利用したことはないし、さいたま市ごみ分別アプリがあることも知らなかった」が過半数を占めている。「利用したことがある」は女性 30～39 歳 (37.3%) が全体を 2 割以上上回り最も多く、「利用したことはないが、「さいたま市ごみ分別アプリ」があることは知っていた」(7.8%) との合計が 4 割半ばを占めている。また、男性 30～49 歳も「利用したことがある」が約 2 割を占めているが、50 歳以上は年齢が上がるにつれ減少する傾向にある。

居住区別でみると、すべての区で「利用したことはないし、さいたま市ごみ分別アプリがあることも知らなかった」が 6 割以上を占めている。「利用したことがある」は浦和区 (18.6%)、「利用したことはないが、「さいたま市ごみ分別アプリ」があることは知っていた」は岩槻区 (15.4%) が最多だが、いずれもすべての区で 1 割台となっている。(図 2-3-2)

図 2-3-2 「さいたま市ごみ分別アプリ」の利用状況－性・年齢別、居住区別－

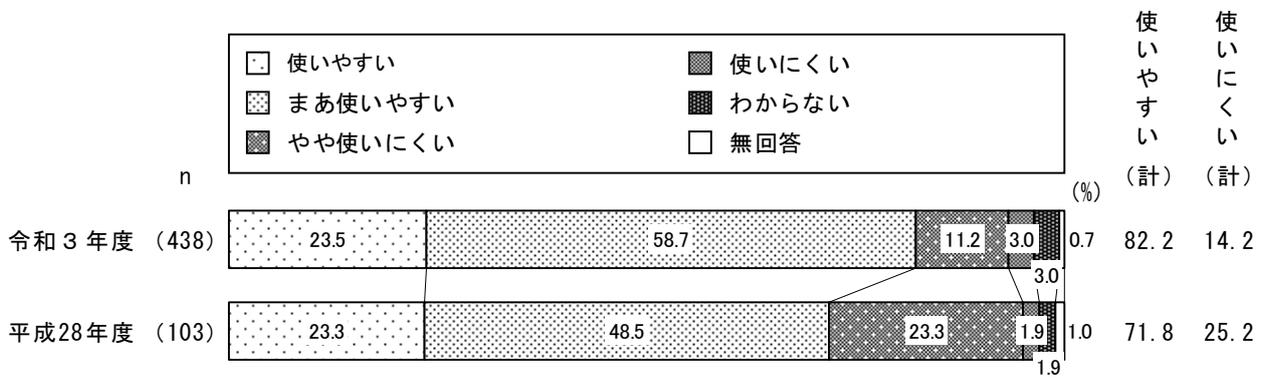


(4)「さいたま市ごみ分別アプリ」の使い心地

問 12. で「1」と回答した方に質問します。

問 12-1. 「さいたま市ごみ分別アプリ」の使い心地はどうか。(○は1つ)

図 2-4-1 「さいたま市ごみ分別アプリ」の使い心地



全体結果

さいたま市ごみ分別アプリの使い心地は、「使いやすい」が23.5%、「まあ使いやすい」が58.7%、両者を合わせた『使いやすい (計)』は、82.2%となっている。一方、「やや使いにくい」は11.2%、「使いにくい」は3.0%、両者を合わせた『使いにくい (計)』は14.2%となっている。

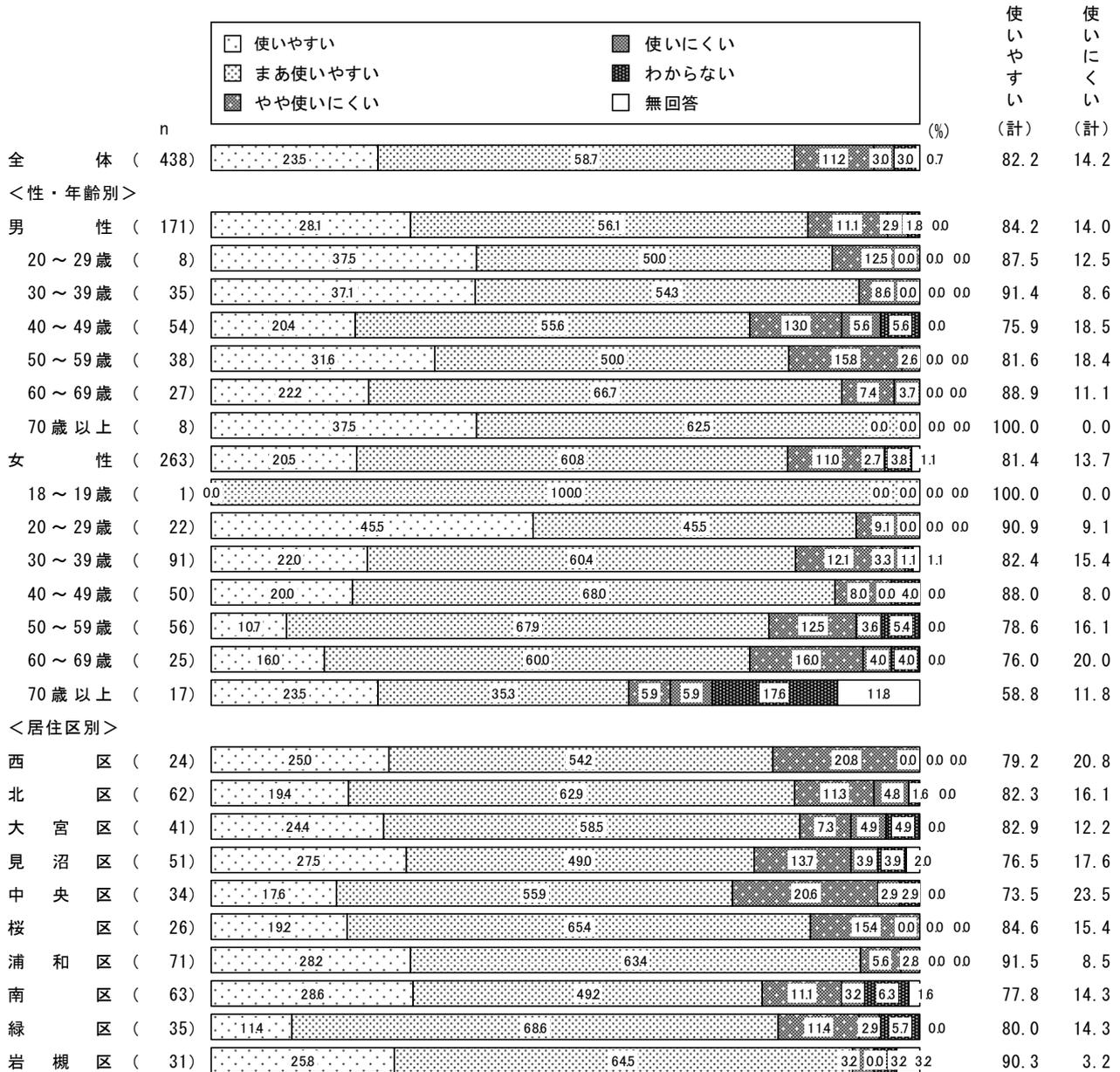
前回の調査と比較すると、「まあ使いやすい」が平成28年度(48.5%)と比べ10.2ポイント増加し、『使いやすい (計)』も平成28年度(71.8%)と比べ10.4ポイント増加している。(図2-4-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女とも「まあ使いやすい」が5割を超え、『使いやすい(計)』は8割台となっている。

居住区別で見ると、『使いやすい(計)』は浦和区(91.5%)が最も多くなっている。(図2-4-2)

図2-4-2 「さいたま市ごみ分別アプリ」の使い心地—性・年齢別、居住区別—



(※) 男性18～19歳は該当者なし

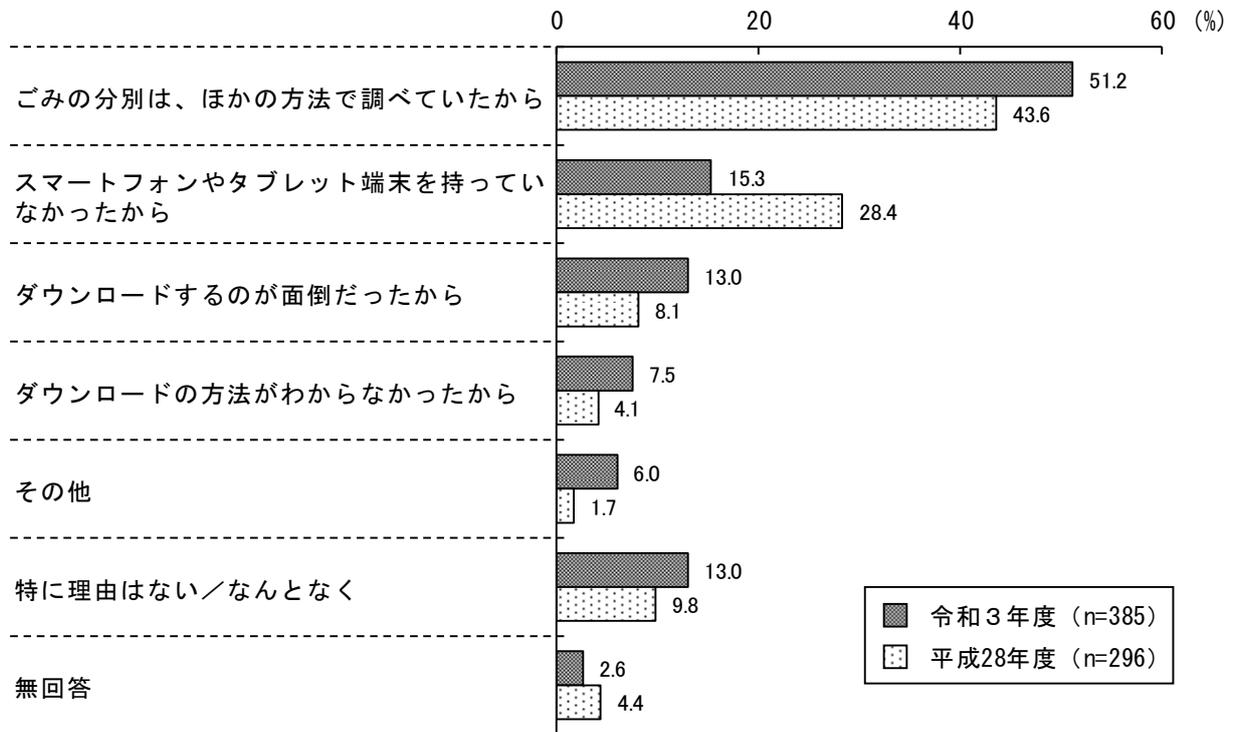
(5) 「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用しなかった理由

問 12. で「2」と回答した方に質問します。

問 12-2. あなたが、「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用しなかった理由は何ですか。

(○はいくつでも)

図 2-5-1 「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用しなかった理由



全体結果

さいたま市ごみ分別アプリを利用しなかった理由は、「ごみの分別は、ほかの方法で調べていたから」(51.2%) が最も多く、次いで「スマートフォンやタブレット端末を持っていなかったから」(15.3%)、「ダウンロードするのが面倒だったから」(13.0%) などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「ごみの分別は、ほかの方法で調べていたから」が平成 28 年度 (43.6%) と比べ 7.6 ポイント増加する一方、「スマートフォンやタブレット端末を持っていなかったから」は平成 28 年度 (28.4%) と比べ 13.1 ポイント減少している。(図 2-5-1)

属 性 別

性別でみると、男女とも「ごみの分別は、ほかの方法で調べていたから」が約5割で最も多くなっている。

性・年齢別でみると、女性70歳以上は「ごみの分別は、ほかの方法で調べていたから」が3割半ばと全体を1割以上下回っている。一方、「スマートフォンやタブレット端末を持っていなかったから」は3割半ばで、全体を2割弱上回っている。

居住区別でみると、見沼区と南区で「ごみの分別は、ほかの方法で調べていたから」が4割以上を占め、最も多くなっている。(表2-5-1)

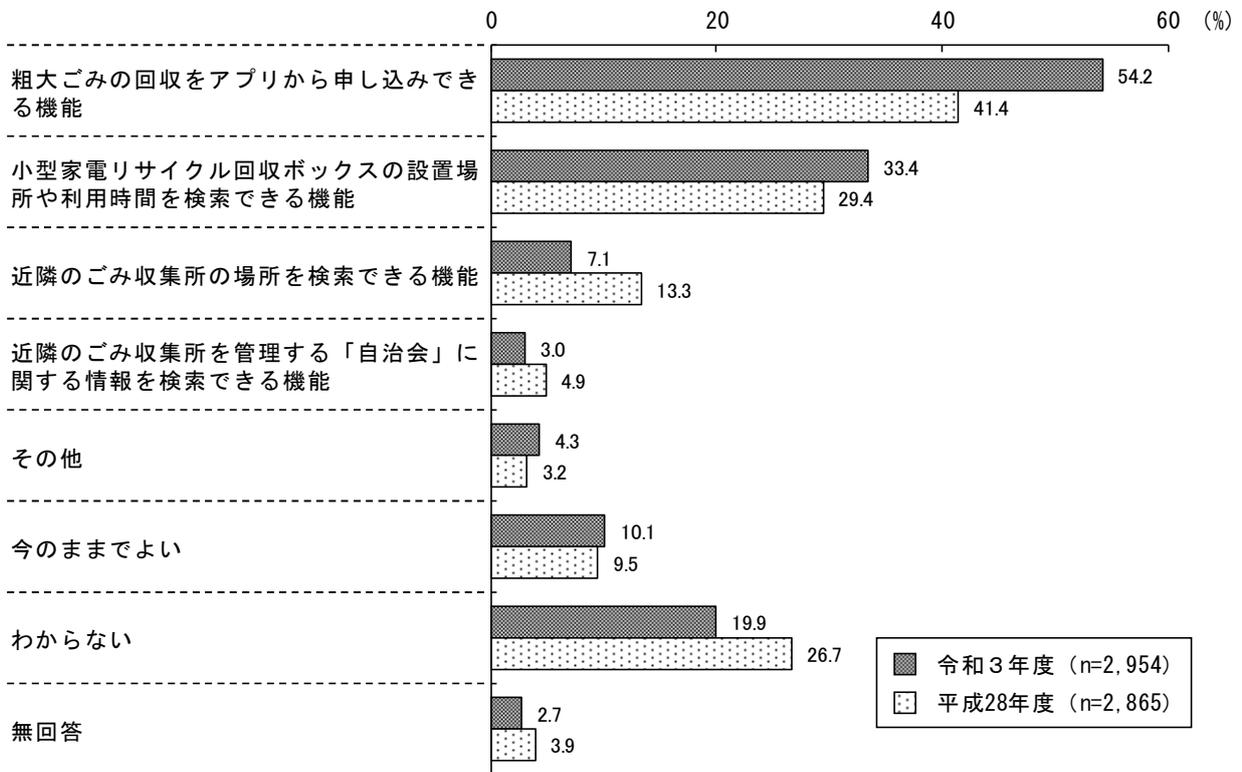
表2-5-1 「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用しなかった理由—性・年齢別、居住区別—

		(%)						
	n	か ら 方 法 の で 分 別 べ て い ほ た か	て ブ ス マ ー ト フ ォ ン や タ ブ レ ッ ト 端 末 を 持 っ た か ら	が ダ ウ ン ロ ッ ド す る の が 倒 れ た か ら	ら が ダ ウ ン ロ ッ ド す る の が 倒 れ た か ら	そ の 他	ん 特 に 理 由 は な い ／ な	無 回 答
全 体	385	51.2	15.3	13.0	7.5	6.0	13.0	2.6
<性・年齢別>								
男 性	149	51.7	14.8	14.1	5.4	6.0	14.1	2.7
18～19歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
20～29歳	8	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	37.5	0.0
30～39歳	17	58.8	0.0	17.6	0.0	11.8	17.6	0.0
40～49歳	26	65.4	3.8	23.1	0.0	3.8	11.5	0.0
50～59歳	26	65.4	15.4	0.0	0.0	3.8	15.4	0.0
60～69歳	25	60.0	8.0	16.0	4.0	4.0	12.0	4.0
70歳以上	45	35.6	31.1	15.6	13.3	4.4	11.1	6.7
女 性	229	50.7	15.3	12.2	9.2	6.1	11.8	2.6
18～19歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	9	55.6	0.0	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0
30～39歳	19	63.2	0.0	15.8	0.0	10.5	15.8	0.0
40～49歳	37	70.3	5.4	10.8	2.7	0.0	16.2	0.0
50～59歳	42	66.7	2.4	16.7	0.0	4.8	11.9	7.1
60～69歳	40	40.0	12.5	15.0	7.5	10.0	17.5	5.0
70歳以上	79	34.2	34.2	7.6	20.3	6.3	6.3	1.3
<居住区別>								
西 区	30	46.7	26.7	10.0	3.3	6.7	10.0	3.3
北 区	41	51.2	22.0	17.1	2.4	7.3	9.8	4.9
大 宮 区	39	59.0	10.3	12.8	10.3	7.7	7.7	2.6
見 沼 区	50	54.0	14.0	18.0	8.0	4.0	14.0	2.0
中 央 区	29	51.7	6.9	3.4	17.2	10.3	10.3	3.4
桜 区	23	73.9	13.0	13.0	4.3	0.0	8.7	4.3
浦 和 区	47	53.2	8.5	6.4	6.4	4.3	19.1	2.1
南 区	55	40.0	18.2	14.5	3.6	9.1	21.8	0.0
緑 区	34	47.1	14.7	23.5	11.8	8.8	2.9	2.9
岩 槻 区	36	47.2	16.7	8.3	11.1	0.0	16.7	2.8

(6) 「さいたま市ごみ分別アプリ」に必要な追加機能

問 13. あなたは、「さいたま市ごみ分別アプリ」にどのような機能があれば、利用しやすくなると思いますか。(〇は2つまで)

図 2-6-1 「さいたま市ごみ分別アプリ」に必要な追加機能



全体結果

「さいたま市ごみ分別アプリ」に必要な追加機能については、「粗大ごみの回収をアプリから申し込みできる機能」(54.2%)が最も多く、次いで「小型家電リサイクル回収ボックスの設置場所や利用時間を検索できる機能」(33.4%)、「近隣のごみ収集所の場所を検索できる機能」(7.1%)などの順となっている。一方、「今のままでよい」は10.1%となっている。

前回の調査と比較すると、「粗大ごみの回収をアプリから申し込みできる機能」が平成28年度(41.4%)と比べ12.8ポイント増加する一方、「近隣のごみ収集所の場所を検索できる機能」は平成28年度(13.3%)と比べ6.2ポイント減少している。(図2-6-1)

属性別

性・年齢別でみると、「小型家電リサイクル回収ボックスの設置場所や利用時間を検索できる機能」は女性（35.8%）が男性（30.4%）を5.4ポイント上回っており、女性30～59歳で4割台を占めている。

「粗大ごみの回収をアプリから申し込みできる機能」は男女とも59歳以下で5割を超え、女性30～49歳は7割台となっているが、70歳以上は2割台と全体を3割前後下回っている。70歳以上は「わからない」が3割を超え、女性70歳以上は「今のままでよい」（20.2%）も約2割を占めている。

居住区別でみると、すべての区で「粗大ごみの回収をアプリから申し込みできる機能」が最も多く、西区（44.0%）と桜区（49.5%）以外の8区で5割を超えている。「小型家電リサイクル回収ボックスの設置場所や利用時間を検索できる機能」についても、西区（29.0%）と桜区（28.4%）を除いて3割台となっている。（表2-6-1）

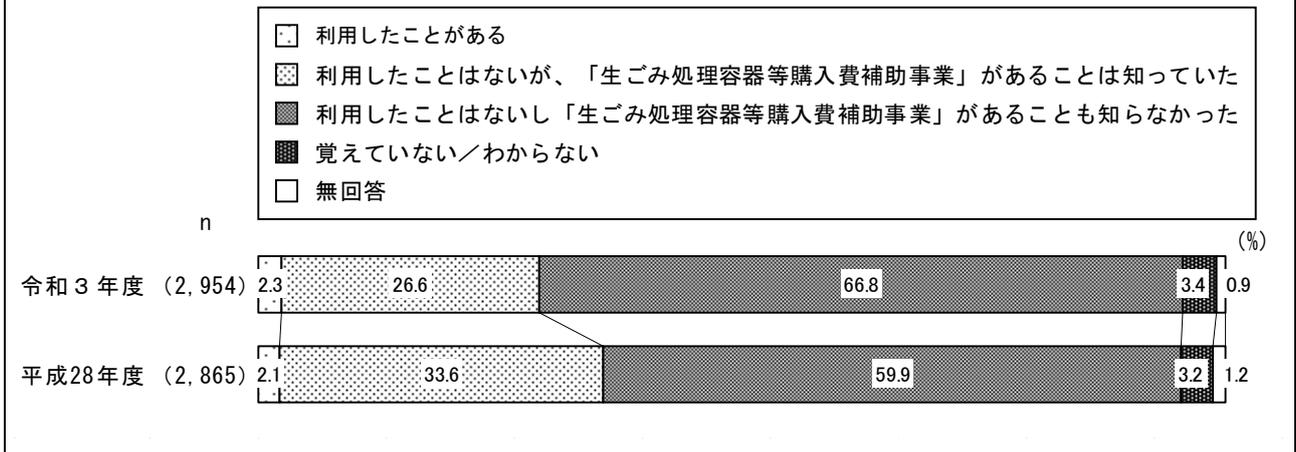
表2-6-1 「さいたま市ごみ分別アプリ」に必要な追加機能—性・年齢別、居住区別—

	n	粗大ごみの回収をアプリから申し込みできる機能	小型家電リサイクルボックスの設置場所や利用時間を検索できる機能	近隣の回収ボックスの設置場所や回収時間を検索できる機能	近隣の回収ボックスの設置場所や回収時間を検索できる機能	近隣の回収ボックスの設置場所や回収時間を検索できる機能	その他	今のままでよい	わからない	無回答
全体	2,954	54.2	33.4	7.1	3.0	4.3	10.1	19.9	2.7	
<性・年齢別>										
男性	1,247	53.1	30.4	7.6	3.9	4.3	9.5	22.2	1.9	
18～19歳	12	41.7	25.0	16.7	8.3	0.0	25.0	16.7	0.0	
20～29歳	85	52.9	30.6	10.6	8.2	3.5	7.1	23.5	0.0	
30～39歳	172	67.4	32.6	9.9	2.9	2.9	5.8	15.7	0.0	
40～49歳	255	67.1	34.9	6.3	3.1	4.7	6.3	16.5	0.4	
50～59歳	245	61.2	33.1	8.2	4.1	3.3	6.5	19.2	0.8	
60～69歳	226	48.7	28.3	6.6	2.7	4.4	10.6	26.5	1.3	
70歳以上	249	25.7	23.7	6.4	4.8	6.0	17.3	31.3	7.2	
女性	1,679	55.4	35.8	6.8	2.4	4.3	10.5	18.0	3.3	
18～19歳	15	66.7	40.0	13.3	13.3	0.0	6.7	13.3	0.0	
20～29歳	132	64.4	37.9	10.6	1.5	7.6	6.8	16.7	0.0	
30～39歳	244	75.0	41.0	9.0	1.6	6.6	3.7	10.2	0.0	
40～49歳	309	71.2	42.4	6.8	2.6	5.5	6.1	11.3	0.6	
50～59歳	337	65.9	43.9	6.2	2.4	3.9	8.9	12.8	1.5	
60～69歳	284	48.2	35.6	6.7	1.1	1.8	13.0	21.1	2.8	
70歳以上	352	20.2	18.2	4.3	3.4	3.4	20.2	32.4	11.1	
<居住区別>										
西区	200	44.0	29.0	7.0	4.0	9.5	15.5	22.0	2.5	
北区	360	58.6	37.2	6.1	1.7	5.6	7.5	19.7	1.9	
大宮区	277	56.3	32.9	6.9	2.2	4.7	8.3	22.4	2.5	
見沼区	351	51.9	33.0	5.4	3.7	3.4	11.1	22.5	2.0	
中央区	235	60.0	36.6	8.1	2.1	2.1	9.4	14.0	4.3	
桜区	190	49.5	28.4	8.4	4.7	4.2	9.5	23.2	3.2	
浦和区	382	58.4	37.2	7.9	2.1	3.7	10.5	15.7	1.6	
南区	444	55.4	34.0	7.4	4.1	5.0	8.8	19.4	3.2	
緑区	271	51.7	30.3	8.9	3.0	3.3	10.3	22.5	1.5	
岩槻区	234	50.9	30.3	6.4	3.4	2.1	13.7	19.7	5.1	

(7)「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」の利用状況

問 14. あなたは、市が生ごみ処理容器などの購入費を補助する「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」を利用したことがありますか。(○は1つ)

図 2-7-1 「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」の利用状況



全体結果

さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業の利用状況は、「利用したことがある」が 2.3%、「利用したことはないが、「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることは知っていた」が 26.6%となっている。一方、「利用したことはないし「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることも知らなかった」は 66.8%となっている。

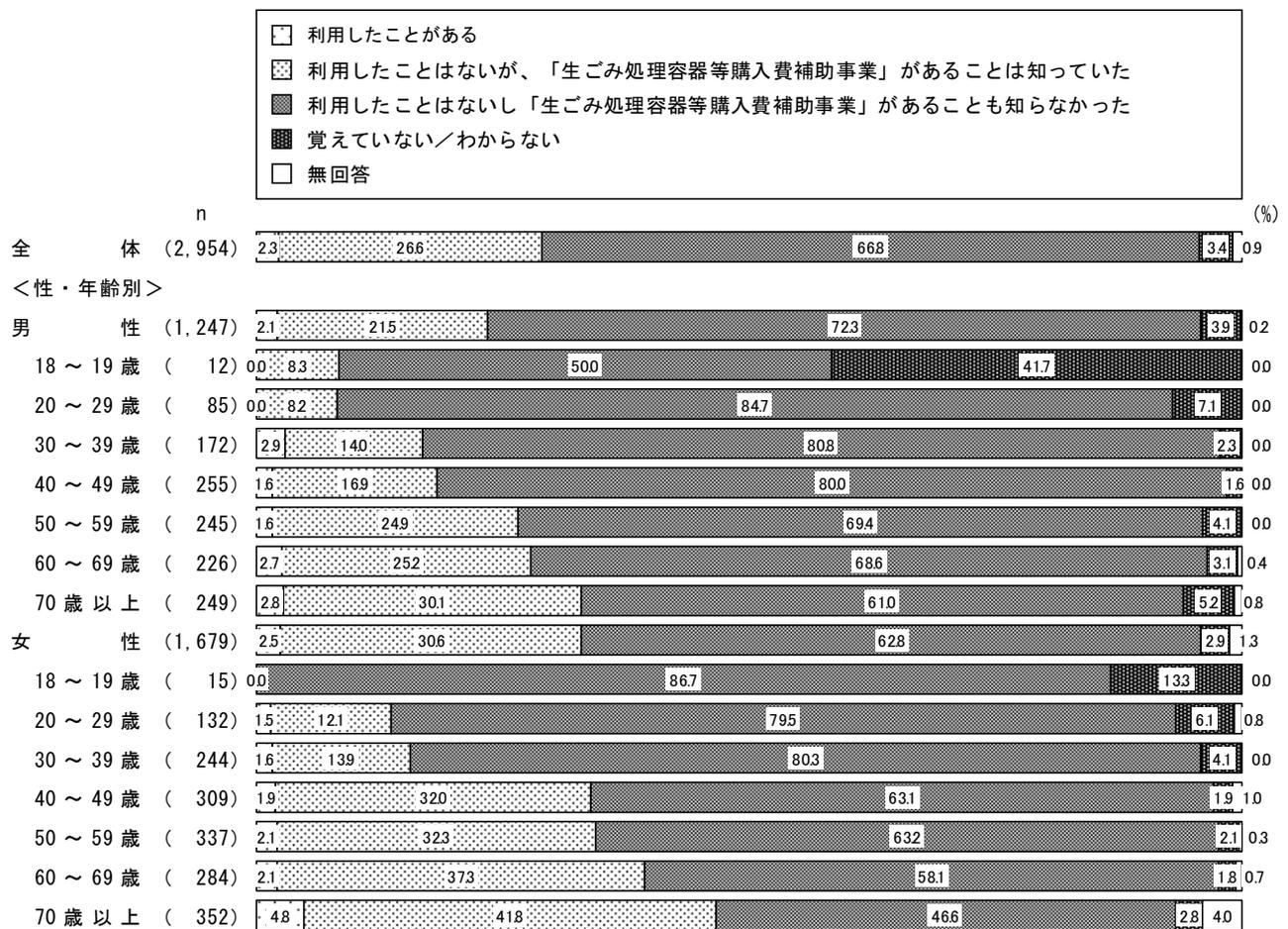
前回の調査と比較すると、「利用したことはないし「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることも知らなかった」が平成 28 年度 (59.9%) と比べ 6.9 ポイント増加する一方、「利用したことはないが、「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることは知っていた」は平成 28 年度 (33.6%) と比べ 7.0 ポイント減少している。(図 2-7-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、「利用したことはないが、「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることは知っていた」は女性（30.6%）が9.1ポイント、「利用したことはないし「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることも知らなかった」は男性（72.3%）が9.5ポイント上回っている。「利用したことはないし「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることも知らなかった」は女性70歳以上（46.6%）を除き過半数を占めており、男性49歳以下と女性30～39歳（80.3%）は8割台となっている。一方、「利用したことがある」は女性70歳以上（4.8%）が最も多く、年齢が上がるにつれ男女とも「利用したことはないが、「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることは知っていた」が増える傾向にある。

(図2-7-2)

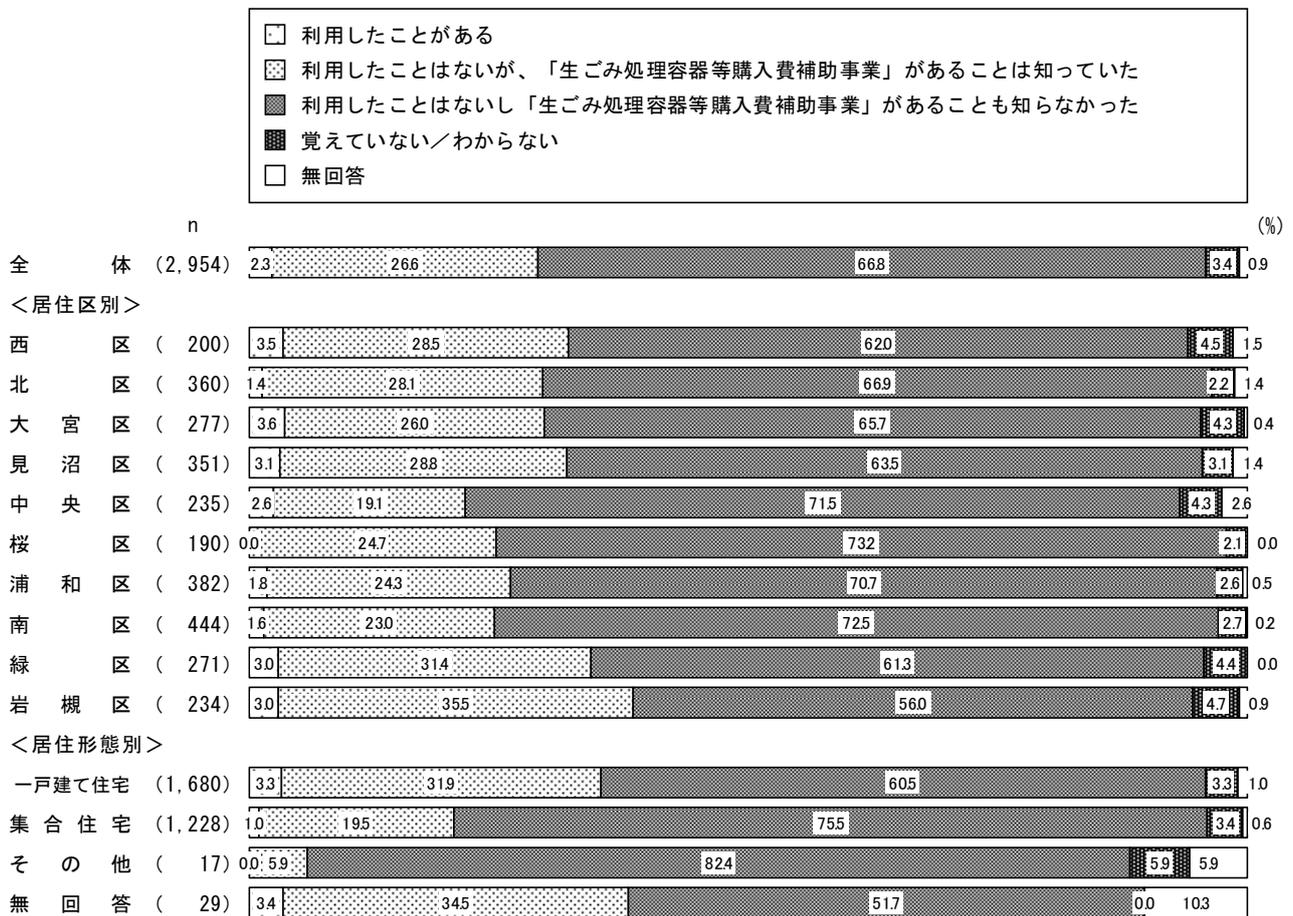
図2-7-2 「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」の利用状況—性・年齢別—



居住区別でみると、すべての区で「利用したことはないし「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることも知らなかった」が過半数を占めている。また、「利用したことがある」はすべての区で1割未満、「利用したことはないが、「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることは知っていた」は岩槻区(35.5%)と緑区(31.4%)が他区と比べやや多くなっている。

居住形態別でみると、一戸建て住宅(60.5%)、集合住宅(75.5%)とも「利用したことはないし「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることも知らなかった」が過半数を占めているが、割合は後者が前者を15.0ポイント上回っている。一方、「利用したことはないが、「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることは知っていた」は一戸建て住宅(31.9%)で約3割を占めるのに対し、集合住宅(19.5%)は1割以上少なくなっている。(図2-7-3)

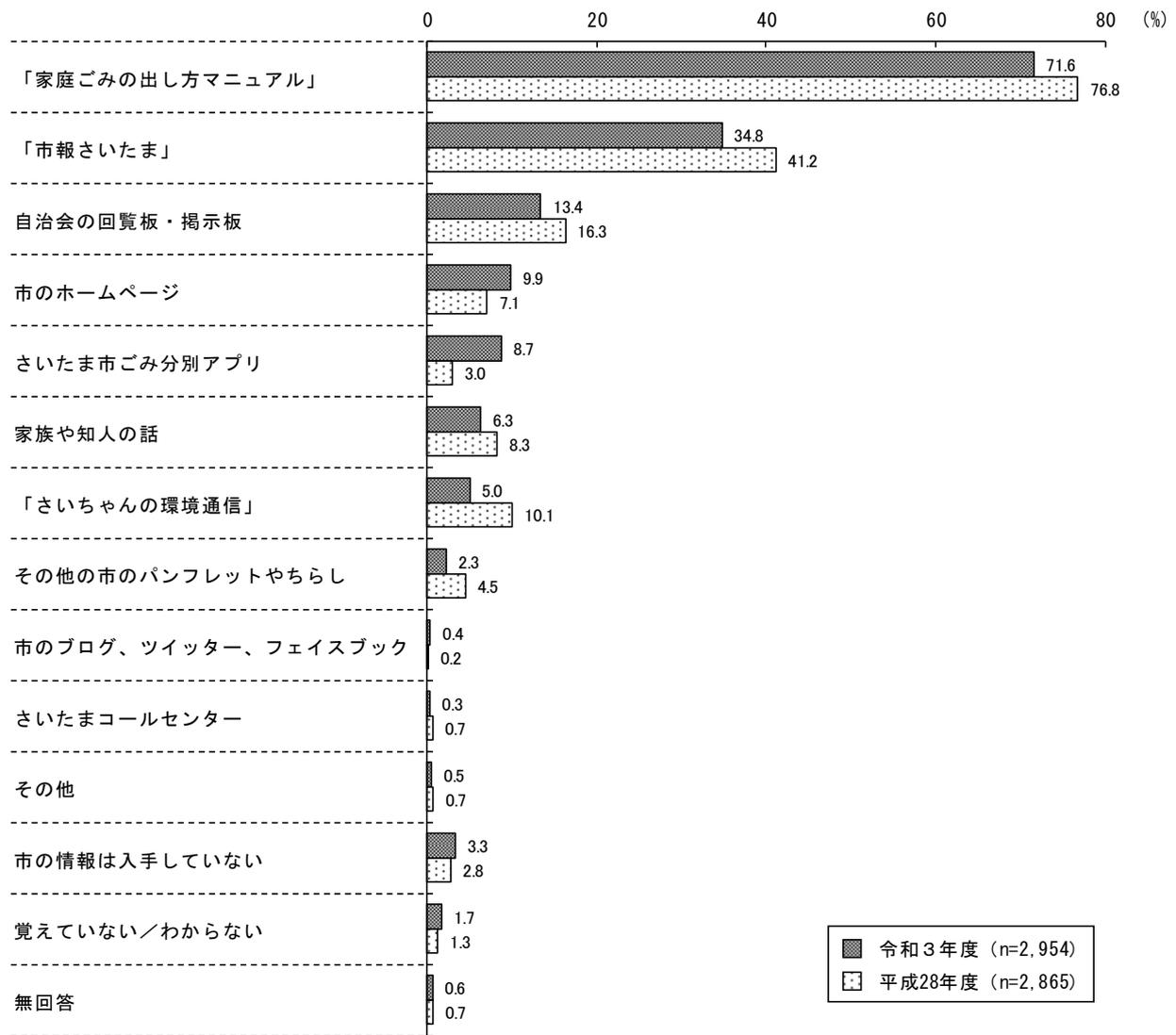
図2-7-3 「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」の利用状況
—居住区別、居住形態別—



(8) 市が発信する情報の入手方法

問 15. あなたは、ふだん、市が発信するごみの出し方やリサイクルの情報をどのような方法で入手していますか。(〇はいくつでも)

図 2-8-1 市が発信する情報の入手方法



全体結果

市が発信するごみの出し方やリサイクル情報の入手方法は、「家庭ごみの出し方マニュアル」(71.6%)が突出して多く、次いで「市報さいたま」(34.8%)、「自治会の回覧板・掲示板」(13.4%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「さいたま市ごみ分別アプリ」(8.7%)が平成28年度(3.0%)と比べ5.7ポイント増加する一方、「市報さいたま」は平成28年度(41.2%)と比べ6.4ポイント、「家庭ごみの出し方マニュアル」は平成28年度(76.8%)と比べ5.2ポイント、「さいちゃんの環境通信」(5.0%)は平成28年度(10.1%)と比べ5.1ポイント減少している。(図2-8-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、「家庭ごみの出し方マニュアル」は女性（76.6%）が男性（65.0%）を11.6ポイント上回っており、男女とも20歳以上で5割を超え、女性40～69歳は8割台となっている。「市報さいたま」は20～29歳で男女とも1割台であるが、年齢が上がるにつれおおむね増加する傾向にあり、60歳以上は男女とも4割台となっている。また、「自治会の回覧板・掲示板」は男女70歳以上、「さいたま市ごみ分別アプリ」は女性30～39歳（20.1%）、「家族や知人の話」は女性20～29歳（24.2%）で2割台を占めている。

居住区別でみると、「家庭ごみの出し方マニュアル」はすべての区で6割を超え、桜区（76.8%）を筆頭に7区が7割台となっている。「市報さいたま」は西区（45.0%）と見沼区（41.0%）が4割台、他の8区は3割台となっている。また、「自治会の回覧板・掲示板」は桜区（18.9%）、「市のホームページ」は浦和区（14.7%）が最も多く、前者は中央区（8.1%）、後者は岩槻区（3.8%）と比べ、約1割多くなっている。（表2-8-1）

表2-8-1 市が発信する情報の入手方法－性・年齢別、居住区別－

	n	「家庭ごみの出し方マニュアル」	「市報さいたま」	自治会の回覧板・掲示板	市のホームページ	さいたま市ごみ分別アプリ	家族や知人の話	「さいちゃんの環境通信」	その他の市のパンフレットやちらし	市のブログ、ツイッター、フェイスブック	さいたまコールセンター	その他	市の情報は入手していない	覚えていない／わからない	無回答
全 体	2,954	71.6	34.8	13.4	9.9	8.7	6.3	5.0	2.3	0.4	0.3	0.5	3.3	1.7	0.6
<性・年齢別>															
男 性	1,247	65.0	34.5	13.6	11.4	8.3	6.1	3.8	2.8	0.5	0.2	0.6	4.8	2.9	0.3
18～19歳	12	25.0	16.7	25.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
20～29歳	85	54.1	12.9	4.7	9.4	7.1	18.8	7.1	3.5	1.2	0.0	1.2	12.9	5.9	0.0
30～39歳	172	58.1	27.3	9.3	12.8	11.0	7.0	2.9	1.7	0.6	0.0	0.6	6.4	5.2	0.6
40～49歳	255	63.9	30.6	8.2	18.8	12.5	4.3	3.1	2.4	0.8	0.0	0.0	3.9	3.1	0.0
50～59歳	245	67.3	33.1	12.2	12.7	8.6	5.3	4.1	3.3	0.8	0.4	0.4	4.5	2.0	0.0
60～69歳	226	66.8	45.1	14.6	10.6	7.1	0.9	3.5	2.7	0.0	0.0	0.4	4.4	0.9	0.4
70歳以上	249	72.7	43.4	24.9	3.6	3.6	7.2	4.4	3.6	0.0	0.8	1.6	2.0	2.0	0.8
女 性	1,679	76.6	34.7	13.3	8.6	9.1	6.3	5.9	1.9	0.4	0.4	0.5	2.3	0.9	0.8
18～19歳	15	46.7	26.7	26.7	0.0	6.7	40.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0
20～29歳	132	53.0	16.7	9.1	13.6	12.1	24.2	4.5	0.8	1.5	1.5	0.8	8.3	4.5	0.8
30～39歳	244	68.4	26.2	5.7	16.0	20.1	7.4	4.1	1.6	0.0	0.0	0.4	5.3	1.2	0.0
40～49歳	309	82.2	29.1	10.4	10.4	9.1	5.5	5.8	1.3	0.3	0.3	0.6	1.6	0.6	0.6
50～59歳	337	81.9	31.5	9.5	11.0	10.4	3.0	9.2	1.2	0.6	0.0	0.6	1.2	0.3	0.3
60～69歳	284	81.7	45.4	19.7	3.2	3.5	3.9	6.3	1.8	0.4	1.1	0.0	1.1	0.4	0.4
70歳以上	352	78.1	47.2	20.7	2.8	3.4	3.4	4.3	4.0	0.0	0.3	0.6	0.3	0.0	2.0
<居住区別>															
西 区	200	72.0	45.0	17.5	6.0	7.5	5.5	5.5	1.5	0.5	0.0	0.0	1.5	2.0	1.0
北 区	360	76.4	32.5	10.6	10.3	11.1	5.6	6.7	1.7	0.8	0.0	0.3	3.1	1.7	0.6
大 宮 区	277	66.8	36.5	10.8	10.1	8.3	5.4	3.6	2.5	1.1	0.7	0.4	4.7	1.8	0.4
見 沼 区	351	72.9	41.0	13.1	8.0	7.1	7.1	5.4	2.8	0.0	0.3	0.0	3.1	1.1	0.6
中 央 区	235	66.8	36.6	8.1	11.1	7.2	5.1	3.8	4.3	0.0	0.9	1.3	4.7	1.7	3.0
桜 区	190	76.8	32.1	18.9	7.4	8.4	6.8	3.7	1.1	0.5	0.0	0.5	3.7	0.5	0.0
浦 和 区	382	75.1	31.7	11.8	14.7	12.0	5.5	6.3	2.9	0.3	0.5	0.8	2.9	1.8	0.0
南 区	444	70.3	31.8	14.9	12.6	7.2	7.7	5.6	1.8	0.5	0.5	0.9	2.9	2.0	0.2
緑 区	271	66.4	31.4	14.8	8.9	8.9	6.3	4.8	1.8	0.4	0.4	0.7	4.4	2.6	0.0
岩 槻 区	234	71.4	32.5	16.7	3.8	8.5	7.7	2.6	2.1	0.0	0.0	0.4	2.6	1.7	0.9

属 性 別

職業別でみると、「家庭ごみの出し方マニュアル」は学生（46.4%）を除いて5割を超え、専業主婦・専業主夫（81.8%）と勤め人（パート・アルバイトなど）（79.6%）は約8割を占めている。「市報さいたま」は家事手伝い・無職（44.4%）と専業主婦・専業主夫（40.0%）で4割台、自営業（34.2%）、勤め人（パート・アルバイトなど）（34.2%）、勤め人（正規職員・正社員）（30.9%）で3割台となっている。一方、学生は「家族や知人の話」（37.7%）が他の職業に比べ特に多い一方、「市報さいたま」（15.9%）は1割半ばとなっている。

インターネットの利用状況別でみると、インターネット利用状況にかかわらず「家庭ごみの出し方マニュアル」が6割を超え、最も多くなっている。「市報さいたま」や「自治会の回覧板・掲示板」はインターネットを利用しない人ほど利用率が高くなる傾向にあり、前者は全く利用しない人（47.8%）がよく利用する人（30.5%）を17.3ポイント上回っている。一方、「市のホームページ」「さいたま市ごみ分別アプリ」はよく利用する人で高くなっているが、いずれも1割台にとどまっている。（表2-8-2）

表2-8-2 市が発信する情報の入手方法—職業別、インターネットの利用状況別—

	n	「家庭ごみの出し方マニュアル」	「市報さいたま」	自治会の回覧板・掲示板	市のホームページ	さいたま市ごみ分別アプリ	家族や知人の話	「さいちゃんの環境通信」	その他の市のパンフレットやちらし	市のブログ、ツイッター、フェイスブック	さいたまコールセンター	その他	市の情報は入手していない	覚えていない／わからない	無回答	
全 体	2,954	71.6	34.8	13.4	9.9	8.7	6.3	5.0	2.3	0.4	0.3	0.5	3.3	1.7	0.6	
<職業別>																
自営業	184	65.8	34.2	13.6	8.7	6.0	4.3	6.0	2.2	0.5	0.0	0.0	5.4	1.1	1.1	
勤め人 (正規職員・正社員)	1,173	65.6	30.9	10.7	13.6	11.2	6.6	4.3	1.8	0.4	0.2	0.7	4.3	2.9	0.1	
勤め人 (パート・アルバイトなど)	544	79.6	34.2	12.7	8.3	8.8	5.1	5.0	1.5	0.7	0.6	0.4	1.7	0.4	0.6	
学生	69	46.4	15.9	15.9	2.9	4.3	37.7	5.8	1.4	1.4	1.4	1.4	8.7	7.2	1.4	
専業主婦・専業主夫	533	81.8	40.0	15.8	7.3	8.3	3.9	6.4	3.2	0.0	0.2	0.4	1.1	0.6	0.8	
家事手伝い・無職	396	73.7	44.4	19.4	5.6	4.5	5.3	4.8	3.5	0.0	0.8	0.8	3.3	1.0	1.3	
その他	41	58.5	19.5	9.8	14.6	7.3	9.8	4.9	2.4	2.4	0.0	0.0	9.8	2.4	2.4	
<インターネットの利用状況別>																
よく利用する	1,961	69.8	30.5	10.5	13.5	11.3	6.9	5.0	2.0	0.5	0.4	0.6	4.2	2.1	0.2	
たまに利用する	418	78.2	40.7	16.0	4.8	4.3	6.0	5.3	1.9	0.5	0.5	0.2	1.4	1.0	0.7	
あまり利用しない	178	74.7	39.3	20.2	1.1	2.8	4.5	2.8	3.9	0.0	0.6	0.0	2.8	0.6	1.1	
まったく利用しない	385	73.0	47.8	22.3	1.0	3.6	4.7	5.2	3.4	0.0	0.0	1.0	1.3	1.0	1.8	

(9) 市が発信する情報の入手方法×ごみの分別を行っている人

表2-9-1 市が発信する情報の入手方法×ごみの分別を行っている人

	全体	自分で 行っている	家族など、 自分以外の 人が行っている	その他	特に決ま っていない	わか らない	無 回 答
n	2,954	1,960	656	71	252	1	14
「家庭ごみの出し方マニュアル」	71.6	75.0	64.0	78.9	64.7	0.0	42.9
「市報さいたま」	34.8	35.5	34.8	36.6	29.4	0.0	21.4
自治会の回覧板・掲示板	13.4	12.9	13.4	22.5	14.7	0.0	28.6
市のホームページ	9.9	10.0	9.3	9.9	9.9	0.0	14.3
さいたま市ごみ分別アプリ	8.7	9.4	7.2	12.7	6.7	0.0	7.1
家族や知人の話	6.3	4.1	12.3	4.2	8.3	0.0	0.0
「さいちゃんの環境通信」	5.0	5.8	3.7	8.5	2.0	0.0	0.0
その他の市のパンフレットやちらし	2.3	2.5	1.8	2.8	1.2	0.0	7.1
市のブログ、ツイッター、フェイスブック	0.4	0.5	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0
さいたまコールセンター	0.3	0.4	0.2	1.4	0.0	0.0	7.1
その他	0.5	0.6	0.2	2.8	0.8	0.0	0.0
市の情報は入手していない	3.3	2.7	4.6	2.8	5.2	0.0	0.0
覚えていない／わからない	1.7	1.0	3.5	0.0	2.4	100.0	7.1
無回答	0.6	0.5	0.3	2.8	0.4	0.0	28.6

全体結果

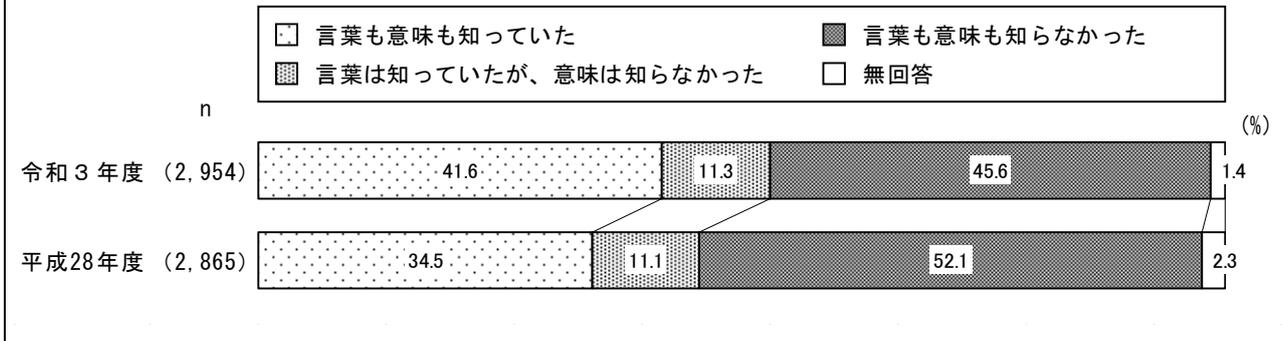
ごみの分別を「自分で行っている」人(75.0%)は、「家族など、自分以外の人が行っている」人(64.0%)や「特に決まっていない」人(64.7%)に比べ、「家庭ごみの出し方マニュアル」が1割以上多くなっている。一方、「市報さいたま」「自治会の回覧板・掲示板」「市のホームページ」は「自分で行っている」と「家族など、自分以外の人が行っている」人の間にほとんど差がなく、「家族や知人の話」は「家族など、自分以外の人が行っている」人(12.3%)で1割を超え、「自分で行っている」人(4.1%)を8.2ポイント上回っている。(表2-9-1)

3. 3Rの意識・プラスチックごみについて

(1) 3Rという言葉の認知度

問16. あなたは、「3R（スリーアール）」という言葉を知っていましたか。(○は1つ)

図3-1-1 3Rという言葉の認知度



全体結果

3Rという言葉の認知状況は、「言葉も意味も知っていた」が41.6%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が11.3%となっている。一方、「言葉も意味も知らなかった」は45.6%となっている。

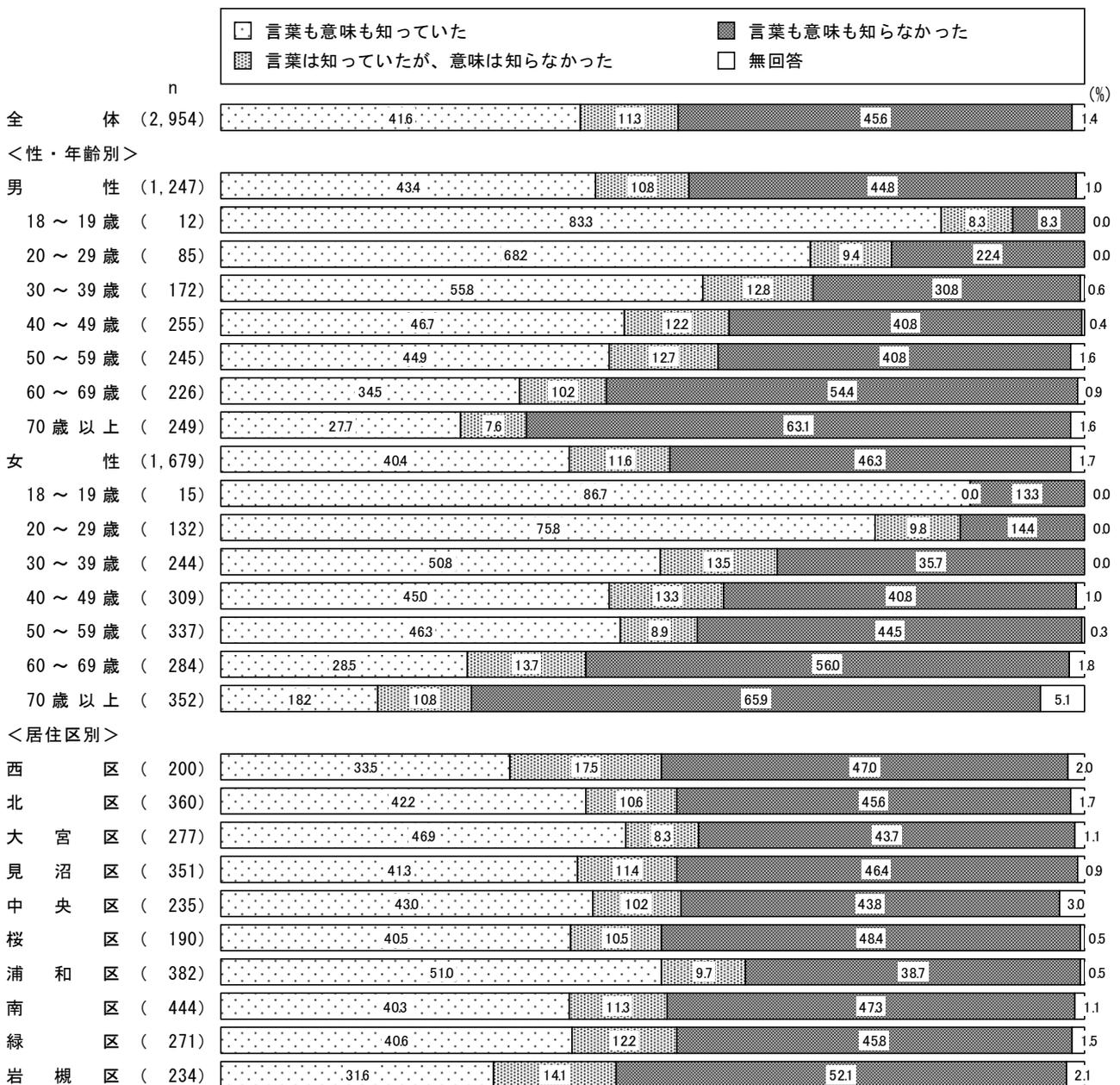
前回の調査と比較すると、「言葉も意味も知っていた」が平成28年度(34.5%)と比べ7.1ポイント増加する一方、「言葉も意味も知らなかった」は平成28年度(52.1%)と比べ6.5ポイント減少し、5割を下回った。(図3-1-1)

属性別

性・年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「言葉も意味も知っていた」がおおむね減少、「言葉も意味も知らなかった」が増加する傾向にあり、前者は39歳以下、後者は60歳以上で過半数を占めている。「言葉も意味も知っていた」は20～29歳で男性（68.2%）は7割弱、女性（75.8%）は7割半ばを占めるが、70歳以上では男性（27.7%）、女性（18.2%）とも4～5割以上減少している。

居住区別でみると、「言葉も意味も知っていた」は浦和区（51.0%）で5割を超える一方、岩槻区（31.6%）と西区（33.5%）は3割台となっている。また、「言葉も意味も知らなかった」は岩槻区（52.1%）が最も多く、浦和区（38.7%）と大宮区（43.7%）以外の8区で「言葉も意味も知っていた」を上回っている。（図3-1-2）

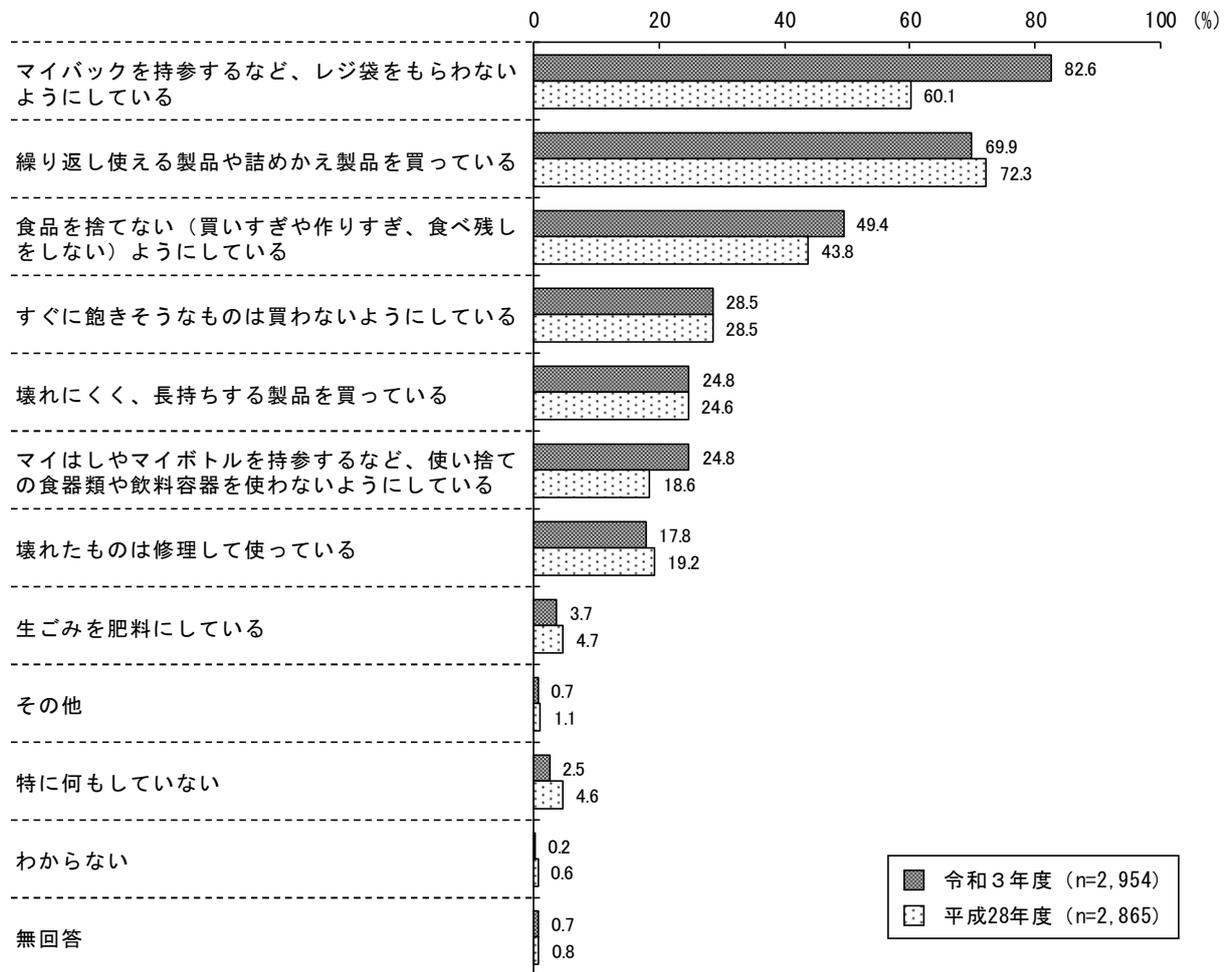
図3-1-2 3Rという言葉の認知度－性・年齢別、居住区別－



(2) ごみ減量（リデュース）への取組

問 17. ごみの減量（リデュース）のために、あなたがふだん行っていることは何ですか。
 (○はいくつでも)

図 3-2-1 ごみ減量（リデュース）への取組



全体結果

ごみの減量のために行っていることは、「マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」(82.6%) が最も多く、次いで「繰り返し使える製品や詰めかえ製品を買っている」(69.9%)、「食品を捨てない（買いすぎや作りすぎ、食べ残しをしない）ようにしている」(49.4%) などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」が平成28年度(60.1%) と比べ 22.5 ポイント、「マイはしやマイボトルを持参するなど、使い捨ての食器類や飲料容器を使わないようにしている」(24.8%) が平成28年度(18.6%) と比べ 6.2 ポイント、「食品を捨てない（買いすぎや作りすぎ、食べ残しをしない）ようにしている」が平成28年度(43.8%) と比べ 5.6 ポイント増加している。(図 3-2-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、女性は50～59歳（90.8%）を筆頭にすべての年齢で「マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」が8割を超え、「繰り返し使える製品や詰めかえ製品を買っている」も20～39歳で8割台、それ以外の年齢も6割以上となっている。一方、男性もほとんどの年齢で上位2項目が5割を超えているが、全体としていずれも女性に比べ1割以上少なくなっている。「食品を捨てない（買いすぎや作りすぎ、食べ残しをしない）ようにしている」「すぐに飽きそうなものは買わないようにしている」「マイはしやマイボトルを持参するなど、使い捨ての食器類や飲料容器を使わないようにしている」についても、女性が男性を7ポイント以上上回っている。

居住区別でみると、「マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」は浦和区（86.1%）を筆頭に、大宮区（79.1%）以外の9区で8割台となっている。「繰り返し使える製品や詰めかえ製品を買っている」は浦和区（73.0%）以下5区が7割台、岩槻区（65.8%）など5区が6割台となっている。また、「すぐに飽きそうなものは買わないようにしている」は浦和区（33.2%）と見沼区（30.5%）、「マイはしやマイボトルを持参するなど、使い捨ての食器類や飲料容器を使わないようにしている」は桜区（30.5%）で3割台となっている。（表3-2-1）

表3-2-1 ごみ減量（リデュース）への取組－性・年齢別、居住区別－

	n	マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている	繰り返し使える製品や詰めかえ製品を買っている	食品を捨てない（買いすぎや作りすぎ、食べ残しをしない）ようにしている	すぐに飽きそうなものは買わないようにしている	壊れにくく、長持ちする製品を買っている	マイはしやマイボトルを持参するなど、使い捨ての食器類や飲料容器を使わないようにしている	壊れたものは修理して使っている	生ごみを肥料にしている	その他	特に何もしていない	わからない	無回答
全 体	2,954	82.6	69.9	49.4	28.5	24.8	24.8	17.8	3.7	0.7	2.5	0.2	0.7
<性・年齢別>													
男 性	1,247	76.4	62.5	45.4	24.2	25.0	17.5	18.7	3.8	0.6	4.5	0.2	0.7
18～19歳	12	41.7	41.7	75.0	25.0	33.3	25.0	16.7	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0
20～29歳	85	63.5	56.5	51.8	24.7	28.2	9.4	14.1	1.2	0.0	8.2	0.0	0.0
30～39歳	172	74.4	64.5	41.3	22.7	30.8	22.1	12.8	1.7	0.0	5.8	0.0	0.0
40～49歳	255	71.8	70.2	42.4	31.4	28.2	17.6	14.9	5.1	0.4	2.7	0.0	0.0
50～59歳	245	79.6	69.0	44.5	25.7	29.0	18.0	17.1	2.0	0.4	3.3	0.4	1.2
60～69歳	226	82.7	63.3	43.4	17.3	17.3	18.6	22.6	5.3	0.9	3.1	0.4	0.9
70歳以上	249	79.9	49.0	50.2	22.5	19.7	15.3	26.5	5.2	1.2	6.4	0.4	1.6
女 性	1,679	87.3	75.7	52.6	31.9	24.7	30.5	17.3	3.6	0.8	0.9	0.1	0.7
18～19歳	15	80.0	66.7	60.0	46.7	26.7	26.7	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
20～29歳	132	83.3	85.6	48.5	34.1	33.3	29.5	17.4	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0
30～39歳	244	84.0	82.4	52.9	25.4	26.6	32.0	13.1	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0
40～49歳	309	85.4	78.0	52.8	36.9	29.1	29.4	15.5	2.3	0.3	0.3	0.0	0.6
50～59歳	337	90.8	79.5	50.4	30.9	22.6	37.4	19.3	2.7	1.8	0.6	0.0	0.0
60～69歳	284	88.7	70.1	51.4	32.7	23.2	30.3	17.6	5.3	0.7	2.1	0.4	1.4
70歳以上	352	88.4	67.3	56.8	30.7	19.6	24.4	19.9	7.1	0.6	1.1	0.0	1.4
<居住区別>													
西 区	200	85.5	68.0	42.5	25.0	22.5	26.0	18.0	6.5	0.0	2.5	0.0	1.0
北 区	360	81.4	71.7	51.4	25.0	21.4	21.7	16.9	1.9	0.8	1.1	0.0	0.8
大 宮 区	277	79.1	69.7	52.0	29.6	27.4	22.4	16.2	3.2	0.7	2.9	0.0	0.0
見 沼 区	351	84.6	66.1	50.1	30.5	25.6	24.5	21.4	4.6	0.9	2.8	0.3	0.3
中 央 区	235	82.6	73.2	49.4	29.4	21.7	28.1	14.5	2.6	0.4	1.3	0.4	2.1
桜 区	190	80.5	71.6	51.1	28.9	27.9	30.5	17.9	2.6	0.0	2.6	0.5	0.5
浦 和 区	382	86.1	73.0	52.4	33.2	27.7	24.9	17.5	2.1	1.6	2.1	0.0	0.3
南 区	444	81.8	72.1	46.6	29.1	23.0	24.3	18.9	2.9	0.2	2.3	0.0	0.9
緑 区	271	81.9	67.2	46.9	26.2	27.7	24.4	15.9	4.4	0.7	4.4	0.0	0.7
岩 槻 区	234	81.2	65.8	50.4	26.9	24.4	26.1	20.1	8.1	0.9	3.4	0.9	0.4

(3) ごみ減量（リデュース）への取組×家庭ごみの有料化について

図3-3-1 ごみ減量（リデュース）への取組×家庭ごみの有料化について

	全体	導入したほうがよい	導入することやむを得ない	導入しないほうがよい	わからない	無回答
n	2,954	105	922	1,603	270	54
マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている	82.6	75.2	86.4	82.0	75.6	83.3
繰り返し使える製品や詰めかえ製品を買っている	69.9	70.5	72.7	69.0	67.8	59.3
食品を捨てない（買いすぎや作りすぎ、食べ残しをしない）ようにしている	49.4	55.2	51.4	48.7	46.3	38.9
すぐに飽きそうなものは買わないようにしている	28.5	29.5	32.3	26.8	24.8	33.3
壊れにくく、長持ちする製品を買っている	24.8	27.6	25.7	24.6	22.6	22.2
マイはしやマイボトルを持参するなど、使い捨ての食器類や飲料容器を使わないようにしている	24.8	22.9	26.6	24.4	21.9	25.9
壊れたものは修理して使っている	17.8	19.0	16.3	19.4	14.8	11.1
生ごみを肥料にしている	3.7	9.5	4.1	3.4	1.5	3.7
その他	0.7	3.8	0.4	0.5	1.5	0.0
特に何もしていない	2.5	0.0	1.8	2.7	4.1	1.9
わからない	0.2	0.0	0.0	0.2	0.7	0.0
無回答	0.7	1.9	1.0	0.2	1.1	9.3

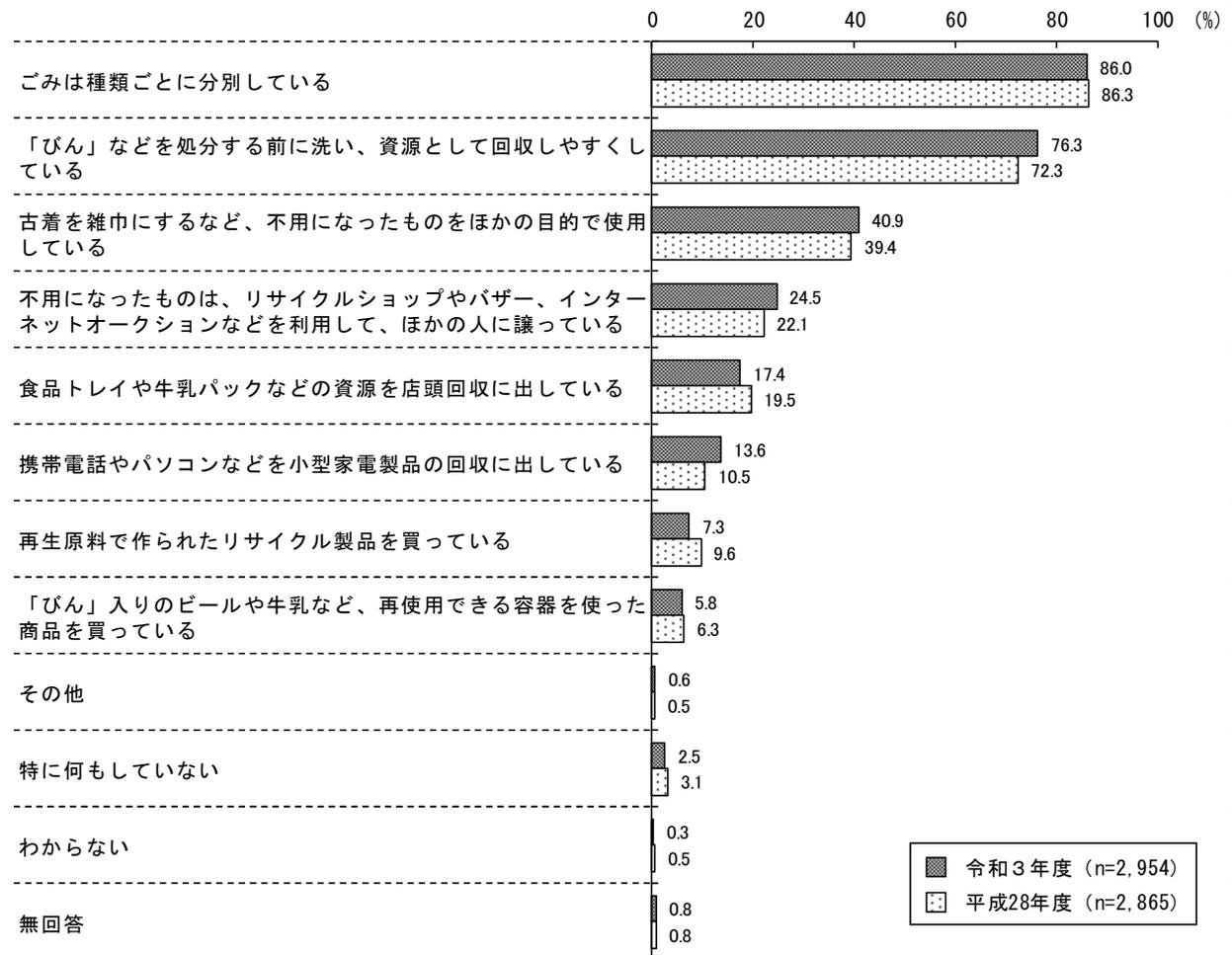
全体結果

ごみ減量（リデュース）への取組と家庭ごみの有料化についてみると、「導入したほうがよい」と考える人は「食品を捨てない（買いすぎや作りすぎ、食べ残しをしない）ようにしている」（55.2%）と「生ごみを肥料にしている」（9.5%）が全体を5ポイント以上上回り、8項目中5項目で「導入しないほうがよい」と考える人を上回っている。また、「導入することやむを得ない」と考える人は「壊れたものは修理して使っている」（16.3%）以外の7項目で「導入しないほうがよい」と考える人を上回っている。おおむね取組に積極的な人ほど有料化に理解を示す傾向にあるが、「マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている」は「導入したほうがよい」と考える人（75.2%）が「導入しないほうがよい」と考える人（82.0%）を6.8ポイント下回り、一部に例外もみられる。（表3-3-1）

(4) 再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）への取組

問 18. 製品などの再使用（リユース）やごみの再生利用（リサイクル）のために、あなたが、ふだん行っていることは何ですか。（〇はいくつでも）

図 3-4-1 再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）への取組



全体結果

製品などの再使用やごみの再生利用のため、ふだん行っていることは、「ごみは種類ごとに分別している」(86.0%)が最も多く、次いで「「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている」(76.3%)、「古着を雑巾にするなど、不用になったものをほかの目的で使用している」(40.9%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図 3-4-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、8項目中7項目で女性が男性を上回っており、「古着を雑巾にするなど、不用になったものをほかの目的で使用している」は12.9ポイント、「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている」は12.3ポイント多くなっている。「ごみは種類ごとに分別している」は男女ともすべての年齢で7割以上、「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている」は男性20～29歳（42.4%）を除き5割以上、「古着を雑巾にするなど、不用になったものをほかの目的で使用している」は女性40～49歳（50.2%）で約5割を占めている。また、「不用になったものは、リサイクルショップやバザー、インターネットオークションなどを利用して、ほかの人に譲っている」は女性20～49歳で全体を1割以上上回っている。

居住区別でみると、すべての区で「ごみは種類ごとに分別している」が8割台、「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている」が7割以上を占めている。（表3-4-1）

表3-4-1 再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）への取組—性・年齢別、居住区別—

	n	ごみは種類ごとに分別している	「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている	古着を雑巾にするなど、不用になったものをほかの目的で使用している	不用になったものは、リサイクルショップやバザー、インターネットオークションなどを利用して、ほかの人に譲っている	食品トレイや牛乳パックなどの資源を店頭回収に出している	携帯電話やパソコンなどを小型家電製品の回収に出している	再生原料で作られたリサイクル製品を買っている	「びん」入りのビールや牛乳など、再使用できる容器を使った商品を買っている	その他	特に何もしていない	わからない	無回答
全 体	2,954	86.0	76.3	40.9	24.5	17.4	13.6	7.3	5.8	0.6	2.5	0.3	0.8
<性・年齢別>													
男 性	1,247	84.2	69.4	33.4	20.0	15.4	13.9	5.9	4.9	0.8	3.9	0.5	1.0
18～19歳	12	75.0	66.7	16.7	16.7	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0
20～29歳	85	81.2	42.4	29.4	22.4	4.7	9.4	7.1	2.4	0.0	9.4	0.0	0.0
30～39歳	172	75.6	59.9	27.9	26.7	12.8	9.9	4.1	3.5	0.6	6.4	1.2	0.0
40～49歳	255	89.0	68.6	39.2	24.3	12.5	16.5	3.9	4.3	0.8	2.7	0.4	0.4
50～59歳	245	83.3	73.9	29.8	22.9	18.4	17.1	6.9	4.1	0.8	3.7	0.4	2.0
60～69歳	226	84.5	79.2	34.1	18.6	16.8	13.7	5.3	6.2	0.9	2.7	0.0	0.9
70歳以上	249	87.1	72.7	35.7	8.8	19.7	12.9	8.0	6.8	1.2	2.4	0.8	2.0
女 性	1,679	87.6	81.7	46.3	28.0	19.1	13.3	8.5	6.6	0.4	1.4	0.1	0.5
18～19歳	15	93.3	80.0	53.3	26.7	13.3	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	132	77.3	68.2	42.4	41.7	13.6	10.6	9.8	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0
30～39歳	244	86.5	79.5	41.0	48.4	13.9	11.5	5.3	3.7	0.0	1.2	0.0	0.0
40～49歳	309	86.4	78.6	50.2	37.9	17.8	17.5	5.2	5.8	0.0	1.3	0.3	0.3
50～59歳	337	88.4	82.5	47.5	29.7	19.9	15.1	9.8	5.0	0.3	1.2	0.0	0.3
60～69歳	284	91.5	87.3	46.5	12.7	24.3	10.9	12.0	7.7	1.1	1.8	0.0	1.1
70歳以上	352	89.2	85.8	46.3	11.1	21.0	12.2	8.8	9.9	0.9	0.9	0.3	0.9
<居住区別>													
西 区	200	86.0	73.5	45.5	22.0	22.0	15.5	7.5	6.5	0.5	3.0	0.0	0.5
北 区	360	85.6	76.4	38.6	26.1	19.7	12.2	8.1	5.6	0.8	2.5	0.3	1.4
大 宮 区	277	88.8	74.0	41.2	24.9	13.4	14.8	8.3	5.4	0.7	2.5	0.0	0.4
見 沼 区	351	87.2	75.5	43.3	23.6	17.1	12.3	6.8	6.8	0.6	2.6	0.0	0.0
中 央 区	235	85.1	76.6	37.9	23.0	20.0	14.5	7.7	8.1	0.9	2.6	0.4	1.7
桜 区	190	84.7	78.4	41.6	22.6	23.2	14.7	8.4	6.8	0.5	3.2	0.0	0.0
浦 和 区	382	85.9	81.2	44.8	27.2	18.1	15.4	8.4	5.8	0.8	2.4	0.0	0.3
南 区	444	85.8	75.9	37.4	25.9	14.2	11.9	6.5	5.4	0.0	2.0	0.5	0.7
緑 区	271	86.0	73.1	43.2	23.2	15.1	14.8	4.8	4.4	0.7	2.6	0.4	1.5
岩 槻 区	234	84.6	77.8	36.8	23.1	15.4	12.0	7.3	4.3	0.4	3.0	1.3	1.3

(5) 再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）への取組×家庭ごみの有料化について

表3-5-1 再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）への取組
×家庭ごみの有料化について

	全体	導入したほうがよい	導入することやむを得ない	導入しないほうがよい	わからない	無回答
n	2,954	105	922	1,603	270	54
ごみは種類ごとに分別している	86.0	90.5	89.5	85.0	80.0	75.9
「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている	76.3	78.1	83.3	72.7	71.5	81.5
古着を雑巾にするなど、不用になったものをほかの目的で使用している	40.9	55.2	43.4	40.1	33.3	29.6
不用になったものは、リサイクルショップやバザー、インターネットオークションなどを利用して、ほかの人に譲っている	24.5	24.8	26.2	25.2	17.0	11.1
食品トレイや牛乳パックなどの資源を店頭回収に出している	17.4	21.0	21.1	15.5	15.2	14.8
携帯電話やパソコンなどを小型家電製品の回収に出している	13.6	22.9	14.0	13.8	8.9	5.6
再生原料で作られたリサイクル製品を買っている	7.3	16.2	8.8	6.2	5.9	3.7
「びん」入りのビールや牛乳など、再使用できる容器を使った商品を買っている	5.8	6.7	5.7	5.2	8.1	13.0
その他	0.6	1.0	0.1	0.7	1.1	0.0
特に何もしていない	2.5	0.0	1.4	2.8	6.3	0.0
わからない	0.3	1.0	0.0	0.2	1.1	0.0
無回答	0.8	1.9	0.9	0.4	1.1	7.4

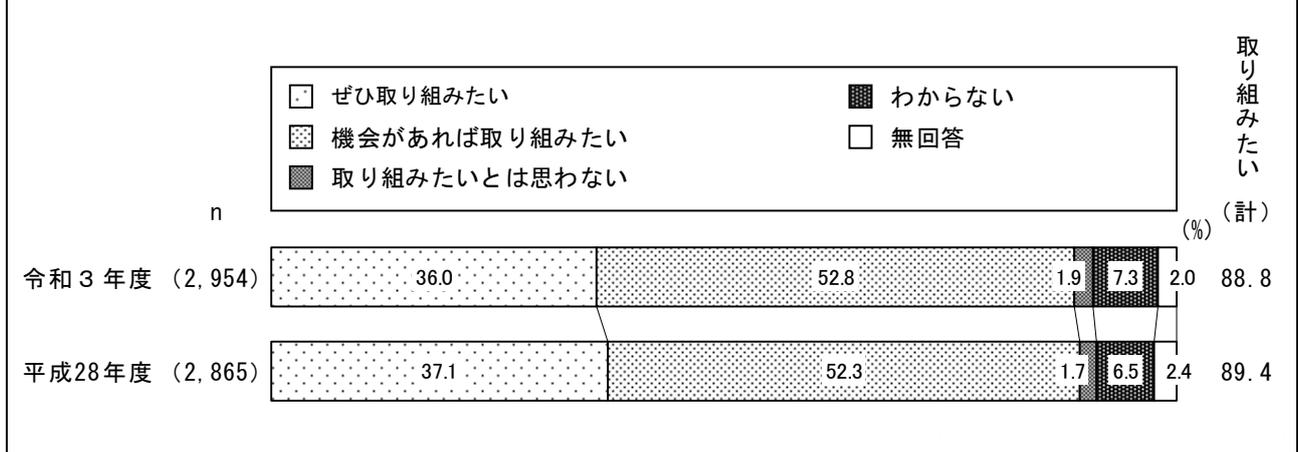
全体結果

再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）への取組と家庭ごみの有料化についてみると、「導入したほうがよい」と考える人は「古着を雑巾にするなど、不用になったものをほかの目的で使用している」（55.2%）、「携帯電話やパソコンなどを小型家電製品の回収に出している」（22.9%）、「再生原料で作られたリサイクル製品を買っている」（16.2%）が全体を8ポイント以上上回り、8項目中7項目で「導入しないほうがよい」と考える人を上回っている。また、「導入することやむを得ない」と考える人は8項目すべてが「導入しないほうがよい」と考える人を上回り、「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている」（83.3%）は10.6ポイント多くなっている。（表3-5-1）

(6) 3Rへの取組意向

問 19. あなたは、ごみの減量（リデュース）や製品などの再使用（リユース）、ごみの再生利用（リサイクル）に今後取り組みたいと思いますか。（○は1つ）

図 3-6-1 3Rへの取組意向



全体結果

今後の3Rへの取組意向は、「ぜひ取り組みたい」が36.0%、「機会があれば取り組みたい」が52.8%、両者を合わせた『取り組みたい（計）』は88.8%となっている。一方、「取り組みたいとは思わない」は1.9%となっている。

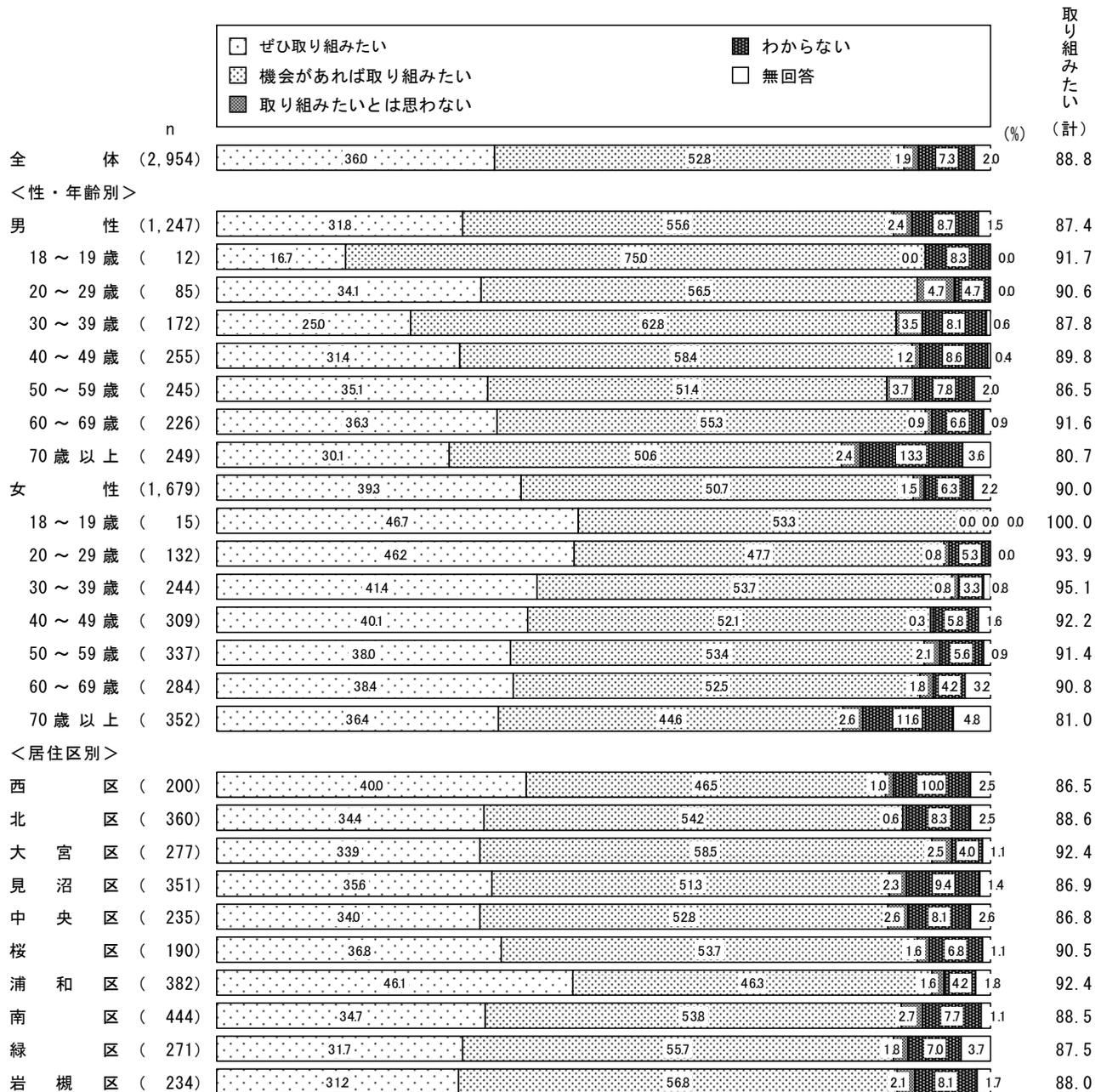
前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。（図3-6-1）

属性別

性・年齢別でみると、「ぜひ取り組みたい」は女性(39.3%)が男性(31.8%)を7.5ポイント上回り、特に女性49歳以下で4割台となっている。また、女性20～29歳(47.7%)と70歳以上(44.6%)を除き「機会があれば取り組みたい」が過半数を占め、『取り組みたい(計)』は男女ともすべての年齢で8割以上を占めている。

居住区別でみると、浦和区と西区は「ぜひ取り組みたい」と「機会があれば取り組みたい」が4割台となっている。それ以外の8区は「ぜひ取り組みたい」が3割台、「機会があれば取り組みたい」が5割台となっており、『取り組みたい(計)』は大宮区(92.4%)、浦和区(92.4%)、桜区(90.5%)で9割台、それ以外の7区で8割台となっている。(図3-6-2)

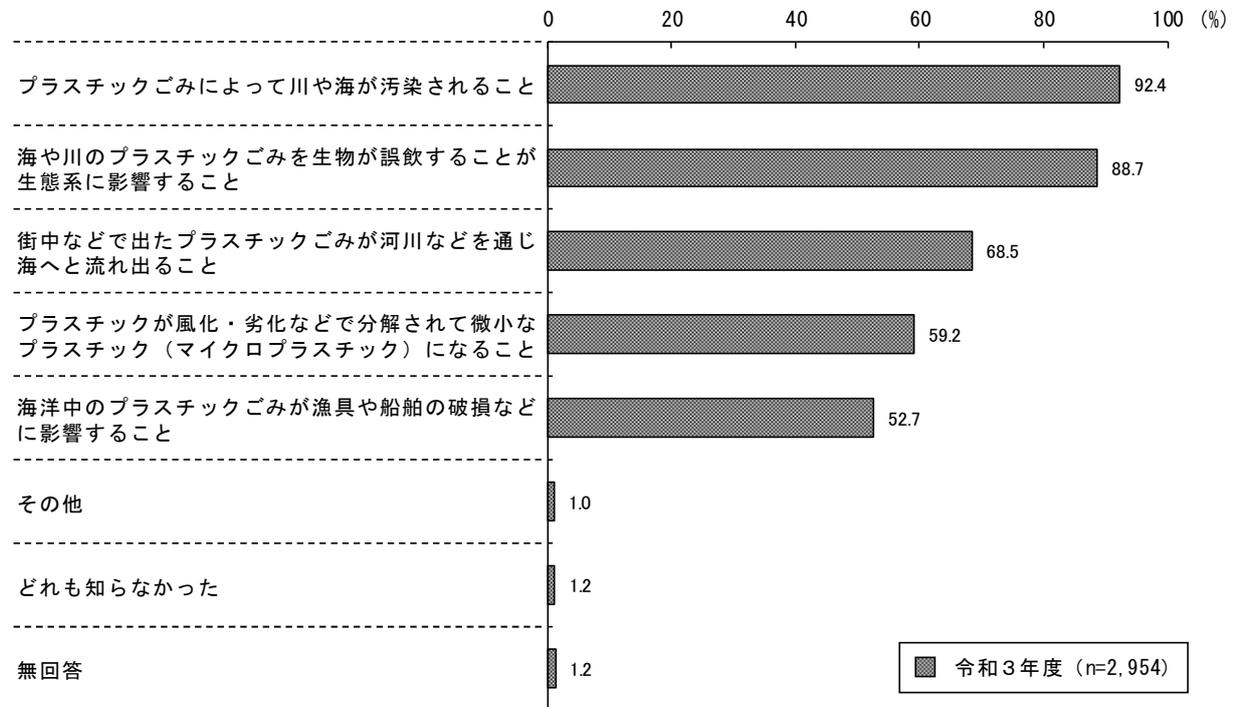
図3-6-2 3Rへの取組意向—性・年齢別、居住区別—



(7) プラスチックごみに関する問題の認知度

問 20. あなたは、以下のプラスチックごみに関する問題について、知っていたことはありますか。
(○はいくつでも)

図 3-7-1 プラスチックごみに関する問題の認知度



全体結果

プラスチックごみに関する問題について知っていることは、「プラスチックごみによって川や海が汚染されること」(92.4%) が最も多く、次いで「海や川のプラスチックごみを生物が誤飲することが生態系に影響すること」(88.7%)、「街中などで出たプラスチックごみが河川などを通じ海へと流れ出ること」(68.5%) などの順となっている。5項目すべてが5割を超え、上位2項目は9割前後を占めている。

(図 3-7-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、「プラスチックが風化・劣化などで分解されて微小なプラスチック（マイクロプラスチック）になること」は男性（62.6%）が女性（56.8%）を5.8ポイント上回っている。また、「プラスチックごみによって川や海が汚染されること」「海や川のプラスチックごみを生物が誤飲することが生態系に影響すること」は男女ともすべての年齢で8割以上を占めている。一方、「プラスチックが風化・劣化などで分解されて微小なプラスチック（マイクロプラスチック）になること」は男性60～69歳（70.8%）、「海洋中のプラスチックごみが漁具や船舶の破損などに影響すること」は男性70歳以上（67.1%）と女性70歳以上（64.2%）で全体を1割以上上回っている。

居住区別でみると、すべての区で「プラスチックごみによって川や海が汚染されること」「海や川のプラスチックごみを生物が誤飲することが生態系に影響すること」が8割以上を占めている。また、大宮区は「街中などで出たプラスチックごみが河川などを通じ海へと流れ出すこと」（74.0%）と「プラスチックが風化・劣化などで分解されて微小なプラスチック（マイクロプラスチック）になること」（64.6%）が全体を5ポイント以上上回っている。（表3-7-1）

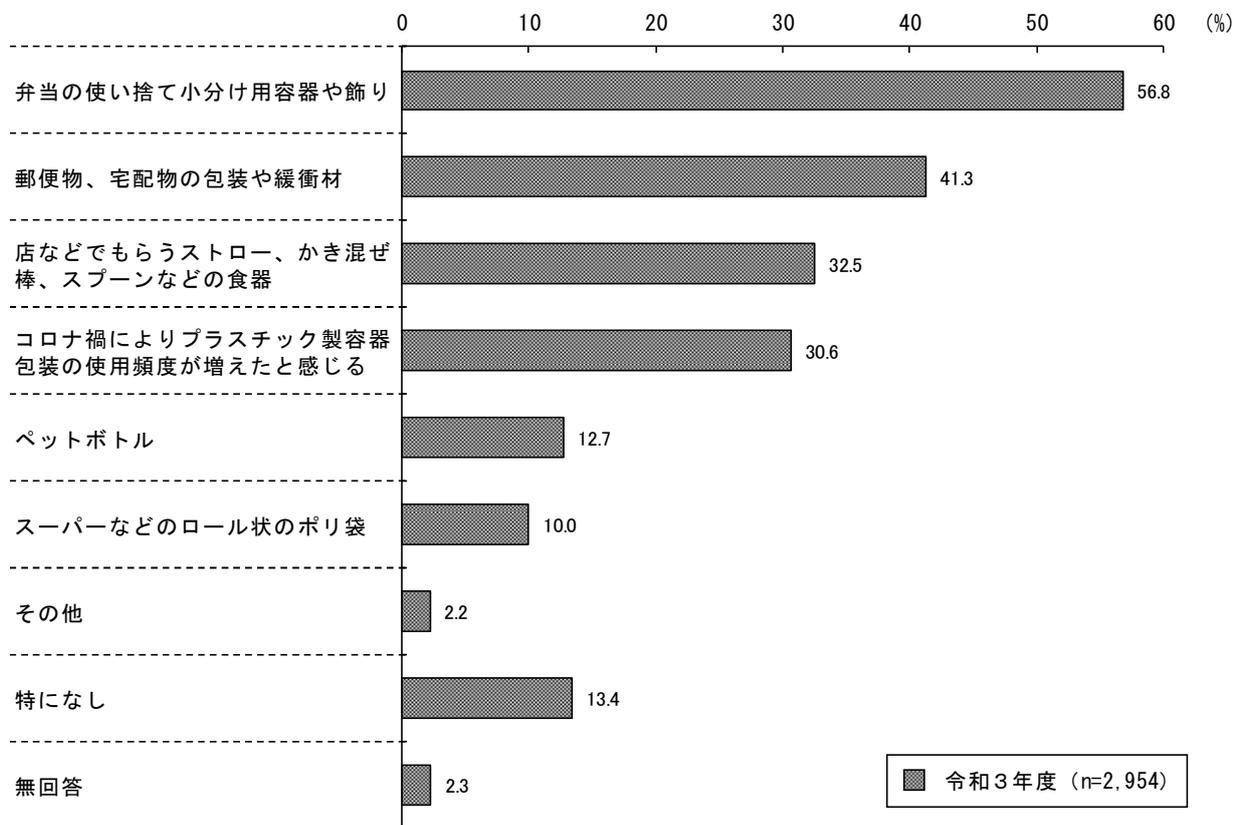
表3-7-1 プラスチックごみに関する問題の認知度—性・年齢別、居住区別—

		(%)							
	n	川や海が汚染されること	生態系に影響すること	街中などで出たプラスチックごみ	プラスチックが風化・劣化などで分解されること	海洋中のプラスチックが破損すること	その他	どれも知らなかった	無回答
全 体	2,954	92.4	88.7	68.5	59.2	52.7	1.0	1.2	1.2
<性・年齢別>									
男 性	1,247	91.4	88.1	69.7	62.6	53.6	1.1	1.7	1.2
18～19歳	12	100.0	83.3	75.0	58.3	50.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	85	89.4	85.9	63.5	45.9	38.8	1.2	2.4	0.0
30～39歳	172	91.3	84.9	68.0	50.6	45.3	1.2	2.3	0.0
40～49歳	255	87.5	85.5	65.1	60.8	46.7	0.8	2.7	0.4
50～59歳	245	89.4	86.9	68.2	65.7	52.2	1.6	1.6	2.4
60～69歳	226	95.1	90.7	75.2	70.8	60.2	1.3	0.0	0.9
70歳以上	249	94.4	92.4	73.5	68.3	67.1	0.8	1.6	2.4
女 性	1,679	93.2	89.5	67.9	56.8	52.2	1.0	0.7	1.1
18～19歳	15	100.0	93.3	73.3	53.3	60.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	132	94.7	85.6	72.7	45.5	41.7	0.8	0.8	0.0
30～39歳	244	91.4	90.2	61.9	47.5	39.8	2.0	0.8	0.0
40～49歳	309	93.5	89.6	62.8	54.7	43.7	1.3	1.6	0.3
50～59歳	337	92.0	89.0	66.8	59.1	54.6	0.6	0.6	0.6
60～69歳	284	94.0	91.5	67.6	64.4	58.8	0.0	0.0	2.1
70歳以上	352	94.0	88.9	75.9	60.8	64.2	1.1	0.6	2.6
<居住区別>									
西 区	200	91.0	88.0	69.0	61.0	53.5	1.5	1.0	3.0
北 区	360	91.9	89.4	69.2	59.7	49.2	0.8	1.4	1.7
大 宮 区	277	94.2	91.7	74.0	64.6	55.6	0.7	0.4	0.4
見 沼 区	351	91.7	87.5	64.7	59.5	48.1	1.4	2.8	0.9
中 央 区	235	89.4	87.2	66.0	57.9	57.0	0.9	1.3	2.1
桜 区	190	96.3	90.0	68.4	53.2	57.4	0.5	1.1	0.0
浦 和 区	382	94.5	92.7	72.0	63.1	56.3	1.3	0.3	0.3
南 区	444	92.6	86.7	67.3	56.5	50.2	0.7	0.7	1.1
緑 区	271	92.3	87.5	70.5	61.3	54.2	1.8	0.7	1.1
岩 槻 区	234	89.7	86.3	64.1	53.4	50.4	0.4	2.1	1.7

(8) 過剰包装と感ずるもの

問 21. あなたは、以下のプラスチック製容器包装や製品について過剰だと感ずるものがありますか。
(○はいくつでも)

図 3-8-1 過剰包装と感ずるもの



全体結果

プラスチック製容器包装や製品について過剰だと感ずるものは、「弁当の使い捨て小分け用容器や飾り」(56.8%) が最も多く、次いで「郵便物、宅配物の包装や緩衝材」(41.3%)、「店などでもらうストロー、かき混ぜ棒、スプーンなどの食器」(32.5%) などの順となっている。(図 3-8-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、「弁当の使い捨て小分け用容器や飾り」「郵便物、宅配物の包装や緩衝材」「コロナ禍によりプラスチック製容器包装の使用頻度が増えたと感じる」は女性が男性を5ポイント以上上回っている。「弁当の使い捨て小分け用容器や飾り」は男性30～39歳と50歳以上、女性30歳以上で5割を超えている。「店などでもらうストロー、かき混ぜ棒、スプーンなどの食器」は男女ともおおむね年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、男性70歳以上と女性60歳以上は4割台となっている。また、「コロナ禍によりプラスチック製容器包装の使用頻度が増えたと感じる」は女性20～29歳（38.6%）で全体を8.0ポイント上回っている。

居住区別でみると、「弁当の使い捨て小分け用容器や飾り」はすべての区で5割を超え、最も多くなっている。「郵便物、宅配物の包装や緩衝材」は浦和区（46.3%）を筆頭に5区が4割台、西区（37.0%）など5区が3割台となっている。また、「コロナ禍によりプラスチック製容器包装の使用頻度が増えたと感じる」は西区（35.0%）など5区で3割を超える一方、中央区（23.8%）は全体を6.8ポイント下回っている。（表3-8-1）

表3-8-1 過剰包装と感じるもの—性・年齢別、居住区別—

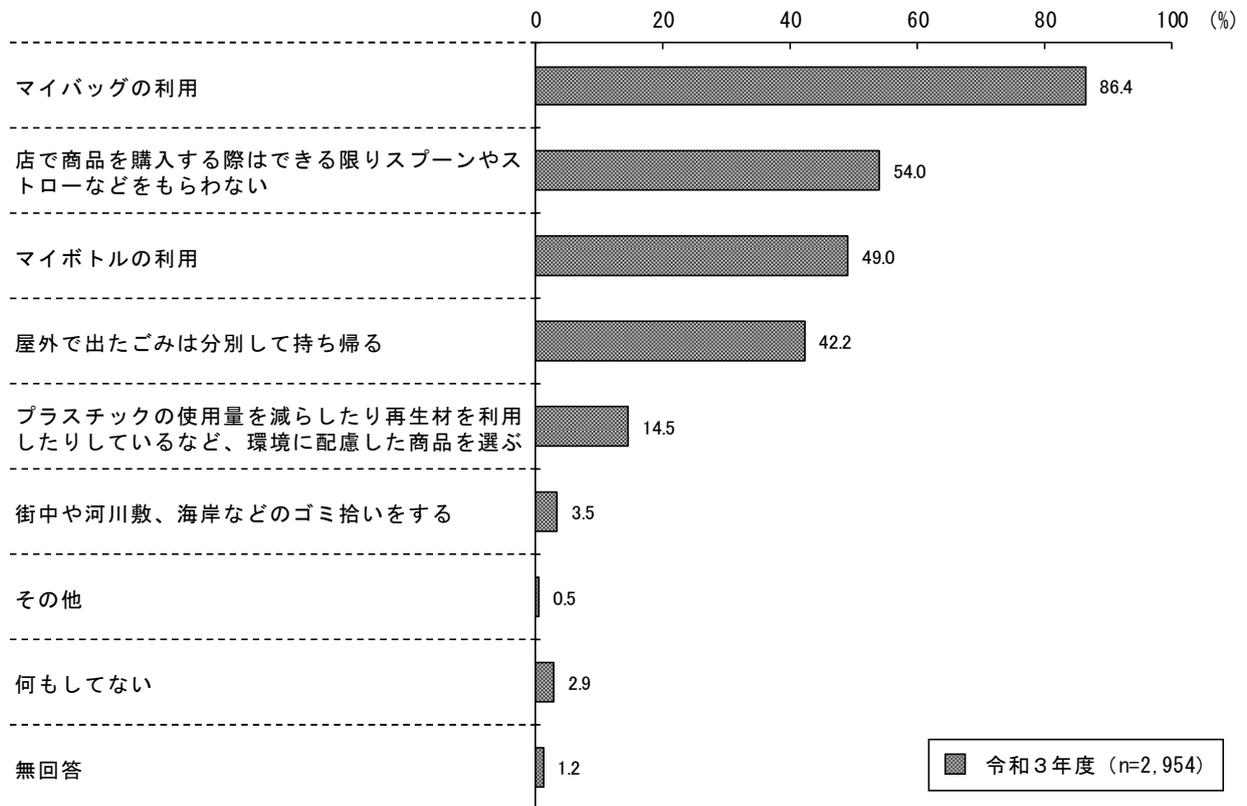
	n	器 弁 や 当 飾 り の 使 い 捨 て 小 分 け 用 容 器	衝 郵 材 便 物、 宅 配 物 の 包 装 や 緩 衝 材	の か 店 食 き 等 器 混 で ぜ も ら う ス ト ロ ー な ど	増 ク コ え 製 ロ た 容 ナ と 器 禍 感 包 によ じ る の り プ ラ ス チ ッ ク 製 容 器 包 装 の 使 用 頻 度 が ツ	ペ ッ ト ト ボ ト ル	ポ ス ー パ ー な ど の ロ ー ル 状 の	そ の 他	特 に な し	無 回 答
全 体	2,954	56.8	41.3	32.5	30.6	12.7	10.0	2.2	13.4	2.3
<性・年齢別>										
男 性	1,247	53.6	38.2	32.3	26.9	13.4	12.2	1.8	16.1	2.1
18～19歳	12	25.0	41.7	8.3	33.3	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0
20～29歳	85	42.4	32.9	22.4	27.1	9.4	7.1	0.0	27.1	0.0
30～39歳	172	57.0	42.4	30.2	20.9	9.9	14.0	1.2	16.3	0.0
40～49歳	255	47.8	39.6	24.3	27.1	12.2	12.2	3.1	19.6	1.6
50～59歳	245	56.7	30.6	29.4	30.2	10.6	7.8	1.2	14.7	2.9
60～69歳	226	56.2	41.2	39.4	28.3	16.8	15.9	1.8	12.8	2.2
70歳以上	249	57.0	40.6	43.4	26.1	18.9	14.1	2.0	12.4	4.0
女 性	1,679	59.6	44.0	33.0	33.5	12.3	8.3	2.6	11.0	2.3
18～19歳	15	53.3	33.3	20.0	26.7	0.0	0.0	0.0	26.7	0.0
20～29歳	132	48.5	43.9	21.2	38.6	12.1	9.8	4.5	13.6	1.5
30～39歳	244	61.9	49.6	25.0	32.4	7.4	3.7	2.9	10.2	0.0
40～49歳	309	54.7	43.7	24.9	34.6	13.3	9.4	3.2	13.3	0.0
50～59歳	337	60.2	44.2	30.0	28.5	8.3	5.3	3.6	13.1	1.8
60～69歳	284	64.8	45.8	41.5	35.6	16.5	8.5	1.1	9.5	2.5
70歳以上	352	61.4	39.5	47.2	34.7	16.2	13.1	1.4	7.4	6.5
<居住区別>										
西 区	200	61.0	37.0	35.0	35.0	14.0	9.5	1.0	12.5	3.5
北 区	360	61.4	39.4	33.6	28.9	12.8	10.3	2.5	12.8	1.9
大 宮 区	277	59.2	45.8	35.7	34.7	13.4	11.2	1.4	11.9	2.2
見 沼 区	351	56.7	39.3	30.5	28.8	15.1	8.0	2.0	13.1	2.3
中 央 区	235	55.7	40.9	30.2	23.8	10.6	8.5	2.1	14.0	3.0
桜 区	190	54.7	38.9	31.1	33.2	11.6	12.1	1.1	12.6	1.6
浦 和 区	382	55.8	46.3	35.3	32.5	10.7	11.5	3.9	13.1	1.0
南 区	444	52.7	39.0	31.3	29.3	11.9	10.4	2.5	15.8	2.5
緑 区	271	57.2	42.1	29.2	34.3	14.0	7.7	1.8	12.2	2.6
岩 槻 区	234	56.0	43.2	32.9	28.2	13.2	10.7	2.1	13.7	2.6

(9) プラスチックごみ問題解決のための取組

問 22. プラスチックごみ問題解決のため、あなたはどのようなことを行っていますか。

(○はいくつでも)

図 3-9-1 プラスチックごみ問題解決のための取組



全体結果

プラスチックごみ問題解決のため、取り組んでいることは、「マイバッグの利用」(86.4%)が突出して多く、次いで「店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない」(54.0%)、「マイボトルの利用」(49.0%)、「屋外で出たごみは分別して持ち帰る」(42.2%)などの順となっている。上位2項目が5割を超えている。(図3-9-1)

属 性 別

性・年齢別でみると、上位4項目はいずれも女性が男性を上回り、「マイボトルの利用」は21.8ポイント、「マイバッグの利用」「店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない」は1割以上多くなっている。「マイバッグの利用」「店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない」は男女ともおおむね年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、前者は男性50歳以上で8割台、女性30～69歳で9割台となっている。また、「マイボトルの利用」は女性がすべての年齢で過半数を占めるのに対し、男性は50～59歳(39.6%)を筆頭に、いずれも4割未満となっている。

居住区別でみると、すべての区で「マイバッグの利用」は8割以上、「店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない」は5割台を占めている。「マイボトルの利用」は桜区(55.3%)を筆頭に5区で5割台、大宮区(40.1%)など5区で4割台となっており、桜区と大宮区の間には15.2ポイントの差が生じている。(表3-9-1)

表3-9-1 プラスチックごみ問題解決のための取組—性・年齢別、居住区別—

	n	マイバッグの利用	店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない	マイボトルの利用	屋外で出たごみは分別して持ち帰る	プラスチックの再生材を使用した商品を選ぶ	街中や河川敷、海岸などのゴミ拾いをする	その他	何もしてない	無回答
全 体	2,954	86.4	54.0	49.0	42.2	14.5	3.5	0.5	2.9	1.2
<性・年齢別>										
男 性	1,247	80.3	47.2	36.5	38.0	12.4	4.3	1.0	5.1	1.6
18～19歳	12	58.3	16.7	41.7	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	85	71.8	27.1	29.4	41.2	9.4	2.4	0.0	11.8	0.0
30～39歳	172	75.0	39.5	34.3	30.2	7.0	2.3	0.0	9.3	1.2
40～49歳	255	77.6	46.7	37.3	38.0	10.2	3.9	1.2	5.5	0.8
50～59歳	245	84.9	49.8	39.6	38.4	12.7	2.9	1.2	3.7	1.6
60～69歳	226	86.7	56.6	39.4	38.9	16.4	5.3	0.4	3.1	1.3
70歳以上	249	80.3	51.0	34.1	42.2	15.3	7.6	1.6	2.8	3.6
女 性	1,679	91.1	59.4	58.3	45.5	16.2	2.9	0.2	1.3	0.7
18～19歳	15	73.3	40.0	53.3	40.0	13.3	0.0	0.0	13.3	0.0
20～29歳	132	87.9	37.1	50.8	36.4	13.6	3.0	0.0	2.3	0.0
30～39歳	244	90.2	46.7	57.8	43.0	12.3	0.8	0.8	0.4	0.0
40～49歳	309	90.9	60.8	59.9	43.4	13.6	3.2	0.6	0.6	0.3
50～59歳	337	95.0	60.2	59.1	49.6	15.1	3.0	0.0	1.8	0.0
60～69歳	284	93.3	68.3	60.9	47.2	19.0	3.2	0.0	0.7	0.7
70歳以上	352	88.6	68.2	57.7	47.4	21.0	3.7	0.0	1.7	2.3
<居住区別>										
西 区	200	87.0	55.5	51.0	45.5	16.0	2.5	0.0	2.5	1.5
北 区	360	85.6	51.4	49.4	38.9	12.8	2.5	0.8	2.8	1.1
大 宮 区	277	83.0	53.4	40.1	43.0	15.5	2.9	0.7	4.3	1.1
見 沼 区	351	86.6	54.4	50.1	43.0	15.1	6.0	0.6	3.1	0.9
中 央 区	235	86.4	53.2	51.9	41.7	12.3	2.6	0.4	2.6	1.7
桜 区	190	84.7	54.7	55.3	46.3	14.7	2.1	0.0	2.6	2.1
浦 和 区	382	90.8	56.5	46.6	38.7	18.6	3.4	0.3	2.4	1.0
南 区	444	85.4	55.0	51.6	45.7	11.0	2.9	0.5	2.3	0.5
緑 区	271	86.0	51.7	48.0	39.9	17.3	4.8	1.1	4.4	0.7
岩 槻 区	234	87.6	53.8	48.3	42.3	12.8	4.3	0.9	2.6	1.7

家族構成別でみると、いずれも順位は全体と共通となっている。1位の「マイバッグの利用」は親と子と孫（3世代）（91.5%）で9割を超える一方、一人暮らし（80.6%）は1割以上低くなっている。一人暮らしは「マイボトルの利用」（41.2%）、「屋外で出たごみは分別して持ち帰る」（37.0%）も全体を5ポイント以上下回っている。一方、「店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない」は一人暮らし（58.5%）が最も多く、家族の人数が増加するにつれ減少する傾向にある。

居住形態別でみると、いずれも順位は全体と共通となっており、一戸建て住宅と集合住宅の間に大きな差はみられない。

職業別でみると、1位はすべての職業で「マイバッグの利用」となっているが、勤め人（パート・アルバイトなど）（92.3%）で9割を超える一方、「学生」（78.3%）は1割以上低くなっている。2位は勤め人（パート・アルバイトなど）（62.1%）と学生（49.3%）が「マイボトルの利用」、それ以外が「店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない」となっている。前者は、勤め人（パート・アルバイトなど）と専業主婦・専業主夫が両者とも5割以上を占める一方、自営業（39.1%）と家事手伝い・無職（38.1%）で少なく、後者は特に学生（26.1%）で少なくなっている。また、専業主婦・専業主夫は「屋外で出たごみは分別して持ち帰る」（48.2%）、自営業は「プラスチックの使用量を減らしたり再生材を利用したりしているなど、環境に配慮した商品を選ぶ」（21.7%）が全体を6ポイント以上上回っている。（表3-9-1）

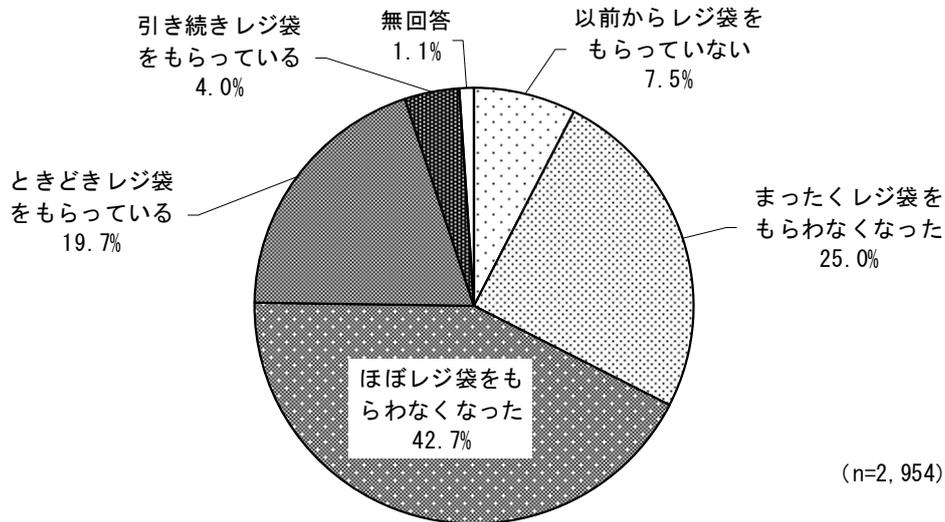
表3-9-2 プラスチックごみ問題解決のための取組—家族構成別、居住形態別、職業別—

	n	マイバッグの利用	店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない	マイボトルの利用	屋外で出たごみは分別して持ち帰る	減らしたり再生材使用量を減らしたり再生材を利用したりしているなど、環境に配慮した商品を選ぶ	プラスチックの使用量を減らしたり再生材を利用したりしているなど、環境に配慮した商品を選ぶ	街中や河川敷、海岸などのゴミ拾いをする	その他	何もしてない	無回答
全 体	2,954	86.4	54.0	49.0	42.2	14.5	3.5	0.5	2.9	1.2	
< 家族 構 成 別 >											
一 人 暮 ら し	335	80.6	58.5	41.2	37.0	14.9	3.3	0.6	5.7	1.5	
夫 婦 だ け	776	89.3	56.3	53.6	42.4	16.2	4.6	0.5	2.3	1.5	
親 子 （ 2 世 代 ）	1,589	86.2	52.6	48.6	42.6	13.3	2.8	0.5	2.3	0.7	
親 と 子 と 孫 （ 3 世 代 ）	153	91.5	51.6	49.7	49.0	17.0	3.3	0.7	2.6	1.3	
そ の 他	91	79.1	46.2	45.1	44.0	16.5	5.5	1.1	8.8	3.3	
< 居 住 形 態 別 >											
一 戸 建 て 住 宅	1,680	87.1	56.2	49.3	43.3	15.5	3.8	0.7	2.3	1.3	
集 合 住 宅	1,228	85.7	51.1	48.5	40.8	13.1	3.1	0.3	3.7	0.9	
そ の 他	17	70.6	52.9	52.9	23.5	17.6	0.0	5.9	5.9	5.9	
無 回 答	29	82.8	48.3	48.3	55.2	17.2	3.4	0.0	0.0	6.9	
< 職 業 別 >											
自 営 業	184	84.2	55.4	39.1	43.5	21.7	5.4	0.5	2.2	1.6	
勤 め 人 （ 正 規 職 員 ・ 正 社 員 ）	1,173	83.6	48.4	46.5	38.7	12.0	2.8	0.7	4.9	0.8	
勤 め 人 （ パ ー ト ・ ア ル バ イ ト な ど ）	544	92.3	57.0	62.1	43.9	13.2	2.9	0.2	0.9	0.2	
学 生	69	78.3	26.1	49.3	44.9	15.9	2.9	0.0	2.9	0.0	
専 業 主 婦 ・ 専 業 主 夫	533	90.4	64.5	52.5	48.2	17.8	3.2	0.2	1.1	1.1	
家 事 手 伝 い ・ 無 職	396	83.8	57.1	38.1	41.9	14.6	5.3	1.3	2.5	3.0	
そ の 他	41	82.9	41.5	43.9	36.6	19.5	4.9	0.0	2.4	4.9	
無 回 答	14	85.7	64.3	71.4	42.9	28.6	7.1	0.0	0.0	14.3	

(10) レジ袋有料化後の対応

問 23. 令和2年7月にレジ袋が有料化されましたが、有料化後、あなたの行動に変化がありましたか。(○は1つ)

図3-10-1 レジ袋有料化後の対応



全体結果

レジ袋有料化後の対応については、「ほぼレジ袋をもらわなくなった」(42.7%)が最も多く、続く「まったくレジ袋をもらわなくなった」(25.0%)と合わせ、全体の7割弱(67.7%)がレジ袋をもらうことを止めている。一方、「ときどきレジ袋をもらっている」(19.7%)は約2割、「引き続きレジ袋をもらっている」(4.0%)は1割未満であり、全体の2割強(23.7%)がレジ袋をもらっている。

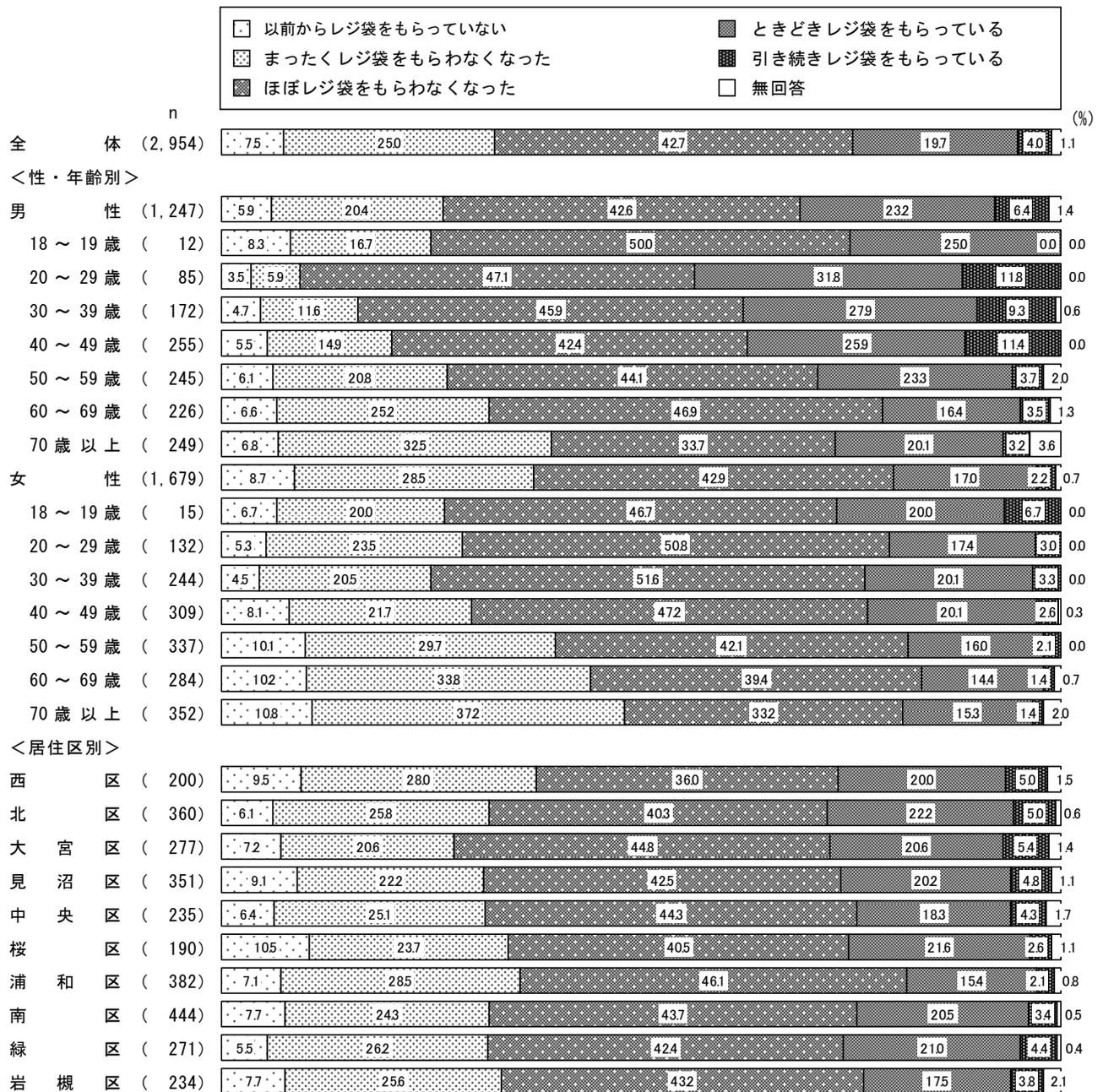
(図3-10-1)

属性別

性・年齢別でみると、「まったくレジ袋をもらわなくなった」は女性（28.5%）が男性（20.4%）を8.1ポイント上回っている。一方、「ときどきレジ袋をもらっている」は男性（23.2%）が女性（17.0%）より6.2ポイント多くなっている。女性70歳以上は「まったくレジ袋をもらわなくなった」（37.2%）、それ以外は「ほぼレジ袋をもらわなくなった」が最も多く、後者は女性20～39歳で約5割を占めている。一方、男性20～29歳は「ときどきレジ袋をもらっている」（31.8%）が12.1ポイント、「引き続きレジ袋をもらっている」（11.8%）が7.8ポイント、それぞれ全体を上回っている。

居住区別でみると、すべての区で「ほぼレジ袋をもらわなくなった」が最も多く、西区（36.0%）以外の区は4割台となっている。また、「まったくレジ袋をもらわなくなった」はすべての区で2割台、「ときどきレジ袋をもらっている」は北区（22.2%）を筆頭に浦和区（15.4%）、岩槻区（17.5%）、中央区（18.3%）を除く7区で2割台となっている。（図3-10-2）

図3-10-2 レジ袋有料化後の対応—性・年齢別、居住区別—

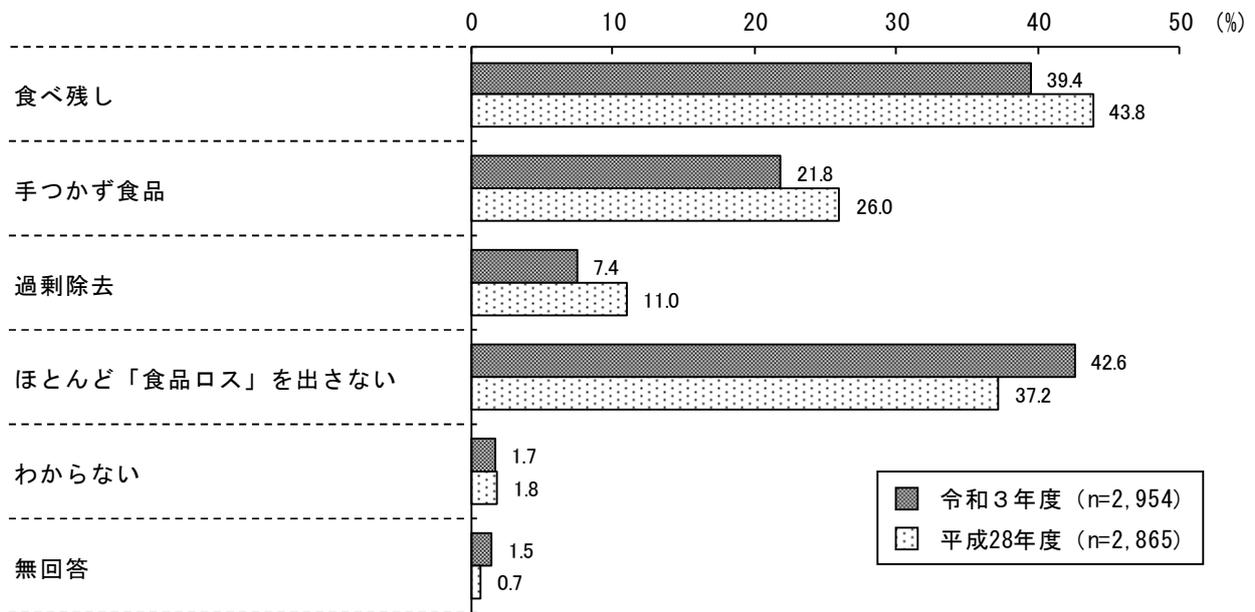


4. 食品ロス

(1) 食品ロスの状況

問 24. あなたが、ふだんの生活で出すことがある「食品ロス」は何ですか。(〇はいくつでも)

図 4-1-1 食品ロスの状況



全体結果

ふだんの生活で出すことのある食品ロスは、「食べ残し」(39.4%)が最も多く、次いで「手つかず食品」(21.8%)、「過剰除去」(7.4%)の順となっている。一方、「ほとんど「食品ロス」を出さない」(42.6%)は4割強となっている。

前回の調査と比較すると、「ほとんど「食品ロス」を出さない」は平成28年度(37.2%)と比べ5.4ポイント増加している。(図4-1-1)

属性別

性・年齢別でみると、「手つかず食品」は8.4ポイント、「食べ残し」は5.3ポイント女性が男性を上回っている。一方、「ほとんど「食品ロス」を出さない」は男性（48.3%）が女性（38.5%）より9.8ポイント多くなっている。

食品ロスは男女ともすべての年齢で「食べ残し」が最も多く、男性60～69歳（41.6%）と女性30～49歳、60～69歳（44.4%）で4割台となっている。一方、「ほとんど「食品ロス」を出さない」は全年齢の男性と女性29歳以下、70歳以上（46.9%）で4割を超え、「食べ残し」を上回っている。

（表4-1-1）

表4-1-1 食品ロスの状況—性・年齢別—

	n	食べ残し	手つかず食品	過剰除去	ほとんど「食品ロス」を出さない	わからない	無回答
全体	2,954	39.4	21.8	7.4	42.6	1.7	1.5
<性・年齢別>							
男性	1,247	36.3	16.9	6.5	48.3	2.6	1.4
18～19歳	12	8.3	0.0	0.0	83.3	8.3	0.0
20～29歳	85	25.9	12.9	12.9	51.8	3.5	0.0
30～39歳	172	39.0	19.8	8.7	45.3	3.5	0.0
40～49歳	255	37.6	18.4	7.1	47.8	2.0	0.0
50～59歳	245	35.5	19.2	4.9	49.0	2.4	0.8
60～69歳	226	41.6	18.1	4.0	45.6	0.4	2.2
70歳以上	249	34.1	12.0	6.4	49.4	4.4	4.0
女性	1,679	41.6	25.3	8.2	38.5	0.9	1.4
18～19歳	15	40.0	13.3	0.0	53.3	0.0	0.0
20～29歳	132	35.6	22.7	8.3	44.7	2.3	0.0
30～39歳	244	48.8	25.4	11.1	30.3	0.8	0.8
40～49歳	309	47.2	29.4	8.7	32.0	0.3	0.0
50～59歳	337	38.6	29.1	6.5	38.3	0.9	0.6
60～69歳	284	44.4	20.1	7.0	39.1	0.0	1.1
70歳以上	352	34.9	23.6	8.8	46.9	1.7	4.5

居住区別でみると、食品ロスはすべての区で「食べ残し」が最も多く、岩槻区（44.9%）を筆頭に4区で4割台となっている。一方、桜区（32.1%）は岩槻区を12.8ポイント下回っている。また、「ほとんど「食品ロス」を出さない」は見沼区（37.0%）と緑区（38.4%）以外の8区で4割台となっており、見沼区、緑区、岩槻区（44.4%）を除く7区で「食べ残し」を上回っている。

家族構成別にみると、「食べ残し」は家族の人数が増えるほど増加する傾向にあり、一人暮らし（21.8%）と比べ、親と子と孫（3世代）（53.6%）は3割以上多くなっている。一方、「手つかず食品」はいずれも2割台、「過剰除去」は1割未満であり、人数による差は小さくなっている。また、「ほとんど食品ロスを出さない」は家族の人数が少ないほど多く、一人暮らし（55.2%）は全体を1割以上、親と子と孫（3世代）（35.9%）を約2割上回っている。（表4-1-2）

表4-1-2 食品ロスの状況—居住区別、家族構成別—

	n	食べ残し	手つかず食品	過剰除去	ほとんど「食品ロス」を出さない	わからない	無回答
全 体	2,954	39.4	21.8	7.4	42.6	1.7	1.5
<居住区別>							
西 区	200	40.5	19.0	6.5	44.5	1.0	1.5
北 区	360	38.6	21.7	6.9	43.3	0.8	1.4
大 宮 区	277	39.4	18.8	7.9	44.8	2.2	1.8
見 沼 区	351	43.0	23.9	8.5	37.0	3.1	1.1
中 央 区	235	37.4	26.0	5.5	43.0	0.9	2.6
桜 区	190	32.1	25.3	7.9	43.7	1.1	2.1
浦 和 区	382	36.9	21.5	8.1	44.5	1.3	1.3
南 区	444	38.1	20.9	8.3	43.0	2.0	0.7
緑 区	271	43.5	23.2	7.0	38.4	1.5	1.8
岩 槻 区	234	44.9	19.2	6.4	44.4	2.1	0.4
<家族構成別>							
一人暮らし	335	21.8	23.3	6.0	55.2	2.1	2.4
夫婦だけ	776	34.8	20.1	7.3	45.6	1.7	2.6
親子（2世代）	1,589	44.1	22.5	7.8	39.3	1.4	0.6
親と子と孫（3世代）	153	53.6	20.9	5.2	35.9	2.0	0.7
その他	91	39.6	20.9	12.1	39.6	4.4	1.1

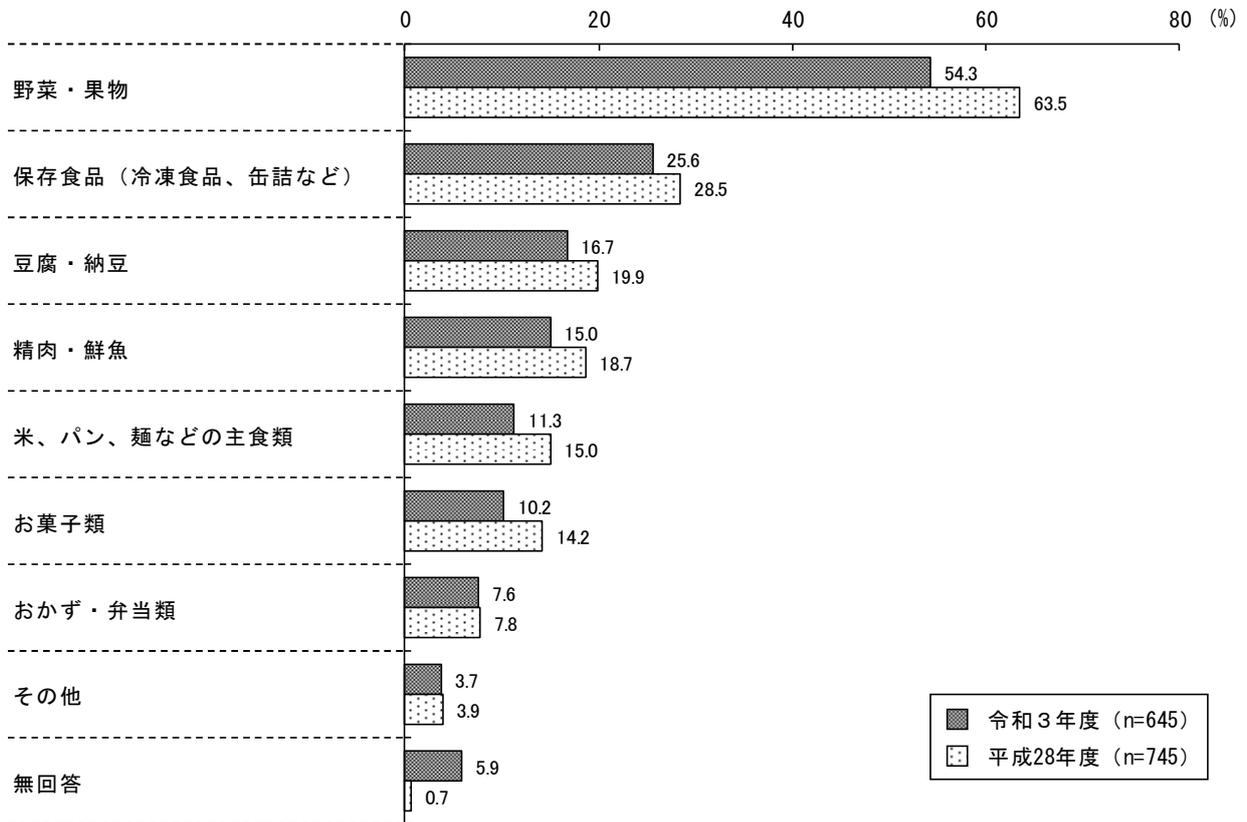
(2) 「手つかず食品」の種類

問 24. で「1」と回答した方に質問します。

問 24-1. あなたが、ふだんの生活で出すことがある「手つかず食品」は何ですか。

(○はいくつでも)

図 4-2-1 「手つかず食品」の種類



全体結果

ふだんの生活で出すことのある手つかず食品は、「野菜・果物」(54.3%)が最も多く、次いで「保存食品(冷凍食品、缶詰など)」(25.6%)、「豆腐・納豆」(16.7%)、「精肉・鮮魚」(15.0%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「野菜・果物」は平成28年度(63.5%)と比べ9.2ポイント減少している。

(図4-2-1)

属性別

性・年齢別でみると、「おかず・弁当類」は男性（12.3%）が女性（5.2%）を7.1ポイント上回っている。男女とも上位4項目は全体と共通であり、「野菜・果物」が5割台で最も多くなっている。また、「野菜・果物」は女性50～59歳（63.3%）で6割強を占め、「保存食品（冷凍食品、缶詰など）」は女性60歳以上で3割台と多くなっている。（表4-2-1）

表4-2-1 「手つかず食品」の種類—性・年齢別—

		(%)								
	n	野菜・果物	保存食品（冷凍食品、缶詰など）	豆腐・納豆	精肉・鮮魚	米、パン、麺などの主食類	お菓子類	おかず・弁当類	その他	無回答
全 体	645	54.3	25.6	16.7	15.0	11.3	10.2	7.6	3.7	5.9
＜性・年齢別＞										
男 性	211	52.1	23.2	15.2	14.7	13.3	9.0	12.3	1.9	7.6
18～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	11	54.5	18.2	0.0	45.5	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1
30～39歳	34	67.6	17.6	20.6	14.7	14.7	11.8	2.9	2.9	5.9
40～49歳	47	66.0	8.5	8.5	17.0	14.9	10.6	17.0	0.0	4.3
50～59歳	47	44.7	27.7	21.3	12.8	14.9	8.5	10.6	4.3	10.6
60～69歳	41	41.5	36.6	12.2	7.3	4.9	7.3	9.8	2.4	9.8
70歳以上	30	40.0	30.0	20.0	13.3	16.7	6.7	23.3	0.0	6.7
女 性	425	55.5	26.4	17.6	15.3	10.1	10.8	5.2	4.5	5.2
18～19歳	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
20～29歳	30	40.0	13.3	26.7	10.0	6.7	16.7	0.0	10.0	10.0
30～39歳	62	54.8	19.4	21.0	16.1	11.3	4.8	6.5	6.5	3.2
40～49歳	91	59.3	27.5	14.3	15.4	16.5	15.4	3.3	3.3	3.3
50～59歳	98	63.3	26.5	13.3	15.3	8.2	7.1	3.1	5.1	5.1
60～69歳	57	52.6	35.1	28.1	10.5	7.0	10.5	3.5	5.3	3.5
70歳以上	83	50.6	30.1	14.5	18.1	7.2	12.0	10.8	1.2	8.4

居住区別でみると、すべての区で「野菜・果物」が最も多くなっているが、6割台の中央区(62.3%)や浦和区(62.2%)と4割台の緑区(47.6%)の間に1割以上差が生じている。「保存食品(冷凍食品、缶詰など)」も南区(30.1%)で3割を超える一方、緑区(19.0%)は2割未満となっており、「豆腐・納豆」(27.0%)を下回っている。

家族構成別でみると、一人暮らし(59.0%)、夫婦だけ(52.6%)、親子(2世代)(54.2%)とも「野菜・果物」が5割台で最も多くなっている。「保存食品(冷凍食品、缶詰など)」はすべての家族構成で2番目に多くなっているが、一人暮らし(19.2%)は全体を6.4ポイント下回り、夫婦だけ(26.3%)、親子(2世代)(26.3%)に比べ少なくなっている。一方、「おかず・弁当類」は一人暮らし(14.1%)が全体を6.5ポイント上回っている。(表4-2-2)

表4-2-2 「手つかず食品」の種類—居住区別、家族構成別—

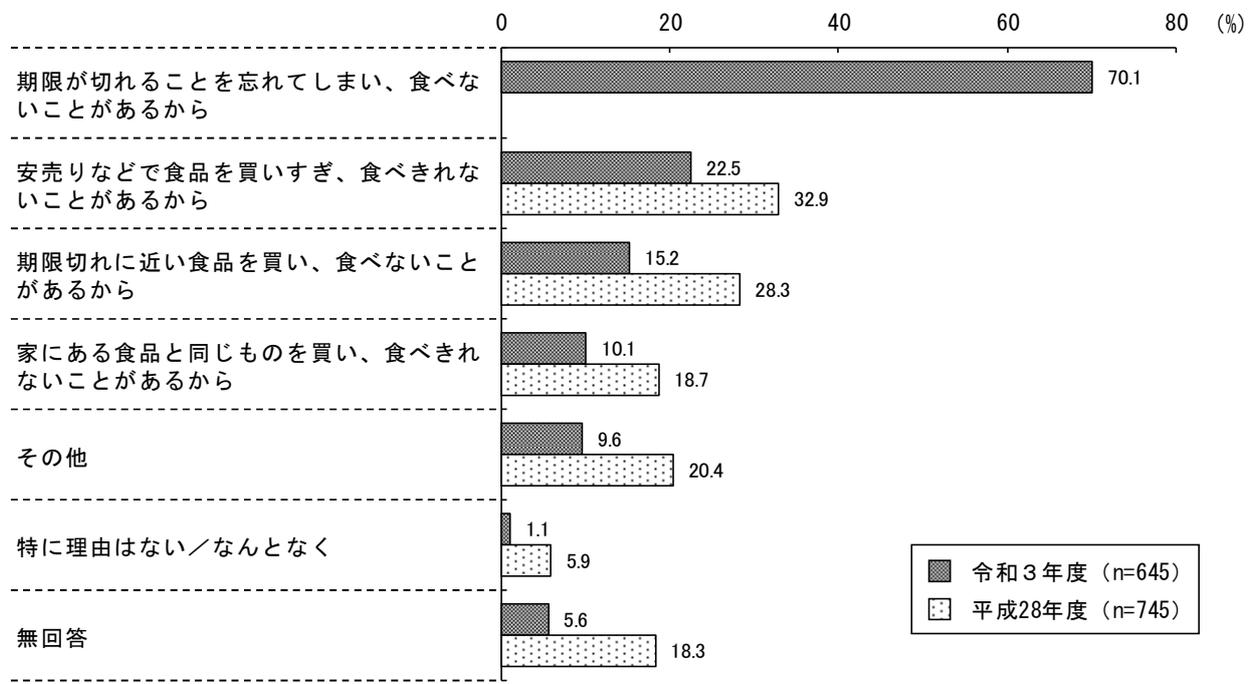
	n	野菜・果物	保存食品 (冷凍食品、缶詰など)	豆腐・納豆	精肉・鮮魚	米、パン、 麺などの主食類	お菓子類	おかず・ 弁当類	その他	無回答
全 体	645	54.3	25.6	16.7	15.0	11.3	10.2	7.6	3.7	5.9
<居住区別>										
西 区	38	47.4	23.7	23.7	15.8	13.2	10.5	5.3	7.9	7.9
北 区	78	57.7	23.1	15.4	19.2	11.5	7.7	3.8	3.8	3.8
大 宮 区	52	51.9	26.9	11.5	17.3	11.5	11.5	7.7	1.9	7.7
見 沼 区	84	50.0	29.8	16.7	11.9	17.9	8.3	7.1	3.6	7.1
中 央 区	61	62.3	27.9	13.1	13.1	8.2	8.2	13.1	1.6	4.9
桜 区	48	50.0	20.8	8.3	12.5	8.3	14.6	10.4	4.2	12.5
浦 和 区	82	62.2	24.4	20.7	15.9	12.2	15.9	6.1	6.1	2.4
南 区	93	53.8	30.1	16.1	16.1	7.5	9.7	9.7	4.3	2.2
緑 区	63	47.6	19.0	27.0	9.5	9.5	3.2	4.8	1.6	9.5
岩 槻 区	45	55.6	24.4	13.3	20.0	13.3	15.6	8.9	2.2	6.7
<家族構成別>										
一人暮らし	78	59.0	19.2	16.7	17.9	12.8	5.1	14.1	5.1	2.6
夫婦だけ	156	52.6	26.3	16.0	12.2	7.1	8.3	3.8	3.8	8.3
親子(2世代)	358	54.2	26.3	16.8	16.5	12.8	11.7	7.0	3.1	5.3
親と子と孫 (3世代)	32	59.4	28.1	18.8	6.3	9.4	15.6	12.5	9.4	6.3
その他	19	47.4	26.3	15.8	15.8	15.8	10.5	15.8	0.0	10.5

(3) 「手つかず食品」を出してしまう理由

問 24. で「1」と回答した方に質問します。

問 24-2. あなたが、「手つかず食品」を出してしまう理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図 4-3-1 「手つかず食品」を出してしまう理由



(注記) 「期限が切れることを忘れてしまい、食べないことがあるから」は令和3年度新規項目

全体結果

手つかず食品を出してしまう理由は、「期限が切れることを忘れてしまい、食べないことがあるから」(70.1%)が突出して多く、次いで「安売りなどで食品を買いすぎ、食べきれないことがあるから」(22.5%)、「期限切れに近い食品を買い、食べないことがあるから」(15.2%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「期限切れに近い食品を買い、食べないことがあるから」は平成28年度(28.3%)と比べ13.1ポイント、「安売りなどで食品を買いすぎ、食べきれないことがあるから」は平成28年度(32.9%)と比べ10.4ポイント、「家にある食品と同じものを買って、食べきれないことがあるから」(10.1%)は平成28年度(18.7%)と比べ8.6ポイント減少している。(図4-3-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女とも順位は全体と共通であり、「期限が切れることを忘れてしまい、食べないことがあるから」が約7割で最も多くなっている。また、女性70歳以上は「安売りなどで食品を買いすぎ、食べきれないことがあるから」(31.3%)、「期限切れに近い食品を買い、食べないことがあるから」(24.1%)が全体を8ポイント以上上回っている。(表4-3-1)

表4-3-1 「手つかず食品」を出してしまう理由—性・年齢別—

		(%)						
	n	らま 期 限 が 食 切 れ な い こ と を 忘 れ て か し	か ら ぎ 、 安 売 り な ど で 食 品 を 買 い す る	食 期 限 切 れ に 近 い 食 品 を 買 い、	か ら い 、 家 に あ る 食 品 と 同 じ も の を 買	そ の 他	特 に 理 由 は な い ／ な ん と な く	無 回 答
全 体	645	70.1	22.5	15.2	10.1	9.6	1.1	5.6
<性・年齢別>								
男 性	211	70.6	20.9	14.7	11.8	8.1	1.9	5.2
18～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	11	45.5	0.0	27.3	9.1	9.1	18.2	0.0
30～39歳	34	76.5	11.8	0.0	5.9	11.8	0.0	5.9
40～49歳	47	74.5	19.1	19.1	6.4	4.3	0.0	4.3
50～59歳	47	70.2	31.9	17.0	14.9	4.3	2.1	4.3
60～69歳	41	58.5	12.2	14.6	12.2	14.6	2.4	12.2
70歳以上	30	83.3	36.7	16.7	23.3	6.7	0.0	0.0
女 性	425	70.4	23.8	15.8	9.2	9.9	0.7	5.6
18～19歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
20～29歳	30	73.3	26.7	23.3	3.3	3.3	3.3	3.3
30～39歳	62	67.7	24.2	12.9	6.5	8.1	0.0	3.2
40～49歳	91	72.5	15.4	14.3	6.6	17.6	1.1	2.2
50～59歳	98	70.4	22.4	15.3	11.2	13.3	1.0	5.1
60～69歳	57	64.9	26.3	5.3	12.3	7.0	0.0	8.8
70歳以上	83	72.3	31.3	24.1	12.0	3.6	0.0	9.6

居住区別でみると、「期限が切れることを忘れてしまい、食べないことがあるから」はすべての区で6割を超え、最も多くなっている。また、「安売りなどで食品を買いすぎ、食べきれないことがあるから」は南区(31.2%)、「期限切れに近い食品を買い、食べないことがあるから」は大宮区(21.2%)、「家にある食品と同じものを買って、食べきれないことがあるから」は見沼区(15.5%)で最も多く、それぞれ区による差が大きくなっている。

家族構成別でみると、「期限が切れることを忘れてしまい、食べないことがあるから」はすべての家族構成で最も多くなっているが、夫婦だけ(72.4%)と親子(2世代)(72.9%)が7割強に対し、一人暮らし(53.8%)は約2割下回っている。一方、「安売りなどで食品を買いすぎ、食べきれないことがあるから」は夫婦だけ(28.2%)と一人暮らし(25.6%)、「期限切れに近い食品を買い、食べないことがあるから」は一人暮らし(23.1%)で2割を超えている。(表4-3-2)

表4-3-2 「手つかず食品」を出してしまう理由—居住区別、家族構成別—

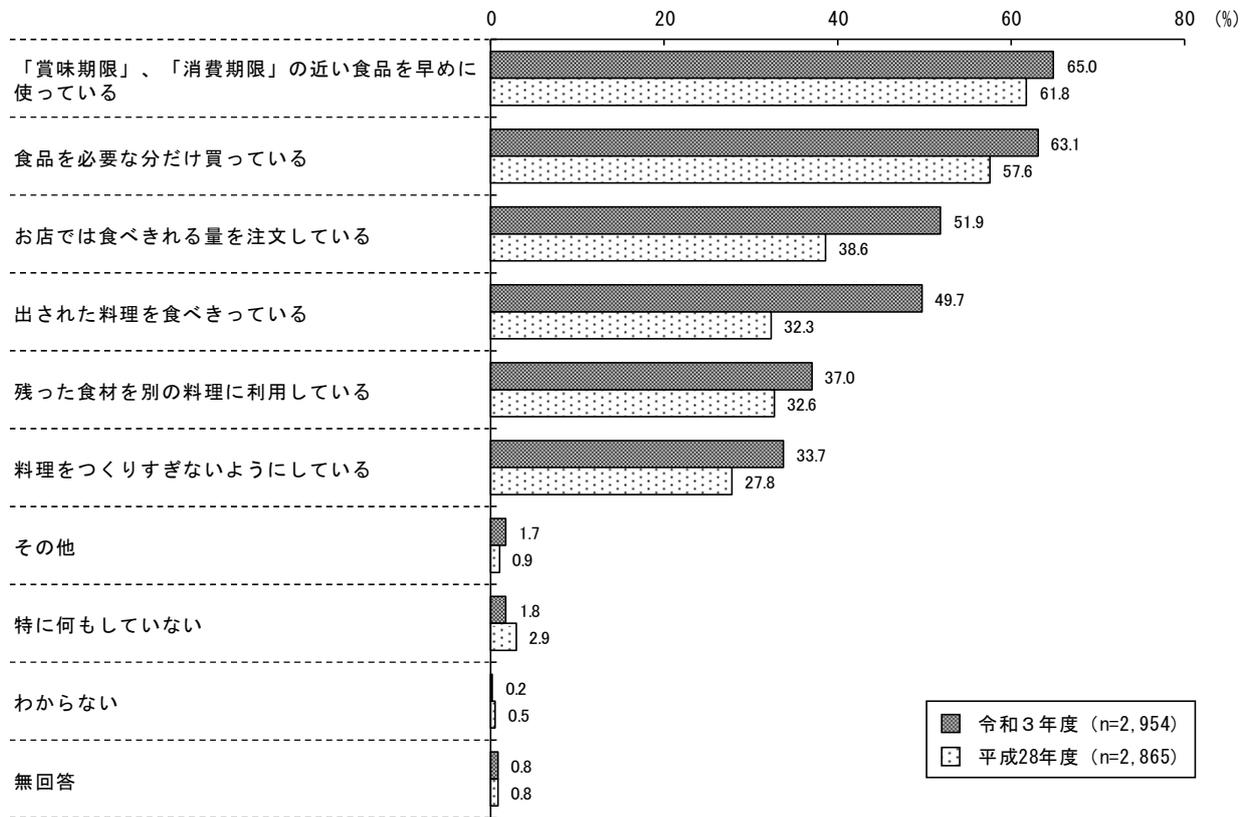
	n	らま 期 限 が 食 切 れ る こ と を 忘 れ て か し	か ぎ 安 売 り な ど で 食 品 を 買 い す ぎ 、 食 べ き れ な い こ と が あ る	食 品 の 期 限 切 れ に 近 い 食 品 を 買 い 、 食 べ な い こ と が あ る	か い 家 に あ る 食 品 と 同 じ も の を 買 い 、 食 べ き れ な い こ と が あ る	そ の 他	特 に 理 由 は な い ／ な ん と な く	無 回 答
全 体	645	70.1	22.5	15.2	10.1	9.6	1.1	5.6
<居住区別>								
西 区	38	81.6	13.2	15.8	5.3	2.6	0.0	2.6
北 区	78	75.6	23.1	12.8	3.8	9.0	1.3	2.6
大 宮 区	52	75.0	25.0	21.2	11.5	5.8	1.9	1.9
見 沼 区	84	71.4	14.3	14.3	15.5	9.5	1.2	6.0
中 央 区	61	68.9	27.9	19.7	8.2	13.1	0.0	3.3
桜 区	48	62.5	14.6	14.6	8.3	8.3	2.1	8.3
浦 和 区	82	72.0	22.0	12.2	9.8	11.0	1.2	4.9
南 区	93	64.5	31.2	17.2	10.8	10.8	1.1	6.5
緑 区	63	68.3	25.4	9.5	14.3	12.7	1.6	4.8
岩 槻 区	45	64.4	22.2	17.8	8.9	8.9	0.0	17.8
<家族構成別>								
一人暮らし	78	53.8	25.6	23.1	11.5	14.1	2.6	7.7
夫婦だけ	156	72.4	28.2	11.5	8.3	7.1	1.3	7.1
親子(2世代)	358	72.9	19.8	15.4	8.7	10.1	0.6	4.5
親と子と孫 (3世代)	32	62.5	21.9	12.5	25.0	9.4	0.0	6.3
その他	19	78.9	15.8	15.8	15.8	5.3	5.3	5.3

(4) 「食品ロス」を出さないための取組

問 25. あなたが、「食品ロス」を出さないためにふだん行っていることは何ですか。

(○はいくつでも)

図 4-4-1 「食品ロス」を出さないための取組



全体結果

「食品ロス」を出さないために行っていることは、「賞味期限」、「消費期限」の近い食品を早めに使っている(65.0%)が最も多く、次いで「食品を必要な分だけ買っている」(63.1%)、「お店では食べきれぬ量を注文している」(51.9%)、「出された料理を食べきっている」(49.7%)などの順となっている。一方、「特に何もしていない」は1.8%と少なくなっている。

前回の調査と比較すると、「出された料理を食べきっている」は平成28年度(32.3%)と比べ17.4ポイント、「お店では食べきれぬ量を注文している」は平成28年度(38.6%)と比べ13.3ポイント、「料理をつくりすぎないようにしている」(33.7%)は平成28年度(27.8%)と比べ5.9ポイント、「食品を必要な分だけ買っている」は平成28年度(57.6%)と比べ5.5ポイント増加している。(図4-4-1)

属性別

性・年齢別でみると、「残った食材を別の料理に利用している」は12.5ポイント、「料理をつくりすぎないようにしている」は10.5ポイント、「賞味期限」、「消費期限」の近い食品を早めに使っている」は7.4ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「出された料理を食べきっている」は男性（57.1%）が女性（44.3%）より12.8ポイント多くなっている。

男性は「食品を必要な分だけ買っている」（63.8%）、女性は「賞味期限」、「消費期限」の近い食品を早めに使っている」（68.3%）が最も多く、いずれも20歳以上で過半数を占めている。また、「お店では食べきれぬ量を注文している」は男女とも59歳以下で5割を超え、「出された料理を食べきっている」は女性の年齢が上がるにつれ減少する傾向が強く、40～69歳で4割台、70歳以上（34.7%）で3割半ばとなっている。一方、「残った食材を別の料理に利用している」は女性40歳以上で4割台、「料理をつくりすぎないようにしている」は女性60歳以上で4割台と高齢層が多くなっている。（表4-4-1）

表4-4-1 「食品ロス」を出さないための取組—性・年齢別—

	n	近「賞味期限」、 「消費期限」の 近い食品を早め に使っているの	食品を必要な 分だけ買ってい る	てお店では食 べきれぬ量を注 文し	出された料理を 食べきっている	て残った食材を 別の料理に利用 し	て料理をつくり すぎないように し	その他	特に何もしてい ない	わからない	無回答
全 体	2,954	65.0	63.1	51.9	49.7	37.0	33.7	1.7	1.8	0.2	0.8
<性・年齢別>											
男 性	1,247	60.9	63.8	50.4	57.1	30.0	27.7	1.5	2.2	0.3	1.0
18～19歳	12	41.7	41.7	50.0	91.7	33.3	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	85	50.6	61.2	57.6	61.2	21.2	23.5	1.2	4.7	0.0	0.0
30～39歳	172	65.1	65.7	55.8	59.3	30.2	18.0	0.6	3.5	0.0	1.2
40～49歳	255	62.0	62.0	56.5	60.8	30.2	19.6	1.6	2.0	0.4	0.8
50～59歳	245	59.6	66.1	53.1	54.7	29.8	29.4	3.3	0.8	0.0	0.8
60～69歳	226	63.7	62.8	48.7	58.0	31.9	34.5	1.3	2.2	0.4	0.9
70歳以上	249	60.2	65.5	37.3	50.2	30.5	36.5	0.8	2.4	0.8	1.6
女 性	1,679	68.3	62.7	53.3	44.3	42.5	38.2	1.8	1.3	0.1	0.5
18～19歳	15	60.0	60.0	60.0	93.3	13.3	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	132	65.9	60.6	63.6	55.3	31.1	28.8	2.3	2.3	0.0	0.0
30～39歳	244	70.5	65.6	60.7	52.5	39.8	26.2	2.5	0.0	0.0	1.6
40～49歳	309	63.4	67.6	61.8	46.3	42.4	30.1	1.9	1.6	0.0	0.6
50～59歳	337	70.0	62.6	54.6	42.7	44.8	38.0	1.8	2.1	0.3	0.0
60～69歳	284	71.1	61.6	47.9	40.8	42.3	48.2	1.4	0.4	0.0	0.4
70歳以上	352	69.0	58.5	40.1	34.7	48.0	49.7	1.7	1.4	0.0	0.3

居住区別でみると、「賞味期限」、「消費期限」の近い食品を早めに使っている」「食品を必要な分だけ買っている」はすべての区で5割以上を占めており、北区（66.9%）と浦和区（66.5%）は後者、それ以外の8区は前者が最も多くなっている。「お店では食べきれぬ量を注文している」は大宮区（56.3%）を筆頭に7区、「出された料理を食べきっている」は桜区（53.2%）を筆頭に6区で5割台となっている。また、「残った食材を別の料理に利用している」は中央区（40.9%）で約4割を占める一方、岩槻区（29.1%）は約1割少なくなっている。

家族構成別でみると、一人暮らしは「食品を必要な分だけ買っている」（71.3%）、夫婦だけ～親と子と孫（3世代）は「賞味期限」、「消費期限」の近い食品を早めに使っている」が最も多くなっている。家族の人数が増えるにつれ「食品を必要な分だけ買っている」が減少、「賞味期限」、「消費期限」の近い食品を早めに使っている」「出された料理を食べきっている」は増加する傾向にあり、3項目とも一人暮らし～親と子と孫（3世代）の間に1割以上差が生じている。また、「残った食材を別の料理に利用している」は親と子と孫（3世代）（43.1%）で4割強、「料理をつくりすぎないようにしている」は夫婦だけ（39.2%）で約4割を占め、それぞれ全体を5ポイント以上上回っている。（表4-4-2）

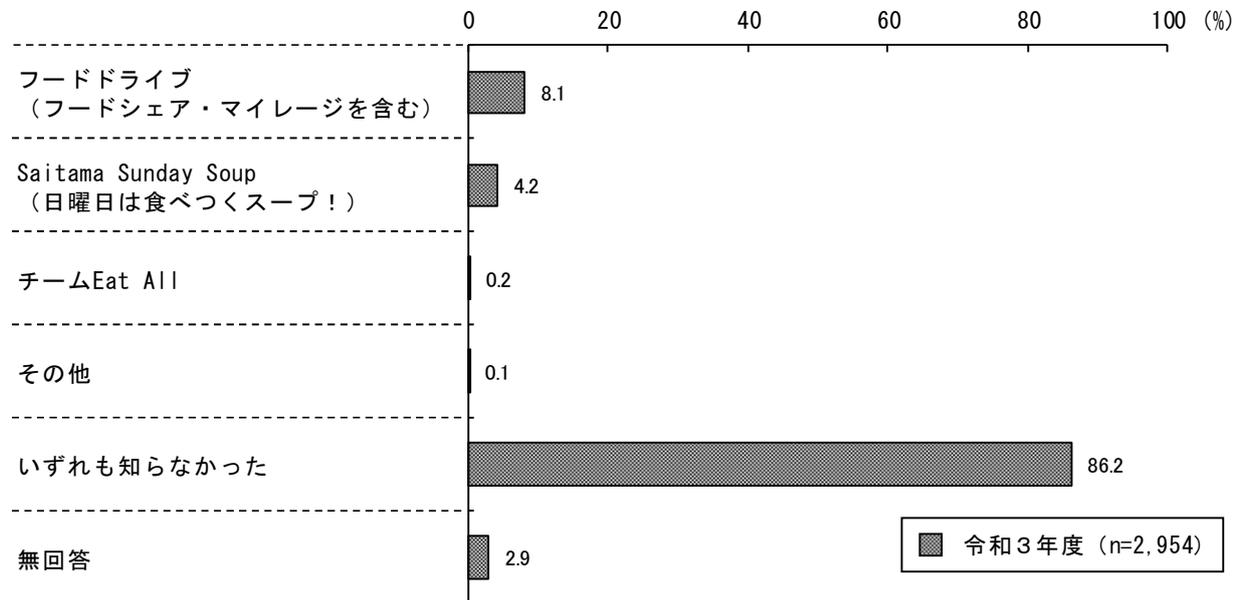
表4-4-2 「食品ロス」を出さないための取組－居住区別、家族構成別－

	n	近「賞味期限」、 い食品を早めに「消費期限」 使っているの	食品を必要な分だけ買っている	てお店では食べきれぬ量を注文している	出された料理を食べきっている	て残った食材を別の料理に利用している	て料理をつくりすぎないようにしている	その他	特に何もしていない	わからない	無回答
全 体	2,954	65.0	63.1	51.9	49.7	37.0	33.7	1.7	1.8	0.2	0.8
<居住区別>											
西 区	200	64.0	55.0	48.0	49.5	38.5	35.0	1.5	1.0	0.0	2.5
北 区	360	61.9	66.9	46.4	50.0	35.8	31.7	1.4	1.9	0.0	0.6
大 宮 区	277	68.6	66.4	56.3	47.7	38.6	32.5	1.8	1.1	0.0	0.4
見 沼 区	351	65.8	63.2	53.8	47.0	35.3	37.0	2.3	3.7	0.6	0.0
中 央 区	235	65.1	62.6	53.2	48.9	40.9	33.2	1.3	2.1	0.4	1.3
桜 区	190	64.2	58.9	53.7	53.2	39.5	34.7	0.5	1.6	0.5	0.5
浦 和 区	382	63.9	66.5	52.9	50.5	39.0	33.0	1.8	1.3	0.3	0.8
南 区	444	65.5	65.3	56.1	50.7	37.2	32.4	2.0	1.4	0.0	0.2
緑 区	271	63.8	57.9	46.9	50.6	38.0	31.0	2.2	1.1	0.0	1.1
岩 槻 区	234	68.4	60.7	51.3	50.0	29.1	38.0	1.3	2.1	0.0	0.9
<家族構成別>											
一人暮らし	335	51.9	71.3	50.4	42.1	29.6	35.8	2.7	2.7	0.6	1.5
夫婦だけ	776	66.5	65.6	49.7	48.8	39.7	39.2	1.8	1.3	0.0	0.8
親子（2世代）	1,589	67.3	60.6	53.7	51.5	36.8	30.6	1.3	1.5	0.2	0.6
親と子と孫（3世代）	153	68.6	58.8	52.3	54.9	43.1	35.3	2.6	2.6	0.0	0.0
その他	91	58.2	63.7	50.5	42.9	35.2	30.8	3.3	5.5	0.0	1.1

(5) 市の食品ロス削減に関する取組の認知度

問 26. あなたは、市の食品ロス削減に関する以下の取組を知っていましたか。(○はいくつでも)

図 4-5-1 市の食品ロス削減に関する取組の認知度



全体結果

市の食品ロス削減に関する取組の認知度については、「フードドライブ (フードシェア・マイレージを含む)」(8.1%) が最も多く、次いで「Saitama Sunday Soup (日曜日は食べつくスープ!)」(4.2%)、「チーム Eat All」(0.2%) の順となっている。一方、「いずれも知らなかった」は 86.2% となっている。(図 4-5-1)

属性別

性・年齢別で見ると、「フードドライブ(フードシェア・マイレージを含む)」は女性 50 歳以上、「Saitama Sunday Soup (日曜日は食べつくスープ!)」は女性 30~39 歳 (11.5%) で 1 割台となっている。一方、「いずれも知らなかった」は男女ともすべての年齢で 7 割を超え、男性 59 歳以下は 9 割台となっている。(表 4-5-1)

表 4-5-1 市の食品ロス削減に関する取組の認知度—性・年齢別—

	n	フードドライブ(フードシェア・マイレージを含む)	Saitama Sunday Soup (日曜日は食べつくスープ!)	チームEat All	その他	いずれも知らなかった	無回答
全体	2,954	8.1	4.2	0.2	0.1	86.2	2.9
<性・年齢別>							
男性	1,247	5.9	2.1	0.1	0.1	90.1	2.9
18~19歳	12	8.3	0.0	0.0	0.0	91.7	0.0
20~29歳	85	5.9	1.2	0.0	0.0	90.6	2.4
30~39歳	172	5.8	2.9	0.0	0.6	90.7	1.2
40~49歳	255	5.5	2.7	0.4	0.0	92.2	0.8
50~59歳	245	6.5	1.6	0.0	0.0	92.7	0.8
60~69歳	226	5.8	3.1	0.0	0.0	89.4	3.5
70歳以上	249	6.0	0.8	0.0	0.0	85.5	8.0
女性	1,679	9.7	5.7	0.3	0.1	83.4	2.9
18~19歳	15	6.7	6.7	0.0	0.0	86.7	0.0
20~29歳	132	6.8	7.6	0.8	0.0	87.9	0.8
30~39歳	244	3.7	11.5	0.8	0.0	84.4	0.8
40~49歳	309	8.1	7.8	0.0	0.0	85.8	0.6
50~59歳	337	10.4	4.5	0.0	0.0	86.9	0.3
60~69歳	284	11.6	3.2	0.4	0.0	84.5	2.1
70歳以上	352	13.9	2.0	0.3	0.3	75.0	9.9

居住区別でみると、「フードドライブ（フードシェア・マイレージを含む）」は桜区（12.6%）と緑区（11.4%）で1割台となっている。一方、「いずれも知らなかった」はすべての区で8割台となっている。

家族構成別でみると、「フードドライブ（フードシェア・マイレージを含む）」は一人暮らし（11.0%）で約1割を占めている。一方、「いずれも知らなかった」はすべての家族構成で8割台となっている。

（表4-5-2）

表4-5-2 市の食品ロス削減に関する取組の認知度－居住区別、家族構成別－

	n	ア フ ド マ イ ド ラ イ ブ （ フ ー ド シ ェ ア ・ マ イ レ ー ジ を 含 む ）	S o u p ! （ 日 曜 日 は 食 べ つ く ）	チ ム E a t A l l	そ の 他	い ず れ も 知 ら な か っ た	無 回 答
全 体	2,954	8.1	4.2	0.2	0.1	86.2	2.9
<居住区別>							
西 区	200	8.5	3.5	0.0	0.0	83.0	6.5
北 区	360	7.5	4.7	0.3	0.0	87.2	1.9
大 宮 区	277	7.2	4.3	0.0	0.0	87.0	2.9
見 沼 区	351	8.3	4.0	0.3	0.0	87.5	2.0
中 央 区	235	6.0	5.5	0.0	0.0	86.4	3.8
桜 区	190	12.6	3.7	0.5	0.0	82.1	2.6
浦 和 区	382	8.9	3.1	0.3	0.0	88.5	0.8
南 区	444	6.8	4.5	0.0	0.2	87.2	2.7
緑 区	271	11.4	3.7	0.7	0.0	83.4	2.6
岩 槻 区	234	6.0	4.7	0.0	0.4	85.0	5.6
<家族構成別>							
一人暮らし	335	11.0	3.3	0.0	0.0	83.6	3.6
夫婦だけ	776	8.9	4.4	0.3	0.3	82.7	5.0
親子（2世代）	1,589	7.5	4.4	0.2	0.0	88.2	1.5
親と子と孫 （3世代）	153	7.2	2.0	0.0	0.0	89.5	2.6
その他	91	4.4	5.5	1.1	0.0	85.7	4.4

インターネット利用状況別で見ると、いずれも順位は全体と共通となっている。「フードドライブ（フードシェア・マイレージを含む）」はあまり利用しない（12.9%）とたまに利用する（10.3%）で1割台を占める一方、よく利用する（7.1%）は最も少なくなっている。「Saitama Sunday Soup（日曜日は食べつくスープ!）」はインターネットをよく利用する層ほど多くなる傾向にあるが、いずれも1割未満となっている。また、4項目すべてで「いずれも知らなかった」が8割台となっており、よく利用する（88.1%）は9割弱を占めている。（表4-5-3）

表4-5-3 市の食品ロス削減に関する取組の認知度－インターネット利用状況別－

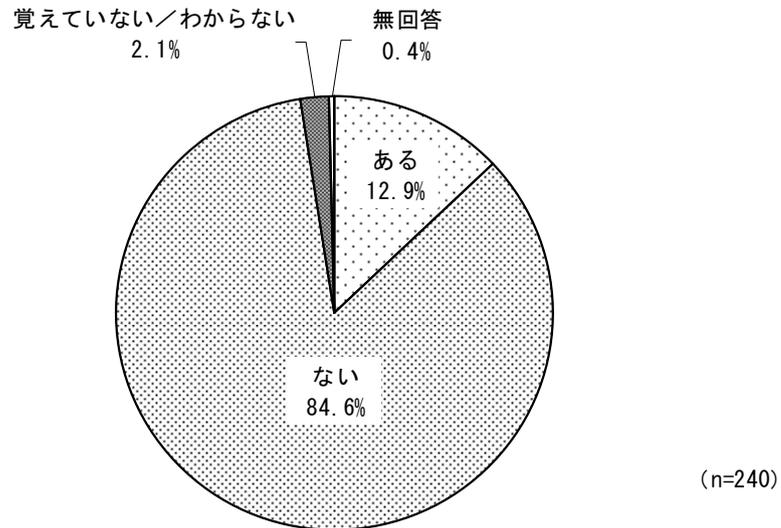
	n	ア フ ド マ イ レ ー ジ を 含 む	S a i t a m a S u n d a y S o u p ! (日曜日は食べつく)	チ ム E a t A l l	そ の 他	い ず れ も 知 ら な か っ た	無 回 答
全 体	2,954	8.1	4.2	0.2	0.1	86.2	2.9
<インターネット利用状況別>							
よく利用する	1,961	7.1	5.1	0.2	0.1	88.1	1.1
たまに利用する	418	10.3	3.3	0.5	0.0	84.7	3.3
あまり利用しない	178	12.9	1.7	0.0	0.0	80.3	5.6
まったく利用しない	385	8.8	1.6	0.0	0.0	80.8	9.9

(6) フードドライブの利用状況

問 26. で「2」を知っていると回答した方に質問します。

問 26-1. あなたは、フードドライブを利用したことはありますか。(○は1つ)

図 4-6-1 フードドライブの利用状況



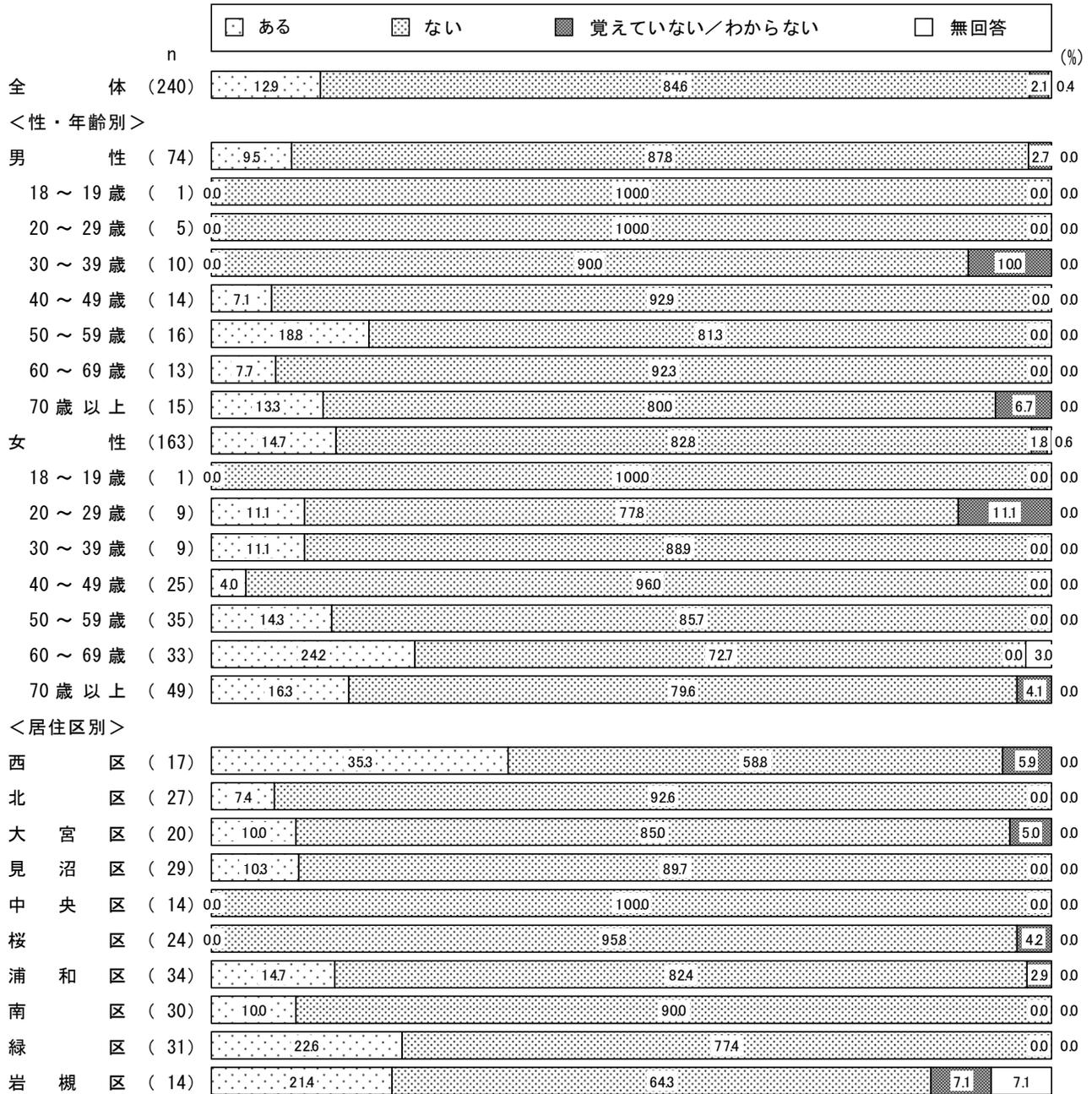
全体結果

フードドライブの利用状況については、利用したことが「ある」が12.9%、「ない」が84.6%となっている。(図4-6-1)

属性別

性・年齢別でみると、利用したことが「ある」割合は女性（14.7%）が男性（9.5%）を5.2ポイント上回っている。一方、利用したことが「ない」割合は男女とも8割台となっている。（図4-6-2）

図4-6-2 フードドライブの利用状況－性・年齢別、居住区別－

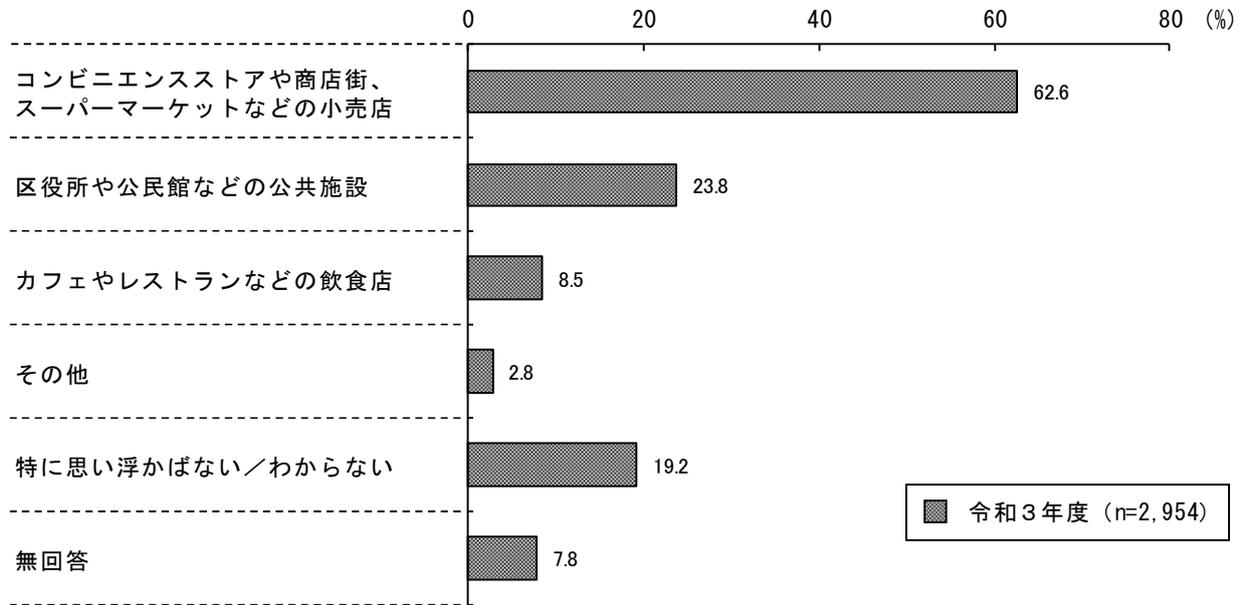


(7) 利用しやすいフードドライブ窓口の設置場所

問 26-2. あなたは、フードドライブの窓口はどこにあると利用しやすいと思いますか。

(○はいくつでも)

図 4-7-1 利用しやすいフードドライブ窓口の設置場所



全体結果

利用しやすいフードドライブ窓口の設置場所は、「コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店」(62.6%)が最も多く、次いで「区役所や公民館などの公共施設」(23.8%)、「カフェやレストランなどの飲食店」(8.5%)の順となっている。一方、「特に思い浮かばない／わからない」は19.2%となっている。(図4-7-1)

属性別

性・年齢別でみると、「コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店」は女性(66.5%)が男性(57.7%)を8.8ポイント上回っている。

「コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店」は男女ともすべての年齢で最も多くなっているが、女性は年齢が上がるにつれ減少する傾向にあり、70歳以上は男女とも5割を下回っている。「カフェやレストランなどの飲食店」についても、年齢が上がるにつれおおむね減少する傾向にある。一方、「区役所や公民館などの公共施設」は男女とも40～69歳で高く、女性50～69歳は3割台となっている。また、「特に思い浮かばない／わからない」は男性70歳以上(30.5%)で約3割を占めている。(表4-7-1)

表4-7-1 利用しやすいフードドライブ窓口の設置場所－性・年齢別－

	n	コンビニエンスストアや商店街、小売店	区役所や公民館などの公共施設	カフェやレストランなどの飲食店	その他	特に思い浮かばない／わからない	無回答
全体	2,954	62.6	23.8	8.5	2.8	19.2	7.8
<性・年齢別>							
男性	1,247	57.7	22.4	9.7	3.2	24.2	7.8
18～19歳	12	50.0	16.7	8.3	0.0	41.7	0.0
20～29歳	85	61.2	17.6	14.1	4.7	27.1	0.0
30～39歳	172	64.5	15.1	14.0	5.2	23.3	5.2
40～49歳	255	59.6	26.3	13.7	2.0	23.9	5.9
50～59歳	245	60.8	26.5	6.9	5.3	19.6	5.7
60～69歳	226	56.2	26.5	8.0	2.7	21.2	8.4
70歳以上	249	48.2	17.3	5.6	1.2	30.5	16.1
女性	1,679	66.5	24.7	7.6	2.6	15.5	7.7
18～19歳	15	93.3	13.3	26.7	6.7	0.0	0.0
20～29歳	132	77.3	15.9	18.2	2.3	12.9	4.5
30～39歳	244	78.3	19.7	12.3	4.5	10.7	4.9
40～49歳	309	71.2	29.8	7.1	4.2	10.7	4.2
50～59歳	337	70.6	31.2	4.7	1.2	13.6	4.5
60～69歳	284	62.0	30.3	3.9	1.4	14.1	10.6
70歳以上	352	49.1	17.0	5.7	2.0	27.6	14.8

居住区別でみると、順位はすべての区で全体と共通であり、「コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店」が5割以上を占めている。また、浦和区は「コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店」(69.4%)と「区役所や公民館などの公共施設」(29.3%)が全体を5ポイント以上上回っている。

家族構成別でみると、順位はいずれも全体と共通であり、「コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店」が5割以上を占めている。「コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店」は家族の人数が増えるにつれおおむね増加する傾向にあり、親子(2世代)(64.9%)と親と子と孫(3世代)(64.7%)は、一人暮らし(55.8%)を約1割上回っている。(表4-7-2)

表4-7-2 利用しやすいフードドライブ窓口の設置場所－居住区別、家族構成別－

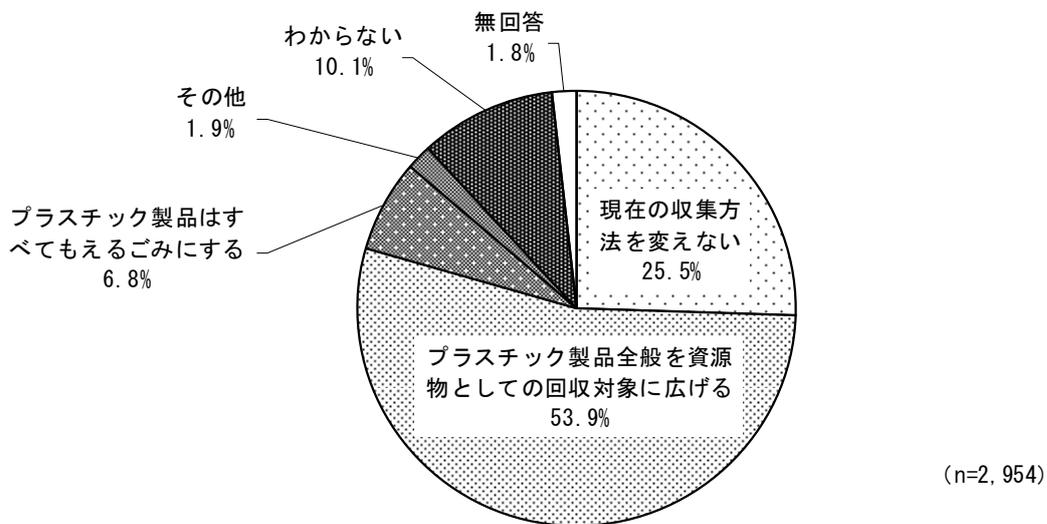
	n	コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店	区役所や公民館などの公共施設	カフェやレストランなどの飲食店	その他	特に思い浮かばない／わからない	無回答
全体	2,954	62.6	23.8	8.5	2.8	19.2	7.8
<居住区別>							
西 区	200	57.0	19.0	8.5	2.5	23.0	8.5
北 区	360	64.4	25.8	6.7	1.9	17.5	6.4
大宮区	277	61.7	19.1	11.9	2.9	18.8	9.0
見沼区	351	65.5	21.7	7.7	1.4	20.2	6.6
中央区	235	60.4	28.5	8.5	4.3	19.6	9.4
桜 区	190	60.5	25.3	7.9	2.1	22.1	7.4
浦和区	382	69.4	29.3	11.8	2.9	15.2	5.2
南 区	444	62.4	22.1	5.9	2.9	20.7	8.6
緑 区	271	59.0	25.5	8.1	2.6	20.3	8.9
岩槻区	234	59.4	19.7	9.4	5.6	17.1	9.4
<家族構成別>							
一人暮らし	335	55.8	22.4	9.9	3.6	24.2	9.9
夫婦だけ	776	59.9	22.3	7.0	1.9	19.6	10.6
親子(2世代)	1,589	64.9	25.2	8.6	3.1	18.3	6.0
親と子と孫(3世代)	153	64.7	24.2	11.8	3.3	19.0	6.5
その他	91	68.1	16.5	11.0	2.2	16.5	6.6

5. 家庭ごみの新しい収集方法と有料化について

(1) プラスチック製品の収集方法

問 27. 市では現在、ペットボトルおよび食品包装プラスチックを資源物として回収しています。しかし、令和3年6月に成立した「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」では、これまでもえるごみとして回収してきた発泡スチロールやプラスチックハンガー、歯ブラシといった広い範囲のプラスチック製品を、資源ごみとして回収することが求められます。あなたはプラスチック製品の収集方法についてどう思いますか。(○は1つ)

図5-1-1 プラスチック製品の収集方法



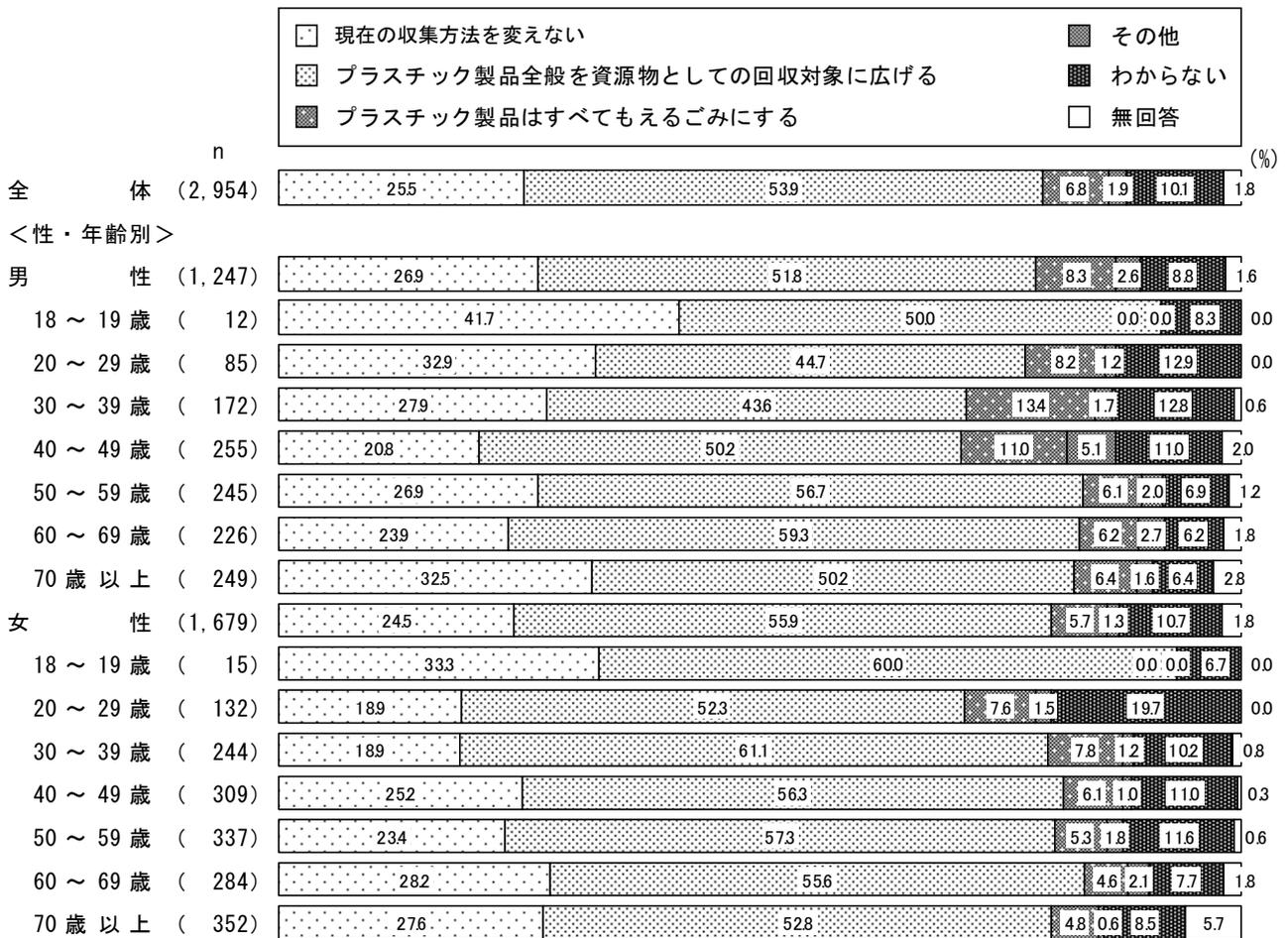
全体結果

プラスチック製品の収集方法については、「プラスチック製品全般を資源物としての回収対象に広げる」(53.9%)が最も多く、次いで「現在の収集方法を変えない」(25.5%)、「プラスチック製品はすべてもえるごみにする」(6.8%)の順となっている。(図5-1-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「プラスチック製品全般を資源物としての回収対象に広げる」が最も多く、男性20～39歳を除き5割を超えている。一方、「現在の収集方法を変えない」は男性20～29歳（32.9%）と70歳以上（32.5%）で3割強を占めている。（図5-1-2）

図5-1-2 プラスチック製品の収集方法—性・年齢別—

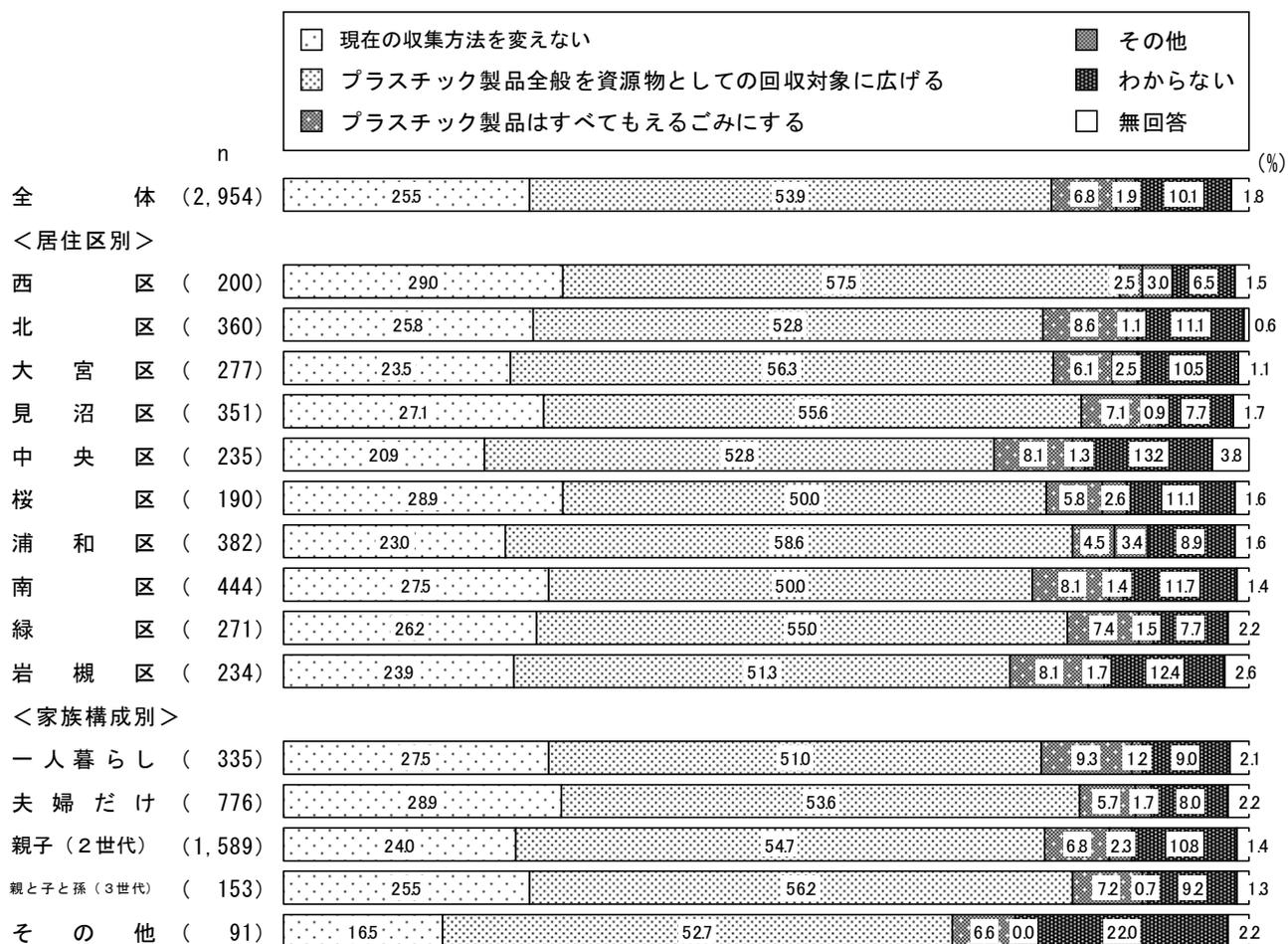


居住区別でみると、すべての区で「プラスチック製品全般を資源物としての回収対象に広げる」が5割台で最も多く、「現在の収集方法を変えない」が2割台で続いている。

家族構成別でみると、すべての家族構成で「プラスチック製品全般を資源物としての回収対象に広げる」が5割台で最も多く、その他を除き「現在の収集方法を変えない」が2割台で続いている。

(図5-1-3)

図5-1-3 プラスチック製品の収集方法—居住区別、家族構成別—



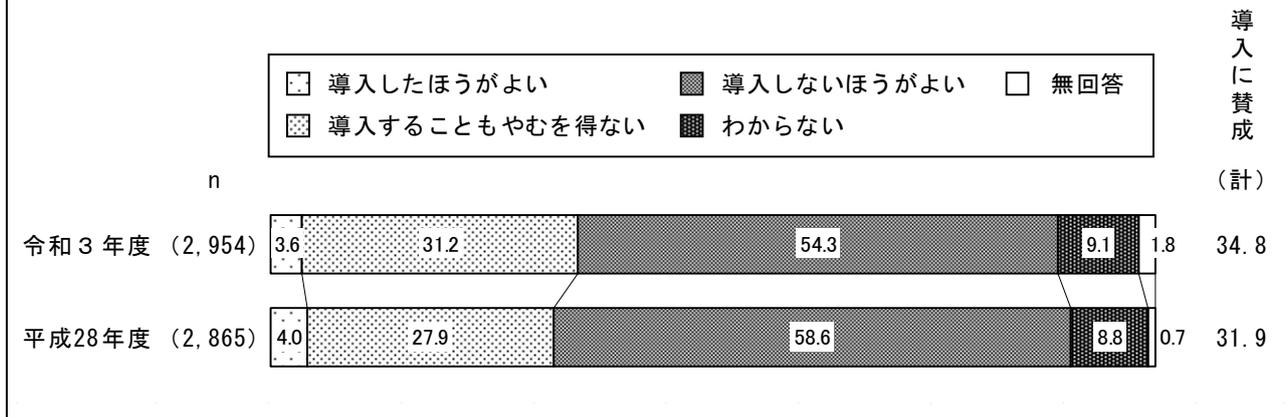
(2)「家庭ごみの有料化」の賛否

問 28. あなたは、市が「家庭ごみの有料化」を導入することについて、どう思いますか。

※ 導入されたときの金額がいくらであるかを、ここで考える必要はありません。

(○は1つ)

図5-2-1 「家庭ごみの有料化」の賛否



全体結果

家庭ごみの有料化を「導入したほうがよい」は3.6%、「導入することやむを得ない」は31.2%、両者を合わせた『導入に賛成 (計)』は34.8%となっている。一方、「導入しないほうがよい」(54.3%)は5割半ばであり、反対が賛成を大きく上回っている。

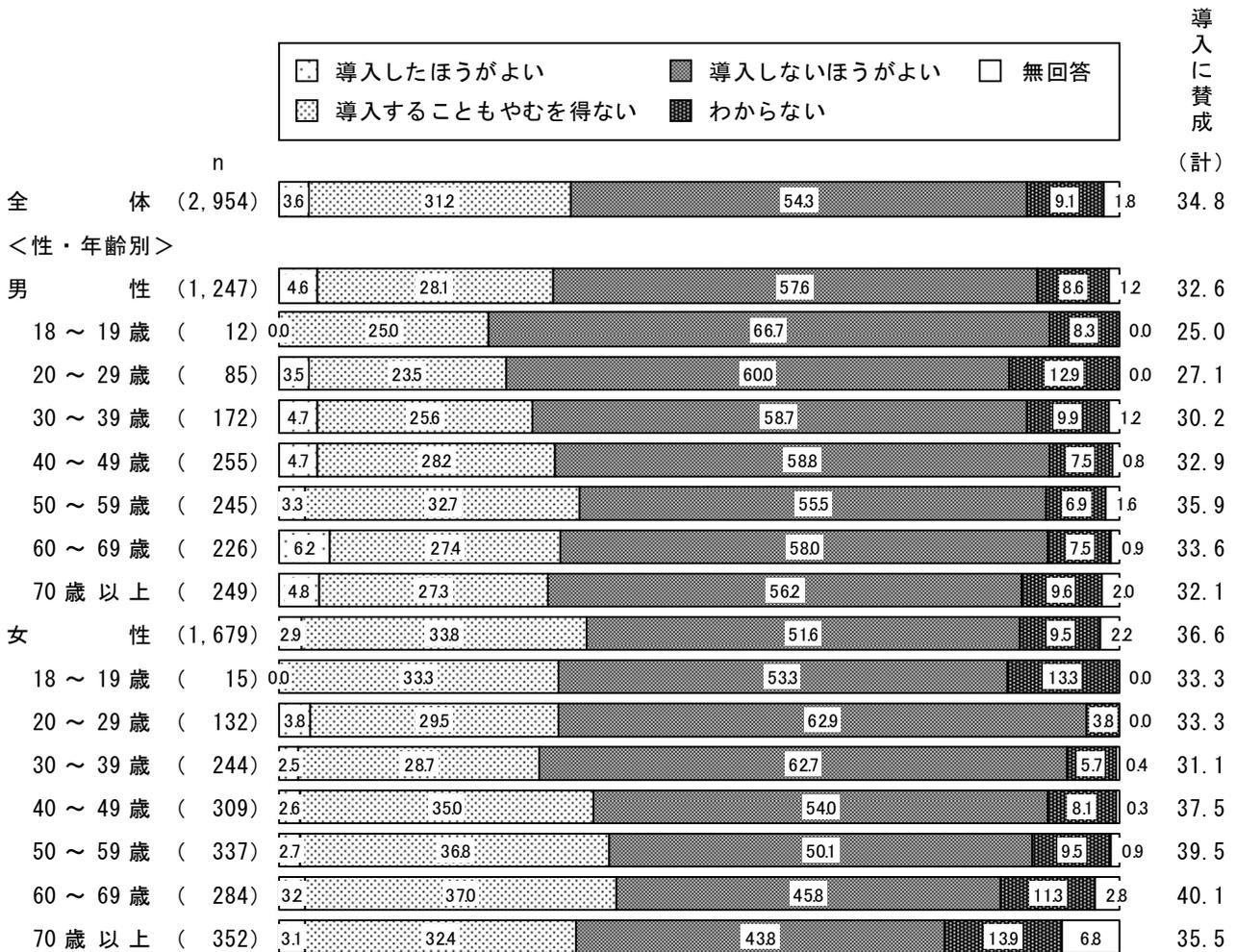
前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図5-2-1)

属性別

性・年齢別でみると、「導入しないほうがよい」は男性（57.6%）が女性（51.6%）を6.0ポイント上回っている。

「導入しないほうがよい」は女性60歳以上を除き5割を超え、男女ともすべての年齢で『導入に賛成（計）』を上回っている。一方、女性60～69歳は『導入に賛成（計）』（40.1%）が約4割を占め、「導入しないほうがよい」（45.8%）との差が最も少なくなっている。（図5-2-2）

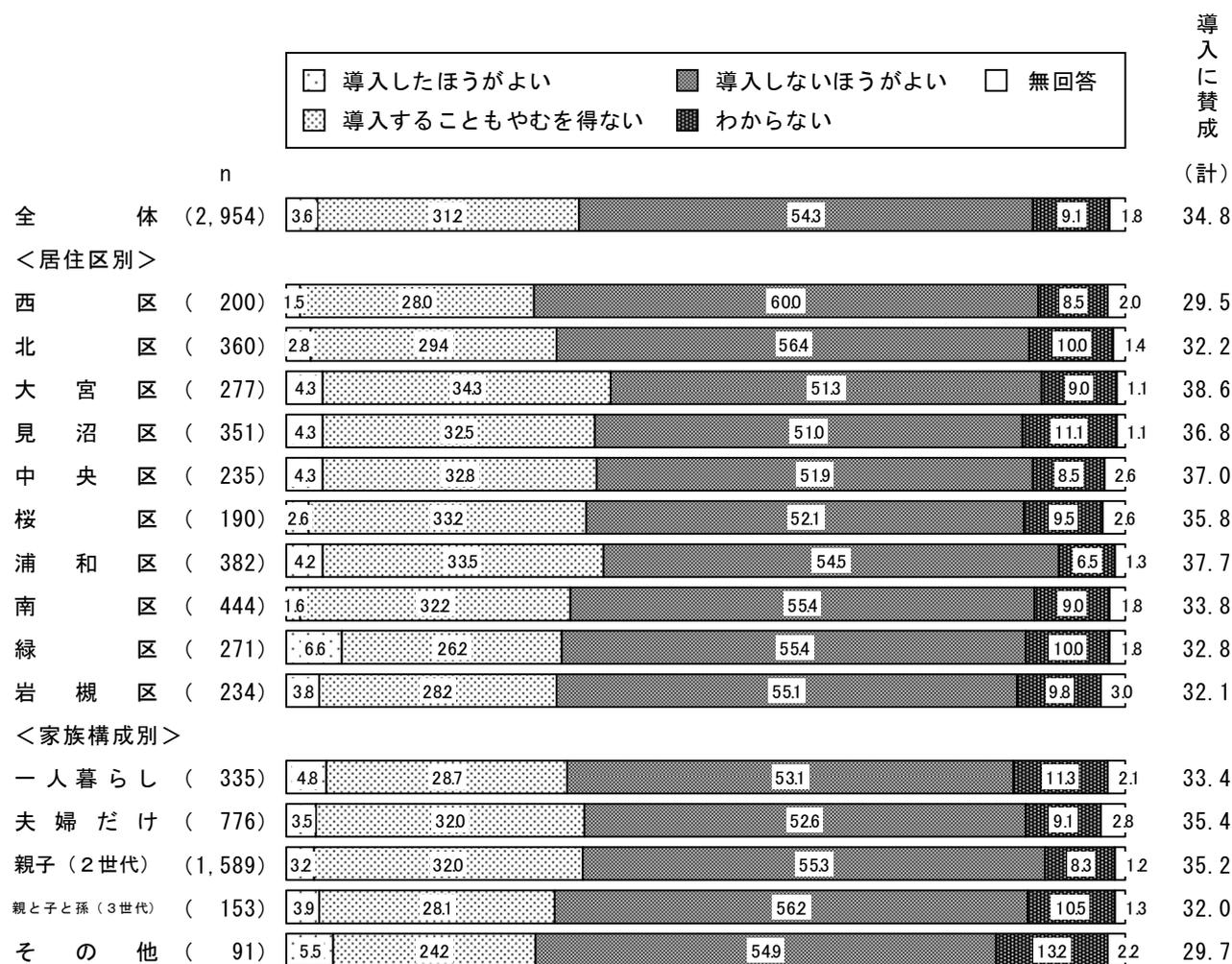
図5-2-2 「家庭ごみの有料化」の賛否－性・年齢別－



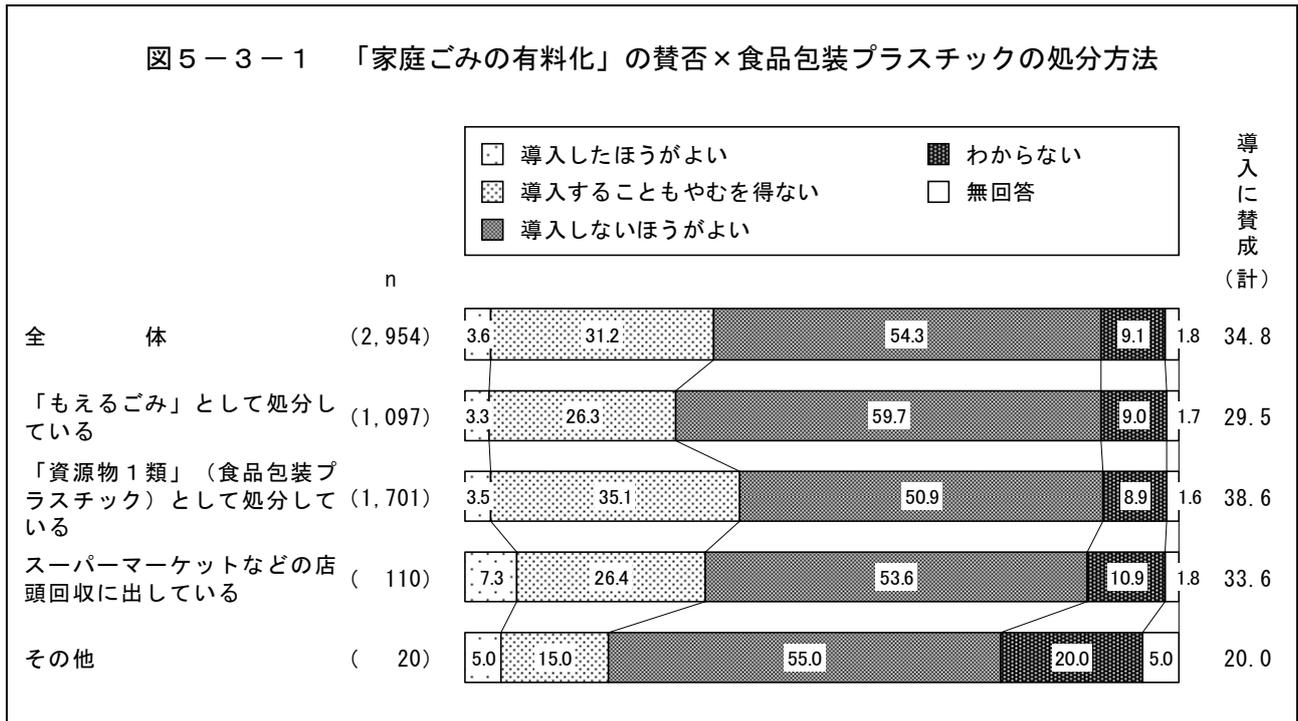
居住区別でみると、すべての区で「導入しないほうがよい」が5割を超え、『導入に賛成（計）』を上回っている。一方、『導入に賛成（計）』は大宮区（38.6%）を筆頭に西区（29.5%）以外の9区で3割台となっている。

家族構成別でみると、すべての家族構成で「導入しないほうがよい」が5割台となっており、『導入に賛成（計）』を上回っている。一方、『導入に賛成（計）』は夫婦だけ（35.4%）を筆頭にその他（29.7%）以外で3割台となっている。（図5-2-3）

図5-2-3 「家庭ごみの有料化」の賛否—居住区別、家族構成別—



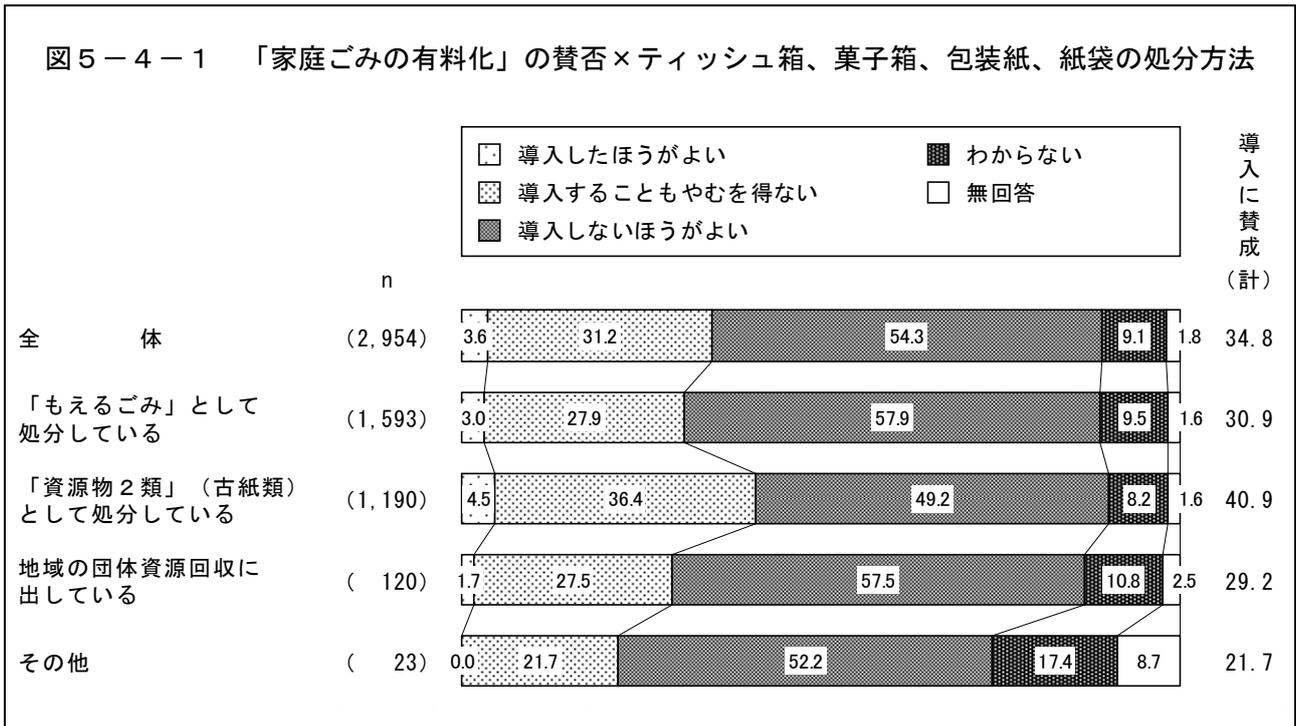
(3) 「家庭ごみの有料化」の賛否×食品包装プラスチックの処分方法



全体結果

家庭ごみ有料化の賛否と食品包装プラスチックの処分方法についてみると、「導入しないほうがよい」はいずれの処分方法でも過半数を占めている。一方、『導入に賛成(計)』は「資源物1類(食品包装プラスチック)として処分している」(38.6%)が最も多く、「もえるごみとして処分している」(29.5%)を9.1ポイント、「スーパーマーケットなどの店頭回収に出している」(33.6%)を5.0ポイント上回っている。(図5-3-1)

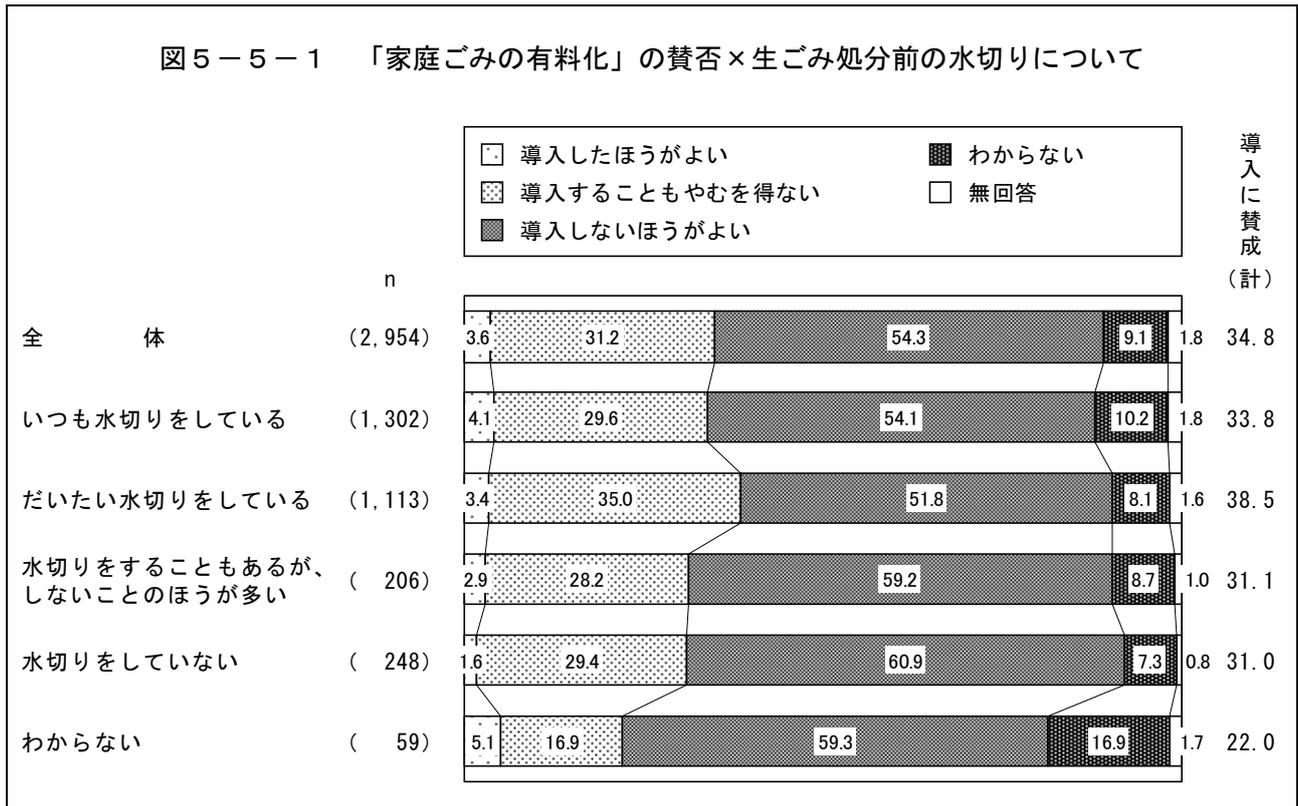
(4) 「家庭ごみの有料化」の賛否×ティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋の処分方法



全体結果

家庭ごみ有料化の賛否とティッシュ箱、菓子箱、包装紙、紙袋の処分方法についてみると、「導入しないほうがよい」は「資源物2類(古紙類)として処分している」(49.2%)を除いて過半数を占めている。一方、『導入に賛成(計)』は「資源物2類(古紙類)として処分している」(40.9%)が最も多く、「もえるごみとして処分している」(30.9%)や「地域の団体資源回収に出している」(29.2%)を約1割上回っている。(図5-4-1)

(5) 「家庭ごみの有料化」の賛否×生ごみ処分前の水切りについて



全体結果

家庭ごみ有料化の賛否と生ごみ処分前の水切りについてみると、いずれも「導入しないほうがよい」が過半数を占めているが、「水切りをすることもあるが、しないことのほうが多い」(59.2%)と「水切りをしていない」(60.9%)は、「だいたい水切りをしている」(51.8%)を約1割上回っている。一方、『導入に賛成(計)』は「だいたい水切りをしている」(38.5%)が「水切りをすることもあるが、しないことのほうが多い」(31.1%)と「水切りをしていない」(31.0%)を7ポイント以上上回っているが、「いつも水切りをしている」(33.8%)は全体を下回っている。(図5-5-1)

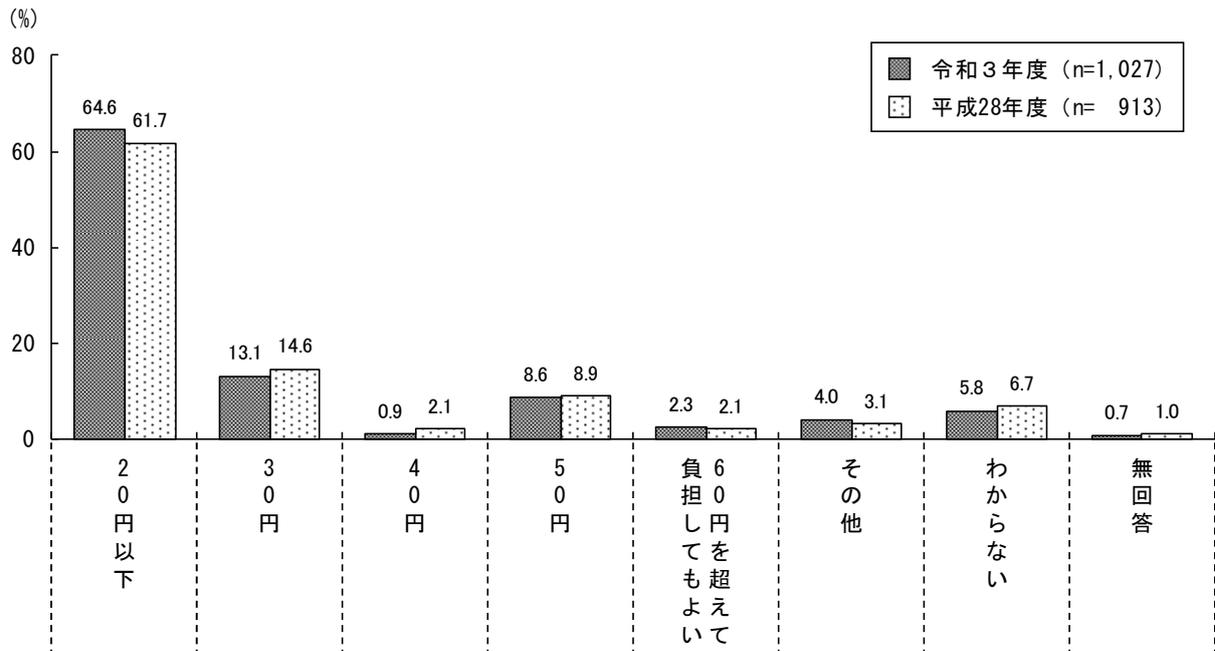
(6) 負担可能なごみ袋の価格

問 28. で「1」、「2」と回答した方に質問します。

問 28-1. 「家庭ごみの有料化」の導入により、ごみ袋が有料になったとしたら、あなたは、ごみ袋 1 枚（約 40～45ℓ）の価格がいくらまでであれば、負担してもよいと思いますか。

(○は 1 つ)

図 5-6-1 負担可能なごみ袋の価格



全体結果

ごみ袋が有料になった場合に負担可能な価格は、1 枚「20 円以下」(64.6%) が突出して多く、次いで「30 円」(13.1%)、「50 円」(8.6%) などの順となっている。

前回の調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。(図 5-6-1)

属性別

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「20円以下」が過半数を占め、女性40～59歳は7割台となっている。また、「30円」は男性40～59歳と女性30歳以上、「50円」は男性40～49歳（13.1%）と60歳以上の男女で1割台となっている。表5-6-1)

表5-6-1 負担可能なごみ袋の価格—性・年齢別—

	n	20円以下	30円	40円	50円	60円を超えて負担してもよい	その他	わからない	無回答
全体	1,027	64.6	13.1	0.9	8.6	2.3	4.0	5.8	0.7
<性・年齢別>									
男性	407	60.4	11.1	1.0	10.1	3.7	5.2	8.1	0.5
18～19歳	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
20～29歳	23	60.9	17.4	0.0	4.3	8.7	0.0	8.7	0.0
30～39歳	52	63.5	9.6	1.9	7.7	3.8	3.8	9.6	0.0
40～49歳	84	57.1	15.5	2.4	13.1	2.4	4.8	4.8	0.0
50～59歳	88	62.5	13.6	0.0	6.8	2.3	6.8	6.8	1.1
60～69歳	76	57.9	5.3	0.0	11.8	6.6	7.9	10.5	0.0
70歳以上	80	61.3	8.8	1.3	12.5	2.5	3.8	8.8	1.3
女性	615	67.2	14.6	0.8	7.6	1.5	3.3	4.2	0.8
18～19歳	5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	44	54.5	11.4	0.0	18.2	2.3	4.5	4.5	4.5
30～39歳	76	69.7	14.5	1.3	1.3	2.6	5.3	5.3	0.0
40～49歳	116	71.6	16.4	0.9	3.4	2.6	2.6	2.6	0.0
50～59歳	133	74.4	11.3	0.8	6.0	0.8	3.8	3.0	0.0
60～69歳	114	64.0	14.9	0.0	11.4	0.9	3.5	4.4	0.9
70歳以上	125	59.2	18.4	1.6	10.4	0.8	1.6	6.4	1.6

居住区別でみると、すべての区で「20円以下」が過半数を占めており、桜区（75.0%）で7割を超える一方、浦和区（56.9%）は約2割少なくなっている。また、「30円」は岩槻区（9.3%）以外、「50円」は浦和区（12.5%）、大宮区（11.2%）、緑区（11.2%）、南区（10.7%）で1割台となっている。

家族構成別でみると、いずれも「20円以下」が5割以上を占めているが、一人暮らし（50.0%）に比べ、夫婦だけ（64.4%）と親子（2世代）（67.4%）は1割以上多くなっている。また、「30円」はすべての家族構成で、「50円」は夫婦だけ（11.6%）と一人暮らし（10.7%）で1割台となっている。

（表5-6-2）

表5-6-2 負担可能なごみ袋の価格－居住区別、家族構成別－

		(%)							
	n	20円以下	30円	40円	50円	60円を超えて負担してもよい	その他	わからない	無回答
全体	1,027	64.6	13.1	0.9	8.6	2.3	4.0	5.8	0.7
＜居住区別＞									
西 区	59	66.1	15.3	0.0	3.4	3.4	1.7	10.2	0.0
北 区	116	68.1	12.9	0.0	6.9	0.9	1.7	6.9	2.6
大 宮 区	107	63.6	15.0	2.8	11.2	0.0	4.7	2.8	0.0
見 沼 区	129	63.6	10.9	0.8	7.8	3.1	4.7	8.5	0.8
中 央 区	87	65.5	11.5	0.0	4.6	5.7	3.4	8.0	1.1
桜 区	68	75.0	10.3	0.0	4.4	1.5	2.9	5.9	0.0
浦 和 区	144	56.9	15.3	0.7	12.5	4.2	4.9	5.6	0.0
南 区	150	62.0	14.7	0.7	10.7	2.0	6.0	4.0	0.0
緑 区	89	65.2	14.6	2.2	11.2	2.2	1.1	2.2	1.1
岩 槻 区	75	68.0	9.3	1.3	6.7	0.0	6.7	6.7	1.3
＜家族構成別＞									
一人暮らし	112	50.0	13.4	3.6	10.7	4.5	8.9	8.9	0.0
夫婦だけ	275	64.4	11.6	1.5	11.6	1.5	3.3	5.8	0.4
親子（2世代）	559	67.4	14.1	0.2	7.2	1.8	3.6	5.2	0.5
親と子と孫（3世代）	49	67.3	12.2	0.0	4.1	4.1	2.0	8.2	2.0
その他	27	55.6	11.1	0.0	7.4	11.1	3.7	3.7	7.4

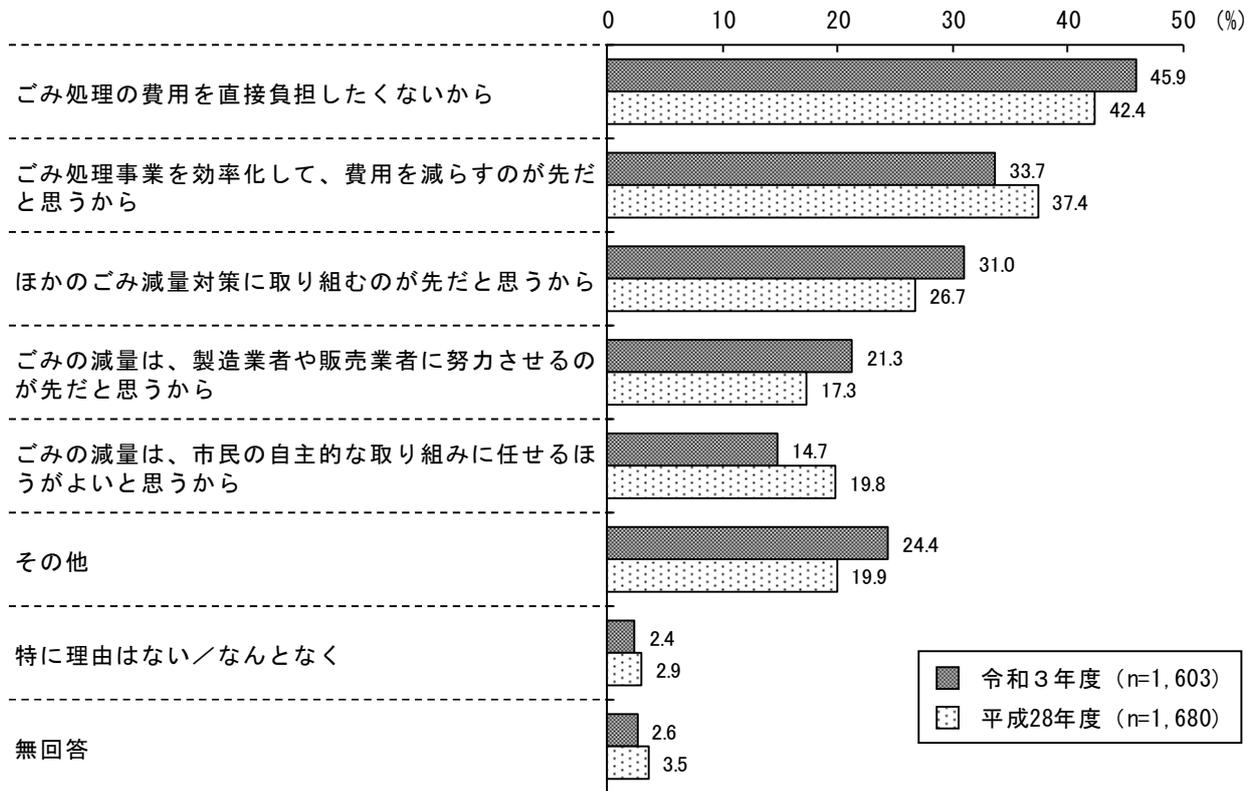
(7)「家庭ごみの有料化」導入反対の理由

問 28. で「3」と回答した方に質問します。

問 28-2. あなたが、「家庭ごみの有料化」を導入しないほうがよいと思う理由は何ですか。

(○はいくつでも)

図 5-7-1 「家庭ごみの有料化」導入反対の理由



全体結果

家庭ごみの有料化導入に反対する理由は、「ごみ処理の費用を直接負担したくないから」(45.9%)が最も多く、次いで「ごみ処理事業を効率化して、費用を減らすのが先だと思うから」(33.7%)、「ほかのごみ減量対策に取り組むのが先だと思うから」(31.0%)などの順となっている。

前回の調査と比較すると、「ほかのごみ減量対策に取り組むのが先だと思うから」は平成28年度(26.7%)より4.3ポイント、「ごみの減量は、製造業者や販売業者に努力させるのが先だと思うから」は平成28年度(17.3%)より4.0ポイント増加している。一方、「ごみの減量は、市民の自主的な取り組みに任せるほうがよいと思うから」(14.7%)は平成28年度(19.8%)と比べ、5.1ポイント減少している。(図5-7-1)

属性別

性・年齢別で見ると、「ごみ処理の費用を直接負担したくないから」は女性（48.8%）が男性（42.6%）を6.2ポイント上回っている。

男性60歳以上は「ごみ処理事業を効率化して、費用を減らすのが先だと思うから」、それ以外は「ごみ処理の費用を直接負担したくないから」が最も多くなっている。前者は男性70歳以上（40.7%）で約4割を占め、後者は男性39歳以下で5割、女性39歳以下で6割以上を占めるが、おおむね年齢が上がるにつれ減少する傾向にあり、男性60歳以上と女性70歳以上（37.7%）は3割台となっている。また、「ごみの減量は、製造業者や販売業者に努力させるのが先だと思うから」「ごみの減量は、市民の自主的な取り組みに任せるほうがよいと思うから」は男女とも70歳以上で全体を6ポイント以上上回り、前者は男性70歳以上（31.4%）で3割を超えている。（表5-7-1）

表5-7-1 「家庭ごみの有料化」導入反対の理由－性・年齢別－

	n	たごみ くみ 処理 から 費用 を 直接 負担 し	か ら 費用 を 減 ら す 業 務 が 先 だ と 思 う	む ほ の か が の 先 だ と 思 う 対 策 に 取 り 組	と 売 業 者 に 減 量 を 努 力 さ せ る 業 者 が 先 だ と 思 う か ら	い な ご み の 減 量 は 、 市 民 の 自 主 的 な 取 組 み に 任 せ る ほ う が よ い と 思 う か ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い ／ な ん と な く	無 回 答
全 体	1,603	45.9	33.7	31.0	21.3	14.7	24.4	2.4	2.6
<性・年齢別>									
男 性	718	42.6	34.4	29.1	22.4	14.6	26.9	2.8	2.1
18～19歳	8	50.0	12.5	37.5	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0
20～29歳	51	56.9	33.3	17.6	21.6	11.8	31.4	2.0	0.0
30～39歳	101	50.5	30.7	30.7	18.8	10.9	27.7	5.0	2.0
40～49歳	150	44.0	32.0	29.3	16.0	13.3	34.0	1.3	2.0
50～59歳	136	41.2	31.6	31.6	23.5	10.3	27.2	1.5	0.7
60～69歳	131	35.9	38.2	23.7	22.9	19.1	25.2	3.8	1.5
70歳以上	140	37.1	40.7	34.3	31.4	20.7	18.6	3.6	5.0
女 性	867	48.8	33.2	32.2	19.8	14.8	22.5	2.1	3.0
18～19歳	8	100.0	25.0	50.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0
20～29歳	83	67.5	19.3	28.9	9.6	14.5	21.7	1.2	0.0
30～39歳	153	60.8	32.7	34.6	15.0	13.1	28.1	2.0	0.0
40～49歳	167	40.7	36.5	31.7	15.0	10.8	28.7	4.2	1.8
50～59歳	169	45.6	30.2	32.0	19.5	8.3	29.6	1.2	0.6
60～69歳	130	46.9	38.5	34.6	25.4	18.5	16.9	1.5	4.6
70歳以上	154	37.7	36.4	28.6	29.2	24.0	9.1	1.9	10.4

居住区別でみると、すべての区で「ごみ処理の費用を直接負担したくないから」が最も多く、南区（51.2%）、岩槻区（51.2%）、西区（50.0%）で5割台となっている。一方、浦和区（39.9%）は南区などを約1割下回っている。また、桜区は「ごみ処理事業を効率化して、費用を減らすのが先だと思うから」（42.4%）、「ほかのごみ減量対策に取り組むのが先だと思うから」（36.4%）、「ごみの減量は、市民の自主的な取り組みに任せるほうがよいと思うから」（20.2%）で全体を5ポイント以上上回っている。「ごみ処理事業を効率化して、費用を減らすのが先だと思うから」は緑区（28.0%）を除く8区、「ほかのごみ減量対策に取り組むのが先だと思うから」は桜区を含む6区で3割台となっている。

家族構成別でみると、いずれも「ごみ処理の費用を直接負担したくないから」が最も多くなっているが、親と子と孫（3世代）（40.7%）は一人暮らし（45.5%）～親子（2世代）（45.8%）と比べ、約5ポイント下回っている。一方、「ごみ処理事業を効率化して、費用を減らすのが先だと思うから」「ほかのごみ減量対策に取り組むのが先だと思うから」はおおむね家族の人数が増えるにつれ増加する傾向にあり、親と子と孫（3世代）はいずれも全体を5ポイント以上上回っている。（表5-7-2）

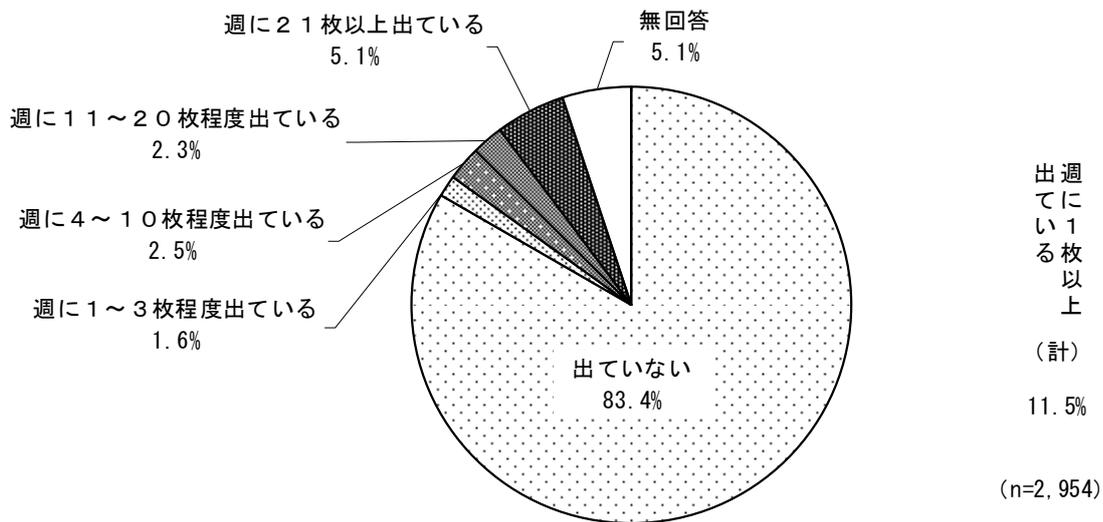
表5-7-2 「家庭ごみの有料化」導入反対の理由－居住区別、家族構成別－

	n	たごみ く な い 理 の 費 用 を 直 接 負 担 し	か 費 用 を 減 ら す の が 先 だ と 思 う	む ほ か の 先 だ と 思 う か ら	と 売 業 者 の 減 量 力 を 強 め よ う と 思 う か ら	い な ご み の 減 量 に 任 せ る の が 主 よ い と 思 う か ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い ／ な ん と も な く	無 回 答
全 体	1,603	45.9	33.7	31.0	21.3	14.7	24.4	2.4	2.6
<居住区別>									
西 区	120	50.0	30.8	23.3	23.3	14.2	28.3	2.5	6.7
北 区	203	41.4	32.5	29.6	21.2	14.3	24.1	2.0	2.0
大 宮 区	142	45.8	33.1	28.2	23.9	14.8	30.3	1.4	0.7
見 沼 区	179	40.2	35.8	36.3	22.9	14.0	21.2	6.1	0.6
中 央 区	122	49.2	32.8	32.8	18.9	16.4	22.1	0.0	1.6
桜 区	99	44.4	42.4	36.4	25.3	20.2	16.2	1.0	4.0
浦 和 区	208	39.9	37.0	33.2	18.8	15.4	26.9	2.9	2.4
南 区	246	51.2	32.5	32.5	23.2	15.4	20.3	3.3	4.1
緑 区	150	49.3	28.0	30.0	14.0	9.3	31.3	1.3	1.3
岩 槻 区	129	51.2	32.6	25.6	22.5	14.7	24.0	0.8	2.3
<家族構成別>									
一人暮らし	178	45.5	30.9	29.2	22.5	13.5	23.0	3.4	5.1
夫婦だけ	408	46.3	34.6	30.1	25.7	17.4	23.5	2.7	3.4
親子（2世代）	879	45.8	33.3	31.3	18.7	13.9	25.0	2.3	1.6
親と子と孫 （3世代）	86	40.7	39.5	37.2	20.9	15.1	24.4	1.2	1.2
その他	50	54.0	32.0	28.0	26.0	12.0	24.0	0.0	6.0

(8) 「紙おむつ」等の使用状況

問 29. 近年、使用済み紙おむつを衛生的にリサイクルする技術が確立されてきており、市では家庭ごみの新しい収集方法として「紙おむつ」の分別回収を検討しています。
あなたのご家庭から、ふだん紙おむつや紙パンツのごみは出ていますか。(○は1つ)

図 5-8-1 「紙おむつ」等の使用状況



全体結果

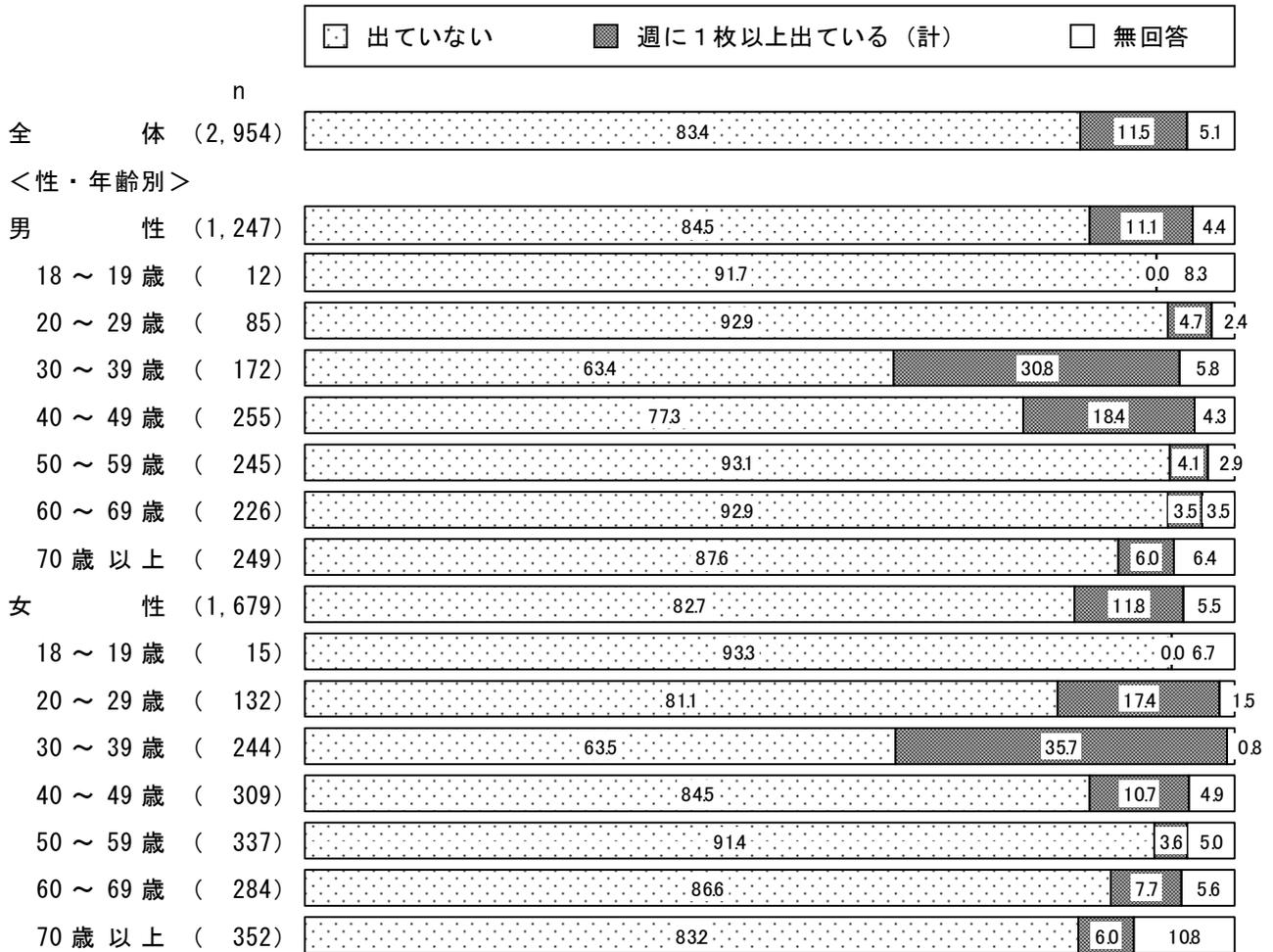
「紙おむつ」等の使用状況については、「出ていない」(83.4%)が突出して多く、次いで「週に21枚以上出ている」(5.1%)、「週に4～10枚程度出ている」(2.5%)、「週に11～20枚程度出ている」(2.3%)、「週に1～3枚程度出ている」(1.6%)の順となっている。「週に1～3枚程度出ている」～「週に21枚以上出ている」を合わせた『週に1枚以上出ている(計)』は11.5%となっている。

(図5-8-1)

属性別

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で「出ていない」が過半数を占め、30～49歳男性と30～39歳女性を除き8割を超えている。一方、『週に1枚以上出ている（計）』は30～39歳で男女とも3割台を占め、男性40～49歳（18.4%）、女性20～29歳（17.4%）、女性40～49歳（10.7%）も1割台となっている。（図5-8-2）

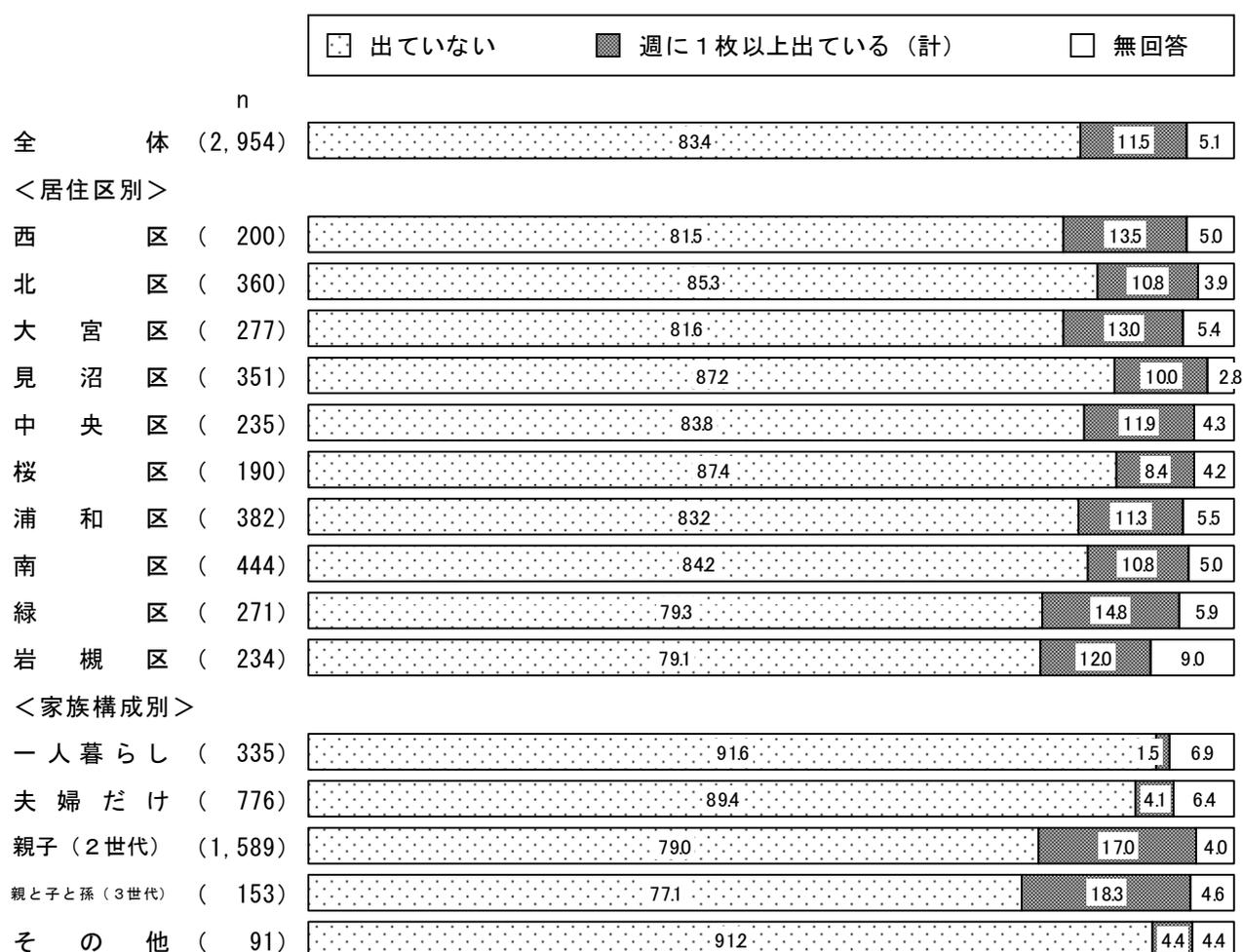
図5-8-2 「紙おむつ」等の使用状況－性・年齢別－



居住区別でみると、すべての区で「出ていない」が過半数を占め、緑区（79.3%）と岩槻区（79.1%）以外の8区で8割台となっている。一方、『週に1枚以上出ている（計）』は桜区（8.4%）を除き1割台となっている。

家族構成別でみると、いずれも「出ていない」が7割以上を占めるが、家族の人数が増えるにつれ減少する傾向にあり、親子（2世代）（79.0%）と親と子と孫（3世代）（77.1%）は、一人暮らし（91.6%）と夫婦だけ（89.4%）に比べ、1割以上少なくなっている。一方、『週に1枚以上出ている（計）』は親子（2世代）（17.0%）と親と子と孫（3世代）（18.3%）で2割弱を占めている。（図5-8-3）

図5-8-3 「紙おむつ」等の使用状況－居住区別、家族構成別－

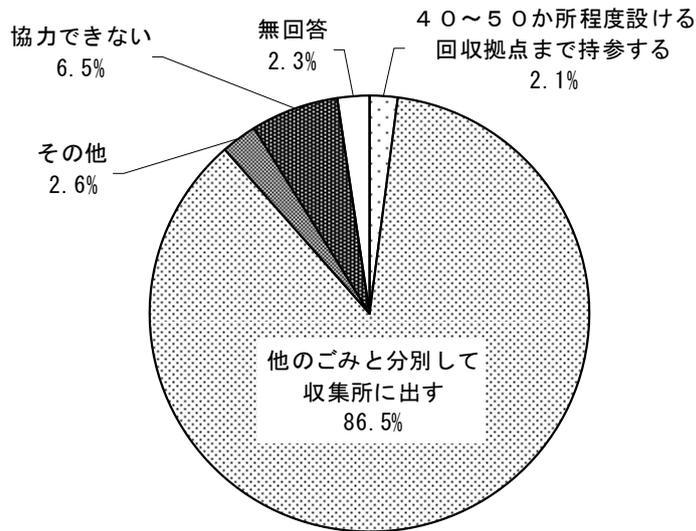


(9) 「紙おむつ」等の回収方法

問 29. で「2～5」と回答した方に質問します。

問 29-1. リサイクルを推進するため、使用済み紙おむつや紙パンツを回収した場合、あなたは、どのような回収方法であれば、リサイクルに協力したいと思いますか。(○は1つ)

図 5-9-1 「紙おむつ」等の回収方法



(n=341)

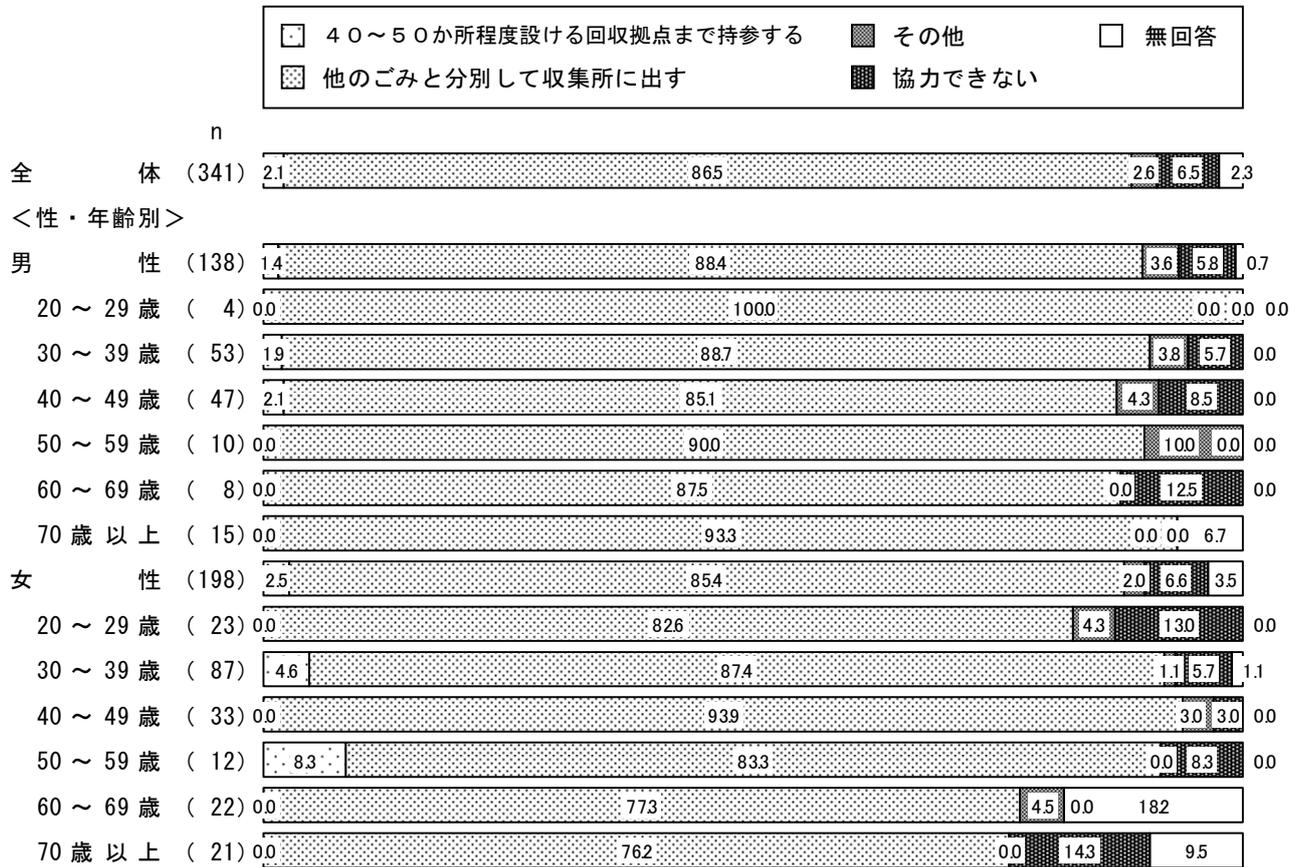
全体結果

「紙おむつ」等の回収方法については、「他のごみと分別して収集所に出す」(86.5%)が突出して多く、「40～50か所程度設ける回収拠点まで持参する」(2.1%)は1割未満となっている。一方、「協力できない」は6.5%となっている。(図5-9-1)

属性別

性・年齢別で見ると、30～39歳は男女とも「他のごみと分別して収集所に出す」が9割弱となっている。(図5-9-2)

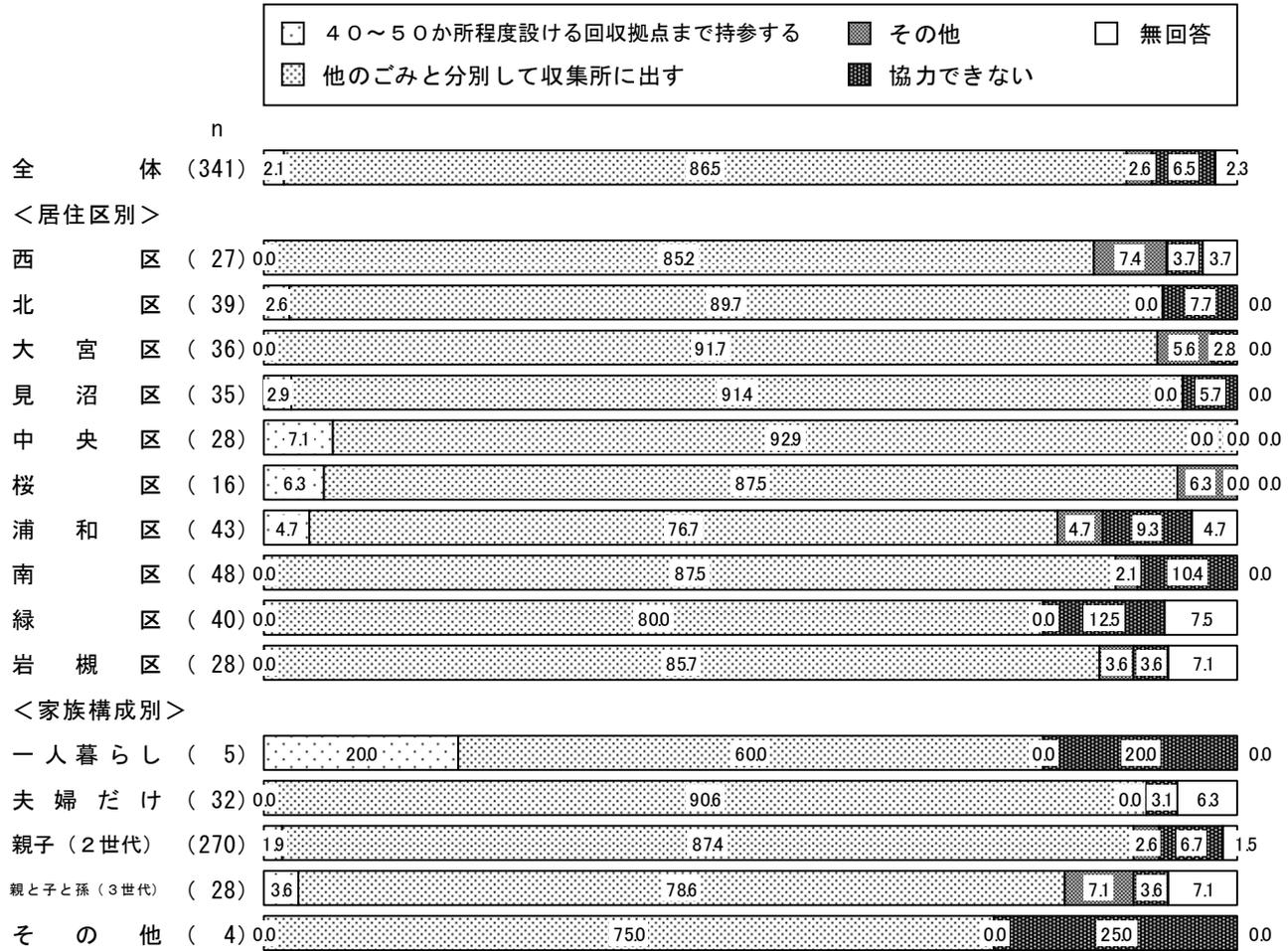
図5-9-2 「紙おむつ」等の回収方法—性・年齢別—



(※) 男女18～19歳は該当者なし

家族構成別でみると、親子（2世代）は「他のごみと分別して収集所に出す」（87.4%）が9割弱を占めている。（図5-9-3）

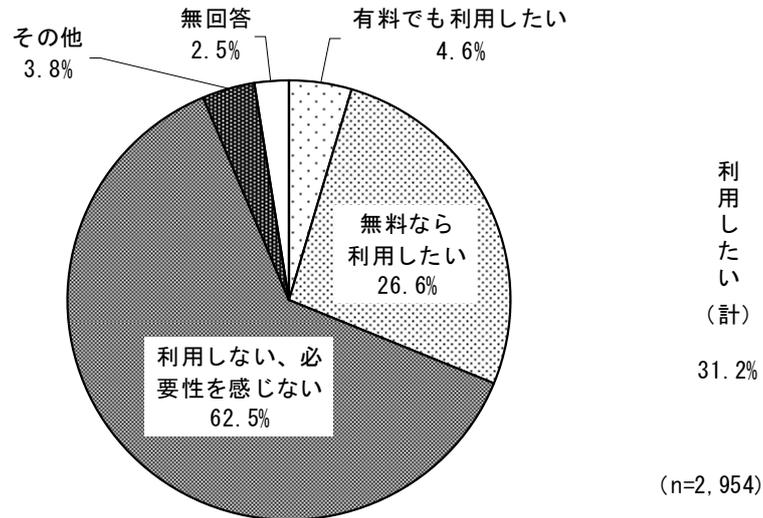
図5-9-3 「紙おむつ」等の回収方法－居住区別、家族構成別－



(10) 「ふれあい収集」の利用意向

問 30. 市では、自らごみを収集所に出すことができない一人暮らしの高齢者や障害者の方に、戸別に訪問してごみを収集する「ふれあい収集」を実施しています。
これを、一般世帯に対象を広げるとしたら、あなたは利用したいですか。(○は1つ)

図5-10-1 「ふれあい収集」の利用意向



全体結果

「ふれあい収集」の利用意向については、「利用しない、必要性を感じない」(62.5%)が最も多く、次いで「無料なら利用したい」(26.6%)、「有料でも利用したい」(4.6%)の順となっている。「無料なら利用したい」と「有料でも利用したい」を合わせた『利用したい(計)』は31.2%となっている。

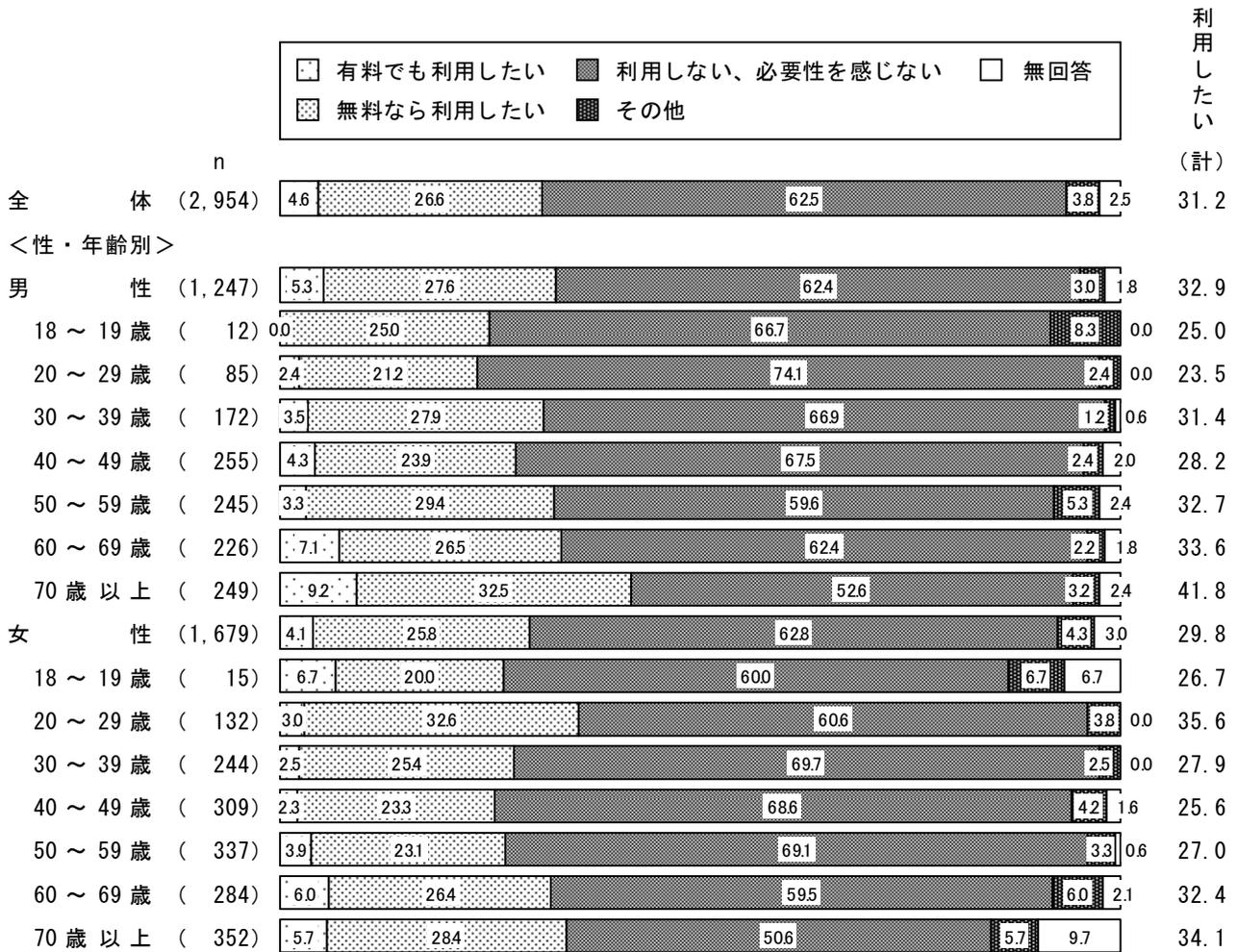
(図5-10-1)

属性別

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で「利用しない、必要性を感じない」が過半数を占めているが、高齢者ほど低い傾向にある。一方、『利用したい(計)』は男性70歳以上(41.8%)が最も多く、男性30～39歳(31.4%)と50～69歳、女性20～29歳(35.6%)と60歳以上で3割台となっている。

(図5-10-2)

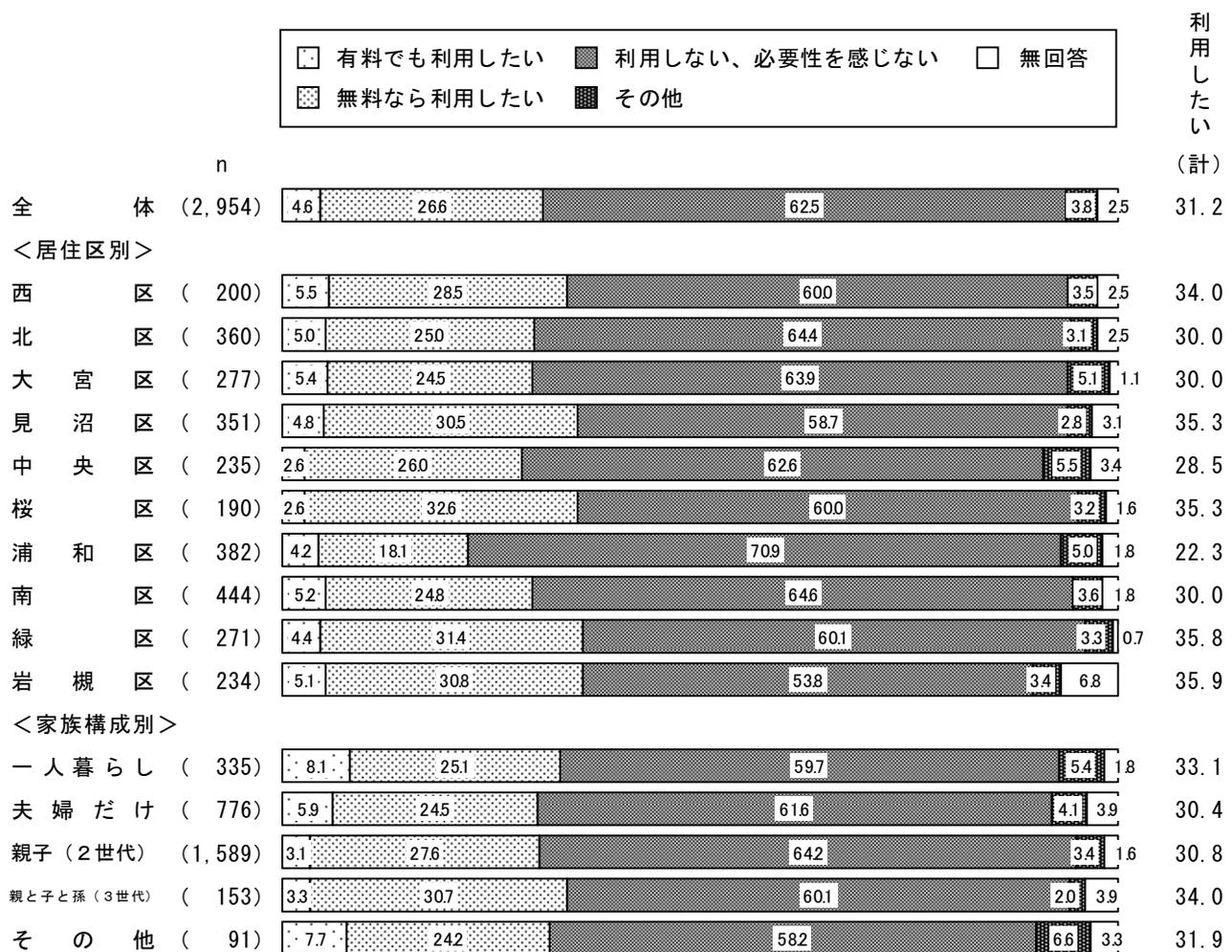
図5-10-2 「ふれあい収集」の利用意向—性・年齢別—



居住区別でみると、すべての区で「利用しない、必要性を感じない」は過半数を占めている。一方、『利用したい（計）』は岩槻区（35.9%）が最も多く、浦和区（22.3%）、中央区（28.5%）以外の8区で3割台となっている。

家族構成別でみると、「利用しない、必要性を感じない」は親子（2世代）（64.2%）を筆頭に、いずれも過半数を占めている。一方、『利用したい（計）』は親と子と孫（3世代）（34.0%）を筆頭に、いずれも3割台となっている。（図5-10-3）

図5-10-3 「ふれあい収集」の利用意向—居住区別、家族構成別—

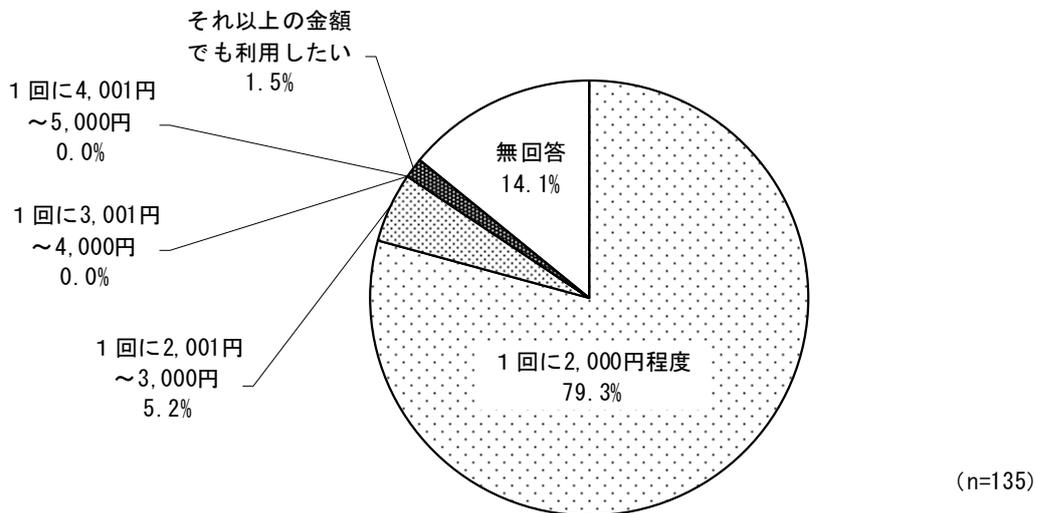


(11) 「ふれあい収集」の利用希望額

問 30. で「1」と回答した方に質問します。

問 30-1. いくらなら利用したいですか。(○は1つ)

図 5-11-1 「ふれあい収集」の利用希望額



全体結果

「ふれあい収集」の利用希望額については、「1回に2,000円程度」(79.3%)が突出して多く、次いで「1回に2,001円～3,000円」(5.2%)、「それ以上の金額でも利用したい」(1.5%)などの順となっている。(図5-11-1)

属性別

性別でみると、「1回に2,000円程度」は男性（81.8%）が女性（76.5%）を5.3ポイント上回っている。

家族構成別でみると、親子（2世代）は「1回に2,000円程度」（76.0%）が7割半ばとなっている。

（図5-11-2）

図5-11-2 「ふれあい収集」の利用希望額—性別、年齢別、居住区別、家族構成別—

(%)

	n	1回に 2,000円 程度	1回に 2,001円～ 3,000円	1回に 3,001円～ 4,000円	1回に 4,001円～ 5,000円	それ以上の 金額でも 利用したい	無回答
全 体	135	79.3	5.2	0.0	0.0	1.5	14.1
< 性別 >							
男 性	66	81.8	6.1	0.0	0.0	1.5	10.6
女 性	68	76.5	4.4	0.0	0.0	1.5	17.6
< 年齢別 >							
18～19歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳	12	75.0	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7
40～49歳	18	83.3	0.0	0.0	0.0	11.1	5.6
50～59歳	21	81.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0
60～69歳	33	78.8	9.1	0.0	0.0	0.0	12.1
70歳以上	43	76.7	4.7	0.0	0.0	0.0	18.6
< 居住区別 >							
西 区	11	81.8	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
北 区	18	88.9	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6
大 宮 区	15	86.7	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3
見 沼 区	17	64.7	11.8	0.0	0.0	0.0	23.5
中 央 区	6	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
桜 区	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
浦 和 区	16	62.5	12.5	0.0	0.0	6.3	18.8
南 区	23	73.9	8.7	0.0	0.0	0.0	17.4
緑 区	12	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
岩 槻 区	12	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
< 家族構成別 >							
一人暮らし	27	85.2	7.4	0.0	0.0	0.0	7.4
夫婦だけ	46	78.3	4.3	0.0	0.0	0.0	17.4
親子（2世代）	50	76.0	2.0	0.0	0.0	4.0	18.0
親と子と孫 （3世代）	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0

III. 自由意見

1. 自由意見

回答者に、ごみ減量について市役所への意見や要望を自由記述形式で聞いたところ、788 人から 1,320 件の回答が寄せられた。その内容をまとめた結果は以下のとおりである。

【自由意見の項目】

自由意見の項目を分類したところ、下記の表のとおりとなった。

大項目では、「家庭ごみの新しい収集方法と有料化」(424 件)が最も多く、次いで「3Rの意識・プラスチックごみ」(309 件)、「ごみの分別」(260 件)などの順となっている。

小項目では、「家庭ごみの有料化」(269 件)が最も多く、次いで「ごみの分別、出し方」(260 件)、「事業者の取り組み(3Rの意識・プラスチックごみ)」(108 件)などの順となっている。

大項目	小項目	件数
1. ごみの分別 (260 件)	(1) ごみの分別、出し方	260
2. 市政との関わり (121 件)	(1) 小型家電リサイクル事業	4
	(2) さいたま市ごみ分別アプリ	9
	(3) さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業	21
	(4) 情報発信	68
	(5) その他	19
3. 3Rの意識・プラスチックごみ (309 件)	(1) 市民の取り組み	74
	(2) 事業者の取り組み	108
	(3) 市の取り組み	75
	(4) レジ袋有料化	21
	(5) その他	31
4. 食品ロス (14 件)	(1) 市民の取り組み	2
	(2) 事業者の取り組み	4
	(3) 市の取り組み	8
5. 家庭ごみの新しい収集方法と有料化 (424 件)	(1) プラスチック製品の収集方法	33
	(2) 家庭ごみの収集方法	97
	(3) 家庭ごみの有料化	269
	(4) 紙おむつのリサイクル	10
	(5) その他	15
6. その他 (192 件)	(1) 市民意識調査	94
	(2) その他	98
合計		1320

【自由意見の具体的記述】

1	ごみの分別	260 件
(1)	ごみの分別、出し方	260 件
●	ごみ出しマナーの改善（集積所担当者の負担、分別の徹底、不法投棄の取り締まりなど）	54 件
●	ごみ集積所の改善（カラス対策、収集ボックス設置、分別のイラスト掲示など）	28 件
●	特定属性への周知、指導強化（集合住宅、外国人、自治会未加入者、高齢者など）	23 件
●	資源物などを投入する回収容器（カゴ）の設置（袋に入れて出すのは資源の無駄など）	21 件
●	分別、出し方がわかりにくい（植物、粗大ごみに近い大物、複合材料など）	18 件
●	分別制度が不十分（分別の強化、資源物の回収品目増加など）	17 件
●	リサイクルステーション、回収ボックスの増設（いつでも出せる、商業施設に設置など）	12 件
●	「家庭ごみの出し方マニュアル」の改善（早見表の細分化、文字サイズなど）	11 件
●	集積所用地の確保（人口増加への対応、路上ではなく宅地内に設置など）	9 件
●	過度の規制は逆効果（分別を諦める人が増える、不法投棄が増えるなど）	8 件
●	記名式の導入（責任感が出る、不法投棄との区別、減量につながるなど）	7 件
●	「家庭ごみの出し方マニュアル」を評価	5 件
●	容器、トレイなどの洗浄は水資源の無駄ではないか	5 件
●	全国一律の制度、ルールが望ましい（自治体ごとに差異がありわかりづらいなど）	5 件
●	処理場への持ち込み拡充（粗大ゴミ、伐採物、スプレー缶など）	4 件
●	さいたま市の分別制度を評価	3 件
●	防鳥ネット、ごみフェンスの普及でカラスの被害が減った	3 件
●	資源ごみの持ち去り防止	2 件
●	集積所で勝手にルールを設ける住民がいて迷惑	2 件
●	制度の変化に追いつけない	2 件
●	集積所に分別を確認する担当者を配置することで、適正化が進む	2 件
●	生ごみを一旦冷凍することで臭いが軽減される	1 件
●	燃えるごみを裁断して出している	1 件
●	定型のごみ箱を町内会に提供	1 件
●	路上に新しくできたごみ集積所が邪魔	1 件
●	粗大ごみの回収法をなるべく簡略化してほしい	1 件
●	全ての製品に分別用ナンバリングを行い、回収日もそれに従い分ける	1 件
●	既存の処分方法の見直し（燃えるごみ、植物類などを埋め立て土に返すなど）	1 件
●	ライターや電池は回収ボックス等を設置し、月 1～2 回の回収でよい	1 件
●	マンション管理がきちんとしている	1 件
●	自治会に加入しないとごみ出しができないのはおかしい	1 件
●	再利用可能衣類の回収日を月 1 回程度設けてほしい	1 件
●	濡れた服の回収が迷惑	1 件
●	衣類の資源物 2 類としての出し方が、再使用する事を前提としているように感じる	1 件
●	隣接している桜並木から出るごみ用のごみ袋を支給してほしい	1 件
●	不法投棄防止のため、市・区・回収業者を含めた柔軟な対応を求める（集積所施錠の認可）	1 件

● ごみ出しマニュアルだけでなく、市報にも分別表を載せてほしい	1 件
● 狭いマンションでの分別が負担	1 件
● 誰でも出しやすい制度であってほしい	1 件
● 自治会の集積所と集合住宅の集積所が別々なのはおかしい（相互利用可能にするべき）	1 件
2 市政との関わり	121 件
(1) 小型家電リサイクル事業	4 件
● 委託業者の信頼性に関する情報提供(業者名、実績など)	1 件
● 回収ボックスをこまめに空にしてほしい（いっぱいに入らない）	1 件
● 回収ボックスの増設（身近な場所に）	1 件
● 小型家電のリサイクルは手軽に協力できるエコ活動	1 件
(2) さいたま市ごみ分別アプリ	9 件
● アプリのPR強化（存在を知らなかった、初めて知ったなど）	4 件
● アプリの機能強化（回収日・分別方法のお知らせ、粗大ごみの申し込みなど）	3 件
● アプリは便利	1 件
● アプリで簡単にごみを分別できるシステムの開発	1 件
(3) さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業	21 件
● 生ごみ処理容器の利用促進（設置の義務化、堆肥の買い取り、農産物との交換制度など）	7 件
● 生ごみ処理容器の試用希望（無料貸与・配布、使ってみたいなど）	3 件
● 生ごみ処理容器を公民館などに設置（見本展示、試用環境の提供など）	3 件
● PR強化（購入場所、価格、ごみ処理費用への影響など）	3 件
● 補助金をいつでも申請できるようにしてほしい（枠が少ない）	2 件
● 生ごみ処理容器はごみの減量に有効	2 件
● 購入補助費増額	1 件
(4) 情報発信	68 件
● 情報発信の強化（課題が伝わっていない、市報、各種メディア、SNSの活用など）	45 件
● 市配布物の改善（ホチキスが分別の障害、量が多すぎる、デジタル化など）	6 件
● 特定属性に対する情報提供の工夫（自治会未加入、高齢者、インターネット未使用者）	5 件
● 職員の戸別訪問による説明、講習希望	2 件
● 講習会等の開催（ごみの分別、減量に向けた取り組み内容など）	2 件
● ごみ減量の成功事例、モデルケースなどを広くPRしてほしい	2 件
● 市から自治会への情報提供の強化	1 件
● 企業ごみの出し方に関する情報提供（環境センターへの持ち込みの可否など）	1 件
● 広報紙に載っていない単語が多くある	1 件
● 市長が、市内放送でごみの分別を守るよう訴える	1 件
● わかりやすい言葉遣いが必要（横文字が多すぎる）	1 件
● 自治会の回覧資料をSNSやインターネットサービスで行い、若い世代の参加を促す	1 件

(5) その他	19 件
● 学校教育でごみ問題に取り組む（中高年の意識改革は難しい、授業で学び家で実践など）	7 件
● ごみ問題の現状について実態把握に努める（自治会、回収業者からの聞き取り調査など）	3 件
● 行政から町内会や自治会への委託を止め、市が直接関与すべき	2 件
● 空き家、ごみ屋敷の対策（景観を害する、法規制が必要）	2 件
● ごみ問題に関連したイベントの開催（子どもと高齢者の交流、検定やクイズ）	2 件
● 施策は一気かつ大々的に行わないと周知しない	1 件
● 学校、企業等に参加を促し、地域ぐるみでマナー向上に努める	1 件
● 保育園でのごみスクールはとても楽しめた	1 件
3 3Rの意識・プラスチックごみ	309 件
(1) 市民の取り組み	74 件
● 市民の意識改革、取り組み強化が必要（SDGsの意識、問題意識の共有など）	31 件
● ごみ問題に取り組んでいる（以前に比べ前向き、自主的清掃活動など）	12 件
● ごみの減量は難しい（個人でできる事は限定的、処理方法が限られるなど）	6 件
● コロナ禍でごみが増えた	6 件
● 不用品を購入しないことがごみを減らすことにつながる	4 件
● ごみ袋の空気を抜くだけでもかさが減る	4 件
● 自治会加入の促進、自治会を通じた働きかけ	2 件
● 暖かくなると草が生えてごみが増える	1 件
● コロナ感染予防を心掛けている（二重に袋に入れて出す、紙に包んで袋に入れる）	1 件
● スペースの限られる住宅では、燃えるごみになりがち	1 件
● 生活苦から抜け出せなければ、ごみ問題に取り組むのは難しい	1 件
● 町内会にごみ問題への参加を促す	1 件
● 不用な回覧板が多い	1 件
● 自治会加入の有無、デジタル化への親和性などの差を乗り越え、統一して取り組める制度が必要	1 件
● 置けば持って行ってくれる、誰かが何とかしてくれると思っているうちは変わらない	1 件
● ごみ減量は市民の自主性に任せるべき	1 件
(2) 事業者の取り組み	108 件
● 過剰包装の改善（かさ増し容器の見直し、簡易包装の推進など）	41 件
● 事業者の取り組み強化が必要（分別・リサイクルに配慮した製品作り、トレイの回収義務化など）	30 件
● プラスチック類などの代替品への切り替え促進（紙容器への移行など）	8 件
● ペットボトル等へのデポジット制導入	8 件
● 販売計画の見直し（売れ残り惣菜がもったいない、生産数の適正化、計量販売の推進など）	7 件
● ポスティング、チラシ配布の規制（チラシがごみの多くを占めるなど）	6 件
● ペットボトルが多すぎる、減量が必要	3 件
● 大規模量販店と小規模店との価格差是正	1 件
● 耐久年数の短い電化製品は修理費が負担になる	1 件
● 有機農業の促進、支援	1 件
● 企業ごみの処理費用値上げ	1 件

- 食品販売店に、ごみ箱設置を促すべき…………… 1 件
- (3) 市の取り組み…………… 75 件
- 回収後の流れ、処理方法など、どのように社会に活用されているのか広報してほしい………… 10 件
 - 事業者への指導強化、優良事業者への支援（補助金など）…………… 10 件
 - 市の取り組み強化（規制の強化、条例の制定、啓発活動など）…………… 9 件
 - インセンティブによる行動促進を図る（ごみが出にくい商品に推奨シール、ポイント還元など）…………… 8 件
 - 国、世界規模で取り組むべき問題（ごみ問題は市の範疇を超えているなど）…………… 6 件
 - 他市、外国の事例を参照（欧米の 3 R 制度・マルシェ、仙台市のごみ袋削減など）…………… 6 件
 - まだ使える物品を融通する仕組み（無料回収・配布、フリーマーケットの開催など）…………… 4 件
 - ごみ処理施設の充実（リサイクルセンターの拡充、人口増加への対応など）…………… 4 件
 - 新たな再資源化、再利用方法の確立（植物類、廃土、マスクなど）…………… 4 件
 - 国策として、石油製品の廃止と植物性製品の推進…………… 2 件
 - ごみ減量のために、税金、人件費を余分にかけるときではない…………… 2 件
 - ごみ発電、サーマルリサイクルの推進…………… 2 件
 - エコ＝ケチという意識を変えるイメージ戦略が必要…………… 1 件
 - 人口比でごみの多い地域やマナーの悪い地域への重点対策…………… 1 件
 - 市民から意見、アイデアを募集する仕組みの創設…………… 1 件
 - 税金による、ペットボトルの代替品への切り替え促進…………… 1 件
 - 資源物の回収率向上…………… 1 件
 - 東楽園のような処理場併設のプール施設を作してほしい…………… 1 件
 - 冠婚葬祭（過剰包装が多い）などの簡素化に行政が取り組むべき…………… 1 件
 - 市による制度等の変更は、市民のごみや資源の問題に対し一定の効果をもたらす…………… 1 件
- (4) レジ袋有料化…………… 21 件
- レジ袋の有料化に疑問（同量のポリ袋購入、減量につながらないなど）…………… 11 件
 - 環境に優しいレジ袋の普及（バイオマス、生分解性など）…………… 3 件
 - レジ袋の有料化に効果（意識が変わった、代金が抑止力など）…………… 2 件
 - レジ袋は必要（ごみ袋以外の用途、マイバッグと併用など）…………… 2 件
 - レジ袋を無料にすべき…………… 1 件
 - レジ袋の代替として、エコバッグの配布希望…………… 1 件
 - 白色レジ袋もごみ袋として使わせてほしい…………… 1 件
- (5) その他…………… 31 件
- 分別の意義・実効性に疑問（複数種を一括回収、まとめて焼却処分、処理せず海外へ輸出など）…………… 14 件
 - ごみ問題への取り組みは重要、全ての関係者が取り組むべき（行政を主体に市民・企業が協力など）…………… 10 件
 - 人口減少に反してごみが増加する事への疑問…………… 1 件
 - 将来ごみ処理問題が行き詰まる予感…………… 1 件
 - ごみは資源ではない…………… 1 件
 - 行動することを目的にはしないでほしい…………… 1 件
 - ルールを守らない人のせいで負担が増える…………… 1 件

● 燃やせる物は全て燃やした方が、結果的に減量になる	1 件
● ファストファッションなどがもてはやされる現状を再考すべき	1 件
4 食品ロス	14 件
(1) 市民の取り組み	2 件
● 食品ロスはあり得ない（食糧自給の低さ、食べ物を捨てるという概念がない）	2 件
(2) 事業者の取り組み	4 件
● 完食でポイントが貯まるアプリの導入	1 件
● 食品ロスの多い事業者から直接フードドライブに送れる仕組みがあるとよい	1 件
● 賞味期限を過ぎたごみを減らすより、その前段階での利用を促進すべき	1 件
● 飲食店における過剰廃棄の見直し	1 件
(3) 市の取り組み	8 件
● PR強化（フードドライブの周知、事業者と協力など）	4 件
● 食品ロスについて、オリンピック組織委員会に問いただすべき	1 件
● 食品ロスの解決	1 件
● 学校給食におけるフードロスの調査、対策	1 件
● 飲食店に対し、過剰な廃棄をなくす取り組み、目安の掲示等を保健所から出す	1 件
5 家庭ごみの新しい収集方法と有料化	424 件
(1) プラスチック製品の収集方法	33 件
● 回収品目増に賛成（プラスチック全てを資源物にすべき、細かいところから変革など）	21 件
● 燃えるごみの回収がよい（衛生用品、海洋汚染防止、燃焼の効率化など）	3 件
● リサイクルするプラスチックの種類のみ示す	2 件
● 全ての洗浄は困難、汚れがあっても回収してほしい	2 件
● これ以上の分別は経費の無駄	1 件
● プラスチック加工に関わる人達の生活を考慮すべき	1 件
● マスカラや化粧水のプラ容器を食品と一緒に出すのはためらわれる	1 件
● プラスチックごみ専用の収集日の設定と、分別品目ごとの処理方法のみ示す	1 件
● 汚れのないプラスチックは分別して回収する	1 件
(2) 家庭ごみの収集方法	97 件
● 地域の実情を反映した回収時間の適正化（8:30 では早すぎる、午前中に、回収が遅れるなど）	15 件
● 戸別収集の利用料金引き下げ（高額すぎる、税金を活用すべきなど）	14 件
● 回収日数の増加（燃えるごみ、燃えないごみ、プラごみ）、休日回収（年末年始など）	12 件
● 戸別収集の実施（マナー改善、減量への効果、エリア限定での試行など）	10 件
● 戸別収集の利便性向上（粗大ごみの引き取り回収、利用料金を含めた多様化など）	8 件
● 夜間収集の実施（多様な生活スタイルへの対応、カラス被害防止、渋滞防止など）	5 件
● 回収漏れがある（複数品目の回収時、2袋しか出していないのに残されたなど）	4 件
● 回収品目の増加（砂利、土、家電、植物など）	3 件

- ごみ出しへの適切な支援（自力でごみ出しできなくなった時、年齢や家族構成の変化に対応など） …… 3件
- 戸別収集の拡大は難しい（街全体の衛生に悪影響、プライバシーへの配慮など） …… 2件
- 集積所ごとの回収時間がわかるようにしてほしい …… 2件
- 回収員の待遇改善（祭日などの休日は回収を休んでもよい、過剰サービスの見直しなど） …… 2件
- ふれあい収集を評価（訪問で状況確認、孤立している高齢者の助けになるなど） …… 2件
- ふれあい収集は、利用する度に料金が発生するのか …… 1件
- ごみ出しの締切だけでなく、開始時刻も明示してほしい …… 1件
- 個別持ち込みの土曜日予約制は大変助かる …… 1件
- ふれあい収集が富裕層向けサービスになっていないか …… 1件
- ごみ回収車が強引 …… 1件
- ふれあい収集の利用料金の明確化 …… 1件
- ふれあい収集のPR強化、地域密着による需要の掘り起こし …… 1件
- 回収時に漏れた水分・油分で道路が汚染される …… 1件
- ごみ収集の曜日や時間を固定しないでほしい …… 1件
- ふれあい収集訪問時に「ごみの出し方のプロ」の教育を受けた方が、分別方法を指導する制度 …… 1件
- 生ごみの回収日を夏場と冬場で変更してもよいのでは …… 1件
- 収集方法について、具体的に説明をしてほしい …… 1件
- ふれあい収集は購入したチケットをごみ袋に貼り付け、家の前に出す方式がよい …… 1件
- 回収日を減らす事で、減量の意識が高まる …… 1件
- 粗大ごみの回収は自宅まで来てほしい（1階まで降ろすことが大変） …… 1件

(3) 家庭ごみの有料化 …… 269件

- 有料化に反対、減量につながらない（既存の取り組みが不十分、市自体に費用削減の余地など） …… 68件
- 有料化に賛成、有料化はやむを得ない（ごみ対策の強化に必要、減量意識が高まる、成功事例など） …… 50件
- 有料化による不法投棄を懸念（鍵付きボックスの設置、監視体制強化、防止策制定など） …… 46件
- 有料ごみ袋は複数のサイズを用意すべき（少量サイズが必要など） …… 15件
- 有料化は慎重に進めるべき（既存の課題への対応、消費意欲減退など） …… 11件
- 有料化は有料ごみ袋ではなく、別の方式で行うべき（税金の上乗せ、許可シールをごみ袋に添付など） …… 10件
- 有料化時は費用負担が高額になりすぎないようにしてほしい …… 10件
- 有料化に関する説明が不十分（現状と見通し、必要性、進め方など） …… 8件
- 有料化は一部品目に限るべき（可燃のみ、不燃のみ、資源物を無料化し分別を促進など） …… 7件
- 負担の公平性、特定世帯への配慮（高齢者、子育て世帯、低所得者など） …… 6件
- 有料化時は、その分税金を引き下げるべき …… 4件
- 有料化するのであれば、収集方法を見直すべき（戸別収集化） …… 4件
- 有料化時はごみの出し方を簡易化してほしい（焼却処分を基本、過度の分別の廃止など） …… 4件
- 有料レジ袋もごみ袋として使用可能にすべき（市指定のごみ袋と統一、少量時に便利など） …… 3件
- 有料化による増収の有効活用（回収員の待遇改善、リサイクルの推進など） …… 3件
- 有料ごみ袋の質の確保（カラス被害防止の黄色、厚さ0.02mm以上、まとめ売りなど） …… 2件
- 有料化前に、具体的な削減目標と行動規範、施策を立案・実施するべき …… 2件
- ごみ袋は無料配布してほしい（家族数に応じた枚数を配布し、容量内に収める） …… 2件
- 有料化はふるさと納税利用者に限定（さいたま市に住民税を納付している市民は除外） …… 1件

● 有料化は恒久ではなく一時的な施策とすべき	1 件
● 有料化は高所得者に限るべき	1 件
● 有料化は高齢者に限るべき（若い世代への還元）	1 件
● 有料化時は最初にごみ袋を無料配布すべき	1 件
● 有料化後、ルールを守らない家庭を特定し、ペナルティを付与する仕組みが必要	1 件
● データを元に、必要なことはリーダーシップをとって進めてほしい	1 件
● 粗大ごみの処理費用が安くてよい	1 件
● 有料化時に自治会費の扱いはどうなるのか（ごみ回収の経費ではないのか）	1 件
● レジ袋でのごみ出しを禁止し、市販の「有料ごみ袋」使用を求めれば、ごみが減るのでは	1 件
● 環境センターへの持ち込み料金は値上げしてもよい	1 件
● 有料化は5年以内の新規居住者に限るべき	1 件
● ごみの有料化をするのは、新しくできた西区の焼却炉の費用が高くついたからか	1 件
● 紐で縛って出しているごみ(布団等)は袋が有料化されたら集積所に出せるのか	1 件
(4) 紙おむつのリサイクル	10 件
● おむつの分別回収は慎重に検討を進めてほしい（デリケートな問題、周囲に知られたくないなど）	2 件
● おむつ類似品は回収できるのか（ペット用紙おむつ、ナプキンなど）	2 件
● おむつの分別回収には是非協力したい	1 件
● おむつを拠点まで持参するのは反対	1 件
● おむつ回収制度の詳細を知りたい	1 件
● おむつ回収を有料化するのはやめてほしい	1 件
● 汚物のついたおむつは燃えるごみが妥当	1 件
● 紙おむつは収集場所に工夫が必要（臭い、衛生面）	1 件
(5) その他	15 件
● 現状に満足、現状維持を希望	12 件
● 制度変更に伴う自治会への負担に配慮してほしい	1 件
● 戸別収集や有料化について、他市の事例を参考に実験を行い、結果を広報してほしい	1 件
● 有料化、戸別収集になれば減量やマナー向上につながるのか	1 件
6 その他	192 件
(1) 市民意識調査	94 件
● 調査のペーパーレス化、ネット回答（市全体でのDX推進、費用削減、紙の無駄など）	32 件
● 調査票の改善（ホチキスの場所が悪い、封筒が小さい、回答用紙を別紙にすべきなど）	28 件
● 調査は有意義（勉強になった、意識が高まった、定期的に実施すべきなど）	12 件
● 調査内容の改善（設問数が多すぎる、用語がわからない、回答しにくいなど）	7 件
● 調査対象者がごみ出しに関わっていない場合、実態把握につながらないのでは	3 件
● 郵送調査ではなく、自治会を通じた調査にすべき	2 件
● 調査は無意味	2 件
● 回答期間が短い（時間が足りない、1ヶ月くらい必要など）	2 件
● 調査費用の公表	1 件

- 調査は市長選前に行うべき…………… 1 件
 - カタカナ用語が多い（今回は括弧付きでわかりやすかった）…………… 1 件
 - 調査票の封筒の裏が使えるれば、ごみではなくメモ帳として活用できる…………… 1 件
 - 今後も調査には協力したい…………… 1 件
 - 意見を政策に活かしてくれるのは好ましい…………… 1 件
- (2) その他…………… 98 件**
- お礼・激励・挨拶…………… 82 件
 - さいたま市のコロナ対応が遅い（接種の遅れ、3Rよりコロナ対策を優先すべきなど）… 5 件
 - 税金が高い割に市民サービスが行き届いていない…………… 2 件
 - 手作りの健康的な食事はよい…………… 1 件
 - スーパーより個人商店を大切にすべき…………… 1 件
 - 道路の除草作業を希望…………… 1 件
 - 労働者の収入改善を期待…………… 1 件
 - 口座振替にも関わらず、固定資産税の振込用紙などが送られ無駄…………… 1 件
 - 過剰な市民サービスを廃して収支均衡を図るべき…………… 1 件
 - さいたま市は市民の懐に優しくない…………… 1 件
 - 市役所が決めたルールでよい…………… 1 件
 - 議員の給料を減らすべき…………… 1 件

IV. 調査票と単純集計結果

さいたま市のごみに関する市民意識調査

調査票

0 あなたご自身のことについて

次の設問は、調査結果を統計的に処理するために必要です。ご記入へのご協力をお願いします。

あなたご自身のことについてお聞かせください。以下、該当する番号に○を付けてください。

F 1. 性別は。(○は1つ) n=2,954

1 男性 42.2 2 女性 56.8 3 その他 () 0.0 4 無回答 0.9

F 2. 年齢は。(○は1つ) n=2,954

1 18~19歳 0.9 3 30~39歳 14.2 5 50~59歳 19.8 7 70歳以上 20.4
2 20~29歳 7.4 4 40~49歳 19.1 6 60~69歳 17.3 8 無回答 0.9

F 3. お住まいの区は何区ですか。(○は1つ) n=2,954

1 西区 6.8 4 見沼区 11.9 7 浦和区 12.9 10 岩槻区 7.9
2 北区 12.2 5 中央区 8.0 8 南区 15.0 (無回答) 0.3
3 大宮区 9.4 6 桜区 6.4 9 緑区 9.2

F 4. 現在同居している家族構成は、どれにあたりますか。(○は1つ) n=2,954

1 一人暮らし 11.3 3 親子(2世代) 53.8 5 その他 () 3.1
2 夫婦だけ 26.3 4 親と子と孫(3世代) 5.2 (無回答) 0.3

F 5. お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ) n=2,954

1 一戸建て住宅 56.9 2 集合住宅 41.6 3 その他 () 0.6 (無回答) 1.0

F 6. ご職業は何ですか。(○は1つ) n=2,954

1 自営業 6.2 5 専業主婦・専業主夫 18.0
2 勤め人(正規職員・正社員) 39.7 6 家事手伝い・無職 13.4
3 勤め人(パート・アルバイトなど) 18.4 7 その他 () 1.4
4 学生 2.3 (無回答) 0.5

F 7. 自治会に加入していますか。(○は1つ) n=2,954

1 加入している 71.4 2 加入していない 23.4 3 わからない 4.9 (無回答) 0.3

F 8. ふだん、インターネットを利用しますか。(○は1つ) n=2,954

1 よく利用する 66.4 3 あまり利用しない 6.0 (無回答) 0.4
2 たまに利用する 14.2 4 まったく利用しない 13.0

1

ごみの分別 ぶんべつ

問1. あなたは、ふだん、しゅうしゅうじょ 収集所だ に出すごみ袋ぶくろ として何をなに 使っていますか。 n=2,954

(○は最も頻度の高いもの1つ)

- | | | |
|---|--|------|
| 1 | レジ袋 <small>ぶくろ</small> | 10.2 |
| 2 | 市販のごみ袋 <small>しはん</small> <small>ぶくろ</small> | 55.9 |
| 3 | ごみの量や種類に <small>りょう</small> 応じて、 <small>しゅるい</small> レジ袋 <small>お</small> と市販のごみ袋 <small>ぶくろ</small> を <small>つか</small> 使い分けている | 32.5 |
| 4 | その他 () | 0.6 |
| | <small>むかいとう</small> (無回答) | 0.8 |

問2. あなたは、びん、かんをどのようにしよぶん 処分していますか。(○は最も頻度の高いもの1つ)

n=2,954

- | | | |
|---|--|------|
| 1 | 「もえないごみ」として <small>しよぶん</small> 処分している | 3.1 |
| 2 | 「資源物1類」(びん、かん)として <small>しよぶん</small> 処分している | 92.9 |
| 3 | 地域の団体資源回 <small>ちいき</small> 収 <small>だんたいしげんかいしゅう</small> に出している | 1.2 |
| 4 | スーパーマーケットなどの店頭回 <small>てんとうかいしゅう</small> 収 <small>だ</small> に出している | 1.4 |
| 5 | その他 () | 0.5 |
| | <small>むかいとう</small> (無回答) | 0.9 |

問3. あなたは、ペットボトルをどのようにしよぶん 処分していますか。(○は最も頻度の高いもの1つ)

n=2,954

- | | | |
|---|--|------|
| 1 | 「もえるごみ」として <small>しよぶん</small> 処分している | 2.1 |
| 2 | 「資源物1類」(ペットボトル)として <small>しよぶん</small> 処分している | 89.0 |
| 3 | スーパーマーケットなどの店頭回 <small>てんとうかいしゅう</small> 収 <small>だ</small> に出している | 7.6 |
| 4 | その他 () | 0.4 |
| | <small>むかいとう</small> (無回答) | 0.9 |

問4. あなたは、「食品包装プラスチック」(カップめんしよくひんほうそう の容器ようき、食品トレイしよくひん、豆腐とうふ の容器ようき など)をどのようにしよぶん 処分していますか。(○は最も頻度の高いもの1つ) n=2,954

- | | | |
|---|--|------|
| 1 | 「もえるごみ」として <small>しよぶん</small> 処分している | 37.1 |
| 2 | 「資源物1類」(食品包装プラスチック)として <small>しよぶん</small> 処分している | 57.6 |
| 3 | スーパーマーケットなどの店頭回 <small>てんとうかいしゅう</small> 収 <small>だ</small> に出している | 3.7 |
| 4 | その他 () | 0.7 |
| | <small>むかいとう</small> (無回答) | 0.9 |

1

ごみの分別

問5. あなたは、新聞、雑誌類、段ボール、牛乳パックをどのように処分していますか。

(○は最も頻度の高いもの1つ) n=2,954

- | | | |
|---|------------------------|-----------|
| 1 | 「もえるごみ」として処分している | 6.9 |
| 2 | 「資源物2類」(古紙類)として処分している | 74.4 |
| 3 | 地域の団体資源回収に出している | 13.5 |
| 4 | スーパーマーケットなどの店頭回収に出している | 2.2 |
| 5 | その他() | 2.0 |
| | | (無回答) 1.0 |

問6. あなたは、ティッシュ箱や菓子箱、包装紙、紙袋をどのように処分していますか。

(○は最も頻度の高いもの1つ) n=2,954

- | | | |
|---|-----------------------|-----------|
| 1 | 「もえるごみ」として処分している | 53.9 |
| 2 | 「資源物2類」(古紙類)として処分している | 40.3 |
| 3 | 地域の団体資源回収に出している | 4.1 |
| 4 | その他() | 0.8 |
| | | (無回答) 0.9 |

問7. あなたは、不用になった衣類をどのように処分していますか。

(○は最も頻度の高いもの1つ) n=2,954

- | | | |
|---|---------------------------|-----------|
| 1 | 「もえるごみ」として処分している | 33.1 |
| 2 | 「資源物2類」(繊維)として処分している | 50.3 |
| 3 | 地域の団体資源回収に出している | 2.3 |
| 4 | 衣料品店の店頭回収やリサイクルショップに出している | 9.5 |
| 5 | ほかの人に譲っている | 2.3 |
| 6 | その他() | 1.6 |
| | | (無回答) 0.9 |

1

ごみの分別

問8. 生ごみの約7、8割は「水分」といわれています。

あなたは、生ごみを処分する前に水切りをしていますか。(〇は1つ) n=2,954

- | | | |
|---|--------------------------|-----------|
| 1 | いつも水切りをしている | 44.1 |
| 2 | だいたい水切りをしている | 37.7 |
| 3 | 水切りをすることもあるが、しないことのほうが多い | 7.0 |
| 4 | 水切りをしていない | 8.4 |
| 5 | わからない | 2.0 |
| | | 問9へ |
| | | (無回答) 0.9 |

問8. で「1」、「2」、「3」と回答した方に質問します。

問8-1. あなたは、ふだん、どのように水切りをしていますか。(〇はいくつでも) n=2,621

- | | | |
|---|----------------------------|-----------|
| 1 | 手や器具を使って絞っている | 71.8 |
| 2 | 自然乾燥させている | 25.1 |
| 3 | 生ごみ処理機などの機械を使って乾燥や堆肥化させている | 1.8 |
| 4 | その他 () | 5.0 |
| | | (無回答) 0.8 |

問9. あなたは、市のごみの分別方法は、わかりやすいと思いますか。(〇は1つ) n=2,954

- | | | |
|---|----------|-----------|
| 1 | わかりやすい | 27.0 |
| 2 | まあわかりやすい | 57.2 |
| 3 | ややわかりにくい | 11.5 |
| 4 | わかりにくい | 2.1 |
| 5 | わからない | 1.0 |
| | | (無回答) 1.2 |

問10. ごみの分別は、ふだん、あなた自身が行っていますか。(〇は1つ) n=2,954

- | | | |
|---|-------------------|-----------|
| 1 | 自分で行っている | 66.4 |
| 2 | 家族など、自分以外の人が行っている | 22.2 |
| 3 | その他 () | 2.4 |
| 4 | 特に決まっていない | 8.5 |
| 5 | わからない | 0.0 |
| | | (無回答) 0.5 |

2

しせい かか 市政との関わり

問 11. あなたは、市が実施している小型家電の回収事業（小型家電リサイクル事業）を利用したことがありますか。（〇は1つ） n=2,954

- | | | | |
|---|-----------------------------------|----------|------|
| 1 | 利用したことがある | → 問 12 へ | 22.5 |
| 2 | 利用したことはないが、市が小型家電を回収していることは知っていた | | 40.6 |
| 3 | 利用したことはないし、市が小型家電を回収していることも知らなかった | } 問 12 へ | 32.2 |
| 4 | 覚えていない／わからない | | |
| | | (無回答) | 1.2 |

「小型家電リサイクル事業」とは

携帯電話やパソコン、デジタルカメラなどの「小型家電」からレアメタルなどの有用な金属を回収し、国内で再利用するため、不用になった「小型家電」を分別回収する事業。回収方法は以下の3つです。

- **ボックス回収**
市内52箇所の公共施設（区役所、コミュニティセンター、図書館、公民館）のほか2箇所の民間施設に設置された専用の回収ボックスに入れる。
- **直接搬入**
市内3箇所の環境センター（市のごみ処理施設）に直接持ち込む。
- **宅配回収**
民間事業者（リネットジャパン㈱）による宅配便を利用した戸別回収。

問 11. で「2」と回答した方に質問します。

問 11-1. あなたが、「小型家電リサイクル事業」を利用しなかった理由は何ですか。

（〇はいくつでも） n=1,198

- | | | | |
|---|-----------------------------|-------|-----|
| 1 | 小型家電を「もえないごみ」として処分していたから | 19.4 | |
| 2 | 小型家電を家電量販店などの店頭回収に出していたから | 28.3 | |
| 3 | 利用方法がわからなかったから | 6.3 | |
| 4 | 回収ボックスや環境センターまで持っていくのが面倒だから | 13.5 | |
| 5 | 宅配回収が有料だから | 3.5 | |
| 6 | 小型家電を処分する機会がなかったから | 39.5 | |
| 7 | その他（) | 4.9 | |
| 8 | 特に理由はない／なんとなく | 3.2 | |
| | | (無回答) | 0.8 |

2

しせい かか
市政との関わり

問 12. あなたは、市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信している「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用したことがありますか。(〇は1つ) n=2,954

1	利用したことがある	14.8
2	利用したことはないが、「さいたま市ごみ分別アプリ」があることは知っていた	13.0
3	利用したことはないし、「さいたま市ごみ分別アプリ」があることも知らなかった	69.0
4	覚えていない／わからない	2.0
	問 13 へ	
	(無回答)	1.2

「さいたま市ごみ分別アプリ」とは
スマートフォンやタブレット端末で、ごみの分別方法や出し方を調べられる無料の「アプリケーション」。主な機能は、以下の4つです。英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・ベトナム語にも対応しています。

- **ごみ分別辞典**
ごみの分別方法を品目ごとに検索できる。
- **収集日カレンダー**
月ごと、週ごとの収集日をカレンダーから一目で確認できる。
- **ごみの出し方**
ごみの種類ごとに出し方を確認できる。
- **アラート機能**
収集日をアラートでお知らせする。

問 12. で「1」と回答した方に質問します。

問 12-1. 「さいたま市ごみ分別アプリ」の使い心地はどうか。(〇は1つ) n=438

1	使いやすい	23.5	4	使いにくい	3.0
2	まあ使いやすい	58.7	5	わからない	3.0
3	やや使いにくい	11.2		(無回答)	0.7

問 12. で「2」と回答した方に質問します。

問 12-2. あなたが、「さいたま市ごみ分別アプリ」を利用しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも) n=385

1	スマートフォンやタブレット端末を持っていなかったから	15.3
2	ダウンロードの方法がわからなかったから	7.5
3	ダウンロードするのが面倒だったから	13.0
4	ごみの分別は、ほかの方法で調べていたから (方法:)	51.2
5	その他 ()	6.0
6	特に理由はない／なんとなく	13.0
	(無回答)	2.6

2

しせい かか
市政との関わり

問 13. あなたは、「さいたま市ごみ分別アプリ」にどのような機能があれば、利用しやすくなるとおもいますか。(〇は2つまで) n=2,954

1	近隣のごみ収集所の場所を検索できる機能	7.1
2	近隣のごみ収集所を管理する「自治会」に関する情報を検索できる機能	3.0
3	小型家電リサイクル回収ボックスの設置場所や利用時間を検索できる機能	33.4
4	粗大ごみの回収をアプリから申し込みできる機能	54.2
5	その他()	4.3
6	今のままでよい	10.1
7	わからない	19.9
	(無回答)	2.7

問 14. あなたは、市が生ごみ処理容器などの購入費を補助する「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」を利用したことがありますか。(〇は1つ) n=2,954

1	利用したことがある	2.3
2	利用したことはないが、「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることは知っていた	26.6
3	利用したことはないし「生ごみ処理容器等購入費補助事業」があることも知らなかった	66.8
4	覚えていない/わからない	3.4
	(無回答)	0.9

「さいたま市生ごみ処理容器等購入費補助事業」とは

家庭から出る生ごみの減量化を図るため、生ごみ処理容器及び電気式生ごみ処理機を購入した世帯に対し、その購入経費の一部を補助する事業。

問 15. あなたは、ふだん、市が発信するごみの出し方やリサイクルの情報をどのような方法で入手していますか。(〇はいくつでも) n=2,954

1	「市報さいたま」	34.8	8	市のブログ、ツイッター、フェイスブック	0.4
2	「さいちゃんの環境通信」	5.0	9	さいたまコールセンター	0.3
3	「家庭ごみの出し方マニュアル」	71.6	10	自治会の回覧板・掲示板	13.4
4	その他の市のパンフレットやちらし	2.3	11	その他()	0.5
5	市のホームページ	9.9	12	市の情報は入手していない	3.3
6	家族や知人の話	6.3	13	覚えていない/わからない	1.7
7	さいたま市ごみ分別アプリ	8.7		(無回答)	0.6

3

3 Rの意識・プラスチックごみについて

問 16. あなたは、「3 R (スリーアール)」という言葉を知っていましたか。(○は1つ) n=2,954

- | | | | |
|---|---------------------|------|-----------|
| 1 | 言葉も意味も知っていた | 41.6 | |
| 2 | 言葉は知っていたが、意味は知らなかった | 11.3 | |
| 3 | 言葉も意味も知らなかった | 45.6 | (無回答) 1.4 |

「3 R (スリーアール)」とは

ごみを減らし、限りある資源を有効に活用していく社会をつくるための標語であり、以下の3つの言葉の頭文字をとったものです。

- **リデュース (Reduce : 発生抑制)**
ごみになるものはもらわない、必要以上にものを買わないなど、ごみそのものを減らすこと。
- **リユース (Reuse : 再使用)**
一度使用された製品や部品、容器などを、ごみとして捨てずに繰り返し使うこと。
- **リサイクル (Recycle : 再生利用)**
資源になるものを分別回収するなど、ごみを資源として再生利用すること。

問 17. ごみの減量 (リデュース) のために、あなたがふだん行っていることは何ですか。

(○はいくつでも) n=2,954

- | | | |
|----|---|------|
| 1 | 繰り返し使える製品や詰めかえ製品を買っている | 69.9 |
| 2 | 壊れにくく、長持ちする製品を買っている | 24.8 |
| 3 | すぐに飽きそうなものは買わないようにしている | 28.5 |
| 4 | マイバックを持参するなど、レジ袋をもらわないようにしている | 82.6 |
| 5 | マイはしやマイボトルを持参するなど、使い捨ての食器類や飲料容器を使わないようにしている | 24.8 |
| 6 | 食品を捨てない (買いすぎや作りすぎ、食べ残しをしない) ようにしている | 49.4 |
| 7 | 壊れたものは修理して使っている | 17.8 |
| 8 | 生ごみを肥料にしている | 3.7 |
| 9 | その他 () | 0.7 |
| 10 | 特に何もしていない | 2.5 |
| 11 | わからない | 0.2 |

(無回答) 0.7



3

3 Rの意識・プラスチックごみについて

問 18. 製品などの再使用（リユース）やごみの再生利用（リサイクル）のために、あなたが、
ふだん行っていることは何ですか。（〇はいくつでも） n=2,954

- | | | |
|----|---|------|
| 1 | ごみは種類ごとに分別している | 86.0 |
| 2 | 「びん」などを処分する前に洗い、資源として回収しやすくしている | 76.3 |
| 3 | 「びん」入りのビールや牛乳など、再使用できる容器を使った商品を買っている | 5.8 |
| 4 | 不用になったものは、リサイクルショップやバザー、インターネットオークション
などを利用して、ほかの人に譲っている | 24.5 |
| 5 | 古着を雑巾にするなど、不用になったものをほかの目的で使用している | 40.9 |
| 6 | 再生原料で作られたリサイクル製品を買っている | 7.3 |
| 7 | 食品トレイや牛乳パックなどの資源を店頭回収に出している | 17.4 |
| 8 | 携帯電話やパソコンなどを小型家電製品の回収に出している | 13.6 |
| 9 | その他（
） | 0.6 |
| 10 | 特に何もしていない | 2.5 |
| 11 | わからない | 0.3 |
| | (無回答) | 0.8 |

問 19. あなたは、ごみの減量（リデュース）や製品などの再使用（リユース）、ごみの再生利用
（リサイクル）に今後取り組みたいと思いますか。（〇は1つ） n=2,954

- | | | | | | |
|---|--------------|------|---|--------------|-----|
| 1 | ぜひ取り組みたい | 36.0 | 3 | 取り組みたいとは思わない | 1.9 |
| 2 | 機会があれば取り組みたい | 52.8 | 4 | わからない | 7.3 |
| | | | | (無回答) | 2.0 |

問 20. あなたは、以下のプラスチックごみに関する問題について、知っていたことはありますか。
（〇はいくつでも） n=2,954

- | | | |
|---|--|------|
| 1 | プラスチックごみによって川や海が汚染されること | 92.4 |
| 2 | 街中などで出たプラスチックごみが河川などを通じ海へと流れ出ること | 68.5 |
| 3 | 海や川のプラスチックごみを生物が誤飲することが生態系に影響すること | 88.7 |
| 4 | 海洋中のプラスチックごみが漁具や船舶の破損などに影響すること | 52.7 |
| 5 | プラスチックが風化・劣化などで分解されて微小なプラスチック（マイクロプラス
チック）になること | 59.2 |
| 6 | その他（
） | 1.0 |
| 7 | どれも知らなかった | 1.2 |
| | (無回答) | 1.2 |

3

3 Rの意識・プラスチックごみについて

問 21. あなたは、以下のプラスチック製容器包装や製品について過剰だと感じるものはありますか。(〇はいくつでも) n=2,954

1	弁当の使い捨て小分け用容器や飾り	56.8
2	郵便物、宅配物の包装や緩衝材	41.3
3	店などでもらうストロー、かき混ぜ棒、スプーンなどの食器	32.5
4	スーパーなどのロール状のポリ袋	10.0
5	ペットボトル	12.7
6	コロナ禍によりプラスチック製容器包装の使用頻度が増えたと感じる	30.6
7	その他()	2.2
8	特になし	13.4
	(無回答)	2.3

問 22. プラスチックごみ問題解決のため、あなたはどのようなことを行っていますか。

(〇はいくつでも) n=2,954

1	マイボトルの利用	49.0
2	マイバッグの利用	86.4
3	店で商品を購入する際はできる限りスプーンやストローなどをもらわない	54.0
4	プラスチックの使用量を減らしたり再生材を利用したりしているなど、環境に配慮した商品を選ぶ	14.5
5	街中や河川敷、海岸などのゴミ拾いをする	3.5
6	屋外で出たごみは分別して持ち帰る	42.2
7	その他()	0.5
8	何もしてない	2.9
	(無回答)	1.2



問 23. 令和2年7月にレジ袋が有料化されましたが、有料化後、あなたの行動に変化がありましたか。(〇は1つ) n=2,954

1	以前からレジ袋をもらっていない	7.5	4	ときどきレジ袋をもらっている	19.7
2	まったくレジ袋をもらわなくなった	25.0	5	引き続きレジ袋をもらっている	4.0
3	ほぼレジ袋をもらわなくなった	42.7		(無回答)	1.1

4

 しょくひん
 食品ロス

問 24. あなたが、ふだんの生活で出すことがある「食品ロス」は何ですか。(〇はいくつでも)

n=2,954

1	手つかず食品	21.8	} 問 25 へ
2	食べ残し	39.4	
3	過剰除去	7.4	
4	ほとんど「食品ロス」を出さない	42.6	
5	わからない	1.7	
			(無回答) 1.5

「食品ロス」とは

まだ食べられるのに廃棄される食品のこと。以下はその一例です。

- 手つかず食品：何も手がつけられずに捨てられる食品
- 食べ残し：食べ残された食品
- 過剰除去：皮を厚くむき過ぎたりして、過剰に捨てられる食品

問 24. で「1」と回答した方に質問します。

問 24-1. あなたが、ふだんの生活で出すことがある「手つかず食品」は何ですか。

(〇はいくつでも) n=645

1	米、パン、麺などの主食類	11.3	6	保存食品（冷凍食品、缶詰など）	25.6
2	野菜・果物	54.3	7	おかず・弁当類	7.6
3	精肉・鮮魚	15.0	8	その他（	3.7
4	豆腐・納豆	16.7		(無回答)	5.9
5	お菓子類	10.2			

問 24. で「1」と回答した方に質問します。

問 24-2. あなたが、「手つかず食品」を出してしまう理由は何ですか。(〇はいくつでも) n=645

1	期限切れに近い食品を買い、食べないことがあるから	15.2
2	安売りなどで食品を買いすぎ、食べきれないことがあるから	22.5
3	家にある食品と同じものを買ひ、食べきれないことがあるから	10.1
4	期限が切れることを忘れてしまい、食べないことがあるから	70.1
5	その他（	9.6
6	特に理由はない／なんとなく	1.1
		(無回答) 5.6

4

食品ロス

問 25. あなたが、「食品ロス」を出さないためにふだん行っていることは何ですか。

(○はいくつでも) n=2,954

- | | | | |
|---|-----------------------------|------|-----------|
| 1 | 食品を必要な分だけ買っている | 63.1 | |
| 2 | 「賞味期限」、「消費期限」の近い食品を早めに使っている | 65.0 | |
| 3 | 料理をつくりすぎないようにしている | 33.7 | |
| 4 | 残った食材を別の料理に利用している | 37.0 | |
| 5 | 出された料理を食べきっている | 49.7 | |
| 6 | お店では食べきれる量を注文している | 51.9 | |
| 7 | その他 () | 1.7 | |
| 8 | 特に何もしていない | 1.8 | |
| 9 | わからない | 0.2 | (無回答) 0.8 |

問 26. あなたは、市の食品ロス削減に関する以下の取組を知っていましたか。(○はいくつでも)

n=2,954

- | | | | |
|---|------------------------------------|------|-------------------------|
| 1 | Saitama Sunday Soup (日曜日は食べつくスープ!) | 4.2 | → 問 26-2 へ |
| 2 | フードドライブ (フードシェア・マイレージを含む) | 8.1 | |
| 3 | チームEat All | 0.2 | } 問 26-2 へ
(無回答) 2.9 |
| 4 | その他 () | 0.1 | |
| 5 | いずれも知らなかった | 86.2 | |

さいたま市の食品ロスに関する取組

「さいたま市食品ロス削減プロジェクト」として、食品ロスの発生要因に応じた施策を展開しています。

- Saitama Sunday Soup (日曜日は食べつくスープ!): おいしく楽しく食品ロスを減らす新しいライフスタイルとして、手をつけずに捨てられることが多い「野菜」などの生鮮食材を、日曜日の夜にスープにして食べつくそうという解決策を提案しています。
- フードドライブ: 家庭で余っている食品を回収し、福祉施設等に寄付する活動のことで、一部の受付窓口では食品を持ち込むと地域ポイントがもらえる「フードシェア・マイレージ」を実施しています。
- チームEat All: 事業系食品ロス削減に取り組む事業者などを登録し、協働することで食品ロスの削減を推進していく仕組みです。

問 26. で「2」を知っていると回答した方に質問します。

問 26-1. あなたは、フードドライブを利用したことはありますか。(○は1つ) n=240

- | | | | |
|---|--------------|------|-----------|
| 1 | ある | 12.9 | |
| 2 | ない | 84.6 | |
| 3 | 覚えていない/わからない | 2.1 | (無回答) 0.4 |

4

 しょくひん
 食品ロス

問 26-2. あなたは、フードドライブの窓口はどこにあると利用しやすいと思いますか。

(〇はいくつでも) n=2,954

1	コンビニエンスストアや商店街、スーパーマーケットなどの小売店	62.6	
2	カフェやレストランなどの飲食店	8.5	
3	区役所や公民館などの公共施設	23.8	
4	その他()	2.8	
5	特に思い浮かばない/わからない	19.2	むかいとう (無回答) 7.8

5

 かてい あたら しゅうしゅうほうほう ゆうりょうか
 家庭ごみの新しい収集方法と有料化について

問 27. 市では現在、ペットボトルおよび食品包装プラスチックを資源物として回収しています。しかし、令和3年6月に成立した「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」では、これまでもえるごみとして回収してきた発泡スチロールやプラスチックハンガー、歯ブラシといった広い範囲のプラスチック製品を、資源ごみとして回収することが求められます。あなたはプラスチック製品の収集方法についてどう思いますか。(〇は1つ)

n=2,954

1	現在の収集方法を変えない	25.5	
2	プラスチック製品全般を資源物としての回収対象に広げる	53.9	
3	プラスチック製品はすべてもえるごみにする	6.8	
4	その他()	1.9	
5	わからない	10.1	むかいとう (無回答) 1.8

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」とは

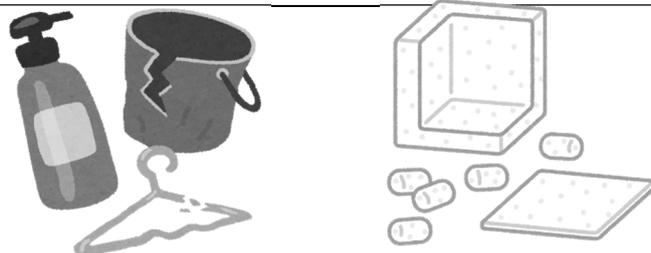
プラスチックの資源循環の促進等を総合的かつ計画的に推進するために令和3年6月4日に成立した法律。

その基本方針は以下のとおりです。

- ・プラスチック廃棄物の排出の抑制、再資源化に資する環境配慮設計。
- ・ワンウェイ(使い捨て)プラスチックの使用の合理化。
- ・プラスチック廃棄物の分別収集、自主回収、再資源化

また、この法律の中で市町村にはプラスチックの分別収集・再商品化の促進が求められています。

プラスチック製品の例
 プラスチック製容器や
 プラスチックハンガー、
 発泡スチロールなど



5

家庭ごみの新しい収集方法と有料化について

問 28. あなたは、市が「家庭ごみの有料化」を導入することについて、どう思いますか。

※ 導入されたときの金額がいくらであるかを、ここで考える必要はありません。

(○は1つ) n=2,954

1	導入したほうがよい	3.6	3	導入しないほうがよい	54.3	→ 問 28-2 へ
2	導入することもやむを得ない	31.2	4	わからない	9.1	→ 問 29 へ
				(無回答)	1.8	

「家庭ごみの有料化」とは

ごみ処理費用の一部を市民に負担していただき、ごみの減量につなげる施策。

その主な目的は以下のとおりです。

➤ 公平性の確保

年間約170億円かかっているごみ処理費用の一部を、ごみを出した量に応じて負担してもらうことで、市民同士の公平性を確保する。

➤ ごみの減量

市民にごみの量を減らす意識を持ってもらうことで、ごみの減量につなげる。

➤ 新たな収集・処理体制への対応

例えばプラスチック資源循環促進法に対応するためには、プラスチックの分別収集の範囲を拡大して収集体制を強化したり、処理施設の設備を更新したりする必要があるが、その際の費用を負担してもらうことで、新たな収集・処理体制を実施することができるようになる。

問 28. で「1」、「2」と回答した方に質問します。

問 28-1. 「家庭ごみの有料化」の導入により、ごみ袋が有料になったら、あなたは、ごみ袋1枚(約40~45ℓ)の価格がいくらまでであれば、負担してもよいと思いますか。(○は1つ) n=1,027

1	20円以下	64.6	5	60円を超えて負担してもよい	2.3
2	30円	13.1	6	その他()	4.0
3	40円	0.9	7	わからない	5.8
4	50円	8.6			(無回答) 0.7

5

家庭ごみの新しい収集方法と有料化について

問 30. で「1」と回答した方に質問します。

問 30-1. いくらなら利用したいですか。(○は1つ) n=135

1	1回に2,000円程度	79.3	4	1回に4,001円～5,000円	0.0
2	1回に2,001円～3,000円	5.2	5	それ以上の金額でも利用したい	1.5
3	1回に3,001円～4,000円	0.0		(無回答)	14.1

6

自由回答

問 31. ごみ減量について、市役所へのご意見、ご要望がありましたら、具体的にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。長時間ご協力いただき、ありがとうございました。
 調査票は4つ折りにし、同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。

《お問い合わせ先》さいたま市 環境局 資源循環推進部 資源循環政策課 まで
 電話：048-829-1338 (月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分)
 FAX：048-829-1991
 E-mail：shigen-junkan@city.saitama.lg.jp

さいたま市一般廃棄物処理基本計画改定に伴う

市民意識調査報告書

発行 さいたま市 環境局 資源循環推進部 資源循環政策課
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4
電話 048(829)1338 (直通)

調査実施 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052 さいたま市浦和区本太2-2-36
SUNCREST 302
電話 048(887)3790



〔さいたま市一般廃棄物処理基本計画改定に伴う市民意識調査業務の委託に要する経費は、197 万円です。
この印刷物は 50 部作成し、1 部あたりの印刷経費は 800 円です。〕